

男女共同参画に関する意識調査
報告書

令和2年3月

大田区

目次

第1章 調査および報告書の概要

1 調査について.....	1
2 分析について.....	1
3 報告書について.....	2
4 標本誤差.....	3

第2章 分析まとめ

1 職業について.....	4
2 家庭生活・子育てについて.....	4
3 ワーク・ライフ・バランスについて.....	5
4 人権について.....	6
5 地域活動等について.....	7
6 男女共同参画の取り組みについて.....	8

第3章 集計結果

1 基本属性.....	10
2 職業について.....	16
3 家庭生活・子育てについて.....	42
4 ワーク・ライフ・バランスについて.....	62
5 人権について.....	71
6 地域活動等について.....	96
7 男女共同参画の取り組み等について.....	107

第4章 調査票および集計表

1 調査票.....	131
2 集計表.....	147

第1章 調査および報告書の概要

1 調査について

(1)目的

- 本調査は、男女共同参画や男女平等に対する区民の意識や実態を把握することを目的として実施したものである。
- また、すべての区民が性別にかかわらず個人として尊重され、互いに支え合う男女共同参画社会の実現を目標とした「大田区男女共同参画推進プラン」を令和2年度に改定する際の基礎資料ともする。

(2)実施概要

- 対象 大田区に住民基本台帳登録をする20歳以上の区民
- 対象者数 2,000名
- 調査方法 郵送配布・郵送回収
- 回収率 34.9% (697件)
- 実施時期 令和元年11月13日～令和元年11月27日

(3)調査項目

- 1 基本属性 (F 1～F 6)
- 2 職業について (問1～問6)
- 3 家庭生活・子育てについて (問7～問9-2)
- 4 ワーク・ライフ・バランスについて (問10～問13)
- 5 人権について (問14～問18)
- 6 地域活動について (問19～問23)
- 7 男女共同参画の取り組み等について (問24～問32)

2 分析について

(1)クロス集計による分析

性別によるクロス集計

- 本調査では、男性・女性それぞれの状況を把握し、比較・分析することが必要であるため、基本属性 (F 1～F 6) を除くすべての設問について性別によるクロス集計を行っている。
- そのため集計結果は回答者全員の集計結果とともに、クロス集計によって得られた男性・女性それぞれの集計結果を記載している。
- なお、性別に関する設問 (F 1) では、LGBT等の性の多様性を考慮し、「その他」という選択肢を設けたが、回答者数が少ないため統計的に有意ではないためクロス集計では取り上げていない。

その他クロス集計

- クロス集計は年代、就労状況、結婚状況、共働きかどうか等という視点からも行ってい

る。それらの結果は、設問ごとに分析が必要と判断され、かつ言及すべき結果が得られた場合に記載している。

(2)既存調査との比較分析

○以下の既存調査について、結果を比較・分析している。

A.「大田区男女共同参画に関する意識調査」

- ・調査主体 大田区
- ・対象 大田区在住の満20歳以上80歳以下の男女2,000人
- ・調査方法 郵送調査・郵送回収
- ・回収率 37.2%
- ・実施年 平成26年11～12月

B.「男女共同参画社会に関する世論調査」

- ・調査主体 内閣府
- ・対象 全国18歳以上の日本国籍を有する者5,000人
- ・調査方法 調査員による個別面接聴取法
- ・回収率 52.9%
- ・実施年 令和元年9月

C.「男女平等参画に関する世論調査」

- ・調査主体 東京都
- ・対象 東京都全域に住む満20歳以上の男女個人3,000人
- ・調査方法 調査員による個別面接聴取法
- ・回収率 60.7%
- ・実施年 平成27年7月

○Aについては「前回調査との比較」、B・Cについては「国・都の調査との比較」として、比較可能な設問（選択肢がおおむね一致するもの）について記載している。

3 報告書について

(1)グラフ・表について

- 本報告書では、選択肢から1つ選ぶ設問（単数回答設問）は円グラフないしは横帯グラフ、複数選ぶ設問（複数回答設問）は横棒グラフを原則として用いている。
- グラフ中、「全体」と記載されている集計結果は、回答者全員の集計である。「全体」「男性」「女性」に続くかたちでnとして示された数字は、その設問に回答した人数を示している。
- 複数回答設問では、「全体」の集計結果を降順になるよう選択肢の順番を入れ替えている。そのため、調査票の選択肢の順番とは異なることがある。クロス集計表も同様の考え方

で選択肢の順番を入れ替えている。

○グラフ中に表記している割合は、小数点第2位を四捨五入している。そのため、単数回答設問のすべての割合を合計した場合に100%にならない場合がある。

(2)コメントについて

○各設問の回答結果については、割合の多い上位3つの選択肢を取り上げてコメントしている。

○回答しなかった人（グラフ中では「無回答」と表記）の割合が上位3位に入っている場合は、それを除外してコメントしている。

○単数回答設問で選択肢が2つの場合は、その2つの割合を、順位をつけずにコメントしている。

○性別によるクロス集計については、第一に全体での回答結果と男女それぞれの順位の違いに着目し、第二に男女のあいだでの選択肢個々の割合の差に着目してコメントしている。差については、おおむね5～10%の差である場合には「やや多い／少ない」という表現を用い、おおむね10%を上回る場合には「多い／少ない」という表現を用いて表記する。

○クロス集計については該当者が20名未満の場合は統計的に有意ではないため、コメントをする場合も参考にとどめる。

○その他のクロス集計や、他の調査との比較においても上記の「やや多い／少ない」「多い／少ない」という表現の考え方に基づいてコメントを記載する。

4 標本誤差

○本調査は、大田区に住民基本台帳登録をする20歳以上の区民を対象として、2,000人の回答者を抽出して行っている。そのため回答結果は、対象全員が回答した場合の結果と誤差（標準誤差）が生じている可能性がある。

○この誤差は、統計学的には以下の次の計算式によって求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \quad (N: \text{母集団数}, n: \text{サンプル数 (有効回答数)}, p: \text{回答比率})$$

○本調査の誤差範囲は、Nを令和元年10月1日時点の大田区の20歳以上の人口639,151人として、次のように算出される。

n \ 回答比率	90%または10%程度	80%または20%程度	70%または30%程度	60%または40%程度	50%程度
697	±3.15%	±4.20%	±4.81%	±5.14%	±5.25%

○上記より、最大で±5.25%の誤差範囲に収まることから、調査結果は信頼に足ると言える。

第2章 分析まとめ

1 職業について

雇用形態

- 共働き世帯は、既婚である回答者（全体の65.7%）のうち57.6%である。【F 4】
- 就いている職業は、男性・女性ともに「常勤の正規社員」が最も多いが、男性（46.0%）の方が女性（32.1%）よりも多い。一方、「パートタイム・アルバイト」は、女性（16.2%）の方が男性（4.4%）よりも11.8ポイント多い。【問1】
- 前回調査（平成27年）と比べると、女性では「常勤の正規社員」が7.5ポイント減り、男性では「パートタイム・アルバイト」が7.9ポイント増えている。【問1】

女性の就労意向

- 現在、働いていない女性は27.3%である。20～40歳代では1割台である。【問1】
- 働いていない理由をみると、女性の30～40歳代では「家事・育児に専念したい」が最も多い。【問1-3】
- そのうち、20～30歳代の女性は8割が「何らかのかたちで働きたい」と思っている。40～50歳代では約半数となる^{※1}。【問1-4】
- 就労意向のある女性が就職にあたって不安に思うことは「希望する職種に就けるか」（45.8%）が最も多い。【問1-5】

女性が職業に就く上での支障

- 女性が職業に就くことについて、「結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい」と思う人は、男性で61.3%、女性で57.5%であり、年代にかかわらず最も多い。【問2】
- ただし、女性の73.9%が就労を続ける上で支障があると思っており、「家事・子育ての負担」（77.5%）が最も多く、「保育施設等の社会福祉の不備」（63.1%）、「育児休業等の労働環境の不備」（51.0%）が続く。【問3、3-2】

2 家庭生活・子育てについて

ジェンダー観

- 女性の就労継続については、上記のとおり男性・女性ともに6割前後が「結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい」と思っている。【問2】
- 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」（固定的性別役割分担）と思っている人は男性で31.0%、女性で22.9%である。男性では前回調査に比べて11.8ポイント減っているが、女性では7.1ポイント増えている。【問7】
- 男性・女性ともに年代が上がるにつれて同感する人が多くなるが、男性では20歳代で同感する人が多い。【問7】
- そのほか、職業に就いていない場合、既婚である場合、未就学児の子どもがいる場合、女性が職業に就いていない世帯において、男性・女性ともに同感する人が多くなる。【問7】

^{※1} 現在働いていない女性は、年代別には10名程度であるため、参考として記載する。

家事、子育て、介護・看護の負担

- 家事、子育て、介護・看護の夫婦での負担については、負担するべきだと思う人が男性・女性ともにいずれも8～9割である。【問7】
- ただし、実際の負担をみると、家事、子育ては女性が負担している方が多い。介護・看護については、家族以外が負担していることが多いことが伺えるが、男性・女性と比較すると女性の方が負担している。男性・女性の負担は現実と理想でギャップがある状況である。【問8】
- 男性が家事、子育て、介護、地域活動等に参加するようになるために女性が必要と思うことは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」(69.6%)が最も多く、次いで「男性による家事・育児等について、職場における上司や周囲の理解を進める」(57.2%)、「男性が家事・育児等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(55.6%)が続く。【問13】
- その他、「小・中学校、高等学校における家庭科教育(男女共修)を充実させる」(37.2%)は男性よりも多く選択されている。【問13】

育児休業・介護休業

- 育児休業の取得状況をみると、男性では4.6%、女性で22.3%である。現在、未就学児のいる場合には、男性が16.0%、女性で75.0%である。女性の方が休業を取っていることが分かる。【問5】
- 子の看護休暇も同様の傾向がみられ、子どもの年齢にかかわらず女性の方が取得している。【問5】
- 介護休業、介護休暇は男性・女性ともにほとんど取得していない。【問5】
- その現状のなか、男性が育児休業を取得した方がよいと思う女性は90.8%である^{※2}。ただし、「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」が46.1%である。【問9】
- 介護休業についても同様の傾向であり、「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」と思う女性は40.8%である。【問9】
- 男性が育児休業・介護休業を取得するための条件としては、「上司や同僚等の理解や協力があること」(63.9%)、「賃金や手当等の経済的な支援があること」(52.0%)、「昇進や昇格に影響がないこと」(49.0%)であり、経済面やキャリアに対する支援・配慮が求められている。【問9-2】

3 ワーク・ライフ・バランスについて

仕事・家庭生活・個人の生活のバランス

- 職業に就いている場合、「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」できているという人は、男性で12.4%、女性で17.2%である。それに対して「仕事優先」であるという人は、男性で35.8%、女性で22.3%である。【問10】

^{※2} ここでいう「育児休業を取得した方がよいと思う」は、「取得した方がよいと思う」と「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」の合計である。

- なお、個人の生活を含まない「仕事と家庭生活優先」になっている人は、男性で24.3%、女性で29.6%である。【問10】
- 一方、「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」したいと思う人（職業に就いている）は、男性で40.4%、女性で48.1%である。現実と大きくギャップがあることが分かる。【問10】

ワーク・ライフ・バランス

- 仕事と生活を両立できている人（「どちらかというと、できている」を含む）は、職業に就いている人のうち、男性で77.3%、女性で78.7%である。実際に「できている」と回答しているのは、男性で24.9%、女性で22.0%である。【問11】
- ワーク・ライフ・バランスを進めるための取り組みとしては、男性・女性ともに「保育・介護の施設やサービスの充実」が最も多い。【問12】

4 人権について

ハラスメントの経験

- 何らかのハラスメントを受けたことがある人は、男性では36.1%、女性では45.4%である。【問14】
- 具体的には、男性・女性ともに「パワー・ハラスメントを受けたことがある」が最も多い。「セクシャル・ハラスメントを受けたことがある」は、男性では4.0%だが、女性では25.4%と差がみられる。【問14】

DVの経験および認識

- 何らかのDVを一度でも受けたことがある人は、男性で47.8%、女性で60.6%であり、女性の方が多。【問15】
- DVの経験をみると、「頻繁にあった」という人はDVの内容にかかわらず4.0%以下だが、0%ではない。また、「数回あった」を含めると、「大声で怒鳴る」が33.0%で最も多く、次いで「何を言っても無視する」が21.8%、「反論したり、意見を言ったりすることを許さない」が12.2%となる。【問15】
- 男女の差をみると、「大声で怒鳴る」、「体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する」は女性の方が男性よりも多い。【問15】
- DVの認識については、「何を言っても無視する」、「大声で怒鳴る」、「交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する」、「外出を制限する、どこで何をしているか行動をチェックする」については、1～2割が「DVだと思わない」と回答している。また、「DVだと思わない」が0%であるものはない。【問15】
- また、「何を言っても無視する」、「大声で怒鳴る」については、「相手に非があればDVにはならない」が3割半ばであり、男性・女性ともに同様である。このことから、状況に応じてDVでない場合があるという認識を持っていることが伺える。【問15】

DVに関する相談

- DVを1度でも受けたことがある人のうち、それを相談したという人は、男性で7.6%、女性で31.9%である。【問16】
- 「常に監視し、人間関係を制限する」、「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」等と侮辱的なことを言う」、「体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する」、「避妊に協力しない」、「子どもに危害を加えると脅す」については、「相談した」が6割を上回る^{※3}。
- 相談先は、男性・女性ともに「友人・知人」、「家族」が多い。公的機関への相談は少ない。【問16-2】
- 相談しなかった理由をみると、男性・女性ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、「自分にも悪いところがあると思ったから」が続く。

DVに関する相談先の認知状況

- 男性・女性ともに、DVの相談先について「どこも知らない」という人が6～7割である。【問17】
- 相談先として最も知られているのは「大田区役所・生活福祉課」だが、男性・女性とも16～17%である。【問17】

DVの防止および被害者支援のための取り組み

- 男性・女性ともに「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」が最も多く、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」、「専門相談窓口の設置」が続く。

5 地域活動等について

学習活動の状況

- 過去1年間で何らかのことを自主的に学んだことのある人は、男性で61.7%、女性で63.8%である。【問19】
- 女性では「家庭（家事・育児・介護・家計管理など）のために学んだ／学んでいる」が23.2%で、男性よりも多い。【問19】
- 職業に就いている場合、「仕事のために学んだ／学んでいる」は男性で44.5%、女性で40.2%であり、大きな違いはみられない。【問19】

地域活動の状況・意向

- 何らかの地域活動や社会貢献活動等に参加している人は、男性で27.4%、女性で32.7%である。【問20】
- 条件にかかわらず参加したいと思う人は、男性で24.8%、女性で19.8%である。【問21】
- 地域活動等に参加するために必要なこととしては、男性・女性ともに「情報発信や啓発活動をする」、「地域団体の取り組みを広報する」、「地域活動等への参加ができるような

^{※3} 現在働いていない女性は、年代別には10名程度であるため、参考として記載する。

学習や訓練の機会を増やす」が多い。

○年代別にみると、男性では50～60歳代で「情報発信や啓発活動をする」が、他の年代に比べて多い。また、40歳代では「労働時間の短縮、休暇を取得しやすい職場環境を整備する」、「仕事と子育て・介護の両立を支援する環境の整備を図る」が多い。

○女性では20歳代において「仕事と子育て・介護の両立を支援する環境の整備を図る」が、他の年代に比べて多い。

女性の政策決定過程への参画

○区の審議会・委員会等の委員の男女比に関しては、女性では「男女半々くらいまで女性が増えた方がよい」が34.3%で最も多い。男性では「特に男女の比率には、こだわらない」(32.8%)が最も多いが、「男女半々くらいまで女性が増えた方がよい」も30.7%である。【問27】

○政策等の意思決定過程に女性の参画が少ない理由としては、男性・女性ともに「男性優位の組織運営があるから」が最も多い。【問23】

○女性では、「配偶者・パートナーの家事・育児等が不十分で、女性がやらざるを得ないから」(42.0%)、「性別による役割分担や性差別の意識があるから」(40.1%)が続く。【問23】

6 男女共同参画の取り組みについて

区の施策の利用・認知状況

○大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」、女性のためのたんぼぼ相談、大田区男女平等推進啓発情報誌「パステル」のいずれも、知っている人の方が少ない。最も認知度の高いエセナおおたも25.3%である。【問24】

○区の男女共同参画について推進されていると思う人（「とても推進されていると思う」と「推進されていると思う」の合計）は、男性で13.5%、女性で8.9%である。【問29】

○施策推進について「わからない」と回答した人が、男性・女性ともに4割台であり、施策が認知されていないことが伺える。【問29】

ジェンダーに関する認知状況

○ジェンダー、LGBTという言葉の意味の認知度は5～6割である。20～30歳代では7～8割が認知しているが、年代が上がるにつれて認知度が下がる。【問26】

様々な場面における男女平等の実感度合い

○家庭生活、職場、教育の場、政治の場、法律や制度、社会通念や習慣について、男女平等の実感度合いを尋ねたところ、教育の場においては、男女ともに6割が「平等である」と感じている。【問28】

○次いで法律や制度において「平等である」と感じる人が多く、男性で41.2%、女性で31.6%である。

- 家庭生活も男性においては37.6%が「平等である」と感じており、比較的多いが、女性では23.9%とギャップがみられる。【問28】
- その他、職場、政治の場、社会通念や習慣について「平等である」と感じる人は、男性・女性ともに1～2割程度であり、制度と実態にギャップがあることが伺える。【問28】

区などに求める取り組み

- エセナおおたに求める取り組みとしては、女性では「女性の再就職や起業などの支援」(42.8%)が最も多く、次いで「ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進」(41.5%)、「男女共同参画やジェンダー(社会的・文化的につくられた男女差)解消のための取り組み」(40.6%)が続く。【問25】
- 男性では「あらゆる暴力の根絶やハラスメント防止のための取り組み」(41.2%)が最も多く、次いで「ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進」(39.8%)、「男女共同参画やジェンダー(社会的・文化的につくられた男女差)解消のための取り組み」(32.8%)が続く。【問25】
- 区に求める取り組みは、男性・女性ともに「育児・保育施設の充実」が最も多く、男性で53.6%、女性で58.2%である。【問30】
- 次いで男性では「学校における男女共同参画についての教育の充実」(51.1%)、「男女平等に関する情報提供や学習機会の充実」(36.1%)が続く。女性では「就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」(45.9%)、「学校における男女共同参画についての教育の充実」(45.4%)が続く。【問30】
- 「就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」は女性の方が男性よりも多い。【問30】
- 学校教育に求めることとしては、男性・女性ともに「一人ひとりを尊重し認め合うことを大切にした教育をする」が最も多く、「授業の中で男女平等の教育を進める」、「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」が続く。【問31】
- 学校教育に求めることのうち、「家庭科等、男女共修の推進」は女性(46.4%)の方が男性(34.7%)よりも多い。

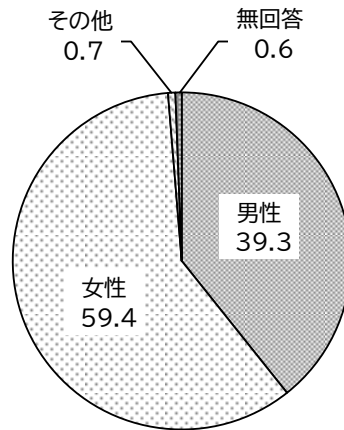
第3章 集計結果

1 基本属性

F 1 あなたの性別についてお答えください。【〇は1つ】
※性的マイノリティを考慮した選択肢を記載しています。戸籍上の性別に関係なく、ご自身の主観でご回答ください。

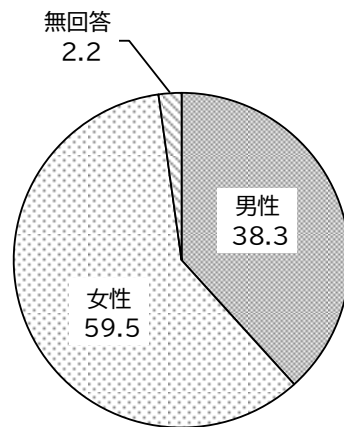
「男性」が39.3%、「女性」が59.4%、「その他」が0.7%である。

(N=697)



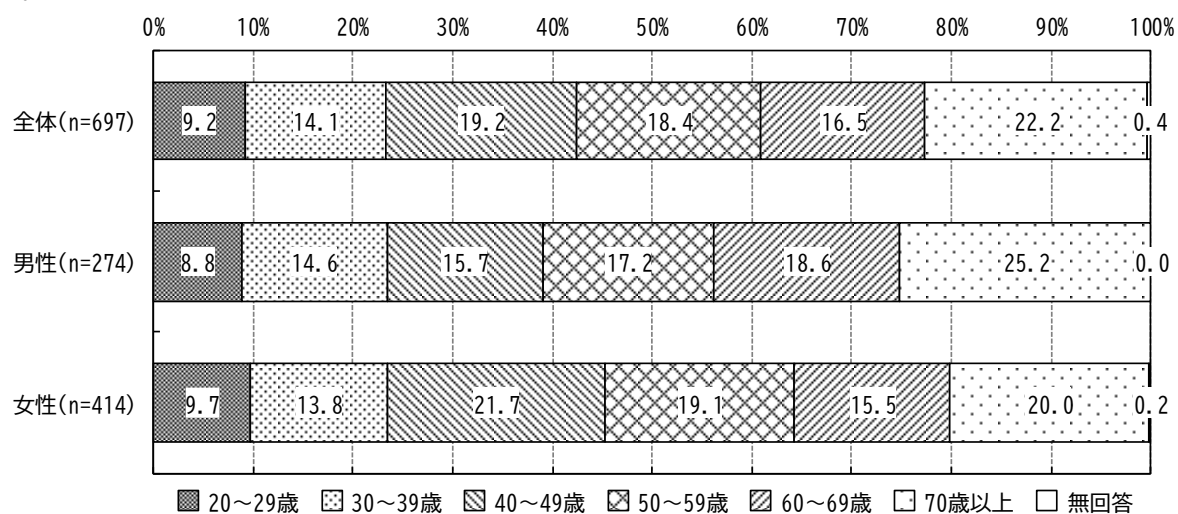
■ 前回調査結果

(N=744)

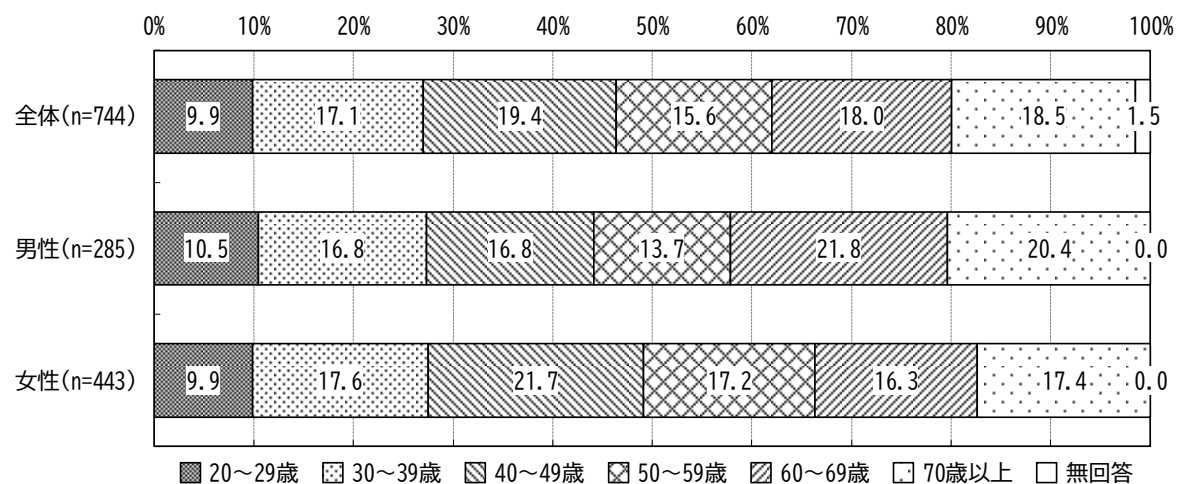


F2 あなたの年齢は、いくつですか。【〇は1つ】

「70歳以上」が22.2%と最も多く、次いで「40～49歳」が19.2%、「50～59歳」が18.4%である。

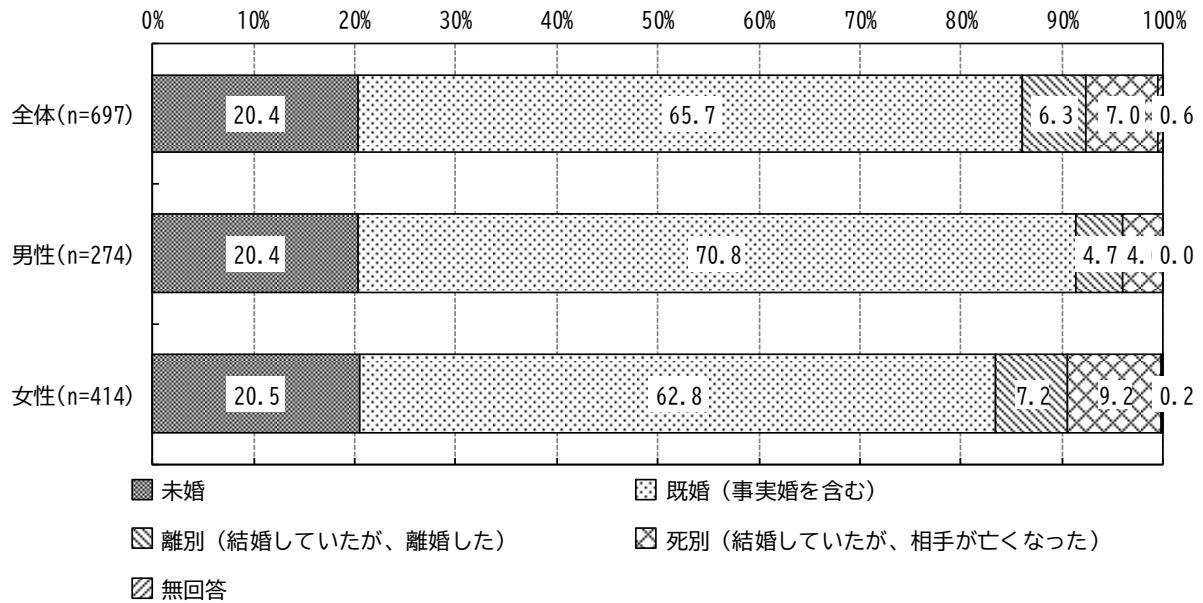


■前回調査結果

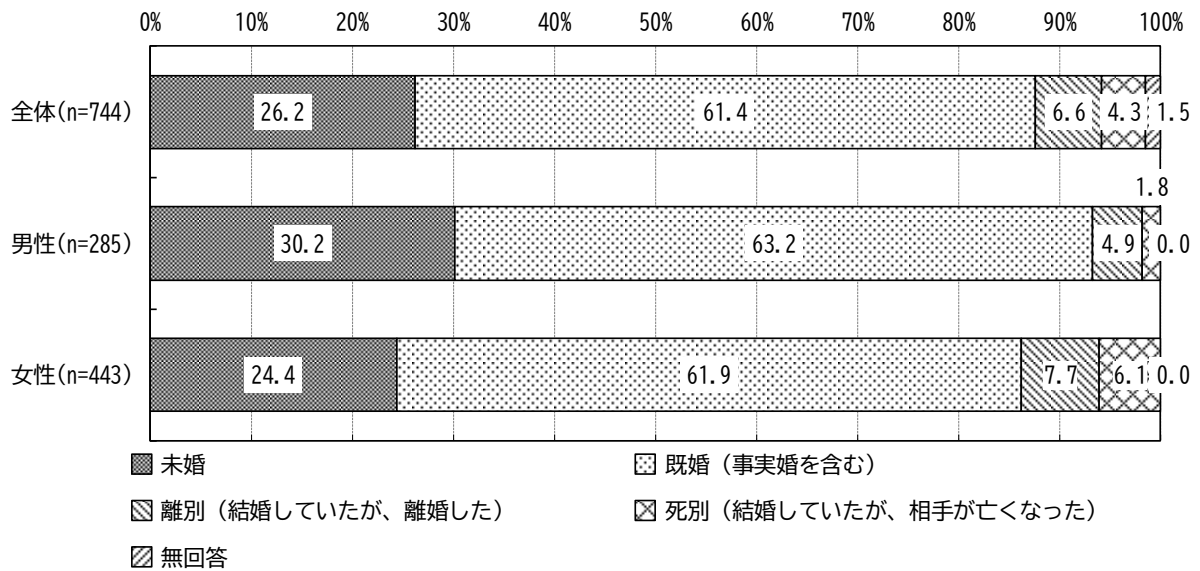


F3 あなたは結婚していますか（していましたか）。【〇は1つ】

「既婚（事実婚を含む）」が65.7%と最も多く、次いで「未婚」が20.4%、「死別（結婚していたが、相手が亡くなった）」が7.0%である。

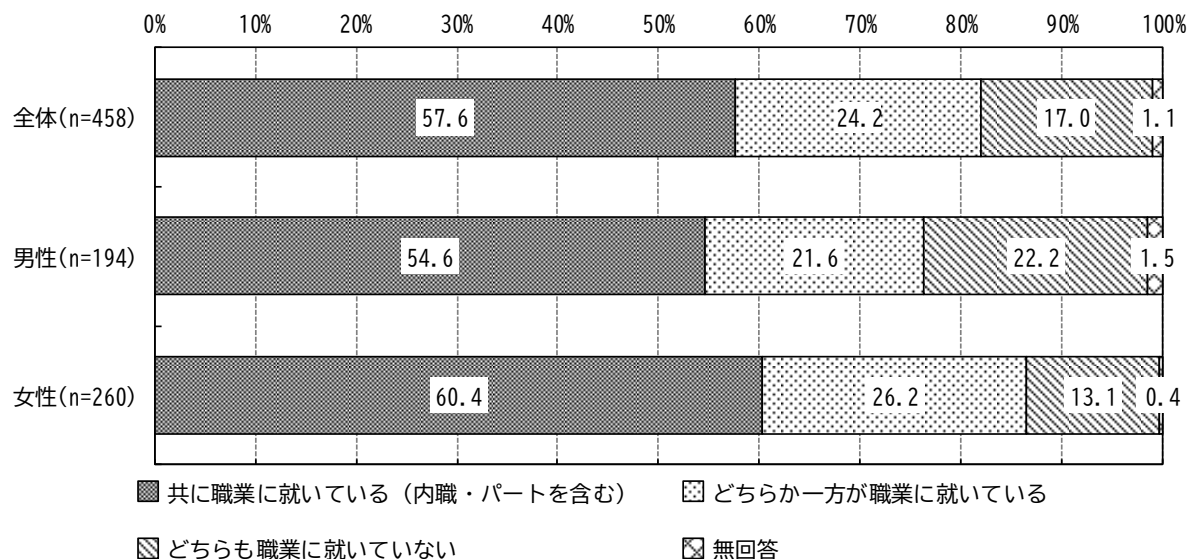


■前回調査結果



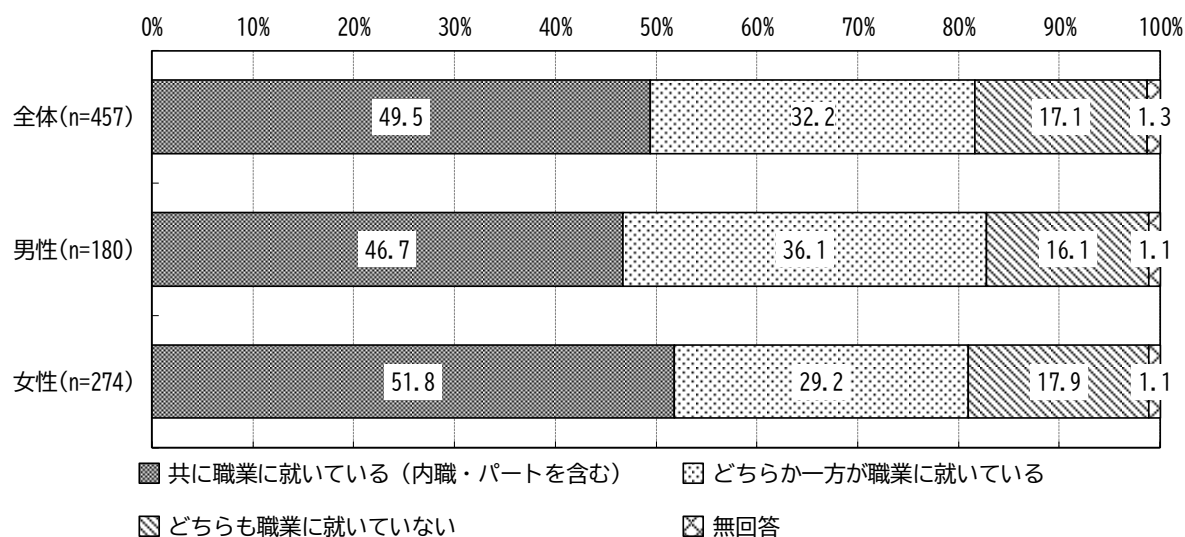
F4 F3で「既婚（事実婚を含む）」と回答した458人が回答。
 あなたと配偶者・パートナーは職業に就いていますか。【〇は1つ】

「共に職業に就いている（内職・パートを含む）」が57.6%と最も多く、次いで「どちらか一方が職業に就いている」が24.2%、「どちらも職業に就いていない」が17.0%である。



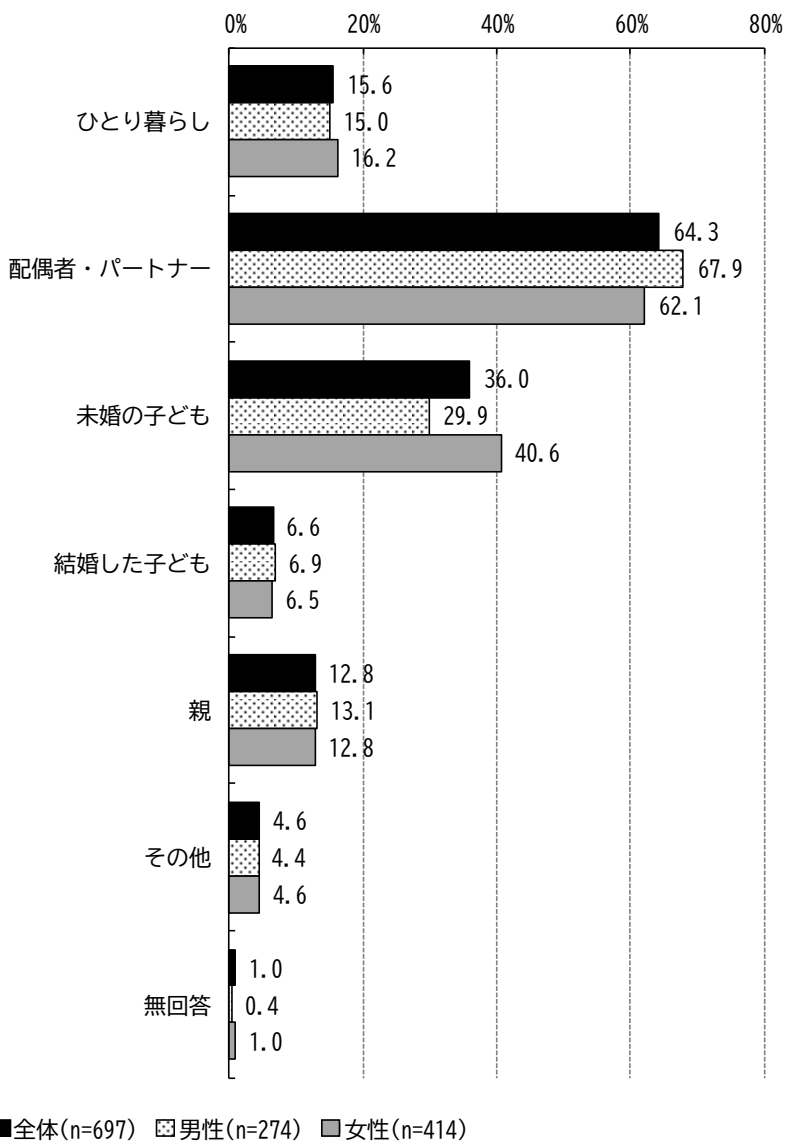
■前回調査との比較

「共に職業に就いている（内職・パートを含む）」が8.4ポイント増えている。



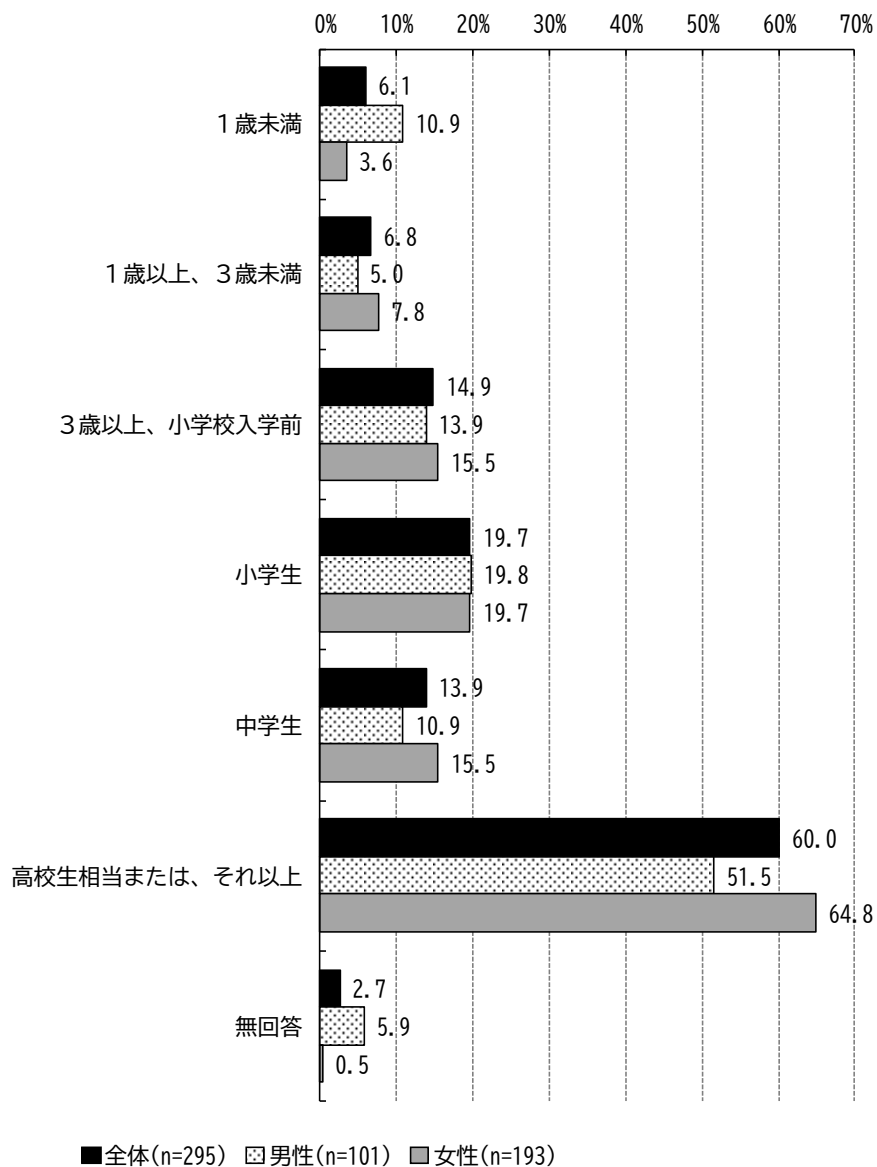
F5 現在、いっしょにお住まいの方はどなたですか。続柄はあなたを中心にお考えください。【〇はいくつでも】

「配偶者・パートナー」が64.3%と最も多く、次いで「未婚の子ども」が36.0%、「ひとり暮らし」が15.6%である。



F 6 F 5で「未婚の子ども」「結婚した子ども」と回答した295人が回答。
 お子さんの年齢や成長段階についてお答えください。【〇はいくつでも】

「高校生相当または、それ以上」が60.0%と最も多く、次いで「小学生」が19.7%、「3歳以上、小学校入学前」が14.9%である。



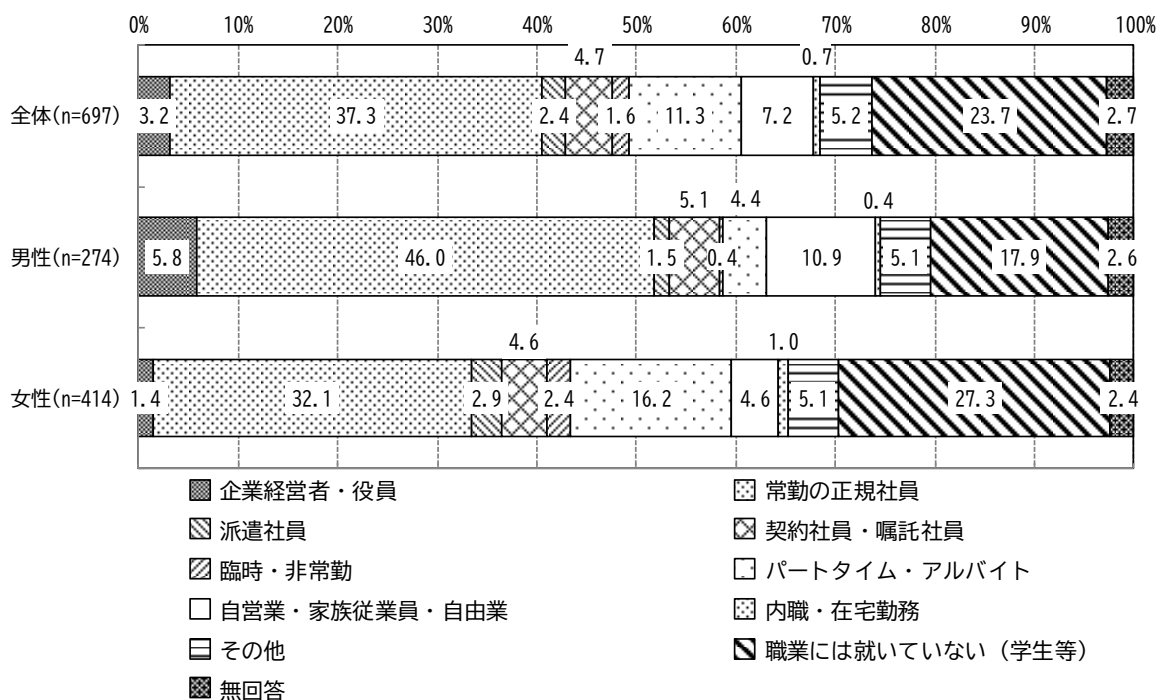
2 職業について

問1 現在、あなたの職業は次のうちどれですか。主な職業をお答えください。【〇は1つ】

「常勤の正規社員」が37.3%と最も多く、次いで「職業には就いていない(学生等)」が23.7%、「パートタイム・アルバイト」が11.3%である。

上位2位は男性・女性で共通しているが、3位は、男性では「自営業・家族従業員・自由業」が10.9%、女性では「パートタイム・アルバイト」が16.2%である^{※4}。

「常勤の正規社員」は男性(46.0%)の方が女性(32.1%)より13.9ポイント多い。「パートタイム・アルバイト」は女性の方が男性(4.4%)よりも11.8ポイント多く、「職業には就いていない(学生等)」も女性(27.3%)が男性(17.9%)よりも9.4ポイント多い。



■前回調査との比較

男性については「常勤の正規社員」が8.1ポイント増えている一方、女性では7.5ポイント減っている。その他、男性では「パートタイム・アルバイト」が7.9ポイント増えている。

^{※4} 性別を尋ねたF1にて各設問をクロス集計した結果に基づいている。なお、「その他」は5人以下であるため統計的に有意でないことから、分析の対象から外している。

■年代による分析

男性では70歳以上の「職業に就いていない（学生等）」が46.4%で最も多いが、60歳代では19.6%と少ない。

女性について年代別にみると20歳代～50歳代においては「常勤の正社員」が最も多い。ただし、年代が上がるにつれて少ない。一方、女性の40歳代～60歳代では、他の年代に比べて「パートタイム・アルバイト」が多く2割台前半である。

	合計	企業経営者・役員	常勤の正規社員	派遣社員	契約社員・嘱託社員	臨時・非常勤	パートタイム・アルバイト	自営業・家族従業員・自由業
全体	687	3.2	37.7	2.3	4.8	1.6	11.4	7.1
男性	20～29歳	24	-	58.3	-	-	-	4.2
	30～39歳	40	2.5	90.0	-	5.0	-	-
	40～49歳	43	4.7	69.8	2.3	9.3	-	2.3
	50～59歳	47	10.6	78.7	2.1	-	-	6.4
	60～69歳	51	7.8	13.7	3.9	13.7	2.0	13.7
	70歳以上	69	5.8	2.9	-	1.4	-	5.8
女性	20～29歳	40	-	67.5	5.0	-	5.0	7.5
	30～39歳	57	-	59.6	5.3	3.5	1.8	8.8
	40～49歳	90	1.1	45.6	4.4	4.4	2.2	22.2
	50～59歳	79	1.3	35.4	2.5	6.3	3.8	24.1
	60～69歳	64	3.1	3.1	1.6	9.4	3.1	20.3
	70歳以上	83	2.4	1.2	-	2.4	-	7.2

	合計	内職・在宅勤務	その他	職業には就いていない（学生等）	無回答
全体	687	0.7	5.1	23.6	2.5
男性	20～29歳	24	4.2	8.3	25.0
	30～39歳	40	-	2.5	-
	40～49歳	43	-	-	-
	50～59歳	47	-	-	2.1
	60～69歳	51	-	5.9	19.6
	70歳以上	69	-	11.6	46.4
女性	20～29歳	40	-	-	15.0
	30～39歳	57	1.8	-	14.0
	40～49歳	90	1.1	3.3	10.0
	50～59歳	79	1.3	-	22.8
	60～69歳	64	1.6	4.7	46.9
	70歳以上	83	-	18.1	50.6

■問1に対する考察

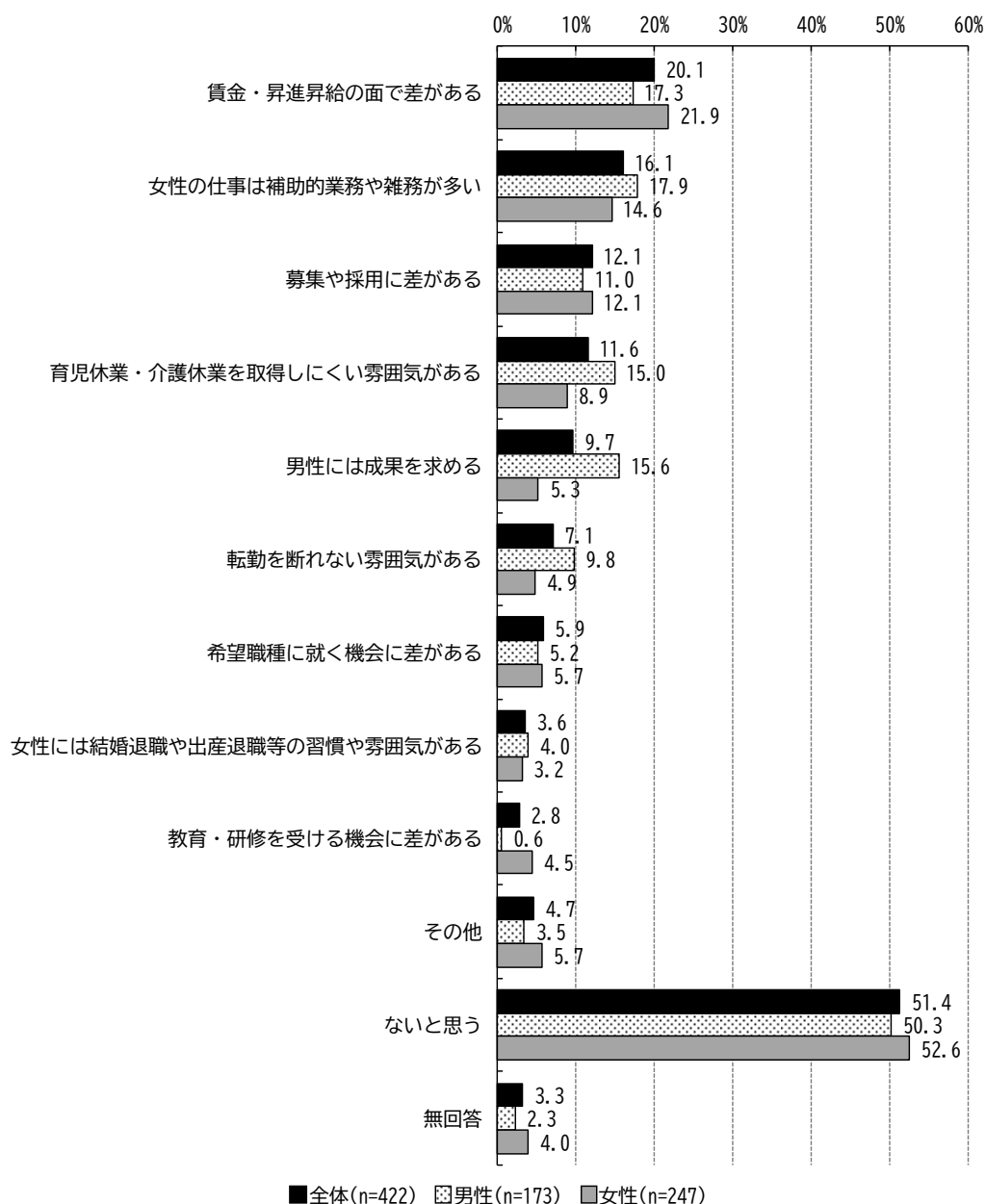
男性に比べて女性の方が非正規雇用で働く傾向がみられる。また前回調査と比べても女性の非正規雇用は増加している。男性については40歳代において非正規雇用の割合が多い。近年の非正規雇用の増加が表れていると考えられる。

問1-2 問1で「企業経営者・役員」、「常勤の正社員」、「派遣社員」、「契約社員・嘱託社員」、「臨時・非常勤」、「パートタイム・アルバイト」と回答した422人が回答。
 あなたの職場では、男女差別があると思いますか。具体的な内容についてお答えください。【〇はいくつでも】

「ないと思う」が51.4%と最も多く、次いで「賃金・昇進昇給の面で差がある」が20.1%、「女性の仕事は補助的業務や雑務が多い」が16.1%である。

何らかの男女差別があると思う人（100%から「ないと思う」と「無回答」を除いて算出）は45.3%である。男性・女性ともに「ないと思う」が最も多く、男性では50.3%、女性では52.6%である。何らかの男女差別があると思う人は、男性で47.4%、女性で43.4%である。

上位3位は男性・女性で共通している（順位は異なる）。「男性には成果を求める」は男性（15.6%）の方が女性（5.3%）よりも10.3ポイント多い。その他、「育児休業・介護休業を取得しにくい雰囲気がある」は男性の方が女性よりもやや多い。



■年代による分析

年代による明確な傾向はみられない。

		合計	あると思う	ないと思う	無回答
全体		419	45.1	51.6	3.3
男性	20～29歳	14	35.8	57.1	7.1
	30～39歳	39	46.2	53.8	-
	40～49歳	38	55.3	42.1	2.6
	50～59歳	43	46.5	53.5	-
	60～69歳	28	46.4	50.0	3.6
	70歳以上	11	45.4	45.5	9.1
女性	20～29歳	34	47.1	50.0	2.9
	30～39歳	45	48.9	46.7	4.4
	40～49歳	72	38.9	56.9	4.2
	50～59歳	58	50.0	46.6	3.4
	60～69歳	26	38.5	57.7	3.8
	70歳以上	11	18.2	72.7	9.1

■職業による分析

女性では、常勤の正規社員、派遣社員、契約社員・嘱託職員の場合、「あると思う」が5割程度であり、他の職業に比べて多い。

		合計	あると思う	ないと思う	無回答
全体		420	45.0	51.7	3.3
男性	企業経営者・役員	16	68.7	25.0	6.3
	常勤の正規社員	126	44.4	54.0	1.6
	派遣社員	4	-	100.0	-
	契約社員・嘱託社員	14	71.5	21.4	7.1
	臨時・非常勤	1	-	100.0	-
	パートタイム・アルバイト	12	41.7	58.3	-
女性	企業経営者・役員	6	16.7	83.3	-
	常勤の正規社員	133	50.3	45.9	3.8
	派遣社員	12	50.0	50.0	-
	契約社員・嘱託社員	19	47.4	42.1	10.5
	臨時・非常勤	10	20.0	70.0	10.0
	パートタイム・アルバイト	67	32.8	64.2	3.0

■問1-2に対する考察

職場における男女差別は、男性・女性ともに実感されている。男性では成果を求められがちであることに差別を感じている一方、女性では賃金やキャリアにおいて差別があると感じている。また、男性が育児休業等の取りにくさが男性差別であると感じている点は、育児休業・介護休業の取得意向を持つ男性が一定数いるとも推察される。

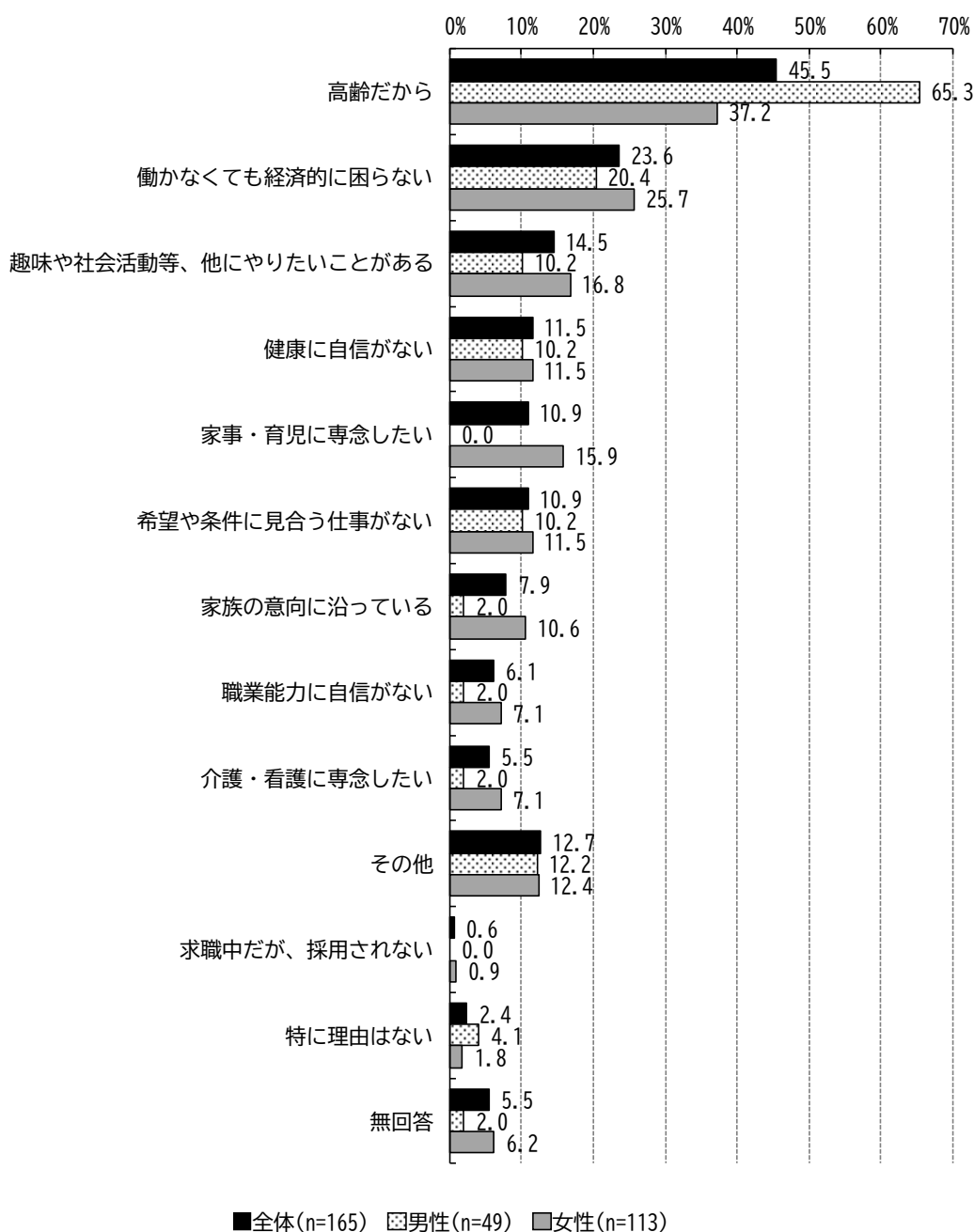
問1-3 問1で「職業には就いていない（学生等）」と回答した165人が回答。

あなたが、現在職業に就いていない理由は何ですか。【〇はいくつでも】

「高齢だから」が45.5%と最も多く、次いで「働かなくても経済的に困らない」が23.6%、「趣味や社会活動等、他にやりたいことがある」が14.5%である。

上位2位は男性・女性で共通しているが、3位は、男性では「その他」が12.2%、女性では「趣味や社会活動等、他にやりたいことがある」が16.8%である。

「家事・育児に専念したい」は、女性では15.9%であるのに対して、男性では0.0%である。その他、「趣味や社会活動等、他にやりたいことがある」、「家族の意向に沿っている」は女性の方が男性よりもやや多い。



■年代による分析（参考）

女性の20歳代～60歳代をみると、30歳代と40歳代では「家事・育児に専念したい」が最も多く、30歳代で62.5%、40歳代で44.4%である^{※5}。

「求職中だが、採用されない」は、女性の30歳代で12.5%だが、他の年代にはみられない。「希望や条件に見合う仕事がない」は女性の50歳代で27.8%と最も多い。

	合計	高齢だから	働かなくても経済的に困らない	趣味や社会活動等、他にやりたいことがある	家事・育児に専念したい	健康に自信がない	希望や条件に見合う仕事がない	家族の意向に沿っている
全体	162	45.7	24.1	14.8	11.1	11.1	11.1	8.0
男性	6	-	33.3	16.7	-	-	-	-
20～29歳	-	-	-	-	-	-	-	-
30～39歳	-	-	-	-	-	-	-	-
40～49歳	1	100.0	-	-	-	-	100.0	-
50～59歳	10	50.0	20.0	20.0	-	10.0	-	-
60～69歳	32	81.3	18.8	6.3	-	12.5	12.5	3.1
70歳以上	6	-	-	-	16.7	-	-	-
女性	8	-	25.0	-	62.5	12.5	12.5	-
20～29歳	9	-	33.3	22.2	44.4	33.3	11.1	33.3
30～39歳	18	-	27.8	16.7	22.2	11.1	27.8	11.1
40～49歳	30	33.3	43.3	30.0	13.3	13.3	13.3	16.7
50～59歳	42	76.2	14.3	11.9	-	7.1	4.8	4.8
60～69歳								
70歳以上								

	合計	介護・看護に専念したい	職業能力に自信がない	その他	求職中だが、採用されない	特に理由はない	無回答
全体	162	5.6	5.6	12.3	0.6	2.5	4.9
男性	6	-	-	66.7	-	-	16.7
20～29歳	-	-	-	-	-	-	-
30～39歳	-	-	-	-	-	-	-
40～49歳	1	-	100.0	-	-	-	-
50～59歳	10	-	-	-	-	-	-
60～69歳	32	3.1	-	6.3	-	6.3	-
70歳以上	6	-	-	66.7	-	-	16.7
女性	8	12.5	-	37.5	12.5	-	-
20～29歳	9	-	-	22.2	-	-	-
30～39歳	18	27.8	22.2	5.6	-	-	-
40～49歳	30	3.3	6.7	10.0	-	6.7	10.0
50～59歳	42	2.4	4.8	2.4	-	-	7.1
60～69歳							
70歳以上							

■問1-3に対する考察（参考）

30～40歳代に着目すると、仕事ではなく家事・育児を選択したという人が多く、就労よりも家事・育児を選択する女性がいることが伺える。

^{※5} 男性の70歳以上、女性の50歳代、60歳代、70歳以上のほかは、いずれも該当者が少ないため統計的に有意とは言えない。そのため参考として掲載する。

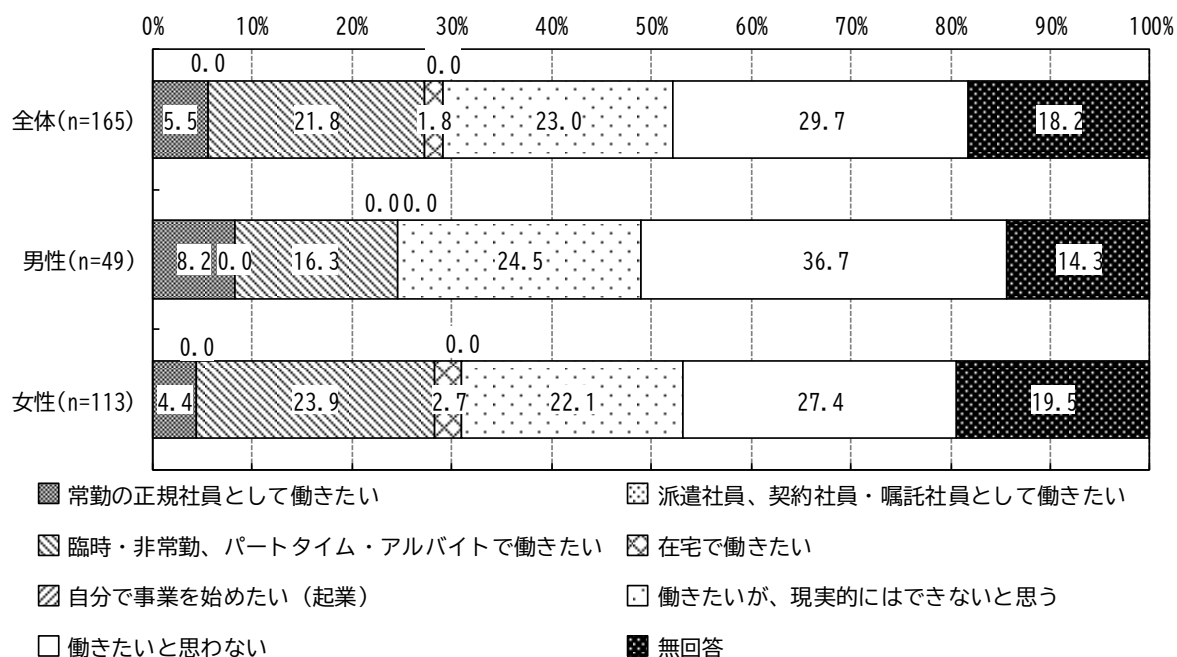
問1-4 問1で「職業には就いていない（学生等）」と回答した165人が回答。

あなたは今後、職業に就きたいと思いますか。【〇は1つ】

「働きたいと思わない」が29.7%と最も多く、次いで「働きたいが、現実的にはできないと思う」が23.0%、「臨時・非常勤、パートタイム・アルバイトで働きたい」が21.8%である。

何らかのかたちで働きたいと思う人（100%から「働きたいと思わない」と「無回答」を除いて算出）は52.1%である。何らかのかたちで働きたいと思う人は男性で49.0%、女性で53.1%となっており、女性の方がやや多い。

上位3位は男性・女性で共通している（順位は異なる）。「働きたいと思わない」は、男性（36.7%）の方が女性（27.4%）よりも9.3ポイント多い。「臨時・非常勤、パートタイム・アルバイトで働きたい」は女性（23.9%）の方が男性（16.3%）よりもやや多い。



■年代による分析（参考）

女性では、20歳代・30歳代で何らかのかたちで働きたいと思う人が8割台となっており。他の年代に比べて多い^{※6}。

		合計	何らかのかたちで働きたいと思う	働きたいが、現実的にはできないと思う	働きたいと思わない	無回答
全体		162	29.1	22.8	30.2	17.9
男性	20～29歳	6	50.0	-	-	50.0
	30～39歳	-	-	-	-	-
	40～49歳	-	-	-	-	-
	50～59歳	1	100.0	-	-	-
	60～69歳	10	20.0	20.0	40.0	20.0
	70歳以上	32	18.6	31.3	43.8	6.3
女性	20～29歳	6	83.3	-	-	16.7
	30～39歳	8	87.5	12.5	-	-
	40～49歳	9	44.5	22.2	22.2	11.1
	50～59歳	18	50.0	22.2	16.7	11.1
	60～69歳	30	23.3	26.7	33.3	16.7
	70歳以上	42	7.1	23.8	38.1	31.0

■問1-4に対する考察（参考）

40歳以上の女性において就労意向を持ちながらも現実的ではないと考える人が少なくなく、就労支援を要する対象と捉えることができる。

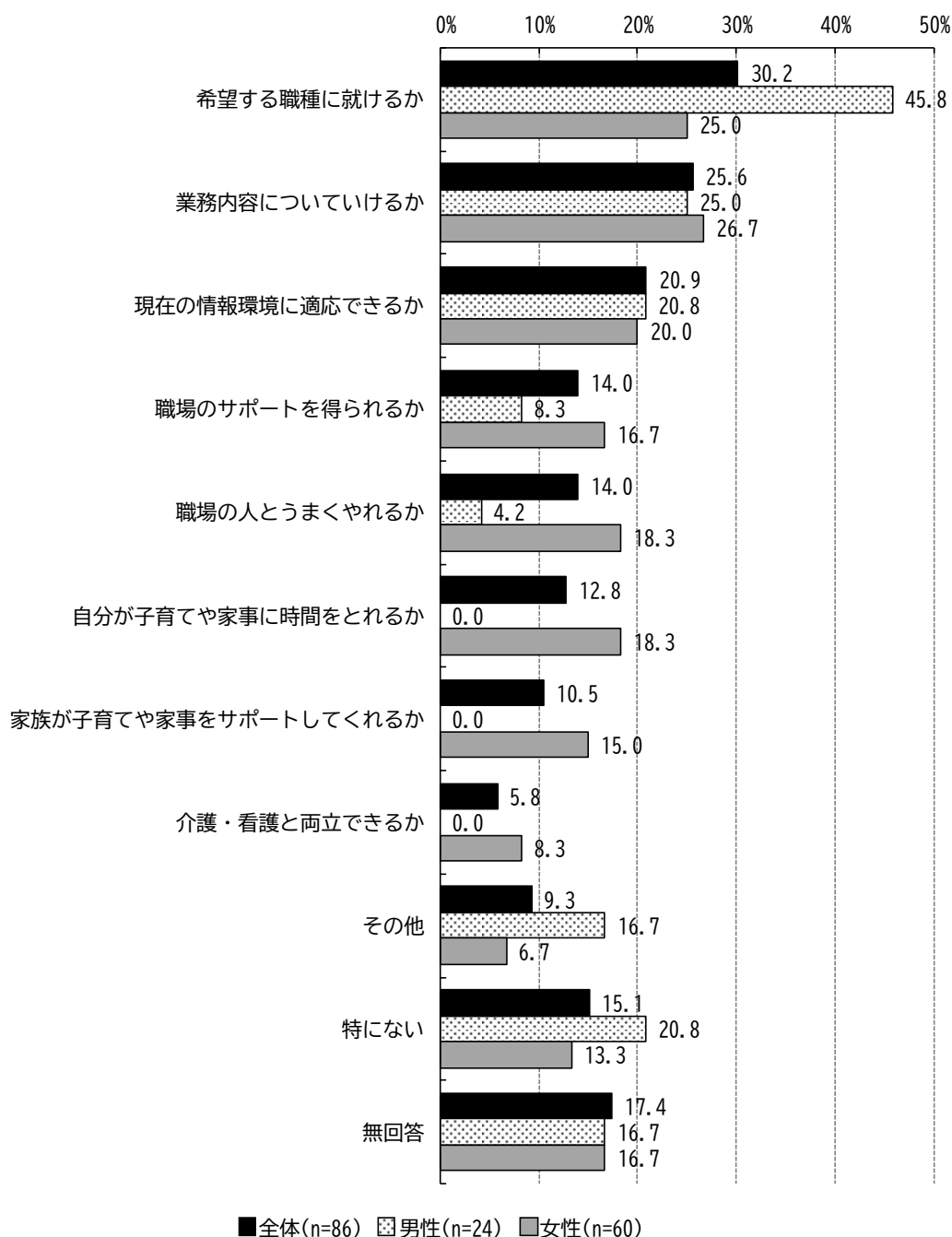
^{※6} 男性の70歳以上、女性の50歳代、60歳代、70歳以上のほかは、いずれも該当者が少ないため統計的に有意とは言えない。そのため参考として掲載する。

問1-5 問1-4で「働きたいと思わない」以外を回答した86人が回答。
 あなたは職業に就くうえで何か不安に思うことはありますか。【〇はいくつでも】

「希望する職種に就けるか」が30.2%と最も多く、次いで「業務内容についていけるか」が25.6%、「現在の情報環境に適応できるか」が20.9%である。

何らかの不安を感じている人（100%から「特にない」と「無回答」を除いて算出）は67.5%である。男性では62.5%、女性では70.0%であり、女性の方がやや多い。

上位3位は男性・女性で共通している（順位は異なり、男性では「特にない」(20.8%)も3位である。）。「職場の人とうまくやれるか」、「自分が子育てや家事に時間をとれるか」、「家族が子育てや家事をサポートしてくれるか」は女性の方が男性よりも約14~18ポイント程度多い。一方、「希望する職種に就けるか」は男性（45.8%）の方が女性（25.0%）よりも20.8ポイント多い。



■年代による分析（参考）

男性・女性ともに、70歳以上を除き、何らかの不安がある人の方が多く、いずれの年代も7割以上である。

		合計	何らかの不安がある	特にない	無回答
全体		84	67.8	15.5	16.7
男性	20～29歳	3	66.7	33.3	-
	30～39歳	-	-	-	-
	40～49歳	-	-	-	-
	50～59歳	1	100.0	-	-
	60～69歳	4	75.0	-	25.0
	70歳以上	16	56.2	25.0	18.8
女性	20～29歳	5	80.0	-	20.0
	30～39歳	8	100.0	-	-
	40～49歳	6	83.3	16.7	-
	50～59歳	13	76.9	15.4	7.7
	60～69歳	15	73.3	6.7	20.0
	70歳以上	13	30.7	30.8	38.5

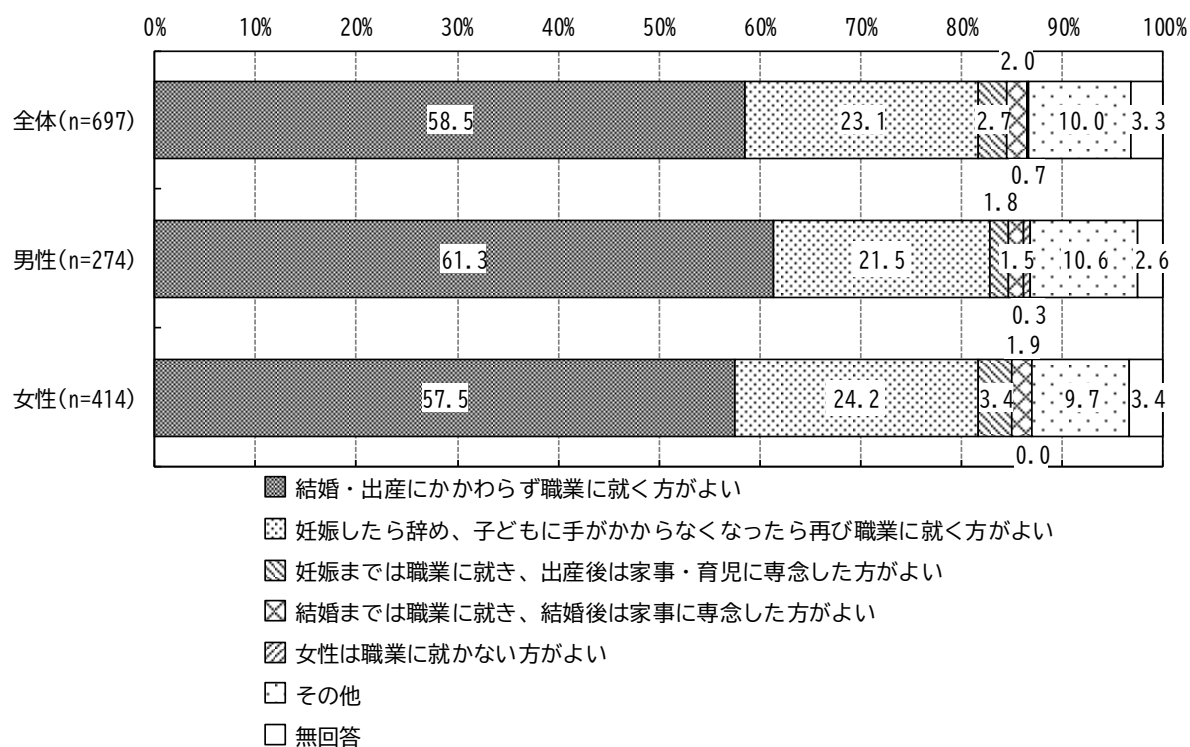
■問1-2に対する考察

女性が職業に就く上では、子育て・家事との両立を不安に覚えることが見て取れる。このことから、女性の家事・育児を負担していることが伺える。

問2 女性が職業に就くことについて、あなたはどのようにお考えですか。【〇は1つ】

「結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい」が58.5%と最も多く、次いで「妊娠したら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び職業に就く方がよい」が23.1%、「その他」が10.0%である。

上位3位は男性・女性で共通しており、各選択肢に大きな差はみられない。



■前回調査との比較

「結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい」が男性では14.6ポイント増えている一方、女性では10.3ポイント減少している。女性では「妊娠したら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び職業に就く方がよい」が7.0ポイント増えている。

■国・都の調査との比較

国の調査では「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」が61.0%、都では「育児・介護等にかかわらず、職業をもち続ける方がよい」が51.7%である。区では「結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい」が58.5%であり、都に比べてやや多い。

■年代による分析

男性・女性ともに、すべての年代において「結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい」が最も多い。女性については、40歳代以上になると年代が上がるにつれて「結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい」が少なくなる。男性では、60歳代以下は6割前後である。

		合計	結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい	妊娠したら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び職業に就く方がよい	妊娠までは職業に就き、出産後は家事・育児に専念した方がよい	結婚までは職業に就き、結婚後は家事に専念した方がよい	女性は職業に就かない方がよい	その他	無回答
全体		687	59.1	23.0	2.8	1.7	0.3	10.0	3.1
男性	20～29歳	24	58.3	16.7	-	4.2	-	20.8	-
	30～39歳	40	65.0	17.5	2.5	-	-	15.0	-
	40～49歳	43	65.1	20.9	-	-	2.3	11.6	-
	50～59歳	47	66.0	21.3	-	-	-	12.8	-
	60～69歳	51	64.7	23.5	2.0	2.0	2.0	3.9	2.0
	70歳以上	69	52.2	24.6	4.3	2.9	-	7.2	8.7
女性	20～29歳	40	60.0	20.0	2.5	2.5	-	12.5	2.5
	30～39歳	57	71.9	15.8	-	1.8	-	10.5	-
	40～49歳	90	62.2	16.7	1.1	1.1	-	17.8	1.1
	50～59歳	79	60.8	26.6	5.1	-	-	6.3	1.3
	60～69歳	64	50.0	35.9	1.6	3.1	-	7.8	1.6
	70歳以上	83	44.6	27.7	8.4	3.6	-	3.6	12.0

■世帯の就労状況による分析

女性について「結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい」をみると、共働きの場合に63.1%と多くなる。ただし、どちらか一方が職業に就いている女性も「結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい」は47.1%であり、選択肢のなかでは最も多い。

		合計	結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい	妊娠したら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び職業に就く方がよい	妊娠までは職業に就き、出産後は家事・育児に専念した方がよい	結婚までは職業に就き、結婚後は家事に専念した方がよい	女性は職業に就かない方がよい	その他	無回答
全体		450	57.8	24.7	3.1	2.0	0.4	10.0	2.0
男性	共に職業に就いている	106	59.4	24.5	0.9	1.9	0.9	12.3	-
	どちらか一方が職業に就いている	42	59.5	23.8	2.4	2.4	-	9.5	2.4
	どちらも職業に就いていない	43	62.8	16.3	4.7	2.3	2.3	4.7	7.0
女性	共に職業に就いている	157	63.1	21.7	2.5	0.6	-	10.8	1.3
	どちらか一方が職業に就いている	68	47.1	35.3	2.9	5.9	-	7.4	1.5
	どちらも職業に就いていない	34	41.2	29.4	11.8	-	-	11.8	5.9

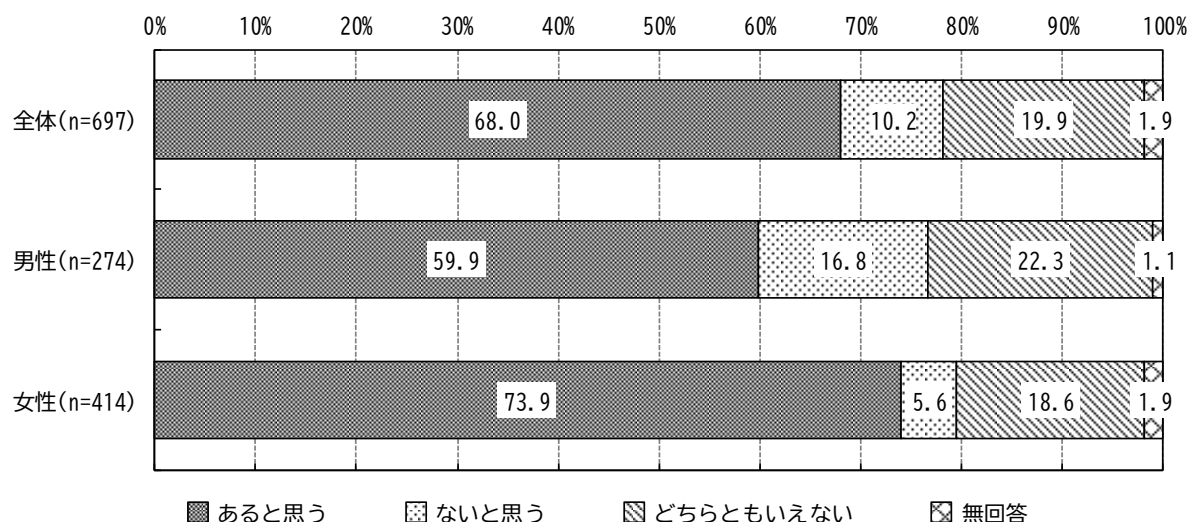
■問2に対する考察

性別や年代等にかかわらず、女性が働き続けることについて肯定的である。

問3 あなたは、女性が就労を続けていくうえで、支障があると思いますか。【○は1つ】

「あると思う」が68.0%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が19.9%、「ないと思う」が10.2%である。

男性・女性ともに「あると思う」が最も多い。「あると思う」は女性（73.9%）の方が男性（59.9%）よりも14ポイント多い。「ないと思う」は男性（16.8%）の方が女性（5.6%）よりも11.2ポイント多い。



■前回調査との比較

男性では、「あると思う」が8.9ポイント減り、「ないと思う」が7.3ポイント増えている。女性では、「あると思う」が7.4ポイント増えている。

■年代による分析

男性・女性ともに、いずれの年代も「あると思う」が多い。

女性では、30歳代、50歳代で「あると思う」が8割台となっており、他の年代に比べて多い。

	合計	あると思う	ないと思う	どちらともいえない	無回答
全体	687	68.3	10.0	20.1	1.6
男性					
20～29歳	24	66.7	20.8	12.5	-
30～39歳	40	62.5	15.0	22.5	-
40～49歳	43	74.4	7.0	18.6	-
50～59歳	47	63.8	17.0	19.1	-
60～69歳	51	52.9	21.6	25.5	-
70歳以上	69	49.3	18.8	27.5	4.3
女性					
20～29歳	40	72.5	10.0	17.5	-
30～39歳	57	82.5	1.8	15.8	-
40～49歳	90	70.0	4.4	23.3	2.2
50～59歳	79	84.8	3.8	11.4	-
60～69歳	64	78.1	3.1	18.8	-
70歳以上	83	59.0	10.8	22.9	7.2

■就労状況による分析

職業に就いている
場合、女性（75.9%）
の方が男性（61.0%）
よりも多い。

		合計	あると思 う	ないと思 う	どちらと もいえな い	無回答
全体		671	69.3	9.7	19.8	1.2
男性	職業に就いている	218	61.0	15.6	22.9	0.5
	職業には就いていない	49	59.2	22.4	16.3	2.0
女性	職業に就いている	291	75.9	5.2	17.9	1.0
	職業には就いていない	113	72.6	4.4	20.4	2.7

■問3に対する考察

多くの女性が就労継続に支障があると感じているが、男性は同程度には認識していない。就労している男性においても女性との差が見て取れることから、女性の支障が職場において十分に共有されていない状況にあると考えられる。

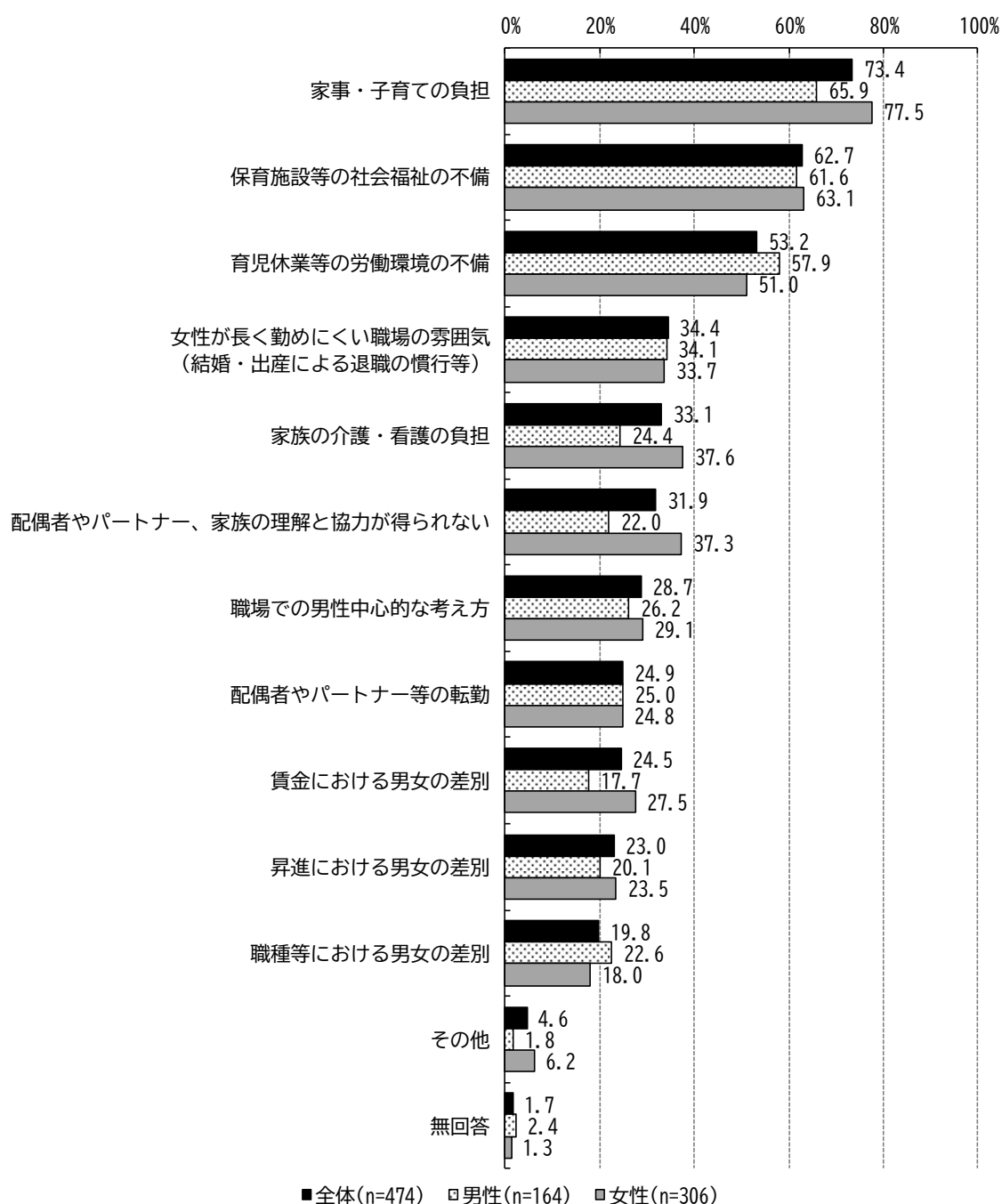
問3-2 問3で「あると思う」と回答した474人が回答。

女性が就労を続けていくうえでの支障は、具体的にどのようなことだと思いますか。【〇はいくつでも】

「家事・子育ての負担」が73.4%と最も多く、次いで「保育施設等の社会福祉の不備」が62.7%、「育児休業等の労働環境の不備」が53.2%である。

上位3位は男性・女性で共通している。「家事・子育ての負担」、「家族の介護・看護の負担」、「配偶者やパートナー、家族の理解と協力が得られない」、「賃金における男女の差別」は女性の方が男性よりも約10～15ポイント程度多い。

「育児休業等の労働環境の不備」は男性（57.9%）の方が女性（51.0%）よりもやや多い。



■就労状況による分析

職業に就いている場合も、男性・女性ともに全体での上位3位と共通している。

就労状況で比較すると、男性では、「家事・子育ての負担」が職業に就いている場合の方が多く、68.4%である。

	合計	家事・子育ての負担	保育施設等の社会福祉の不備	育児休業等の労働環境の不備	女性が長く勤めにくい職場の雰囲気（結婚・出産による退職の慣行等）	家族の介護・看護の負担	配偶者やパートナー、家族の理解と協力が得られない	職場での男性中心な考え方
全体	465	73.8	63.0	53.5	33.8	33.1	31.8	27.7
男性								
職業に就いている	133	68.4	63.2	54.9	31.6	24.1	21.1	24.8
職業には就いていない	29	58.6	58.6	72.4	44.8	27.6	24.1	31.0
女性								
職業に就いている	221	79.2	61.5	47.1	29.9	38.0	37.6	29.0
職業には就いていない	82	73.2	68.3	62.2	43.9	36.6	36.6	28.0

	合計	配偶者やパートナー等の転勤	賃金における男女の差別	昇進における男女の差別	職種等における男女の差別	その他	無回答
全体	465	24.7	23.7	22.2	19.4	4.7	1.5
男性							
職業に就いている	133	26.3	16.5	19.5	21.8	2.3	-
職業には就いていない	29	17.2	20.7	24.1	27.6	-	10.3
女性							
職業に就いている	221	24.0	25.8	22.2	15.4	6.8	0.5
職業には就いていない	82	26.8	30.5	25.6	23.2	4.9	3.7

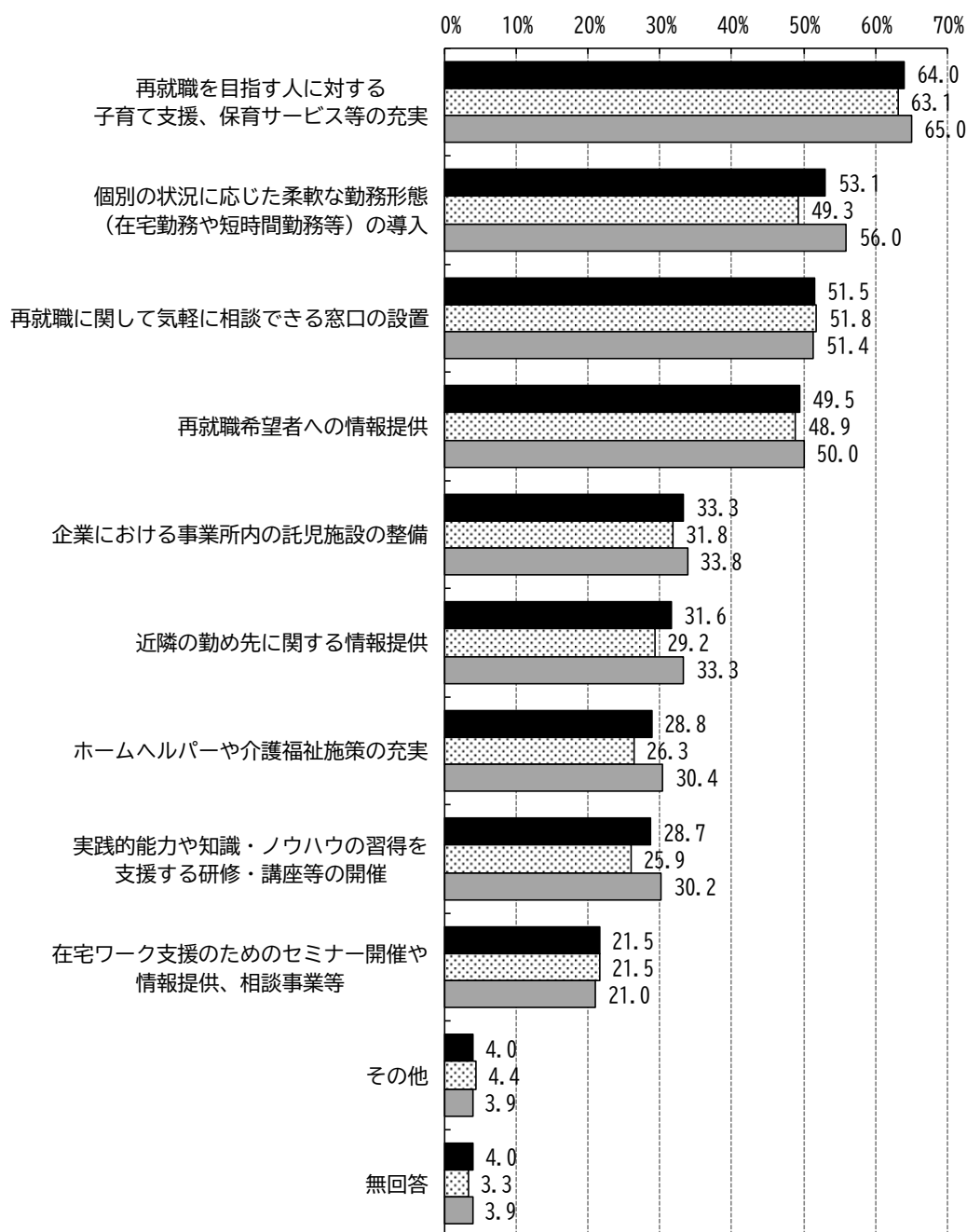
■問3-2に対する考察

女性の就労継続においては、家事・育児が支障になっていると思われる。家庭における配偶者との分担が十分でないことに加えて、社会インフラや労働環境も十分に整備されていないと思われることが伺える。

問4 あなたは、子育てや介護等により、いったん離職した人が再就職するためには、どのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

「再就職を目指す人に対する子育て支援、保育サービス等の充実」が64.0%と最も多く、次いで「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務等）の導入」が53.1%、「再就職に関して気軽に相談できる窓口の設置」が51.5%である。

上位3位は男性・女性で共通している（順位は異なる）。「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務等）の導入」は女性（56.0%）の方が男性（49.3%）よりもやや多い。



■全体 (n=697) □男性 (n=274) ▨女性 (n=414)

■就労状況による分析

職業に就いている場合も、男性・女性ともに全体での上位3位と共通している。

男性・女性ともに、職業に就いている場合の方が、「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務等）の導入」が多くなり、男性で52.8%、女性で59.1%である。

	合計	再就職を目指す人に対する子育て支援、保育サービス等の充実	個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務等）の導入	再就職に関して気軽に相談できる窓口の設置	再就職希望者への情報提供	企業における事業所内の託児施設の整備	近隣の勤め先に関する情報提供	ホームヘルパーや介護福祉施策の充実
全体	671	65.1	54.2	51.9	50.5	33.4	32.5	29.1
男性								
職業に就いている	218	63.8	52.8	52.3	48.6	33.9	32.1	29.8
職業には就いていない	49	63.3	38.8	49.0	53.1	24.5	20.4	12.2
女性								
職業に就いている	291	65.3	59.1	52.9	51.5	34.4	34.0	29.6
職業には就いていない	113	68.1	51.3	49.6	50.4	33.6	34.5	33.6

	合計	実践的能力や知識・ノウハウの習得を支援する研修・講座等の開催	在宅ワーク支援のためのセミナー開催や情報提供、相談事業等	その他	無回答
全体	671	28.8	21.8	4.2	2.5
男性					
職業に就いている	218	26.1	24.8	3.2	2.3
職業には就いていない	49	24.5	10.2	10.2	4.1
女性					
職業に就いている	291	33.7	23.4	4.8	2.1
職業には就いていない	113	23.0	16.8	1.8	3.5

■問4に対する考察

再就職支援においては家事・育児の支援や、その時間を確保するための労働環境の整備が求められている。

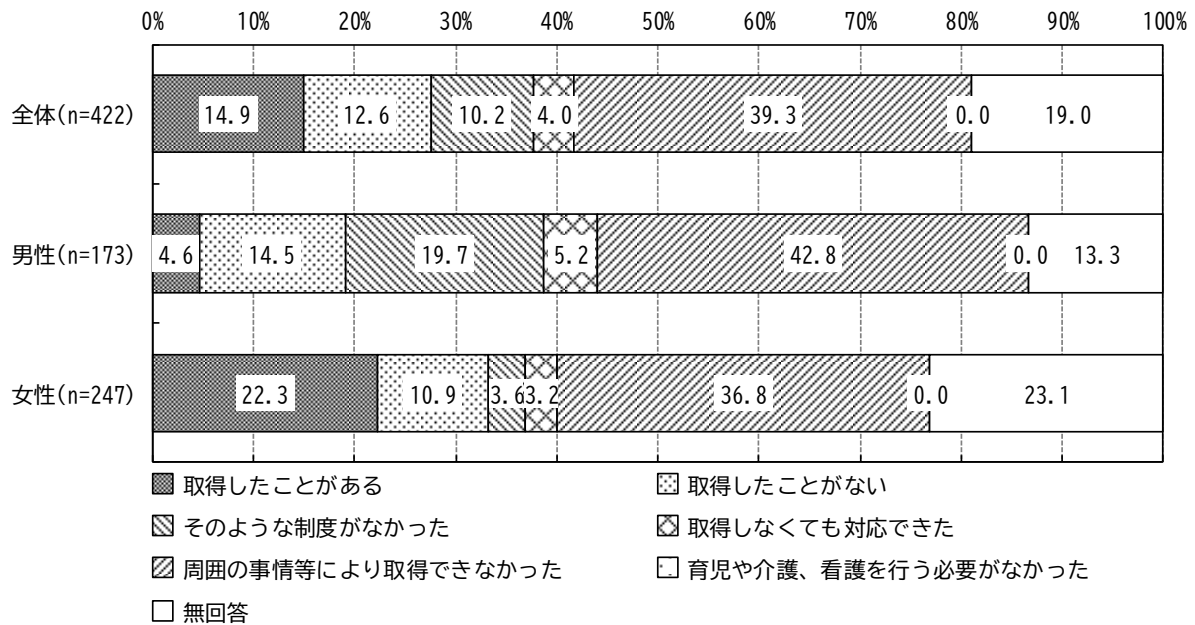
問5 公的機関、企業、団体等において職業に就いている422人（無職、自営を除く）が回答。
あなたは、育児休業・介護休業・介護休暇・子の看護休暇を取得したことがありますか。項目（ア）～（エ）のそれぞれについてお答えください。【項目ごとに○は1つずつ】

（ア）育児休業

「周囲の事情等により取得できなかった」が39.3%と最も多く、次いで「取得したことがある」が14.9%、「取得したことがない」が12.6%である。

男性・女性ともに「周囲の事情等により取得できなかった」が最も多い。男性で42.8%、女性で36.8%であり、男性の方が女性よりもやや多い。

次いで、男性では「そのような制度がなかった」が19.7%、女性では「取得したことがある」が22.3%である。「取得したことがある」は女性の方が男性（4.6%）のよりも17.7ポイント多い。「そのような制度がなかった」は男性の方が女性（3.6%）よりも16.1ポイント多い。



■世帯の就労状況による分析

共働き世帯では、「取得したことがある」は男性では6.5%、女性では34.0%であり、女性の方が男性よりも多い。

	合計	取得したことがある	取得したことがない	そのような制度がなかった	取得しなくても対応できた	周囲の事情等により取得できなかった	育児や介護、看護を行う必要がなかった	無回答
全体	281	20.3	14.6	14.2	5.7	28.1	-	17.1
男性	93	6.5	17.2	25.8	6.5	37.6	-	6.5
共に職業に就いている	28	3.6	17.9	28.6	10.7	28.6	-	10.7
女性	144	34.0	11.8	5.6	4.9	22.9	-	20.8
共に職業に就いている	15	6.7	20.0	-	-	20.0	-	53.3

■子どもの年代による分析

未就学児の子どもがいる場合、「取得したことがある」は男性では16.0%、女性では75.0%であり、女性の方が男性よりも多い。

	合計	取得したことがある	取得したことがない	そのような制度がなかった	取得しなくても対応できた	周囲の事情等により取得できなかった	育児や介護、看護を行う必要がなかった	無回答
全体	185	30.8	17.8	18.4	5.9	13.0	-	14.1
男性								
未就学児	25	16.0	8.0	44.0	16.0	12.0	-	4.0
小学生	19	-	10.5	52.6	10.5	15.8	-	10.5
中学生	11	-	36.4	45.5	-	18.2	-	-
高校生相当または、それ以上	27	7.4	29.6	33.3	-	18.5	-	11.1
女性								
未就学児	28	75.0	7.1	-	3.6	3.6	-	10.7
小学生	28	64.3	10.7	3.6	7.1	7.1	-	7.1
中学生	24	45.8	8.3	4.2	4.2	16.7	-	20.8
高校生相当または、それ以上	69	24.6	23.2	8.7	7.2	14.5	-	21.7

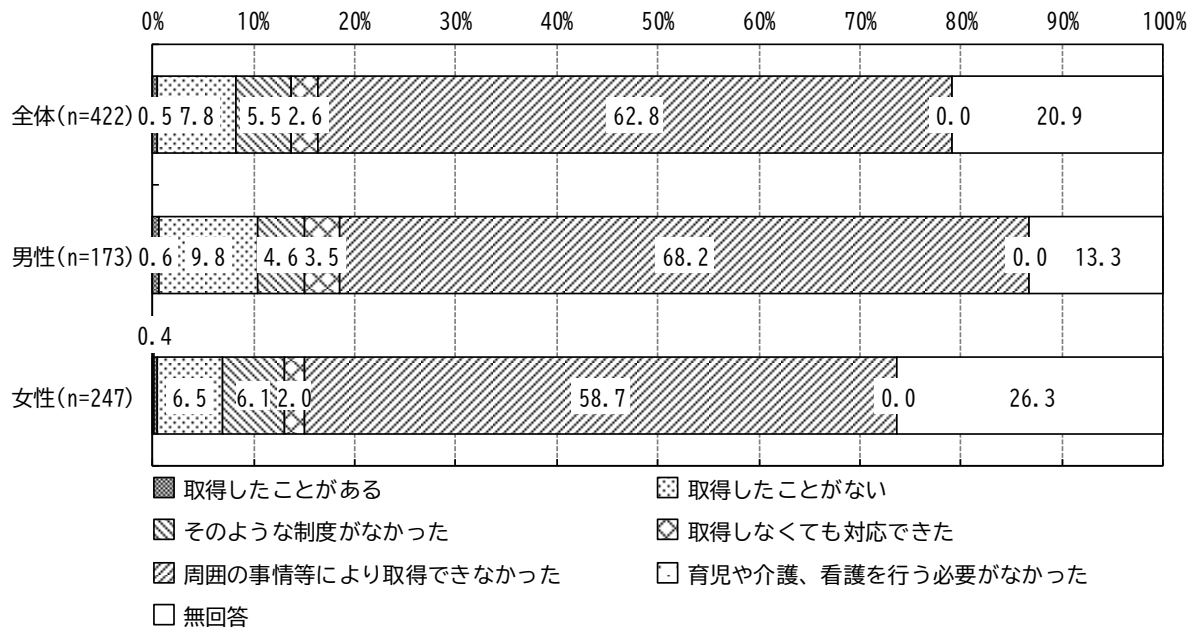
■問5（ア）に対する考察

現在、未就学児の子どもがいる男性においては1割半ばが育児休業を取得しており、「周囲の事情等により取得できなかった」という人を取得意向があると捉えると、3割弱が取得経験ないしは取得意向があることとなる。男女差はあるが、一定程度の男性が育児休業に前向きになっていることが伺える。

(イ)介護休業

「周囲の事情等により取得できなかった」が62.8%と最も多く、次いで「取得したことがない」が7.8%、「そのような制度がなかった」が5.5%である。

男性・女性ともに「周囲の事情等により取得できなかった」が最も多い。男性で68.2%、女性で58.7%であり、男性の方が女性よりも9.5ポイント多い。



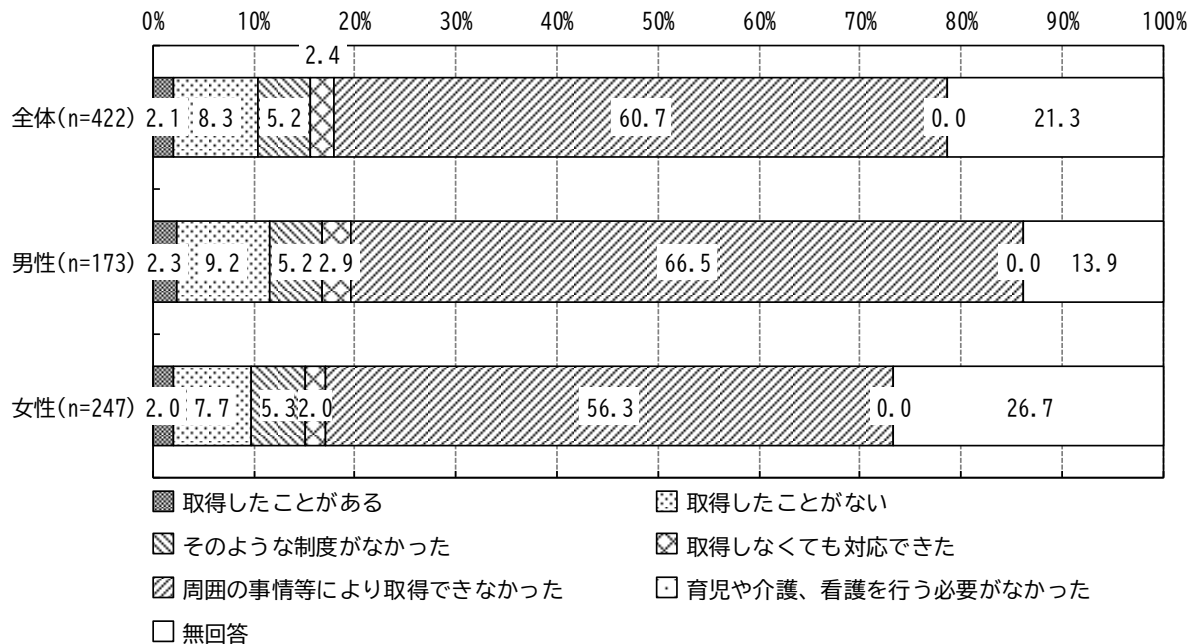
■問5 (イ) に対する考察

介護休業は、男性・女性ともに取得しにくい状況にあることが伺える。

(ウ)介護休暇

「周囲の事情等により取得できなかった」が60.7%と最も多く、次いで「取得したことがない」が8.3%、「そのような制度がなかった」が5.2%である。

男性・女性ともに「周囲の事情等により取得できなかった」が最も多い。男性で66.5%、女性で56.3%であり、男性の方が女性よりも10.2ポイント多い。



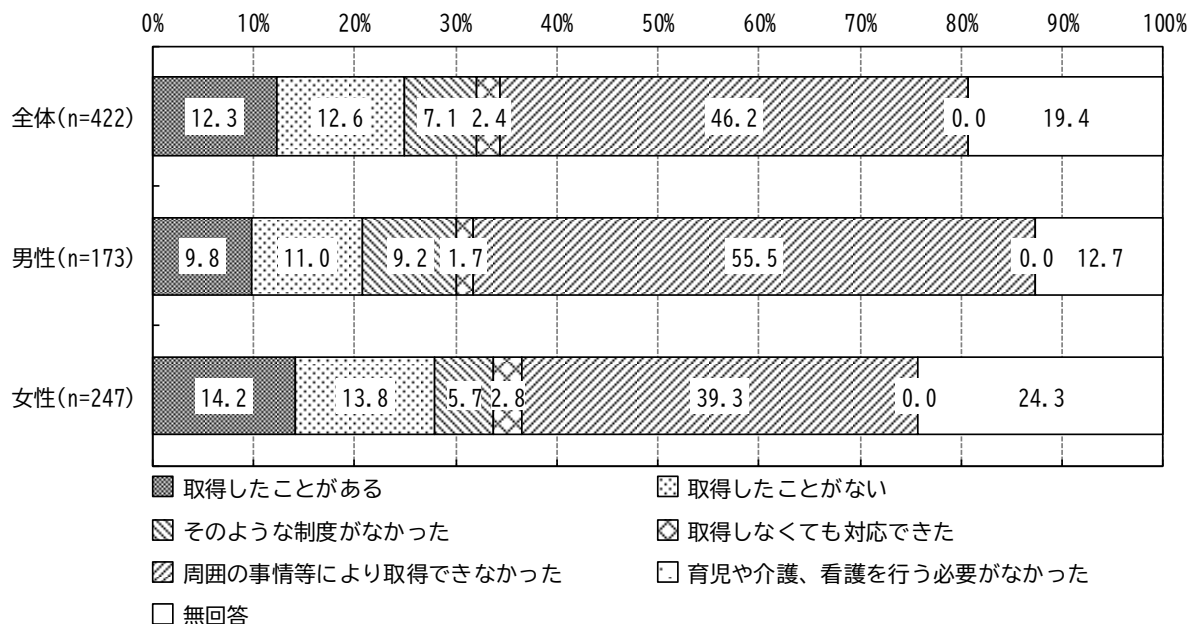
■問5 (ウ) に対する考察

介護休暇は、男性・女性ともに取得しにくい状況にあることが伺える。

(工)子の看護休暇

「周囲の事情等により取得できなかった」が46.2%と最も多く、次いで「取得したことがない」が12.6%、「取得したことがある」が12.3%である。

男性・女性ともに「周囲の事情等により取得できなかった」が最も多い。男性で55.5%、女性で39.3%であり、男性の方が女性よりも16.2ポイント多い。



■世帯の就労状況による分析

共働き世帯では、「取得したことがある」は男性では15.1%、女性では21.5%であり、女性の方が男性よりもやや多い。

	合計	取得したことがある	取得したことがない	そのような制度がなかった	取得しなくても対応できた	周囲の事情等により取得できなかった	育児や介護、看護を行う必要がなかった	無回答
全体	281	16.0	15.3	10.3	3.2	37.7	-	17.4
男性								
共に職業に就いている	93	15.1	15.1	11.8	2.2	49.5	-	6.5
どちらか一方が職業に就いている	28	-	7.1	17.9	3.6	60.7	-	10.7
女性								
共に職業に就いている	144	21.5	18.1	9.0	3.5	26.4	-	21.5
どちらか一方が職業に就いている	15	-	6.7	-	6.7	33.3	-	53.3

■子どもの年代による分析

「取得したことがある」について子どもが未就学児である男性と女性で比較すると、男性で16.0%、女性で46.4%であり、女性の方が男性よりも多い。子どもが小学生、中学生である場合も同様の傾向がみられる。

	合計	取得したことがある	取得したことがない	そのような制度がなかった	取得しなくても対応できた	周囲の事情等により取得できなかった	育児や介護、看護を行う必要がなかった	無回答
全体	185	23.2	19.5	13.5	2.7	25.4	-	15.7
男性								
未就学児	25	16.0	8.0	24.0	-	48.0	-	4.0
小学生	19	26.3	10.5	15.8	5.3	31.6	-	10.5
中学生	11	9.1	27.3	36.4	-	27.3	-	-
高校生相当または、それ以上	27	14.8	18.5	18.5	-	37.0	-	11.1
女性								
未就学児	28	46.4	10.7	14.3	3.6	14.3	-	10.7
小学生	28	50.0	17.9	-	7.1	14.3	-	10.7
中学生	24	33.3	12.5	4.2	4.2	20.8	-	25.0
高校生相当または、それ以上	69	17.4	30.4	10.1	2.9	13.0	-	26.1

■問5（工）に対する考察

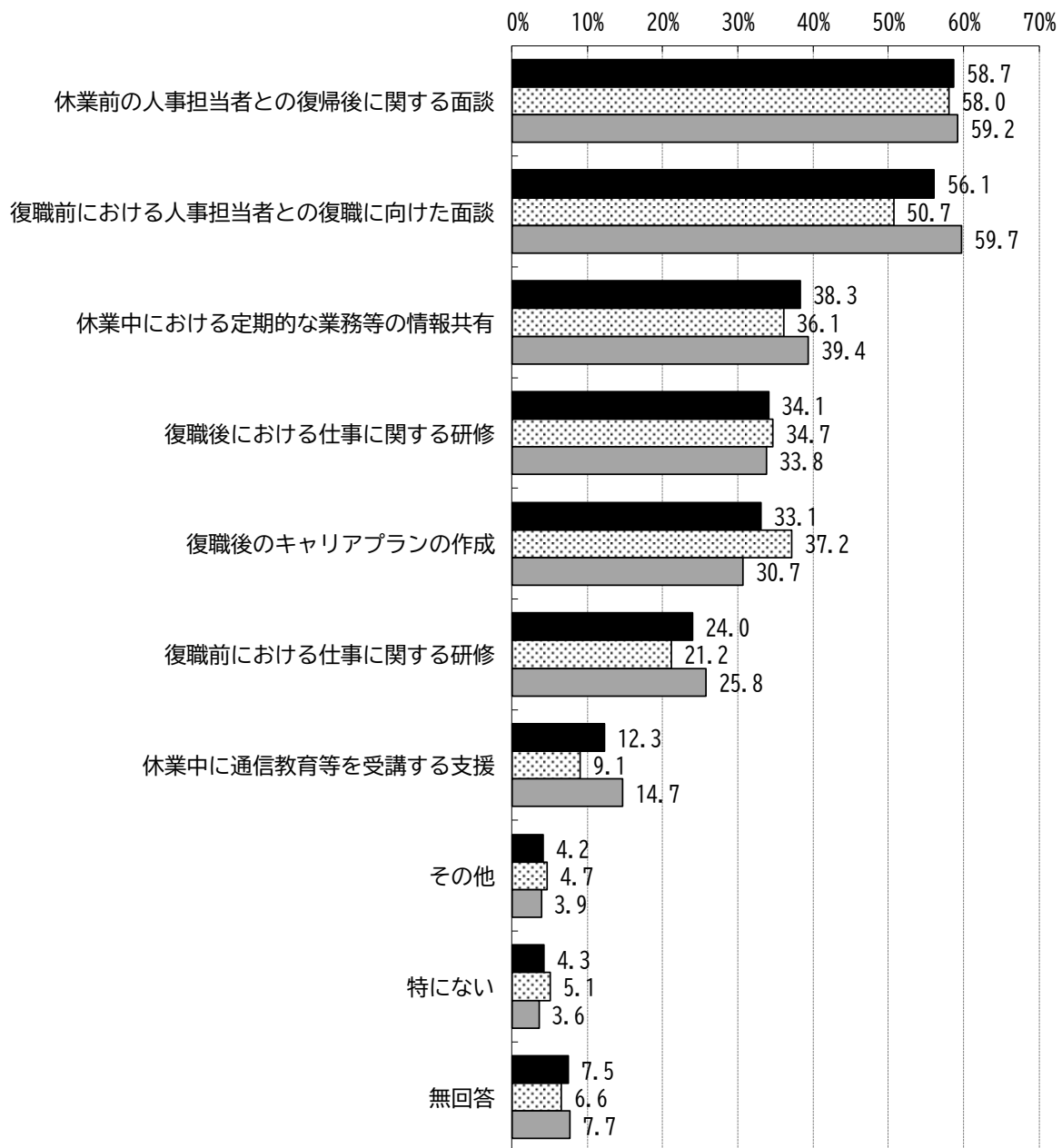
共働きであっても、子の看護休暇は女性の方が取得している。男性では「周囲の事情等により取得できなかった」が多いことから、男性が休みにくい状況にあることが伺える。

問6 あなたは、育児休業・介護休業を取得する際の職場における支援として、どのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

「休業前の人事担当者との復帰後に関する面談」が58.7%と最も多く、次いで「復職前における人事担当者との復職に向けた面談」が56.1%、「休業中における定期的な業務等の情報共有」が38.3%である。

上位2位は男性・女性で共通しているが（順位は異なる）、3位は、男性では「復職後のキャリアプランの作成」が37.2%、女性では「休業中における定期的な業務等の情報共有」が39.4%である。

「復職前における人事担当者との復職に向けた面談」、「休業中に通信教育等を受講する支援」は女性の方が男性よりもやや多く、「復職後のキャリアプランの作成」は男性の方がやや多い。



■全体(n=697) □男性(n=274) ▨女性(n=414)

■就労状況による分析

職業に就いている場合も、男性では男性での上位3位と共通しており、女性では順位は異なるが女性の上位3位と共通している。

	合計	休業前の 人事担当 者との復 帰後に関 する面談	復職前 における人 事担当者 との復職 に向けた 面談	休業中 における定 期的な業 務等の情 報共有	復職後 における仕 事に関する 研修	復職後の キャリア プランの 作成	復職前 における仕 事に関する 研修	休業中 に通信教育 等を受講 する支援
全体	671	59.3	57.1	38.6	34.6	33.8	24.4	12.8
男性								
職業に就いている	218	59.2	52.3	39.0	36.7	39.9	21.6	10.6
職業には就いていない	49	55.1	46.9	24.5	28.6	28.6	22.4	4.1
女性								
職業に就いている	291	58.4	62.9	41.6	36.8	34.0	27.8	16.5
職業には就いていない	113	63.7	55.8	36.3	27.4	23.9	22.1	11.5

	合計	その他	特にな い	無回答
全体	671	4.3	4.2	6.4
男性				
職業に就いている	218	5.0	4.6	4.1
職業には就いていない	49	4.1	8.2	12.2
女性				
職業に就いている	291	5.5	2.4	4.5
職業には就いていない	113	-	6.2	13.3

■問6に対する考察

男性・女性ともにコミュニケーションが重要視されている。加えて、男性においては休暇がキャリアに影響しないことが求められていることが伺える。また、離職期間中の職業訓練を求める女性が一定数おり、学び直しにかかわると考えられる。

3 家庭生活・子育てについて

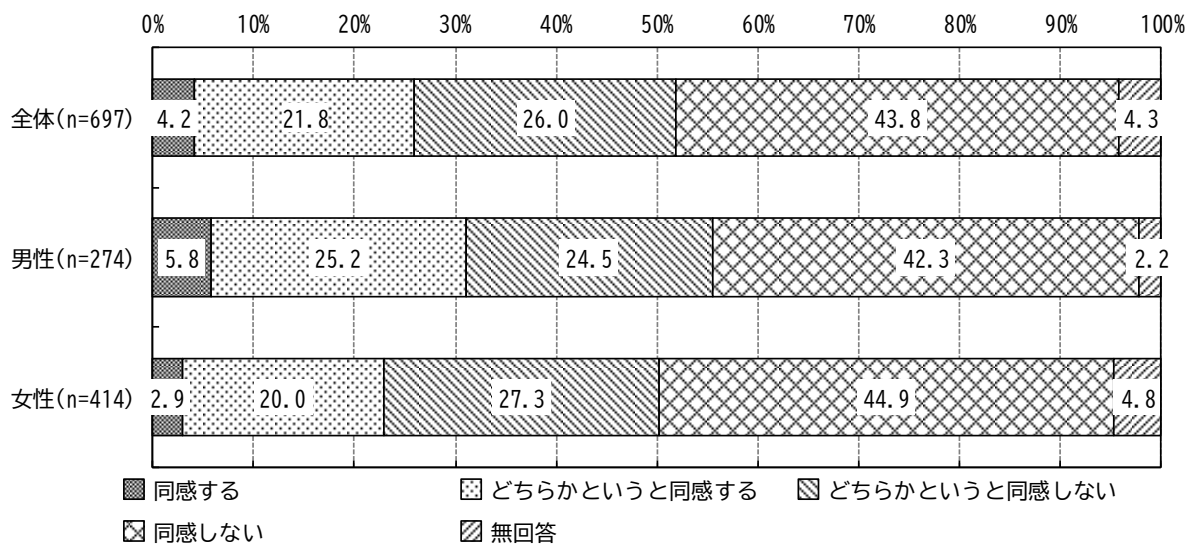
問7 あなたは、次の(ア)～(エ)の考え方について、どう思いますか。【項目ごとに○は1つずつ】

(ア)男は外で働き、女は家庭を守るべきだ

「同感しない」が43.8%と最も多く、次いで「どちらかというと同感しない」が26.0%、「どちらかというと同感する」が21.8%である。

同感する人（「同感する」と「どちらかというと同感する」の合計）は26.0%であり、同感しない人（「同感しない」と「どちらかというと同感しない」の合計）は69.8%である。

同感する人は、男性で31.0%、女性で22.9%となっており、男性の方が女性よりもやや多い。



■前回調査との比較

男性では、同感する人が11.8ポイント減り、同感しない人が25.1ポイント増えている。女性では、同感する人が7.1ポイント増えており、同感しない人が13.7ポイント減っている。

■国・都の調査との比較

国では賛成する人（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）は35.0%である。区では26.0%であり、国に比べて少ない。

■年代による分析

男性・女性ともに、いずれの年代も同感しない人が多い。

男性について年代別にみると、同感しない人が20歳代から年代が上がるにつれて多くなり、40歳代で79.1%と最も多くなって以降は少なくなる。

女性では、70歳以上で同感しない人が55.4%であり、他の年代に比べて少ない。

		合計	同感する	同感しない	無回答
全体		687	26.2	70.1	3.8
男性	20～29歳	24	37.5	62.5	-
	30～39歳	40	25.0	75.0	-
	40～49歳	43	21.0	79.1	-
	50～59歳	47	27.6	70.2	2.1
	60～69歳	51	33.3	62.8	3.9
	70歳以上	69	39.1	56.5	4.3
女性	20～29歳	40	17.5	80.0	2.5
	30～39歳	57	28.1	70.2	1.8
	40～49歳	90	17.8	78.9	3.3
	50～59歳	79	20.2	78.4	1.3
	60～69歳	64	23.4	73.5	3.1
	70歳以上	83	30.1	55.4	14.5

■就労状況による分析

男性・女性ともに、職業に就いていない場合の方が同感する人が多く、男性で34.7%、女性で28.3%である。

		合計	同感する	どちらかというと同感する	どちらかというと同感しない	同感しない	無回答
全体		671	3.6	22.1	26.4	44.9	3.1
男性	職業に就いている	218	5.5	23.4	25.2	43.1	2.8
	職業には就いていない	49	4.1	30.6	22.4	42.9	-
女性	職業に就いている	291	2.1	18.6	27.5	48.8	3.1
	職業には就いていない	113	3.5	24.8	27.4	38.9	5.3

■子どもの年代による分析

男性・女性ともに、未就学児がいる場合、他に比べて同感する人が多く、男性で38.4%、女性で29.2%である。

		合計	同感する	どちらかというと同感する	どちらかというと同感しない	同感しない	無回答
全体		287	2.8	24.7	26.1	42.9	3.5
男性	未就学児	26	3.8	34.6	23.1	38.5	-
	小学生	20	10.0	10.0	20.0	60.0	-
	中学生	11	9.1	27.3	36.4	27.3	-
	高校生相当または、それ以上	52	3.8	28.8	26.9	36.5	3.8
女性	未就学児	41	2.4	26.8	12.2	56.1	2.4
	小学生	38	-	15.8	23.7	52.6	7.9
	中学生	30	-	16.7	43.3	33.3	6.7
	高校生相当または、それ以上	125	2.4	26.4	28.0	40.0	3.2

■結婚状況からみた分析

男性・女性ともに、既婚である場合、未婚である場合に比べて同感する人が多く、男性で33.0%、女性で24.6%である。

	合計	同感する	どちらか という と 同感する	どちらか という と 同感しない	同感しない	無回答
全体	687	3.9	22.1	26.2	44.0	3.8
男性						
未婚	56	3.6	19.6	33.9	42.9	-
既婚（事実婚を含む）	194	6.7	26.3	22.7	41.8	2.6
離別（結婚していたが、 離婚した）	13	7.7	30.8	7.7	53.8	-
死別（結婚していたが、 相手が亡くなった）	11	-	27.3	27.3	36.4	9.1
女性						
未婚	85	2.4	14.1	37.6	43.5	2.4
既婚（事実婚を含む）	260	2.7	21.9	25.4	46.9	3.1
離別（結婚していたが、 離婚した）	30	3.3	13.3	30.0	43.3	10.0
死別（結婚していたが、 相手が亡くなった）	38	2.6	26.3	15.8	36.8	18.4

■世帯の就労状況による分析

男性・女性ともに、どちらか一方が職業に就いている場合、共働き世帯に比べて同感する人が多く、男性で47.6%、女性で33.8%である。

	合計	同感する	どちらか という と 同感する	どちらか という と 同感しない	同感しない	無回答
全体	450	4.4	23.6	24.2	44.9	2.9
男性						
共に職業に就いている	106	4.7	19.8	19.8	51.9	3.8
どちらか一方が 職業に就いている	42	9.5	38.1	33.3	19.0	-
どちらも職業に 就いていない	43	9.3	27.9	20.9	39.5	2.3
女性						
共に職業に就いている	157	0.6	19.7	26.8	51.6	1.3
どちらか一方が 職業に就いている	68	8.8	25.0	22.1	39.7	4.4
どちらも職業に 就いていない	34	-	26.5	23.5	41.2	8.8

■問7（ア）に対する考察

固定的性別役割分担について同感する人の方が少ないものの、全体でみて2割半ばは同感している。比較的高齢である場合に同感する人が多いが、男性では20歳代でも同感する人が多いことが特徴である。女性において固定的性別役割分担を受け入れる人が増えていることも特徴である。

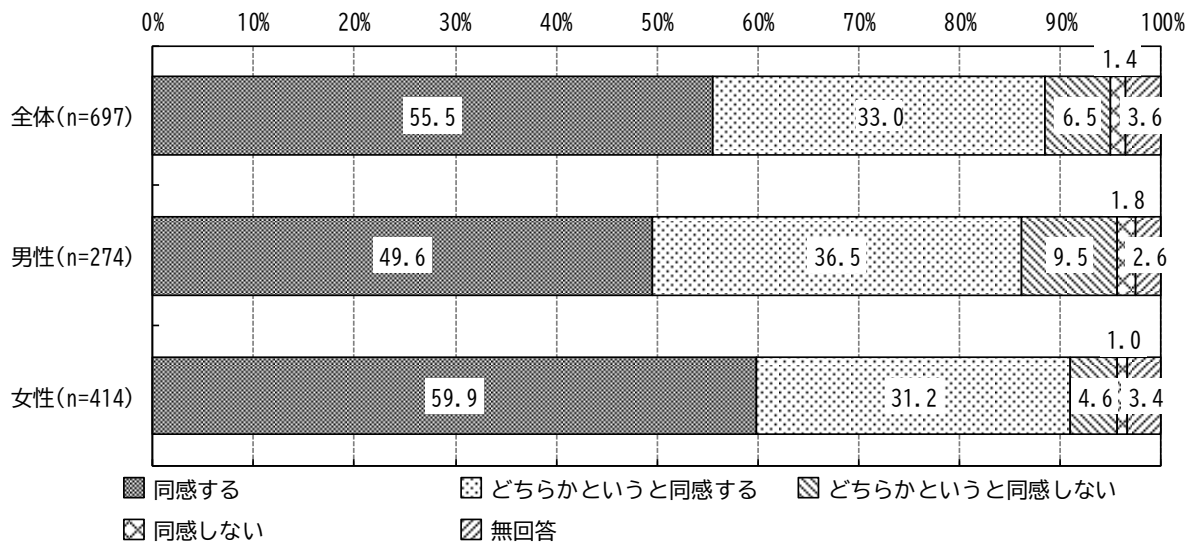
また、職業に就いていない場合や、既婚、未就学児の子どもがいる場合、女性が職業に就いていない世帯において、男性・女性ともに同感する人が多い傾向がみられる。

(イ)家事は夫婦で分担するべきだ

「同感する」が55.5%と最も多く、次いで「どちらかというと同感する」が33.0%、「どちらかというと同感しない」が6.5%である。

同感する人（「同感する」と「どちらかというと同感する」の合計）は88.5%であり、同感しない人（「同感しない」と「どちらかというと同感しない」の合計）は7.9%である。

同感する人は、男性で86.1%、女性で91.1%となっており、女性の方が男性よりもやや多い。



■年代による分析

男性・女性ともに、いずれの年代も同感する人が多く、70歳代で同感する人が7割程度と他の年代に比べて少ない。

		合計	同感する	同感しない	無回答
全体		687	89.1	7.9	3.8
男性	20～29歳	24	87.5	8.4	-
	30～39歳	40	92.5	7.5	-
	40～49歳	43	95.4	4.6	-
	50～59歳	47	93.6	6.4	2.1
	60～69歳	51	86.3	11.8	3.9
	70歳以上	69	71.0	21.7	4.3
女性	20～29歳	40	95.0	-	2.5
	30～39歳	57	91.2	7.0	1.8
	40～49歳	90	93.3	4.4	3.3
	50～59歳	79	94.9	5.1	1.3
	60～69歳	64	95.3	3.1	3.1
	70歳以上	83	79.6	10.8	14.5

■就労状況による分析

男性・女性ともに、職業に就いている場合の方が「同感する」が多く、男性で51.8%、女性で63.6%である。

		合計	同感する	どちらかというと同感する	どちらかというと同感しない	同感しない	無回答
全体		671	56.6	33.2	6.6	1.3	2.2
男性	職業に就いている	218	51.8	35.8	7.8	1.8	2.8
	職業には就いていない	49	40.8	36.7	18.4	2.0	2.0
女性	職業に就いている	291	63.6	30.2	3.4	1.0	1.7
	職業には就いていない	113	54.9	34.5	7.1	0.9	2.7

■世帯の就労状況による分析

男性・女性ともに、共働き世帯の方が、他に比べて「同感する」が多く、男性で62.3%、女性で68.8%である。

		合計	同感する	どちらかというと同感する	どちらかというと同感しない	同感しない	無回答
全体		450	57.8	32.7	6.0	0.9	2.7
男性	共に職業に就いている	106	62.3	28.3	6.6	-	2.8
	どちらか一方が職業に就いている	42	33.3	52.4	7.1	7.1	-
	どちらも職業に就いていない	43	44.2	30.2	18.6	-	7.0
女性	共に職業に就いている	157	68.8	28.0	1.9	-	1.3
	どちらか一方が職業に就いている	68	54.4	35.3	7.4	-	2.9
	どちらも職業に就いていない	34	47.1	41.2	2.9	2.9	5.9

■問7（イ）に対する考察

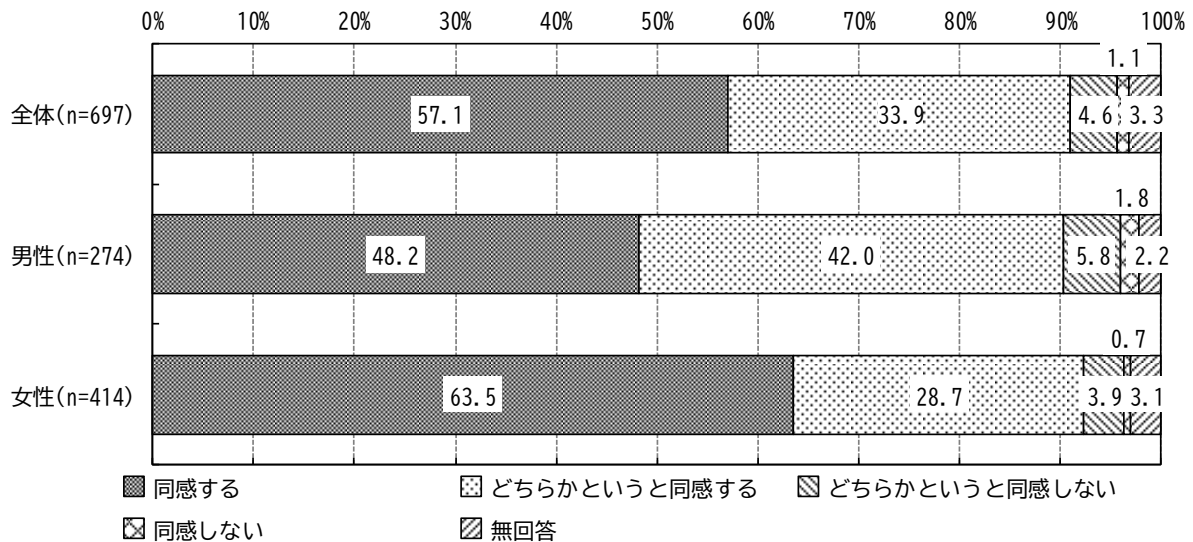
夫婦で家事を分担するべきだと思われており、共働き世帯では顕著である。家事を分担しようとする意識は一定程度浸透していることが伺える。

(ウ)育児は夫婦で分担するべきだ

「同感する」が57.1%と最も多く、次いで「どちらかというと同感する」が33.9%、「どちらかというと同感しない」が4.6%である。

同感する人（「同感する」と「どちらかというと同感する」の合計）は91.0%であり、同感しない人（「同感しない」と「どちらかというと同感しない」の合計）は5.7%である。

同感する人は、男性で90.2%、女性で92.2%である。



■年代による分析

男性・女性ともに、いずれの年代も同感する人が多く、70歳以上では、同感する人が8割程度と他に比べて少ない。

		合計	同感する	同感しない	無回答
全体		687	91.4	5.9	3.8
男性	20～29歳	24	91.6	8.4	-
	30～39歳	40	92.5	7.5	-
	40～49歳	43	97.7	2.3	-
	50～59歳	47	93.6	6.4	2.1
	60～69歳	51	92.2	5.9	3.9
	70歳以上	69	79.7	13.0	4.3
女性	20～29歳	40	97.5	-	2.5
	30～39歳	57	93.0	5.3	1.8
	40～49歳	90	94.4	3.3	3.3
	50～59歳	79	97.5	2.5	1.3
	60～69歳	64	95.3	3.1	3.1
	70歳以上	83	79.5	10.8	14.5

■就労状況による分析

男性・女性ともに、職業に就いている場合の方が「同感する」が多く、男性で50.5%、女性で67.4%である。

		合計	同感する	どちらかというと同感する	どちらかというと同感しない	同感しない	無回答
全体		671	58.0	34.3	4.6	1.0	2.1
男性	職業に就いている	218	50.5	39.9	6.0	1.4	2.3
	職業には就いていない	49	36.7	51.0	6.1	4.1	2.0
女性	職業に就いている	291	67.4	26.5	4.1	0.3	1.7
	職業には就いていない	113	57.5	36.3	2.7	0.9	2.7

■子どもの年代による分析

男性では、子どもが未就学児である場合に、全体に比べて「同感する」が多く、69.2%である。女性では、子どもが未就学児、小学生、中学生である場合に、全体に比べて「同感する」が多く、いずれも7割台である。

	合計	同感する	どちらか というと 同感する	どちらか というと 同感しない	同感しない	無回答
全体	287	57.8	35.9	4.5	0.7	1.0
男性						
未就学児	26	69.2	26.9	3.8	-	-
小学生	20	50.0	40.0	10.0	-	-
中学生	11	36.4	45.5	18.2	-	-
高校生相当または、それ以上	52	42.3	50.0	5.8	1.9	-
女性						
未就学児	41	70.7	26.8	2.4	-	-
小学生	38	71.1	26.3	-	-	2.6
中学生	30	76.7	20.0	-	-	3.3
高校生相当または、それ以上	125	56.8	36.0	4.8	0.8	1.6

■世帯の就労状況による分析

男性・女性ともに、共働き世帯の方が、他に比べて「同感する」が多く、男性で59.4%、女性で71.3%である。

	合計	同感する	どちらか というと 同感する	どちらか というと 同感しない	同感しない	無回答
全体	450	58.7	33.3	5.6	0.7	1.8
男性						
共に職業に就いている	106	59.4	34.9	3.8	-	1.9
どちらか一方が 職業に就いている	42	31.0	50.0	16.7	2.4	-
どちらも職業に 就いていない	43	44.2	41.9	7.0	2.3	4.7
女性						
共に職業に就いている	157	71.3	24.8	3.2	-	0.6
どちらか一方が 職業に就いている	68	58.8	32.4	5.9	-	2.9
どちらも職業に 就いていない	34	50.0	38.2	5.9	2.9	2.9

■問7（ウ）に対する考察

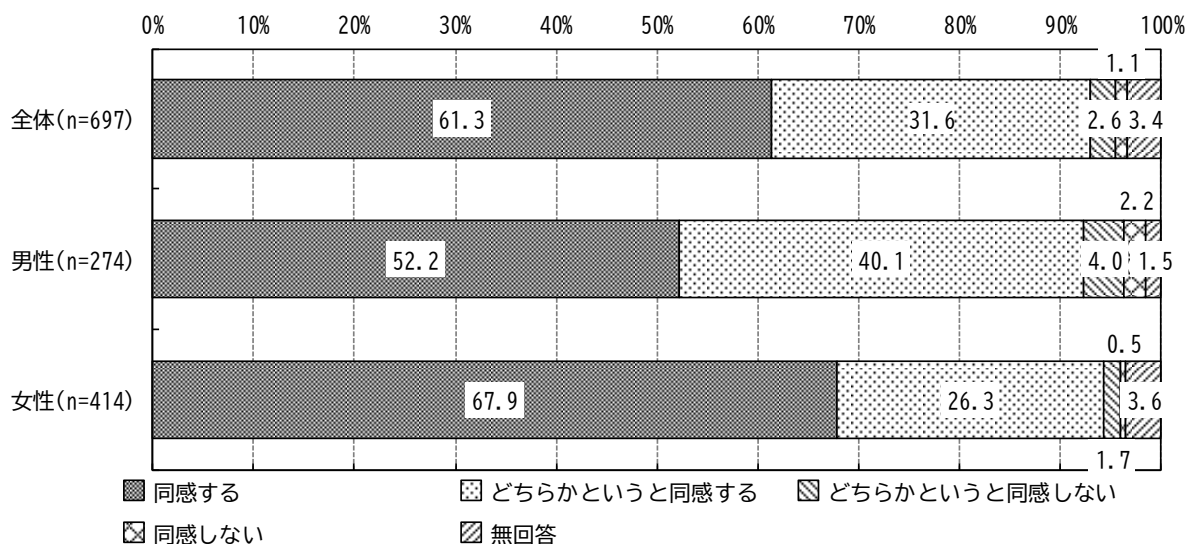
夫婦で育児を分担するべきだと思っており、共働き世帯では特に分担するべきだと思っている。子どもの年代でみると男性では就学後における分担意識は、就学前に比べて「同感する」の割合が低くなりやすくなるものの、育児を分担しようとする意識は一定程度浸透していることが伺える。

(工)介護・看護は夫婦で分担するべきだ

「同感する」が61.3%と最も多く、次いで「どちらかというと同感する」が31.6%、「どちらかというと同感しない」が2.6%である。

同感する人（「同感する」と「どちらかというと同感する」の合計）は92.9%であり、同感しない人（「同感しない」と「どちらかというと同感しない」の合計）は3.7%である。

同感する人は、男性で92.3%、女性で94.2%である。



■年代による分析

男性・女性ともに、いずれの年代も同感する人が多く、70歳代で同感する人が8割程度と他の年代に比べて少ない。

		合計	同感する	同感しない	無回答
全体		687	93.4	3.8	3.8
男性	20～29歳	24	91.7	8.4	-
	30～39歳	40	95.0	5.0	-
	40～49歳	43	97.7	2.3	-
	50～59歳	47	93.7	6.4	2.1
	60～69歳	51	96.1	4.0	3.9
	70歳以上	69	84.1	10.1	4.3
女性	20～29歳	40	95.0	-	2.5
	30～39歳	57	91.2	7.0	1.8
	40～49歳	90	96.6	-	3.3
	50～59歳	79	100.0	-	1.3
	60～69歳	64	98.4	-	3.1
	70歳以上	83	84.3	6.0	14.5

■問7 (工) に対する考察

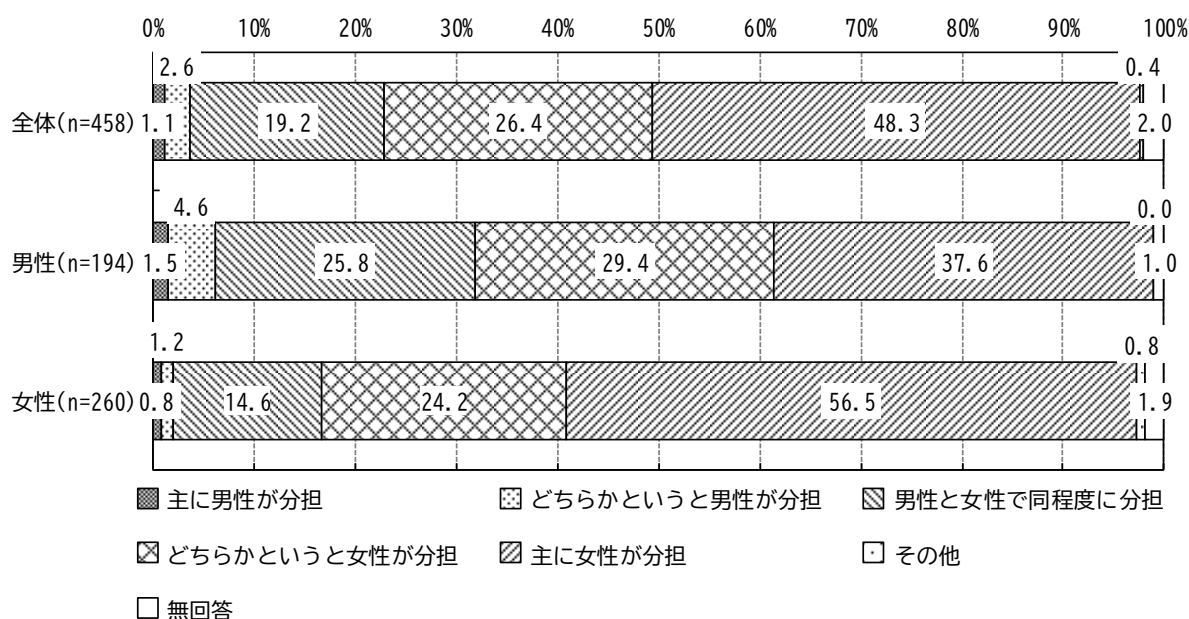
夫婦で介護・看護を分担するべきだと思っており、介護・看護を分担しようとする意識は一定程度浸透していることが伺える。

問8 F3で「既婚（事実婚を含む）と回答した458人が回答。
 配偶者・パートナーがいらっしゃる方におたずねします。あなたのご家庭では、家事、
 育児、介護・看護に関する配偶者・パートナーとの分担はどのようになっていますか。
 【項目ごとに○は1つ】

(ア)家事

「主に女性が分担」が48.3%と最も多く、次いで「どちらかというとな女性が分担」が26.4%、「男性と女性で同程度に分担」が19.2%である。男性が分担している人（「主に男性が分担」と「どちらかというとな男性が分担」の合計）は3.7%、女性が分担している人（「主に女性が分担」と「どちらかというとな女性が分担」の合計）は74.7%である。

男性・女性ともに「主に女性が分担」が最も多く、男性で37.6%、女性で56.5%となっている。



■年代による分析

男性では、60歳代で「男性と女性で同程度に分担」が34.3%であり、他の年代に比べて多い。一方、女性では50～60歳代で「主に女性が分担」が7割前後で他の年代に比べて多い。

	合計	主に男性が分担	どちらかというとな男性が分担	男性と女性で同程度に分担	どちらかというとな女性が分担	主に女性が分担	その他	無回答
全体	453	1.1	2.6	19.4	26.3	48.6	0.4	1.5
男性								
20～29歳	7	-	42.9	14.3	14.3	28.6	-	-
30～39歳	29	6.9	3.4	24.1	41.4	24.1	-	-
40～49歳	31	-	6.5	22.6	38.7	32.3	-	-
50～59歳	37	-	5.4	24.3	24.3	45.9	-	-
60～69歳	35	-	-	34.3	25.7	40.0	-	-
70歳以上	55	1.8	1.8	25.5	25.5	41.8	-	3.6
女性								
20～29歳	8	-	-	25.0	25.0	37.5	-	12.5
30～39歳	41	-	-	34.1	29.3	36.6	-	-
40～49歳	66	-	1.5	13.6	34.8	47.0	1.5	1.5
50～59歳	60	1.7	3.3	6.7	15.0	73.3	-	-
60～69歳	45	2.2	-	6.7	22.2	68.9	-	-
70歳以上	39	-	-	15.4	15.4	59.0	2.6	7.7

■就労状況による分析

女性では、職業に就いている場合の方が「男性と女性が同程度に分担」が多く、17.5%である。ただし、「どちらかという女性が分担」(25.7%)、「主に女性が分担」(52.5%)よりも少ない。

	合計	主に男性が分担	どちらかという男性が分担	男性と女性で同程度に分担	どちらかという女性が分担	主に女性が分担	その他	無回答
全体	447	1.1	2.5	19.2	26.6	48.8	0.4	1.3
男性								
職業に就いている	153	1.3	5.2	25.5	30.7	36.6	-	0.7
職業には就いていない	35	2.9	-	25.7	25.7	42.9	-	2.9
女性								
職業に就いている	183	1.1	1.6	17.5	25.7	52.5	0.5	1.1
職業には就いていない	76	-	-	7.9	21.1	67.1	1.3	2.6

■世帯の就労状況による分析

共働き世帯(「共に職業に就いている」)では、「男性と女性で同程度に分担」は男性で29.2%、女性で19.1%であり、男性・女性ともにどちらか一方が職業に就いている場合に比べて多い。ただし、女性が分担している人は男性で61.4%、女性で77.1%である。

	合計	主に男性が分担	どちらかという男性が分担	男性と女性で同程度に分担	どちらかという女性が分担	主に女性が分担	その他	無回答
全体	450	1.1	2.7	19.3	26.4	48.4	0.4	1.6
男性								
共に職業に就いている	106	1.9	6.6	29.2	34.0	27.4	-	0.9
どちらか一方が職業に就いている	42	-	2.4	9.5	26.2	61.9	-	-
どちらも職業に就いていない	43	2.3	2.3	32.6	20.9	39.5	-	2.3
女性								
共に職業に就いている	157	0.6	1.9	19.1	26.8	50.3	0.6	0.6
どちらか一方が職業に就いている	68	1.5	-	2.9	23.5	70.6	-	1.5
どちらも職業に就いていない	34	-	-	17.6	14.7	55.9	2.9	8.8

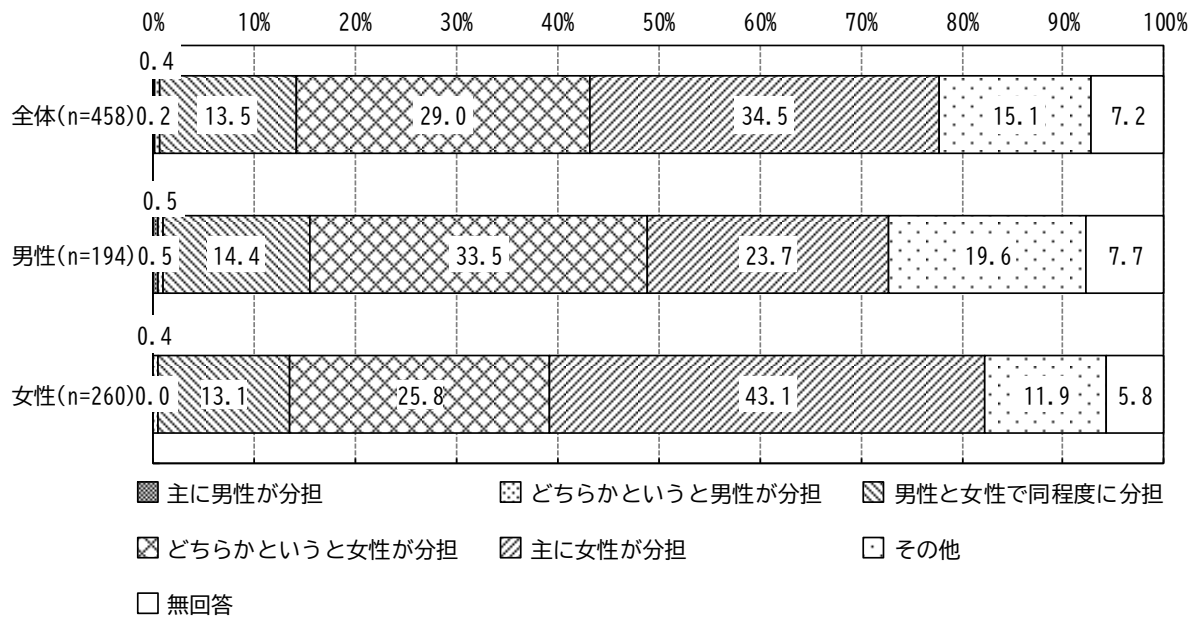
■問8 (ア) に対する考察

家事を分担するべきであるという意識があるものの、女性の就労状況にかかわらず、実態は女性が負担している。また、男性と女性で同程度に分担しているという回答の差から、(世帯を一にする男女に尋ねたわけではないが) 男性の自己認識と女性の男性に対する認識の差があることが見て取れる。

(イ)育児

「主に女性が分担」が34.5%と最も多く、次いで「どちらかというとな女性が分担」が29.0%、「その他」が15.1%である。男性が分担している人（「主に男性が分担」と「どちらかというとな男性が分担」の合計）は0.6%、女性が分担している人（「主に女性が分担」と「どちらかというとな女性が分担」の合計）は63.5%である。

女性では「主に女性が分担」が43.1%で最も多く、男性では「どちらかというとな女性が分担」が33.5%で最も多い。



■就労状況による分析

女性では、職業に就いている場合の方が「男性と女性で同程度に分担」が多く、14.8%である。ただし、「どちらかというとな女性が分担」(28.4%)、「主に女性が分担」(38.3%)よりも少ない。

	合計	主に男性が分担	どちらかというとな男性が分担	男性と女性で同程度に分担	どちらかというとな女性が分担	主に女性が分担	その他	無回答
全体	447	0.2	0.4	13.4	29.3	35.1	15.4	6.0
男性								
職業に就いている	153	-	0.7	12.4	34.0	25.5	21.6	5.9
職業には就いていない	35	2.9	-	20.0	34.3	17.1	14.3	11.4
女性								
職業に就いている	183	-	0.5	14.8	28.4	38.3	13.7	4.4
職業には就いていない	76	-	-	9.2	19.7	55.3	7.9	7.9

■世帯の就労状況による分析

共働き世帯では、「男性と女性で同程度に分担」は男性で13.2%、女性で15.9%である。女性については、共働き世帯の方が、どちらか一方が職業に就いている場合（5.9%）よりも多い。ただし、女性が分担している人は男性で57.6%、女性で64.3%である。

	合計	主に男性 が分担	どちらか という 男性が分 担	男性と女 性で同程 度に分担	どちらか という 女性が分 担	主に女性 が分担	その他	無回答
全体	450	0.2	0.4	13.6	29.1	34.7	15.3	6.7
男性								
共に職業に就いている	106	-	-	13.2	34.0	23.6	24.5	4.7
どちらか一方が 職業に就いている	42	-	2.4	11.9	35.7	31.0	14.3	4.8
どちらも職業に 就いていない	43	2.3	-	18.6	30.2	16.3	14.0	18.6
女性								
共に職業に就いている	157	-	0.6	15.9	28.0	36.3	14.6	4.5
どちらか一方が 職業に就いている	68	-	-	5.9	26.5	57.4	7.4	2.9
どちらも職業に 就いていない	34	-	-	14.7	14.7	44.1	8.8	17.6

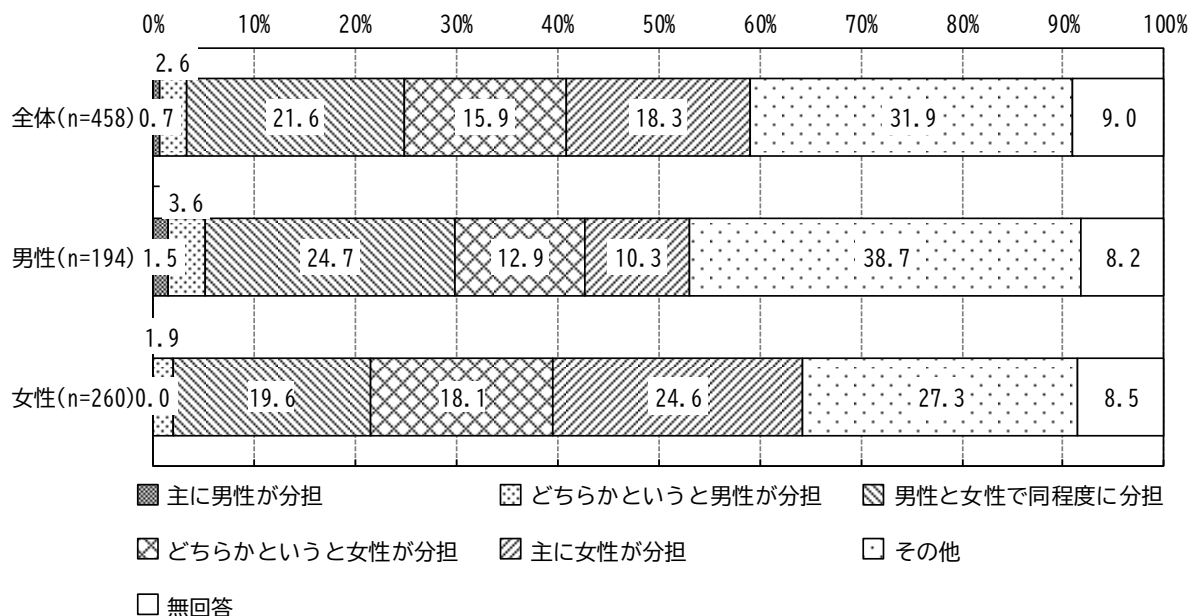
■問8（イ）に対する考察

育児を分担するべきであるという意識があるものの、女性の就労状況にかかわらず、実態は女性が負担している。

(ウ)介護・看護

「その他」が31.9%と最も多く、次いで「男性と女性で同程度に分担」が21.6%、「主に女性が分担」が18.3%である。男性が分担している人（「主に男性が分担」と「どちらかというとなが男性が分担」の合計）は3.3%、女性が分担している人（「主に女性が分担」と「どちらかというとなが女性が分担」の合計）は34.2%である。

男性・女性ともに「その他」が最も多く、男性で38.7%、女性で27.3%である。



■就労状況による分析

職業に就いている場合には、男性・女性ともに「その他」が最も多く、男性で43.8%、女性で29.5%である。職業に就いていない女性では「主に女性が分担」が31.6%で最も多くなる。

	合計	主に男性が分担	どちらかというとなが男性が分担	男性と女性で同程度に分担	どちらかというとなが女性が分担	主に女性が分担	その他	無回答
全体	447	0.7	2.5	21.7	15.9	18.8	32.4	8.1
男性								
職業に就いている	153	1.3	3.3	22.2	13.1	9.8	43.8	6.5
職業には就いていない	35	2.9	2.9	34.3	11.4	14.3	20.0	14.3
女性								
職業に就いている	183	-	1.6	21.3	18.0	21.9	29.5	7.7
職業には就いていない	76	-	2.6	15.8	18.4	31.6	22.4	9.2

■世帯の就労状況による分析

共働き世帯では、男性・女性ともに「その他」が最も多く、男性で47.2%、女性で31.2%である。女性では、どちらか一方が職業に就いている場合、「主に女性が分担」が32.4%で最も多い。

	合計	主に男性が分担	どちらかという と男性が分担	男性と女性 で同程度に分担	どちらか という と女性が分担	主に女性が 分担	その他	無回答
全体	450	0.7	2.7	21.8	15.8	18.7	32.0	8.4
男性								
共に職業に就いている	106	1.9	3.8	17.9	13.2	10.4	47.2	5.7
どちらか一方が 職業に就いている	42	-	4.8	28.6	14.3	7.1	40.5	4.8
どちらも職業に 就いていない	43	2.3	2.3	37.2	9.3	14.0	16.3	18.6
女性								
共に職業に就いている	157	-	1.3	21.7	18.5	19.7	31.2	7.6
どちらか一方が 職業に就いている	68	-	1.5	16.2	19.1	32.4	25.0	5.9
どちらも職業に 就いていない	34	-	5.9	17.6	14.7	32.4	11.8	17.6

■問8（ウ）に対する考察

介護・看護については、家事・育児とは異なり、家庭外のサービスを利用していることが伺える。

問9 育児休業や介護休業は性別にかかわらず取得することができる制度ですが、あなたは、配偶者やパートナーがそれら休暇を取得することについて、どのように思いますか。
【項目ごとに○は1つ】

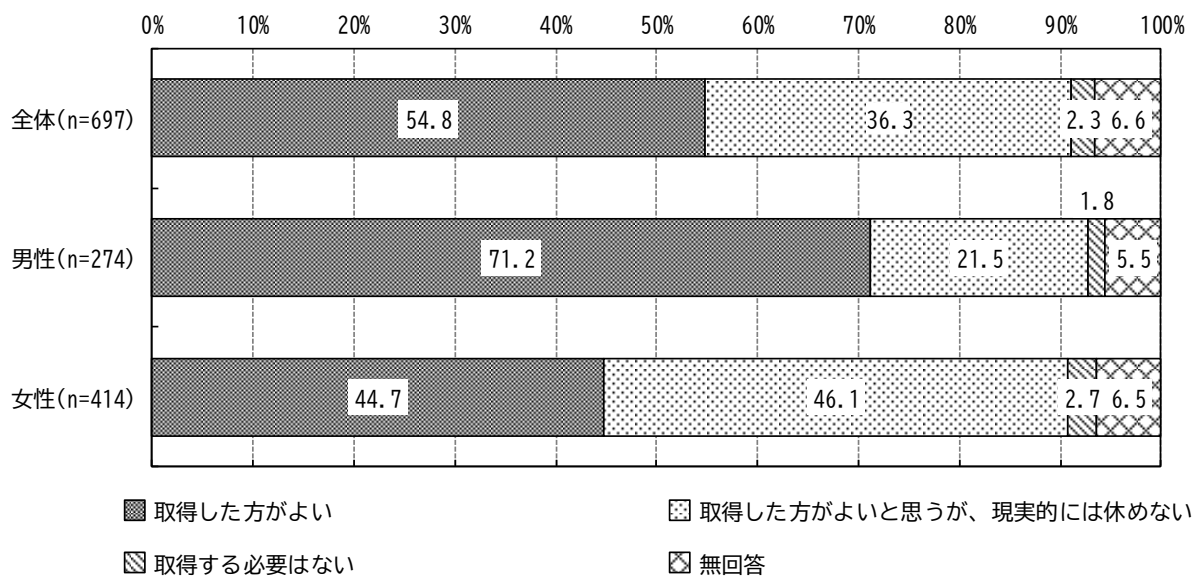
(ア)育児休業

「取得した方がよい」が54.8%と最も多く、次いで「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」が36.3%、「取得する必要はない」が2.3%である。

取得した方がよいと思う人（「取得した方がよい」と「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」の合計）は91.1%である。

取得した方がよいと思う人は、男性（女性に対する考え）で92.7%、女性（男性に対する考え）で90.8%である。

男性（女性に対する考え）では「取得した方がよい」が71.2%で最も多く、女性（44.7%）よりも26.5ポイント多い。女性（男性に対する考え）では「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」が46.1%で最も多く、男性（21.5%）よりも24.6ポイント多い。



■年代による分析

男性・女性ともに、いずれの年代も、「取得する必要はない」は1割未満である。

		合計	取得した方がよい	取得した方がよいと思うが、現実的には休めない	取得する必要はない	無回答
全体		687	55.2	36.4	2.3	6.1
男性	20～29歳	24	66.7	16.7	8.3	8.3
	30～39歳	40	85.0	15.0	-	-
	40～49歳	43	90.7	9.3	-	-
	50～59歳	47	74.5	19.1	4.3	2.1
	60～69歳	51	68.6	25.5	-	5.9
	70歳以上	69	52.2	33.3	1.4	13.0
女性	20～29歳	40	47.5	52.5	-	-
	30～39歳	57	45.6	42.1	7.0	5.3
	40～49歳	90	37.8	55.6	4.4	2.2
	50～59歳	79	49.4	45.6	-	5.1
	60～69歳	64	50.0	42.2	3.1	4.7
	70歳以上	83	41.0	39.8	1.2	18.1

■世帯の就労状況による分析

共働き世帯の場合、男性では「取得した方がよい」が79.2%で最も多く、女性では「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」が52.2%で最も多い。

		合計	取得した方がよい	取得した方がよいと思うが、現実的には休めない	取得する必要はない	無回答
全体		450	56.2	38.0	2.9	2.9
男性	共に職業に就いている	106	79.2	16.0	2.8	1.9
	どちらか一方が職業に就いている	42	66.7	31.0	-	2.4
	どちらも職業に就いていない	43	69.8	18.6	2.3	9.3
女性	共に職業に就いている	157	42.0	52.2	4.5	1.3
	どちらか一方が職業に就いている	68	44.1	50.0	2.9	2.9
	どちらも職業に就いていない	34	44.1	50.0	-	5.9

■問9（ア）に対する考察

男性が育児休業を取得することが望ましいと思う人が多いものの、現実的には取得できないと考えており、労働条件や環境、職場の慣習等が、ニーズに十分に対応できていないことが伺える。

(イ)介護休業

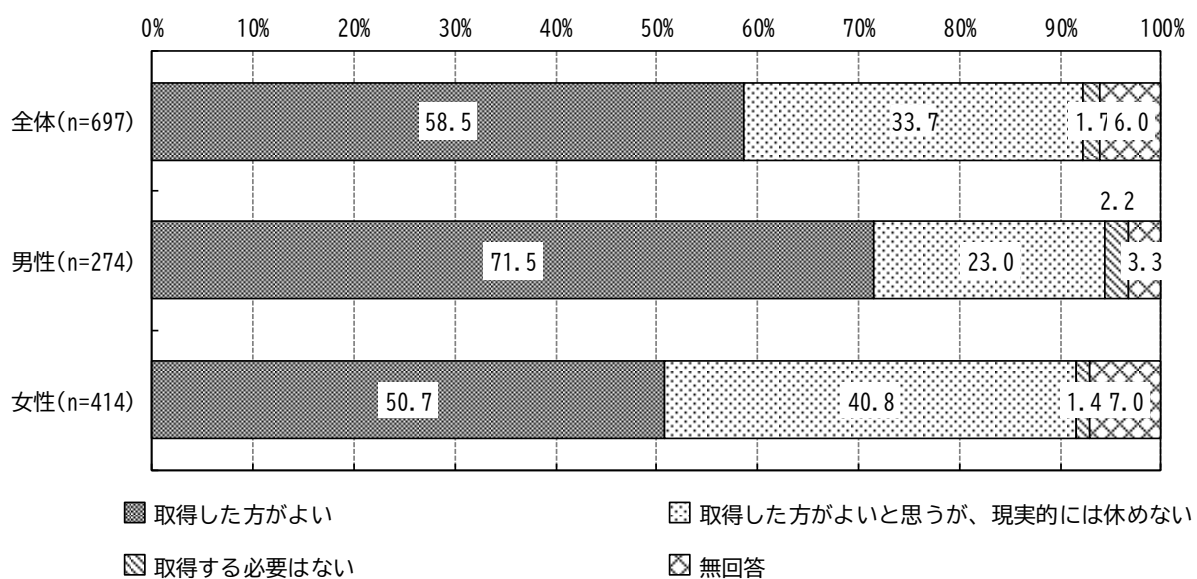
「取得した方がよい」が58.5%と最も多く、次いで「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」が33.7%、「取得する必要はない」が1.7%である。

取得した方がよいと思う人（「取得した方がよい」と「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」の合計）は92.2%である。

取得した方がよいと思う人は、男性（女性に対する考え）で94.5%、女性（男性に対する考え）で91.5%である。

男性・女性ともに「取得した方がよい」が最も多い。男性（女性に対する考え）では71.5%、女性（男性に対する考え方）では50.7%であり、男性の方が女性よりも20.8ポイント多い。

「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」は女性（40.8%）の方が男性（23.0%）よりも17.8ポイント多い。



■年代による分析

男性・女性ともに、いずれの年代も、「取得する必要はない」は1割未満である。

		合計	取得した方がよい	取得した方がよいと思うが、現実的には休めない	取得する必要はない	無回答
全体		687	59.0	33.8	1.7	5.5
男性	20～29歳	24	75.0	8.3	8.3	8.3
	30～39歳	40	82.5	17.5	-	-
	40～49歳	43	79.1	16.3	4.7	-
	50～59歳	47	85.1	12.8	-	2.1
	60～69歳	51	68.6	27.5	2.0	2.0
	70歳以上	69	52.2	39.1	1.4	7.2
女性	20～29歳	40	52.5	47.5	-	-
	30～39歳	57	56.1	35.1	1.8	7.0
	40～49歳	90	44.4	50.0	2.2	3.3
	50～59歳	79	50.6	44.3	-	5.1
	60～69歳	64	56.3	34.4	4.7	4.7
	70歳以上	83	48.2	33.7	-	18.1

■世帯の就労状況による分析

共働き世帯の場合、男性では「取得した方がよい」が80.2%で最も多く、女性では「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」が48.4%で最も多い。

		合計	取得した方がよい	取得した方がよいと思うが、現実的には休めない	取得する必要はない	無回答
全体		450	59.3	35.8	2.4	2.4
男性	共に職業に就いている	106	80.2	17.9	1.9	-
	どちらか一方が職業に就いている	42	64.3	31.0	2.4	2.4
	どちらも職業に就いていない	43	65.1	25.6	4.7	4.7
女性	共に職業に就いている	157	47.1	48.4	1.9	2.5
	どちらか一方が職業に就いている	68	54.4	39.7	2.9	2.9
	どちらも職業に就いていない	34	47.1	44.1	2.9	5.9

■問9（イ）に対する考察

男性が介護休業を取得することが望ましいと思う人が多いものの、現実的には取得できないと考えており、労働条件や環境、職場の慣習等が、ニーズに十分に対応できていないことが伺える。

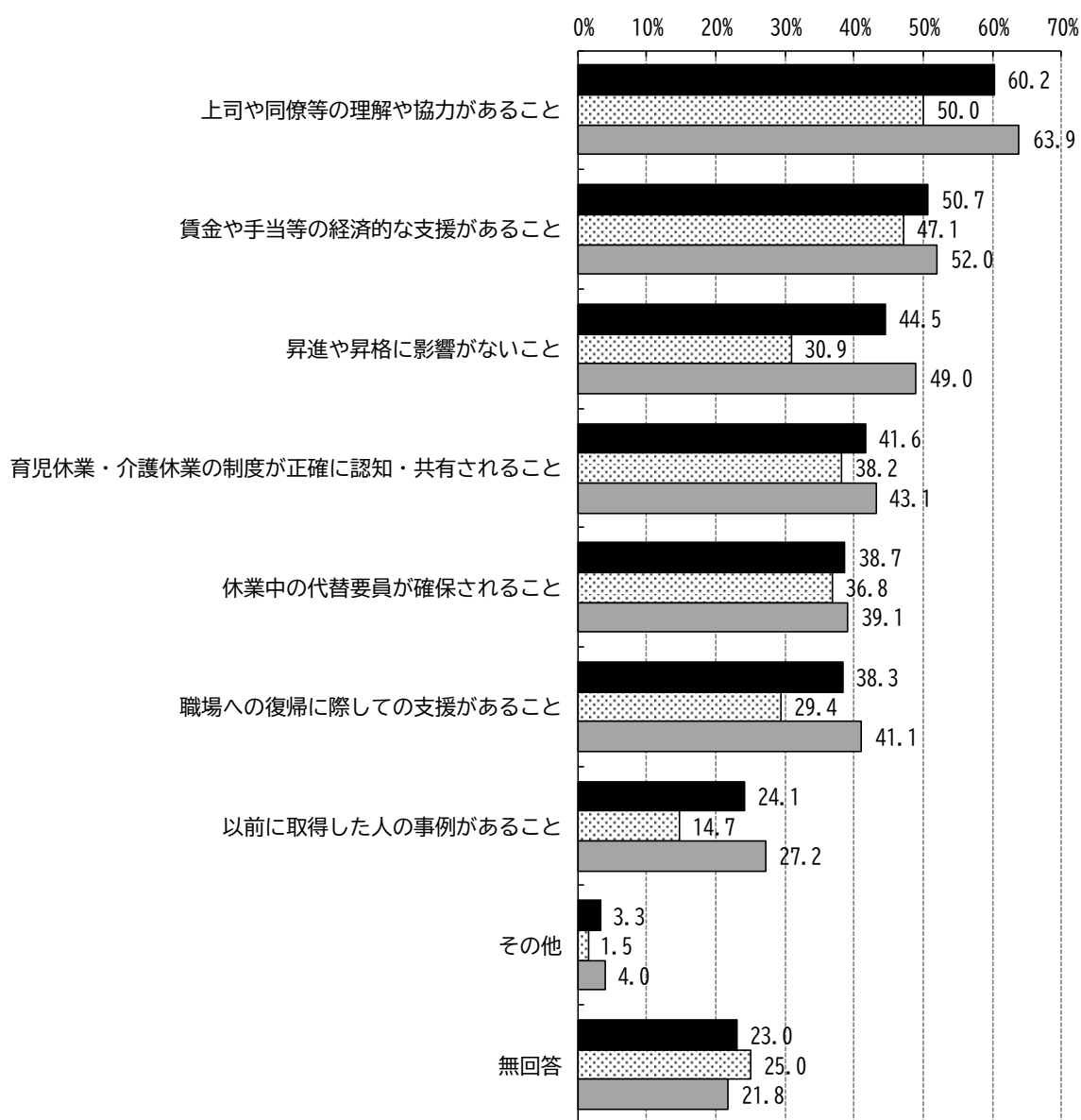
問9-2 問9の項目(ア)・(イ)のどちらかで「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」を選択した274人が回答。

具体的にどのような条件が整えば、取得できると思いますか。【〇はいくつでも】

「上司や同僚等の理解や協力があること」が60.2%と最も多く、次いで「賃金や手当等の経済的な支援があること」が50.7%、「昇進や昇格に影響がないこと」が44.5%である。

上位2位は男性・女性とも全体と共通しているが、3位は、男性(女性に対する考え)では「育児休業・介護休業の制度が正確に認知・共有されること」が38.2%、女性(男性に対する考え)では「昇進や昇格に影響がないこと」が49.0%である。

「上司や同僚等の理解や協力があること」、「昇進や昇格に影響がないこと」、「職場への復帰に際しての支援があること」、「以前に取得した人の事例があること」は女性の方が男性よりも約11~18ポイント多い。



■全体(n=274) □男性(n=68) ▨女性(n=202)

■就労状況による分析

職業に就いている場合、男性（女性に対する考え方）では、上位2位は全体と共通しており、3位は「休業中の代替要員が確保されること」が36.7%である。女性（男性に対する考え方）では、全体での上位3位と共通している。

	合計	上司や同僚等の理解や協力があること	賃金や手当等の経済的な支援があること	昇進や昇格に影響がないこと	育児休業・介護休業の制度が正確に認知・共有されること	休業中の代替要員が確保されること	職場への復帰に際しての支援があること	以前に取得した人の事例があること
全体	265	60.8	51.3	44.9	41.9	39.2	38.1	24.5
男性								
職業に就いている	49	53.1	49.0	32.7	28.6	36.7	22.4	12.2
職業には就いていない	16	43.8	50.0	31.3	68.8	43.8	50.0	25.0
女性								
職業に就いている	136	66.2	55.1	50.7	41.9	40.4	40.4	29.4
職業には就いていない	64	59.4	45.3	45.3	45.3	37.5	42.2	23.4

	合計	その他	無回答
全体	265	3.4	22.3
男性			
職業に就いている	49	2.0	26.5
職業には就いていない	16	-	18.8
女性			
職業に就いている	136	4.4	21.3
職業には就いていない	64	3.1	21.9

■問9-2に対する考察

男性が育児・介護休業を取得しやすくするためには、賃金やキャリアに影響がないと認識されるようにする必要が有ると考えられる。

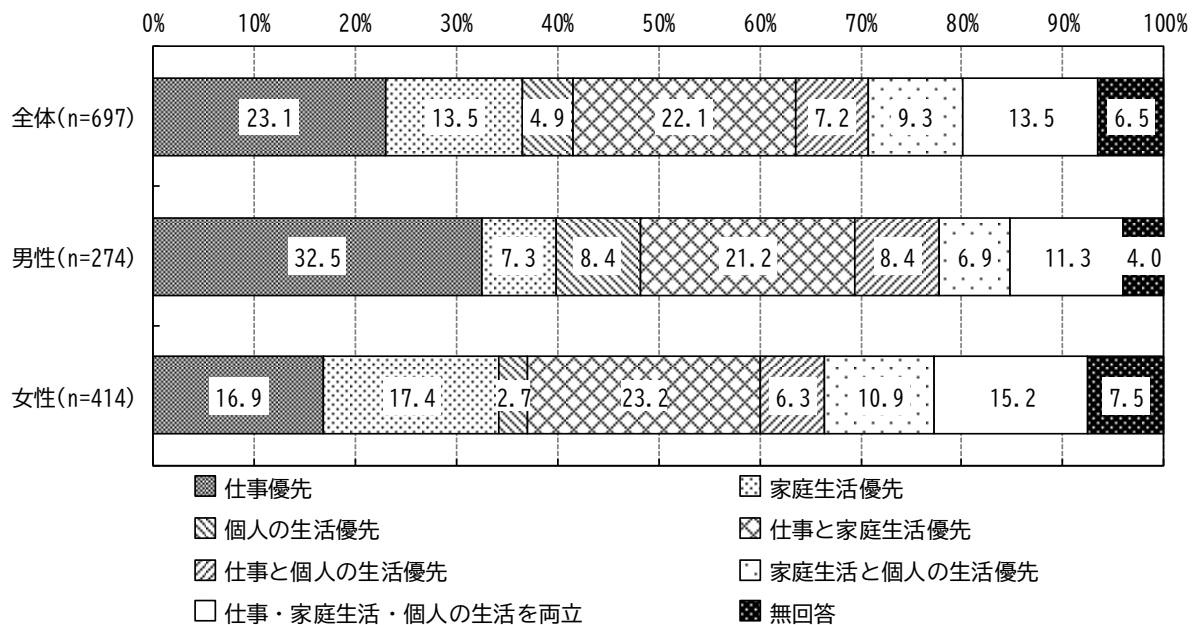
4 ワーク・ライフ・バランスについて

問10 生活の中での、仕事・家庭生活・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお伺いします。あなたの「現実（現状）」に最も近いもの、「希望」に最も近いものを、1つずつお答えください。【項目ごとに○は1つずつ】
 ※職業に就いていない方は、家庭生活と個人の生活の関係についてお答えください。

(ア)現実

「仕事優先」が23.1%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活優先」が22.1%、「家庭生活優先」と「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」が13.5%である。

男性では「仕事優先」が32.5%で最も多く、次いで「仕事と家庭生活優先」が21.2%、「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」が11.3%である。女性では「仕事と家庭生活優先」が23.2%で最も多く、次いで「家庭生活優先」が17.4%、「仕事優先」が16.9%である。



■前回調査との比較

現実については、男性では、「仕事」が5.0ポイント減り、「仕事と家庭生活優先」が5.1ポイント増えている。女性では「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」が6.8ポイント増えている。

■国・都の調査との比較

国の調査では「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」が5.1%であり、都では「仕事、家庭生活、個人の生活すべて」が6.7%である。区は13.5%であり、国・都と比べてやや多い。

「仕事と家庭生活優先」については、国が21.0%、都が17.6%であるのに対して、区は22.1%であり、同程度である。

■就労状況による分析

職業に就いている場合、男性・女性ともに「仕事優先」が多く、男性で35.8%、女性で22.3%である。男性では、女性よりも13.5ポイント多い。

「仕事と家庭生活優先」は男性で24.3%、女性で29.6%である。「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」は男性で12.4%、女性で17.2%である。

	合計	仕事優先	家庭生活優先	個人の生活優先	仕事と家庭生活優先	仕事と個人の生活優先	家庭生活と個人の生活優先	仕事・家庭生活・個人の生活を両立	無回答
全体	671	23.1	13.1	5.1	22.8	7.3	9.5	13.7	5.4
男性	218	35.8	4.6	6.0	24.3	10.6	4.1	12.4	2.3
	49	14.3	16.3	20.4	10.2	-	20.4	8.2	10.2
女性	291	22.3	12.0	1.7	29.6	8.2	5.5	17.2	3.4
	113	4.4	31.0	5.3	8.0	1.8	25.7	9.7	14.2

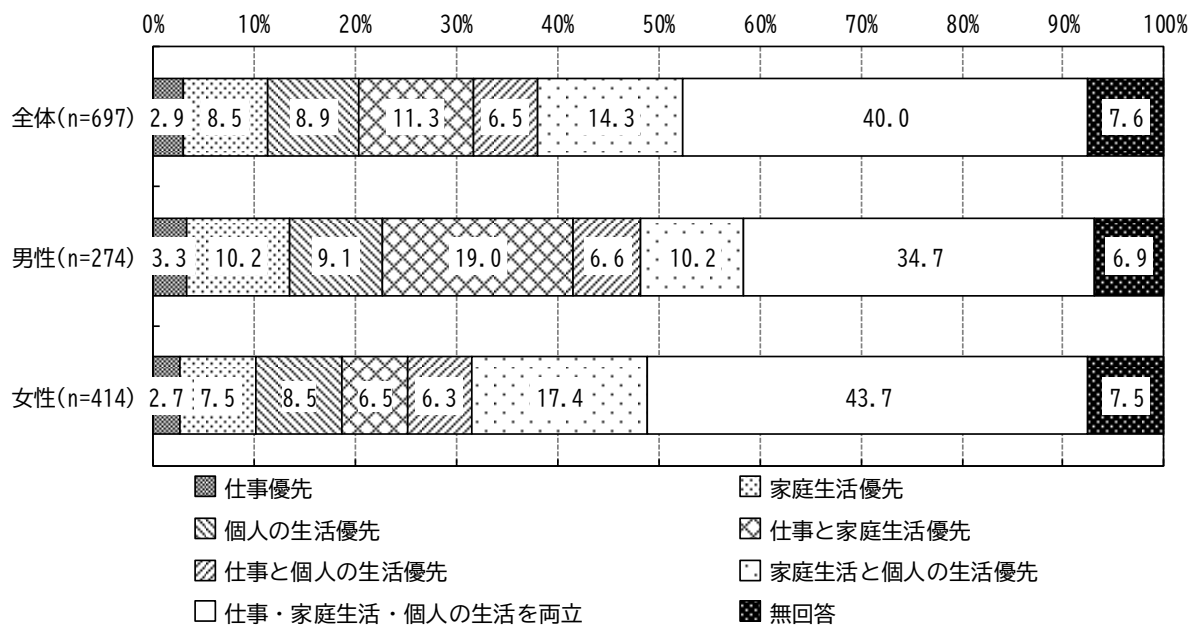
(イ)希望

「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」が40.0%と最も多く、次いで「家庭生活と個人の生活優先」が14.3%、「仕事と家庭生活優先」が11.3%である。

男性・女性ともに「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」が最も多い。男性では34.7%、女性では43.7%であり、女性の方が男性よりもやや多い。

次いで、男性では「仕事と家庭生活優先」が19.0%、「家庭生活と個人の生活優先」と「家庭生活優先」が10.2%である。女性では、「家庭生活と個人の生活優先」が17.4%、「個人の生活優先」が8.5%である。

「仕事と家庭生活優先」は男性の方が女性（6.5%）よりも12.5ポイント多い。「家庭生活と個人の生活優先」、「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」は女性の方が男性よりもやや多い。



■前回調査との比較

希望については大きな違いはみられない。

■国・都の調査との比較

国の調査では「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」が13.1%であり、都では「仕事、家庭生活、個人の生活すべて」が24.7%である。区は40.0%であり、国・都と比べて多い。

「仕事と家庭生活優先」については、国が28.7%、都が21.9%であるのに対して、区は11.3%であり、国・都に比べて少ない。

■就労状況による分析

職業に就いている場合、男性・女性ともに「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」が最も多く、男性で40.4%、女性で48.1%である。職業に就いていない場合は、男性・女性ともに「家庭生活と個人の生活優先」が最も多く、男性で22.4%、女性で30.1%である。

	合計	仕事優先	家庭生活優先	個人の生活優先	仕事と家庭生活優先	仕事と個人の生活優先	家庭生活と個人の生活優先	仕事・家庭生活・個人の生活を両立	無回答
全体	671	2.7	8.6	8.9	11.6	6.3	14.8	40.7	6.4
男性									
職業に就いている	218	3.2	8.7	7.3	21.6	6.9	7.3	40.4	4.6
職業には就いていない	49	2.0	16.3	18.4	8.2	4.1	22.4	14.3	14.3
女性									
職業に就いている	291	3.1	7.2	8.9	7.2	8.2	13.1	48.1	4.1
職業には就いていない	113	0.9	8.8	8.0	5.3	0.9	30.1	33.6	12.4

■現実と希望の比較

「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」は、希望では40.0%で最も多いが、現実では13.5%と少なくなる。「仕事優先」は希望では2.9%だが、現実では23.1%で最も多い。

職業に就いている場合には、「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」は、希望では男性で40.4%、女性で48.1%だが、現実では男性で12.4%、女性では17.2%と少ない。職業に就いている場合に現実と希望で差がみられるのは「仕事優先」であり、男性・女性ともに現実の方が多い。

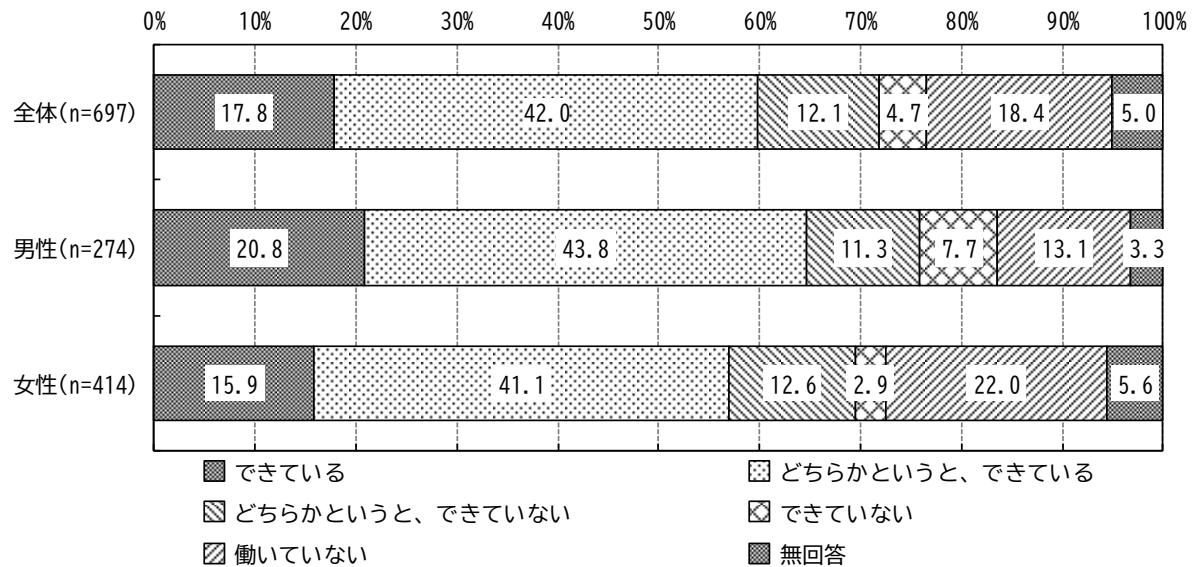
■問 10 に対する考察

5年前と比較すると仕事を優先せざるを得ない人が少なくなり、仕事とそれ以外の時間のバランスを取れている人が増えている。ただし、仕事を優先せざるを得ない人は多く、家庭生活や個人の生活よりも優先されていることが伺える。

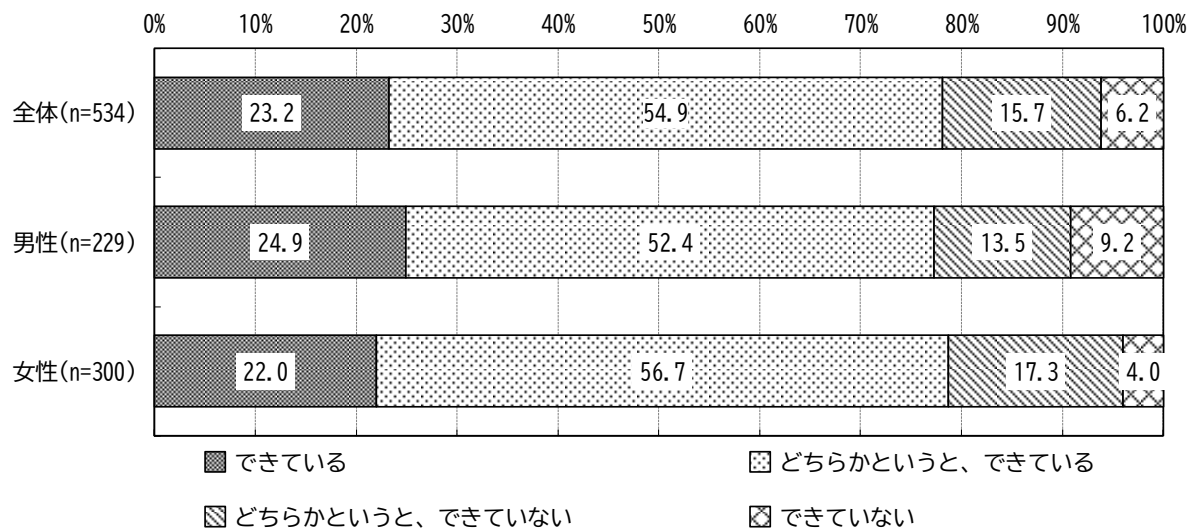
問11 あなたは、仕事と生活を両立できていると思いますか。【〇は1つ】

「どちらかというと、できている」が42.0%と最も多く、次いで「働いていない」が18.4%、「できている」が17.8%である。

両立できているという人（「できている」と「どちらかというと、できている」の合計）は59.8%である。



「働いていない」と「無回答」を選択した人（163人）を除いて集計すると、両立できているという人は78.1%になる。性別で見ると男性で77.3%、女性で78.7%となる。



問11に対する考察

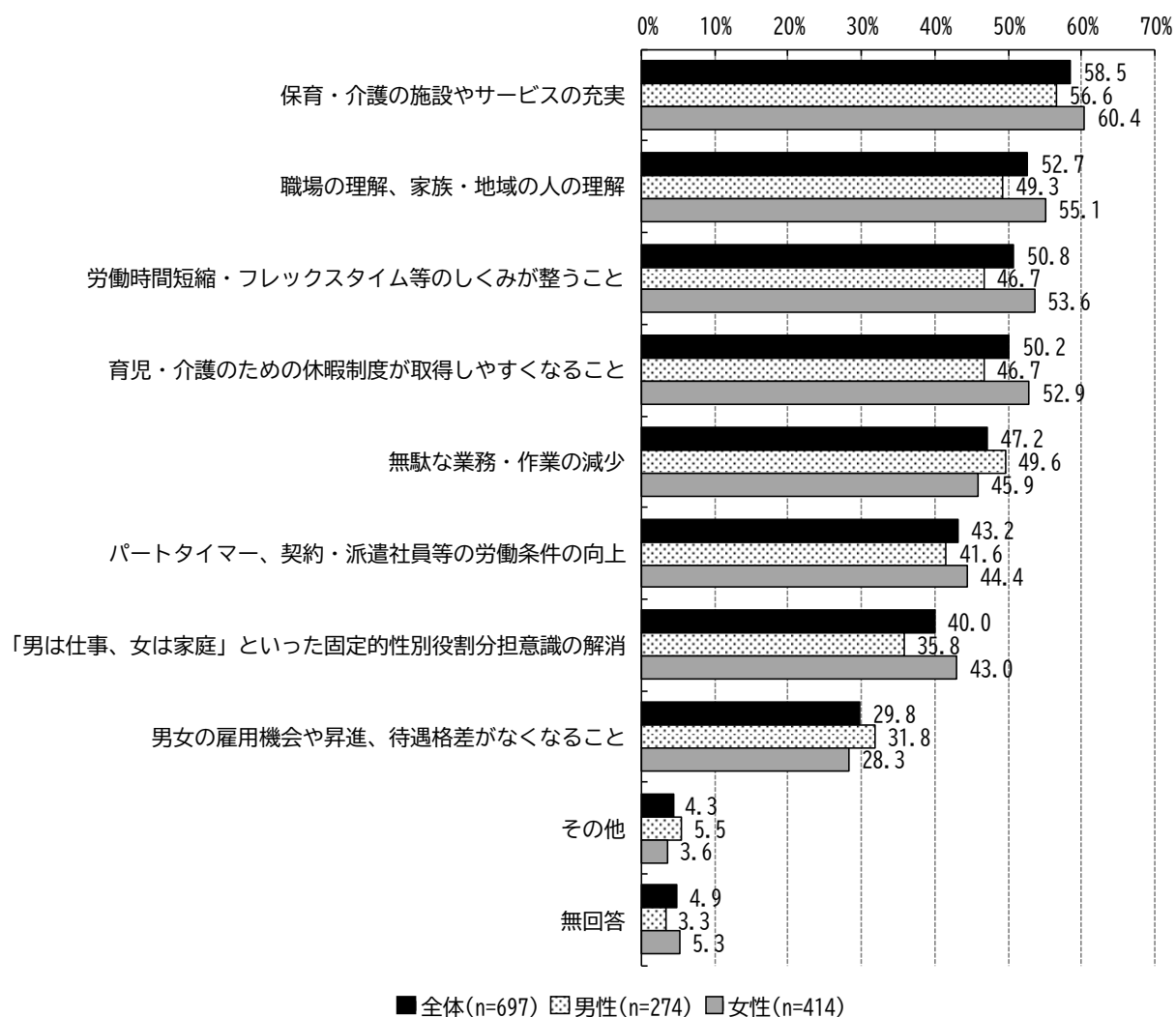
個人と家庭を問わず、仕事と生活を両立できているという人が男性・女性ともに多い。

問12 あなたは、社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）※を進めるために、どのようなことが重要だと思いますか。【〇はいくつでも】
 ※ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事と生活の調和」と訳され、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活等においても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる状態」をいいます。

「保育・介護の施設やサービスの充実」が58.5%と最も多く、次いで「職場の理解、家族・地域の人の理解」が52.7%、「労働時間短縮・フレックスタイム等のしくみが整うこと」が50.8%である。

男性・女性ともに「保育・介護の施設やサービスの充実」が最も多く、男性で56.6%、女性で60.4%である。次いで男性では「無駄な業務・作業の減少」が49.6%、「職場の理解、家族・地域の人の理解」が49.3%である。女性では「職場の理解、家族・地域の人の理解」が55.1%、「労働時間短縮・フレックスタイム等のしくみが整うこと」が53.6%である。

「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識の解消は、女性（43.0%）の方が男性（35.8%）よりもやや多い。その他、「職場の理解、家族・地域の人の理解」、「労働時間短縮・フレックスタイム等のしくみが整うこと」、「育児・介護のための休暇制度が取得しやすくなること」も同様である。



■就労状況による分析

男性・女性ともに、職業に就いている場合の方が「無駄な業務・作業の減少」が多く、男性で55.5%、女性で51.2%である。

	合計	保育・介護の施設やサービスの充実	職場の理解、家族・地域の人の理解	労働時間短縮・フレックスタイム等のしくみが整うこと	育児・介護のための休暇制度が取得しやすくなること	無駄な業務・作業の減少	パートタイマー、契約・派遣社員等の労働条件の向上	「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識の解消
全体	671	59.0	53.7	51.6	50.7	48.1	43.5	40.2
男性								
職業に就いている	218	56.0	50.0	47.2	44.0	55.5	41.3	35.8
職業には就いていない	49	57.1	51.0	46.9	57.1	26.5	42.9	36.7
女性								
職業に就いている	291	59.8	56.0	60.1	51.2	51.2	46.0	43.6
職業には就いていない	113	63.7	55.8	39.8	59.3	35.4	41.6	41.6

	合計	男女の雇用機会や昇進、待遇格差がなくなること	その他	無回答
全体	671	30.3	4.5	3.7
男性				
職業に就いている	218	30.7	5.5	2.3
職業には就いていない	49	40.8	6.1	6.1
女性				
職業に就いている	291	28.9	4.8	3.8
職業には就いていない	113	28.3	0.9	5.3

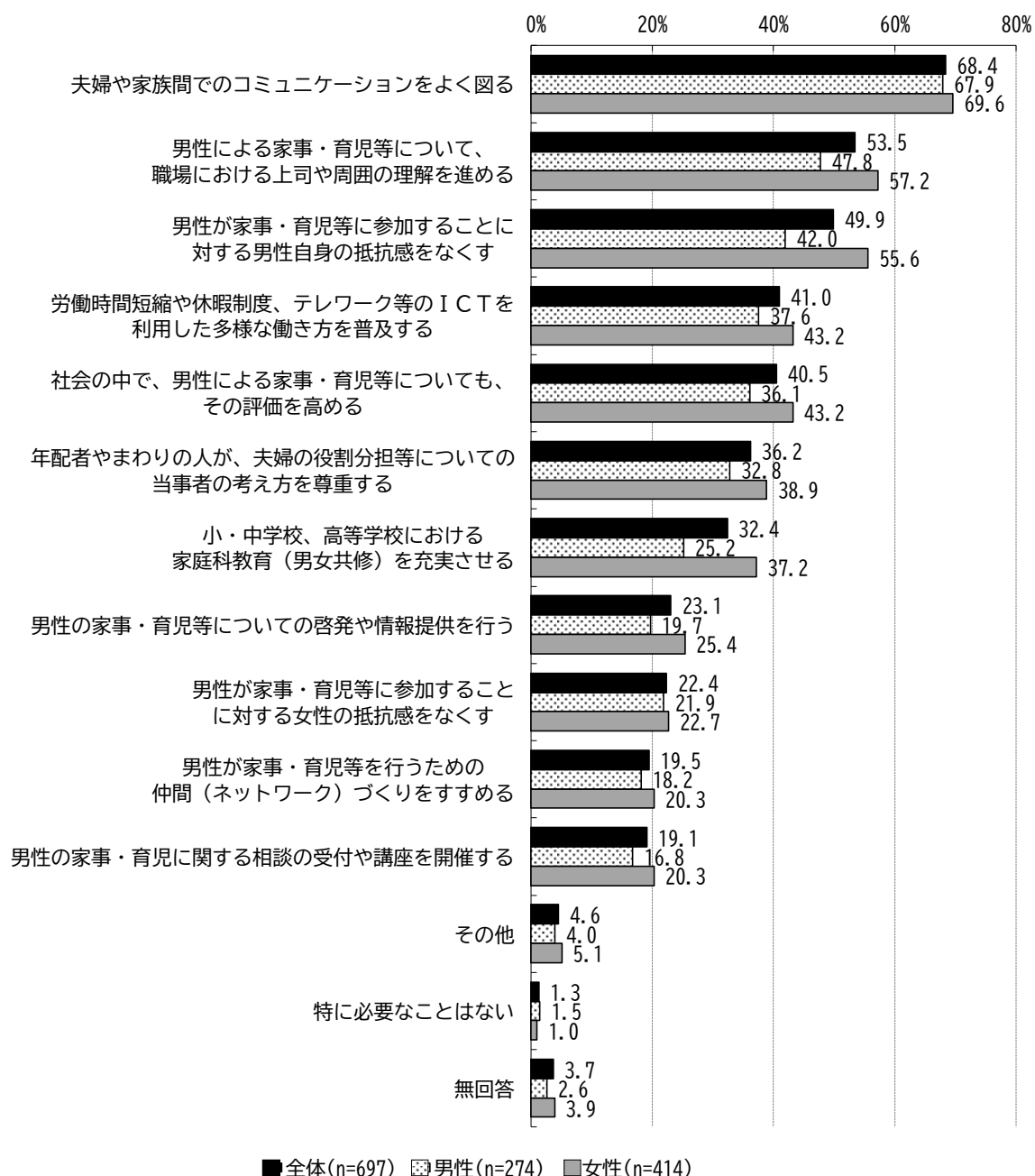
■問 12 に対する考察

ワーク・ライフ・バランスの実現のためには、家庭外に育児・介護を分担できる環境を求めていると考えられる。ただし、働いている場合には業務の効率化が求められてもおり、労務環境と福祉サービスの両面での支援が求められていることが見て取れる。

問13 あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が68.4%と最も多く、次いで「男性による家事・育児等について、職場における上司や周囲の理解を進める」が53.5%、「男性が家事・育児等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が49.9%である。

上位3位は男性・女性で共通している。「男性による家事・育児等について、職場における上司や周囲の理解を進める」、「男性が家事・育児等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」、「小・中学校、高等学校における家庭科教育（男女共修）を充実させる」は女性の方が男性よりも約10～13ポイント多い。



■就労状況による分析

職業に就いている場合も、男性・女性ともに全体での上位3位と共通している。

男性・女性ともに、職業に就いている場合の方が、「労働時間短縮や休暇制度、テレワーク等のICTを利用した多様な働き方を普及する」が多くなり、男性で40.4%、女性で47.4%である。

	合計	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る	男性による家事・育児等について、職場における上司や周囲の理解を進める	男性が家事・育児等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	労働時間短縮や休暇制度、テレワーク等のICTを利用した多様な働き方を普及する	社会の中で、男性による家事・育児等についても、その評価を高める	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する	小・中学校、高等学校における家庭科教育（男女共修）を充実させる
全体	671	69.2	54.4	50.4	41.3	40.8	36.7	32.6
男性								
職業に就いている	218	67.9	50.0	42.7	40.4	34.9	36.2	24.3
職業には就いていない	49	67.3	38.8	38.8	24.5	42.9	18.4	32.7
女性								
職業に就いている	291	70.1	60.1	56.7	47.4	43.6	38.1	36.1
職業には就いていない	113	69.9	54.9	54.0	34.5	44.2	41.6	39.8

	合計	男性の家事・育児等についての啓発や情報提供を行う	男性が家事・育児等に参加することに対する女性の抵抗感をなくす	男性が家事・育児等を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる	男性の家事・育児に関する相談の受付や講座を開催する	その他	特に必要はない	無回答
全体	671	23.7	22.5	19.7	19.2	4.8	1.0	2.7
男性								
職業に就いている	218	20.2	22.5	18.8	17.4	3.2	0.9	1.8
職業には就いていない	49	20.4	18.4	14.3	14.3	8.2	4.1	4.1
女性								
職業に就いている	291	25.8	24.4	21.6	22.0	6.5	0.7	2.4
職業には就いていない	113	26.5	19.5	18.6	17.7	1.8	0.9	4.4

■問13に対する考察

男性・女性ともに、男性の家事・子育て等への参加にあたっては、家庭や労働環境、また男性自身の意識が課題と感じていることが分かる。ただ、女性において家庭科を男性も学ぶことが必要と考えられており、子どもの頃からの教育が必要とされていると考えられる。

5 人権について

問14 あなたは、職場や学校等でハラスメントを受けたことはありますか。【○はいくつでも】

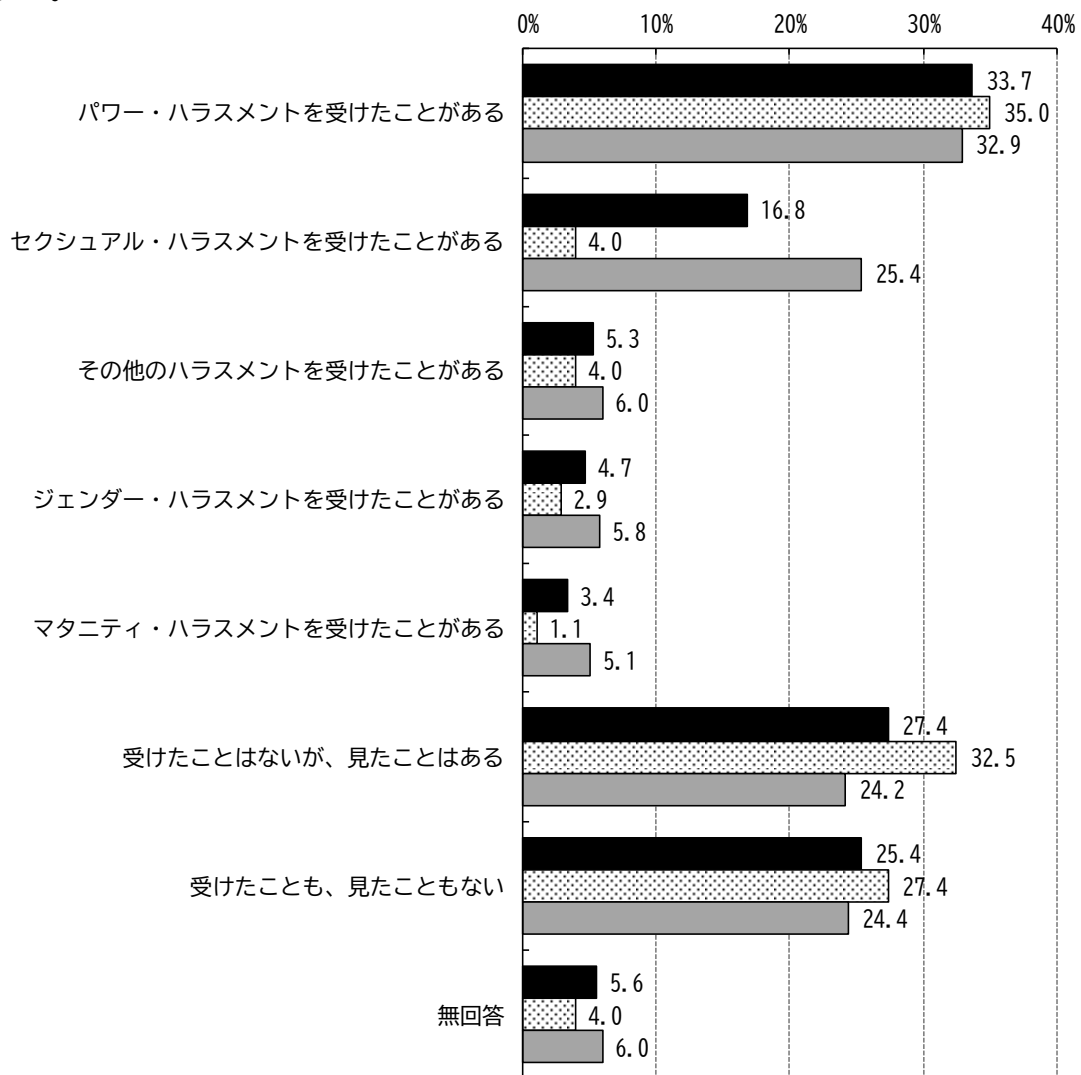
「パワー・ハラスメントを受けたことがある」が33.7%と最も多く、次いで「受けたことはないが、見たことはある」が27.4%、「受けたことも、見たこともない」が25.4%である。

何らかのハラスメントを受けたことがある人（100%から「受けたことはないが、見たことはある」、「受けたことも、見たこともない」、「無回答」を除いて算出）は41.6%である。

何らかのハラスメントを受けたことがある人は、男性では36.1%、女性では45.4%となっており、女性の方が男性よりも9.3%多い。

男性・女性ともに「パワー・ハラスメントを受けたことがある」が最も多く、男性で35.0%、女性で32.9%である。次いで男性では受けたことはないが、見たことはある」が32.5%、「受けたことも、見たこともない」が27.4%である。女性では「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」が25.4%、「受けたことも、見たこともない」が24.4%である。

「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」は女性の方が男性（4.0%）よりも21.4ポイント多い。



■全体(n=697) □男性(n=274) ▨女性(n=414)

■就労状況による分析

女性については、ハラスメントを受けた経験については就労状況による違いはみられないが、「受けたことはないが、見たことはある」が職業に就いている場合の方が多く、27.1%である。

	合計	パワー・ハラスメントを受けたことがある	セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある	その他のハラスメントを受けたことがある	ジェンダー・ハラスメントを受けたことがある	マタニティ・ハラスメントを受けたことがある	受けたことはないが、見たことはある	受けたことも、見たこともない	無回答	
全体	671	34.3	17.1	5.1	4.6	3.4	27.6	25.8	4.3	
男性	218	37.6	4.1	4.1	3.7	1.4	33.9	24.8	2.3	
	職業に就いている									
	職業には就いていない	49	26.5	4.1	4.1	-	-	24.5	40.8	8.2
女性	291	33.7	24.7	5.5	6.5	5.8	27.1	23.4	3.4	
	職業に就いている									
	職業には就いていない	113	32.7	28.3	6.2	3.5	2.7	17.7	27.4	8.8

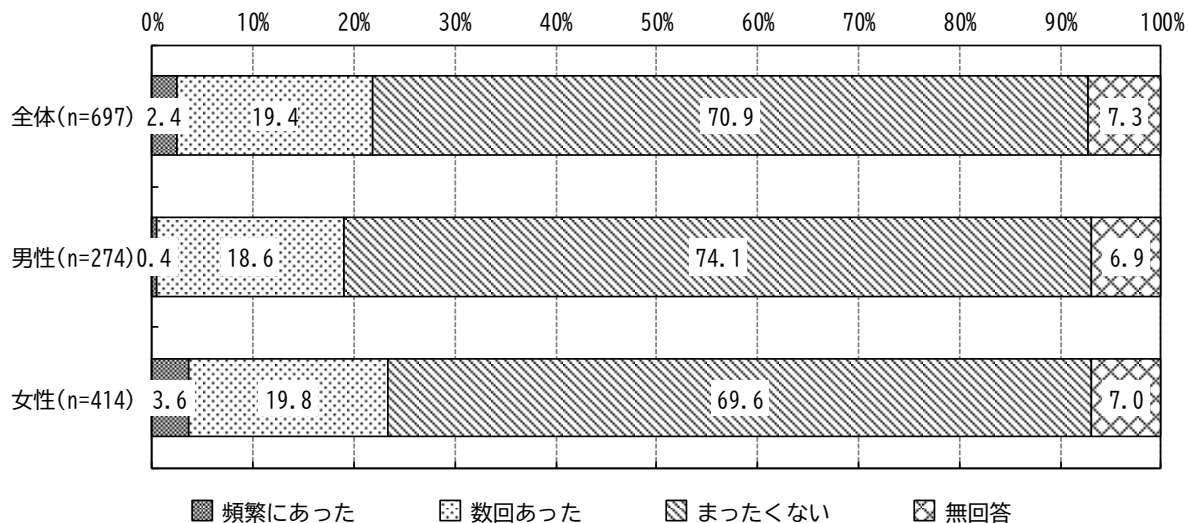
■問 14 に対する考察

女性の4分の1がセクシュアル・ハラスメントを経験しており、男女差が顕著である。

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（セ）のような行為を受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】

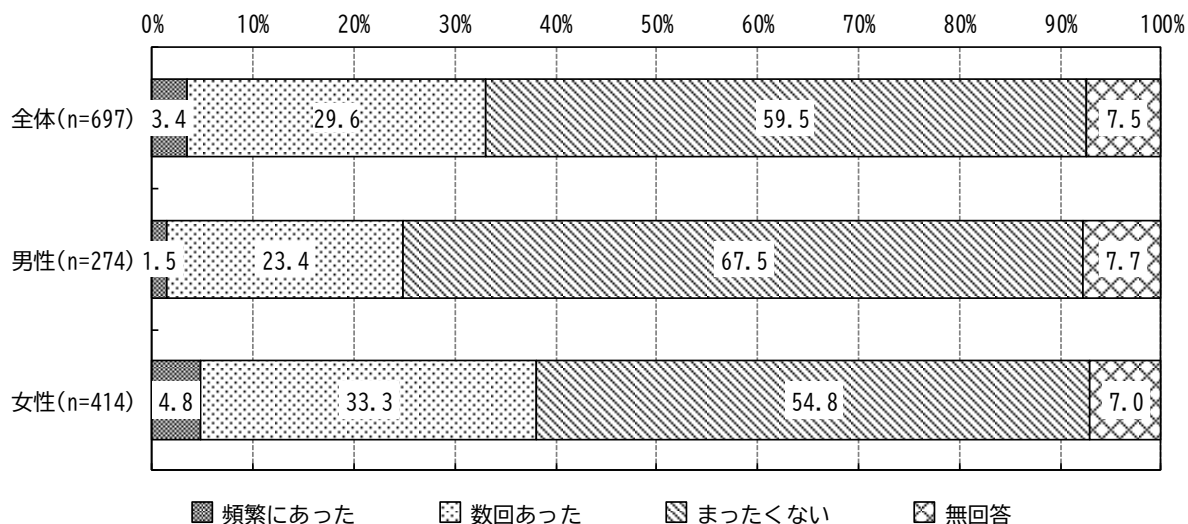
(ア)何を言っても無視する

「まったくくない」が70.9%と最も多く、次いで「数回あった」が19.4%、「頻繁にあった」が2.4%である。



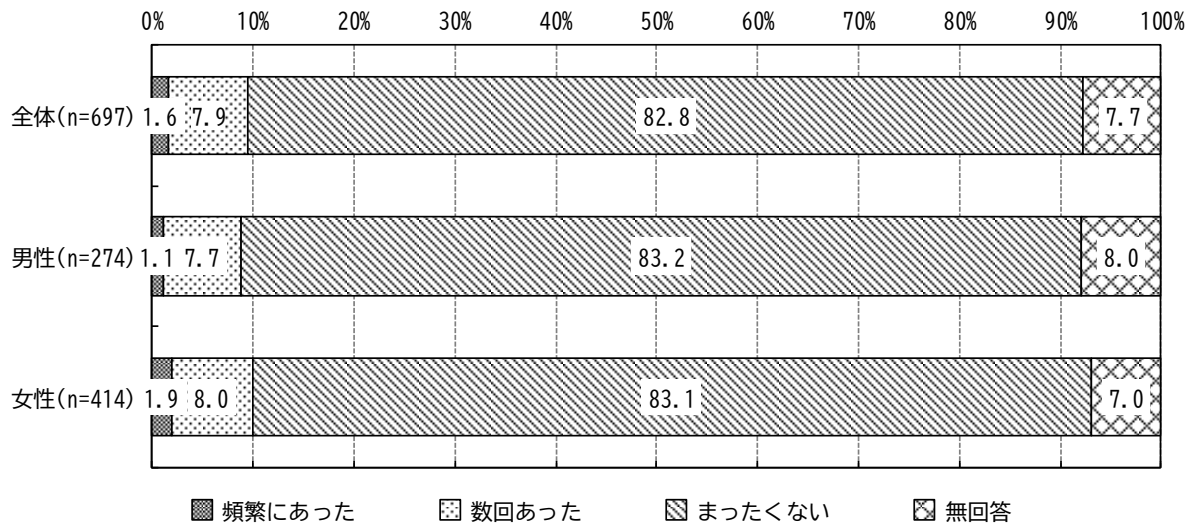
(イ)大声で怒鳴る

「まったくくない」が59.5%と最も多く、次いで「数回あった」が29.6%、「頻繁にあった」が3.4%である。



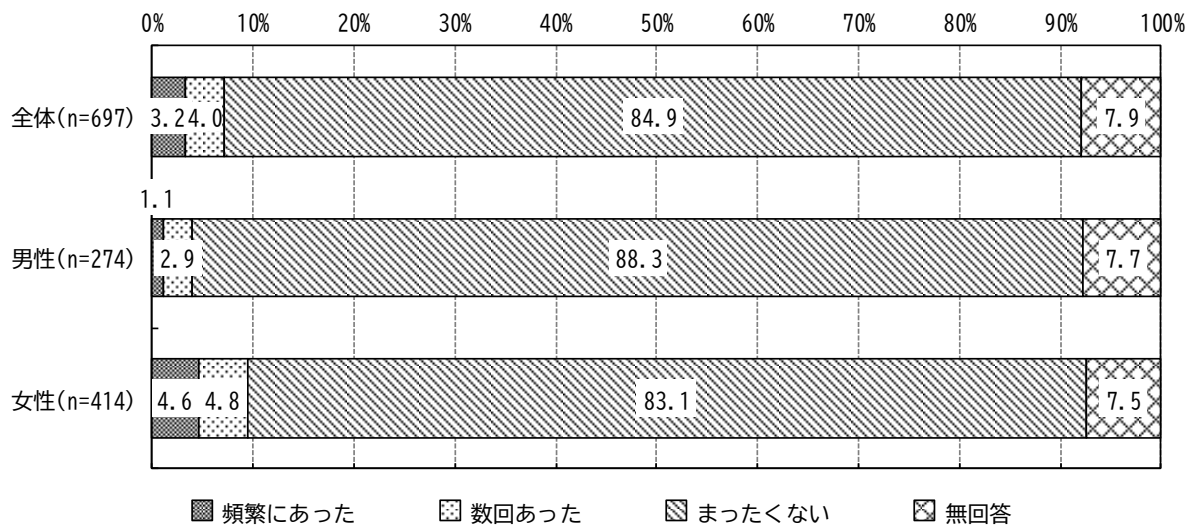
(ウ)交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する

「まったくない」が82.8%と最も多く、次いで「数回あった」が7.9%、「頻繁にあった」が1.6%である。



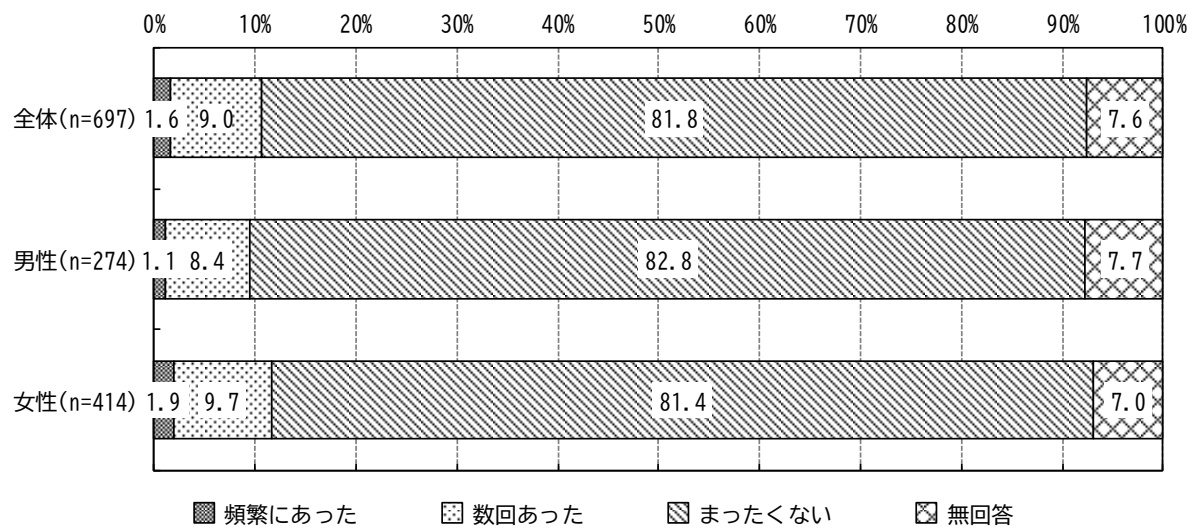
(エ)生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない

「まったくない」が84.9%と最も多く、次いで「数回あった」が4.0%、「頻繁にあった」が3.2%である。



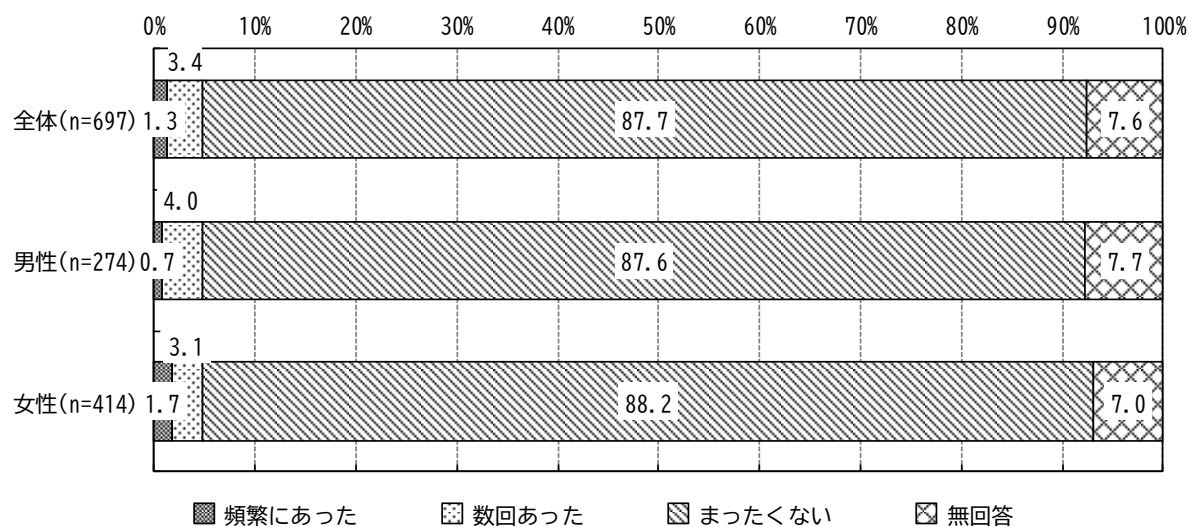
(オ)外出を制限する、どこで何をしているか行動をチェックする

「まったくない」が81.8%と最も多く、次いで「数回あった」が9.0%、「頻繁にあった」が1.6%である。



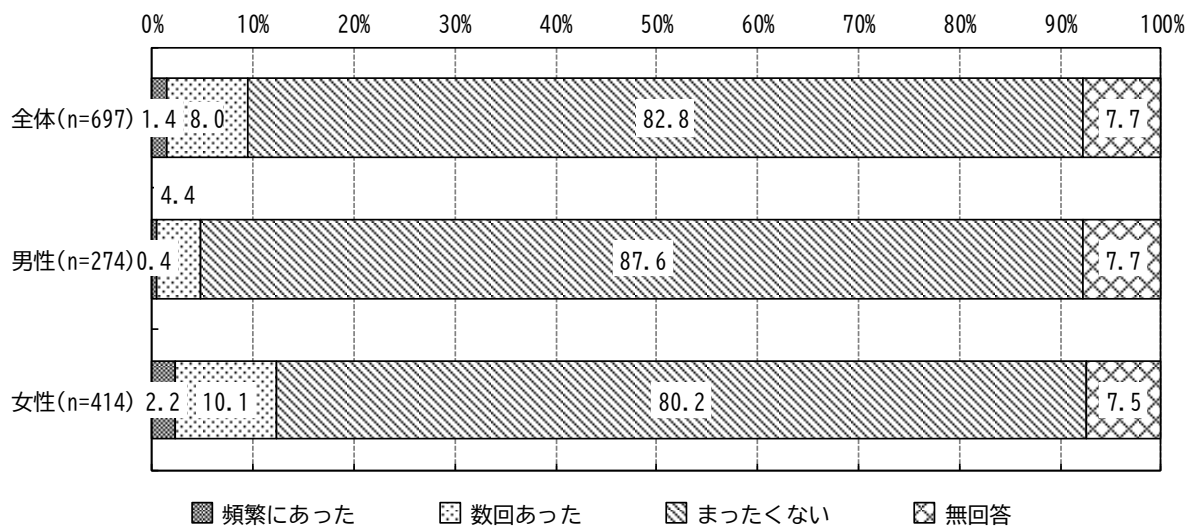
(カ)常に監視し、人間関係を制限する

「まったくない」が87.7%と最も多く、次いで「数回あった」が3.4%、「頻繁にあった」が1.3%である。



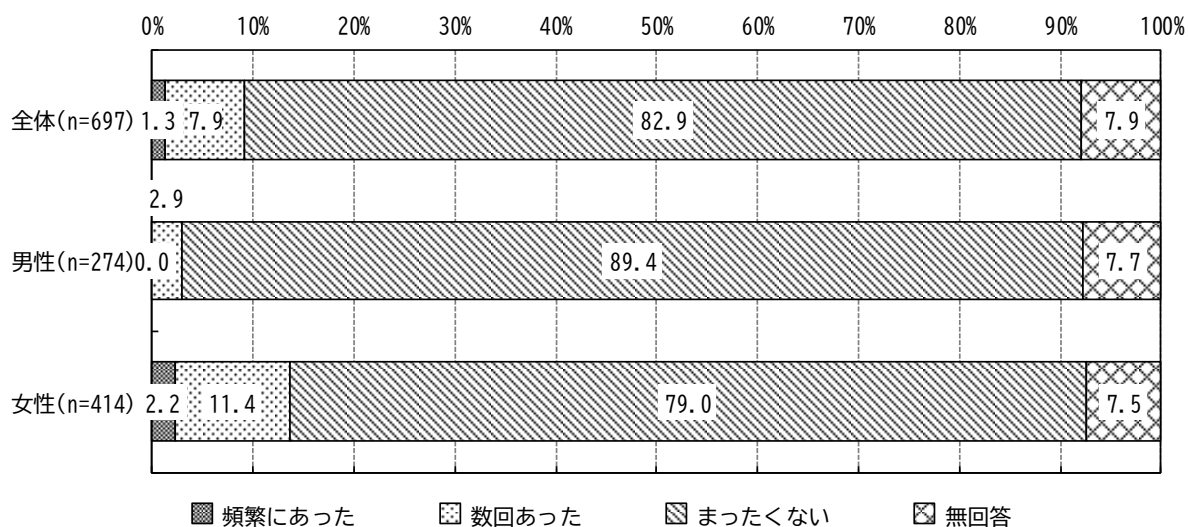
(キ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」等と侮辱的なことを言う

「まったくない」が82.8%と最も多く、次いで「数回あった」が8.0%、「頻繁にあった」が1.4%である。



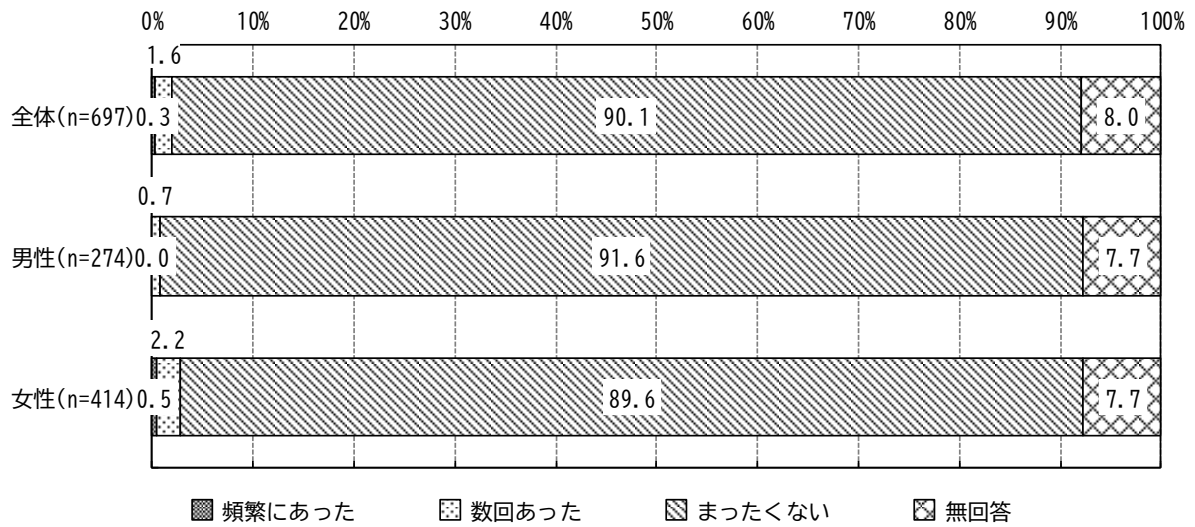
(ク)体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する

「まったくない」が82.9%と最も多く、次いで「数回あった」が7.9%、「頻繁にあった」が1.3%である。



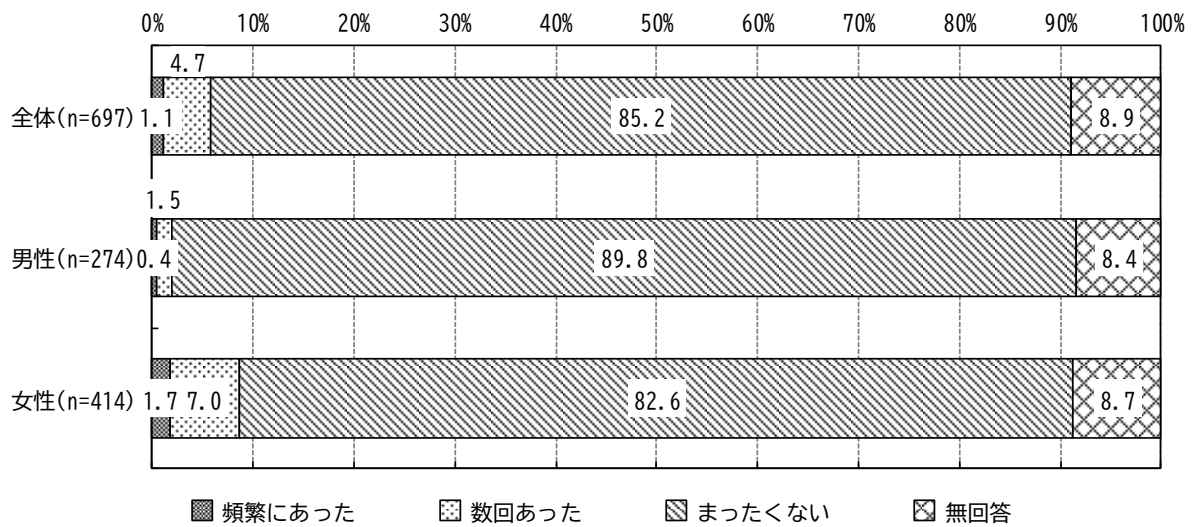
(ケ)見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

「まったくくない」が90.1%と最も多く、次いで「数回あった」が1.6%、「頻繁にあった」が0.3%である。



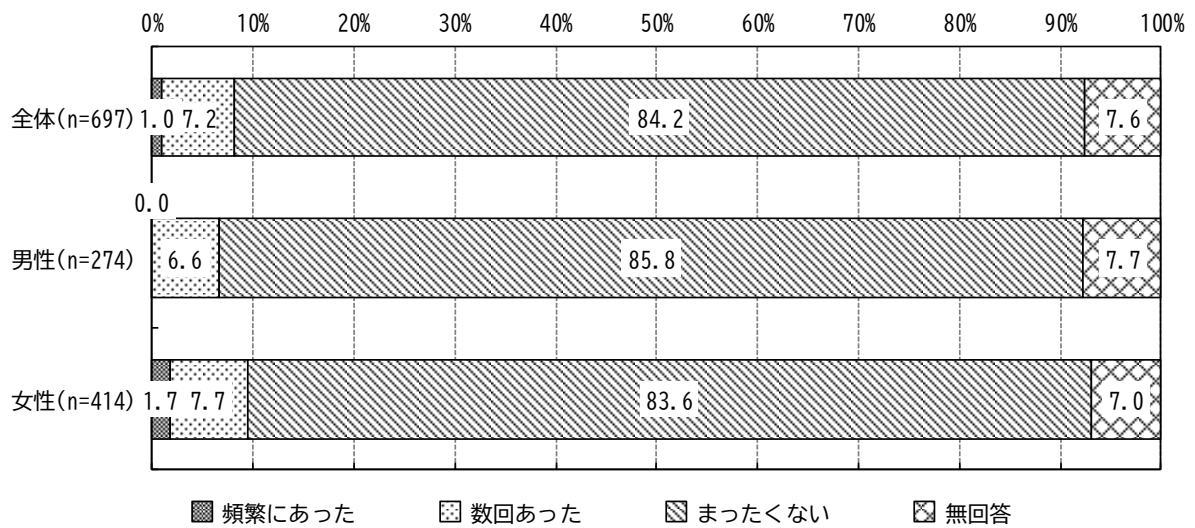
(コ)避妊に協力しない

「まったくくない」が85.2%と最も多く、次いで「数回あった」が4.7%、「頻繁にあった」が1.1%である。



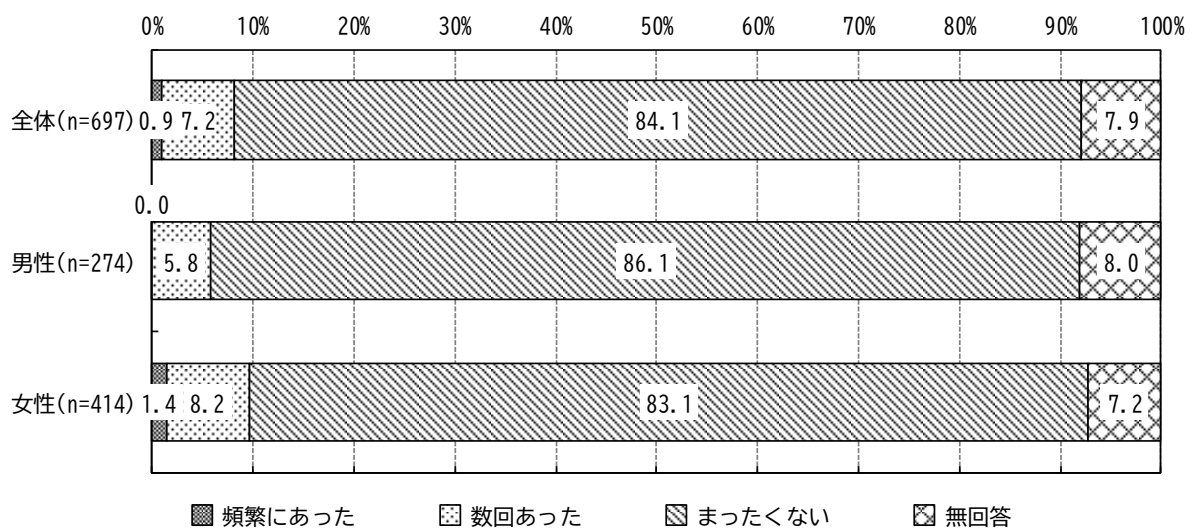
(サ)物を壊したり、大切な物を勝手に捨てる

「まったくない」が84.2%と最も多く、次いで「数回あった」が7.2%、「頻繁にあった」が1.0%である。



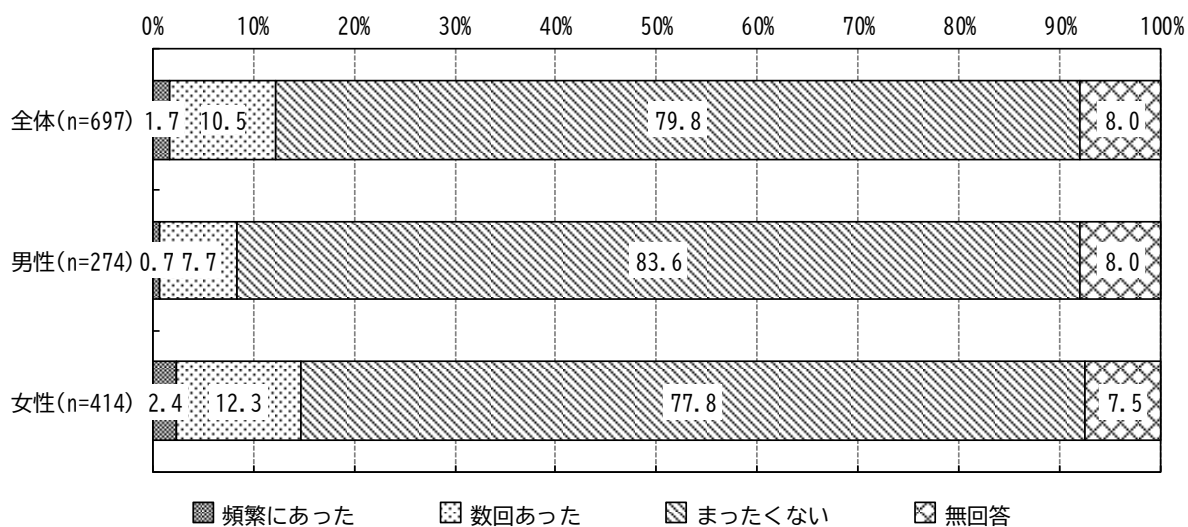
(シ)物を投げつける、髪の毛を引っ張る、殴る、蹴る等の行為

「まったくない」が84.1%と最も多く、次いで「数回あった」が7.2%、「頻繁にあった」が0.9%である。



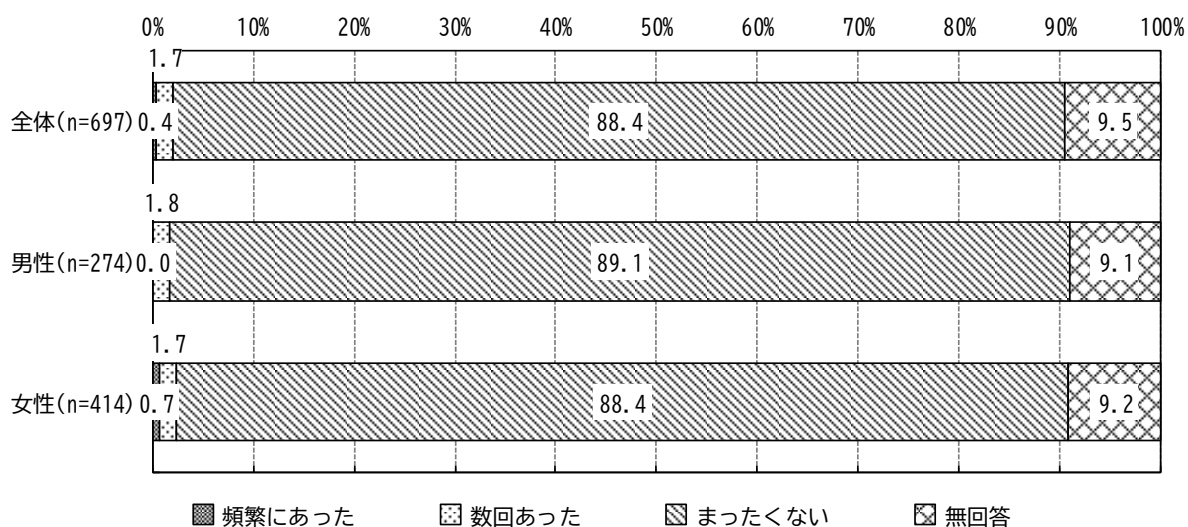
(ス)反論したり、意見を言ったりすることを許さない

「まったくない」が79.8%と最も多く、次いで「数回あった」が10.5%、「頻繁にあった」が1.7%である。



(セ)子どもに危害を加えると脅す

「まったくない」が88.4%と最も多く、次いで「数回あった」が1.7%、「頻繁にあった」が0.4%である。



■全体に対する分析

項目間でみると、「頻繁にあった」と「数回あった」の合計は、「大声で怒鳴る」が33.0%で最も多く、次いで「何を言っても無視する」が21.8%、「反論したり、意見を言ったりすることを許さない」が12.2%である。

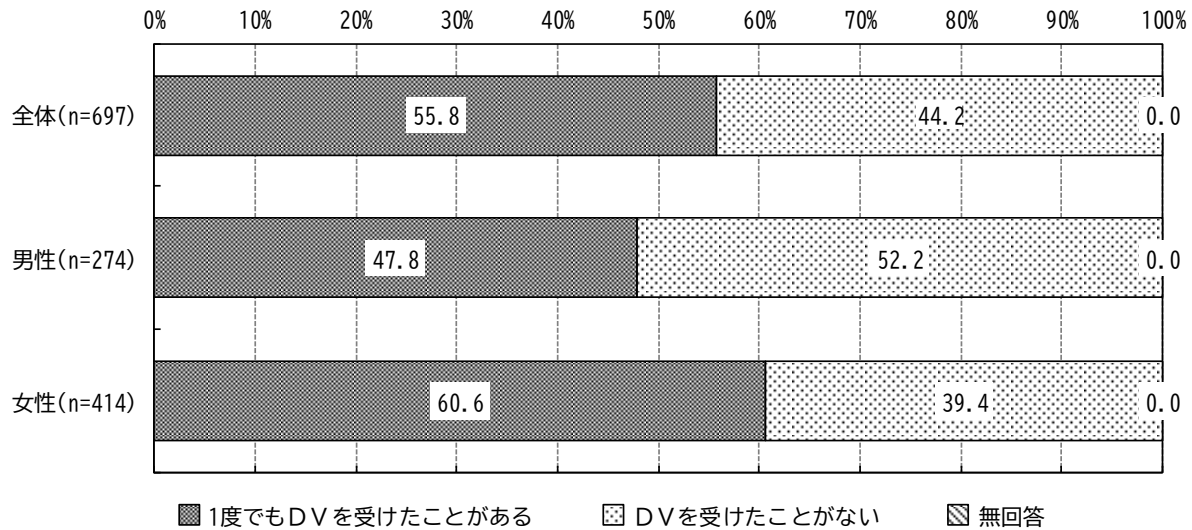
男女の差をみると、「頻繁にあった」と「数回あった」の合計では、「大声でどなる」、「体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する」は女性の方が男性よりも約10ポイント多い。

項目	全体			男性			女性		
	頻繁にあった	数回あった	まったくくない	頻繁にあった	数回あった	まったくくない	頻繁にあった	数回あった	まったくくない
(ア)何を言っても無視する	2.4	19.4	70.9	0.4	18.6	74.1	3.6	19.8	69.6
(イ)大声で怒鳴る	3.4	29.6	59.5	1.5	23.4	67.5	4.8	33.3	54.8
(ウ)交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する	1.6	7.9	82.8	1.1	7.7	83.2	1.9	8.0	83.1
(エ)生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない	3.2	4.0	84.9	1.1	2.9	88.3	4.6	4.8	83.1
(オ)外出を制限する、どこで何をしているか行動をチェックする	1.6	9.0	81.8	1.1	8.4	82.8	1.9	9.7	81.4
(カ)常に監視し、人間関係を制限する	1.3	3.4	87.7	0.7	4.0	87.6	1.7	3.1	88.2
(キ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」等と侮辱的なことを言う	1.4	8.0	82.8	0.4	4.4	87.6	2.2	10.1	80.2
(ク)体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する	1.3	7.9	82.9	-	2.9	89.4	2.2	11.4	79.0
(ケ)見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	0.3	1.6	90.1	-	0.7	91.6	0.5	2.2	89.6
(コ)避妊に協力しない	1.1	4.7	85.2	0.4	1.5	89.8	1.7	7.0	82.6
(カ)物を壊したり、大切な物を勝手に捨てる	1.0	7.2	84.2	-	6.6	85.8	1.7	7.7	83.6
(シ)物を投げつける、髪の毛を引っ張る、殴る、蹴る等の行為	0.9	7.2	84.1	-	5.8	86.1	1.4	8.2	83.1
(ス)反論したり、意見を言ったりすることを許さない	1.7	10.5	79.8	0.7	7.7	83.6	2.4	12.3	77.8
(セ)子どもに危害を加えると脅す	0.4	1.7	88.4	-	1.8	89.1	0.7	1.7	88.4

■DVを受けたことの有無

「1度でもDVを受けたことがある」((ア)～(セ)の行為を1度でも受けたことのある)は55.8%、「DVを受けたことがない人」は44.2%である。

「1度でもDVを受けたことがある」は、男性で47.8%、女性で60.6%であり、女性の方が12.8ポイント多い。



■結婚状況からみたDVを受けたことの有無

結婚状況からみると、女性では、離別している場合に「1度でもDVを受けたことがある」が女性で多く、83.3%である。

	合計	1度でもDVを受けたことがある	DVを受けたことがない	無回答
全体	687	55.5	44.5	-
男性	56	35.7	64.3	-
未婚	194	49.0	51.0	-
既婚(事実婚を含む)	13	69.2	30.8	-
離別(結婚していたが、離婚した)	11	63.6	36.4	-
死別(結婚していたが、相手が亡くなった)	38	68.4	31.6	-
女性	85	55.3	44.7	-
未婚	260	58.5	41.5	-
既婚(事実婚を含む)	30	83.3	16.7	-
離別(結婚していたが、離婚した)	38	68.4	31.6	-
死別(結婚していたが、相手が亡くなった)				

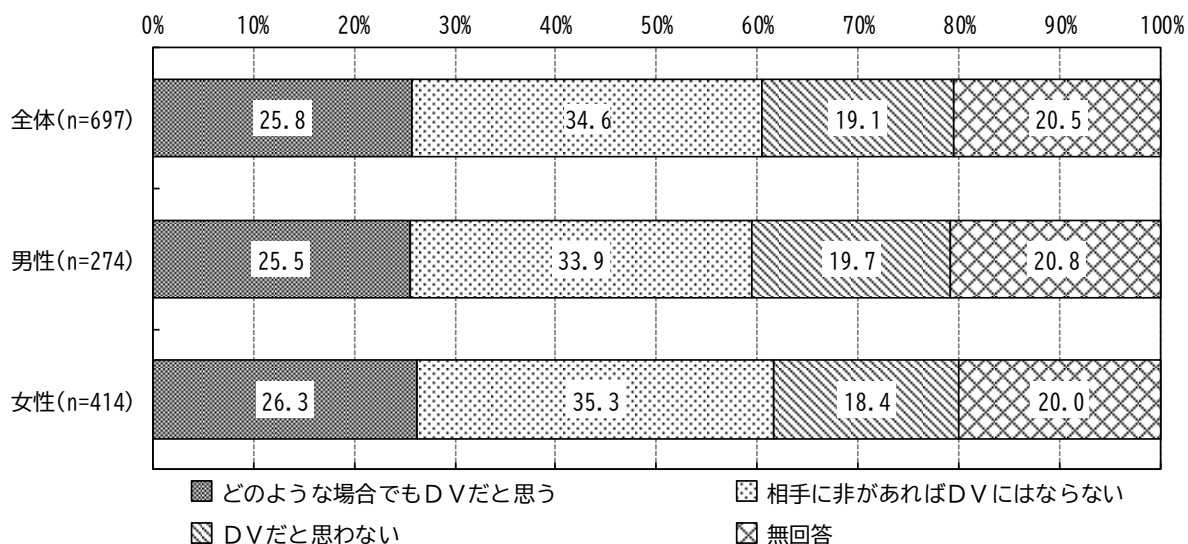
■問15(1)に対する考察

何を言っても無視したり、大声で怒鳴るなど、男女を問わず経験したことがある人が少なくない。ただし、身体的な暴力や自由の制限等も一定数が経験しており、数回であるとはいえDVが存在している状況が伺える。

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(セ)のような行為をDVだと思いますか。【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】

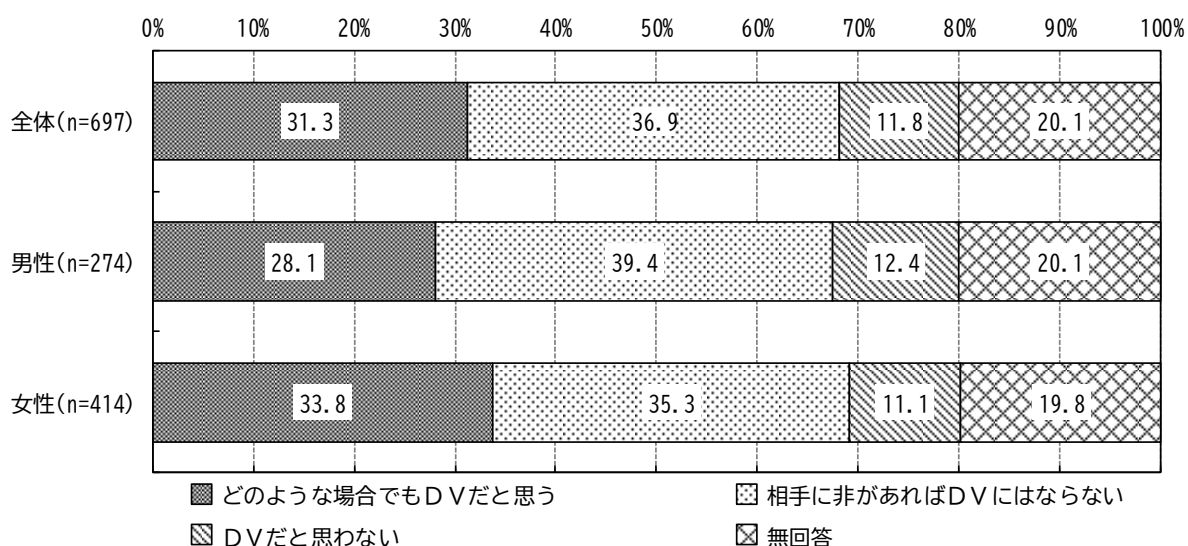
(ア)何を言っても無視する

「相手に非があればDVにはならない」が34.6%と最も多く、次いで「どのような場合でもDVだと思う」が25.8%、「DVだと思わない」が19.1%である。



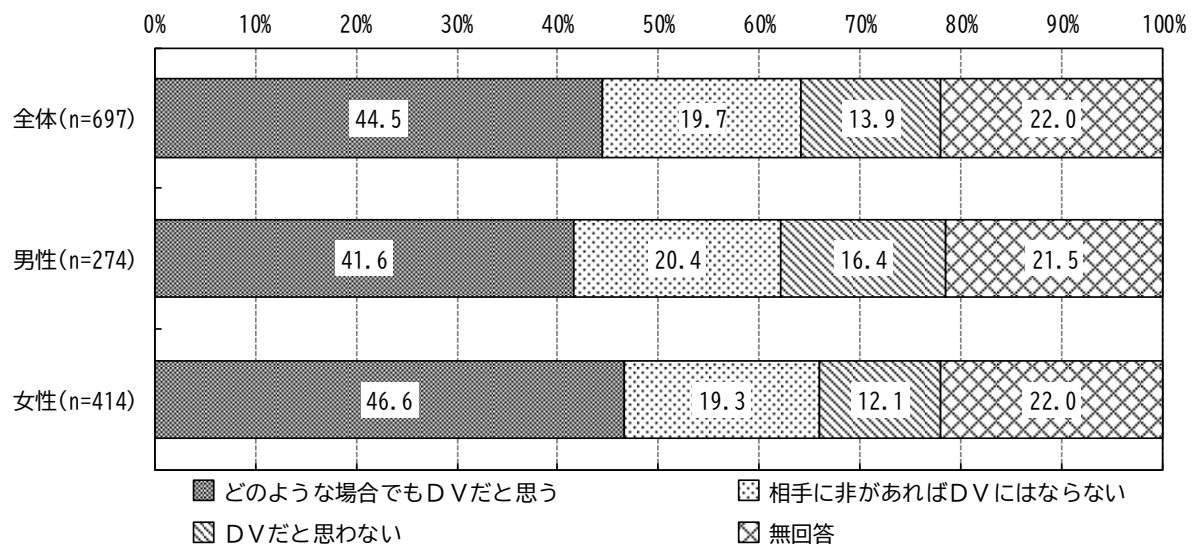
(イ)大声で怒鳴る

「相手に非があればDVにはならない」が36.9%と最も多く、次いで「どのような場合でもDVだと思う」が31.3%、「DVだと思わない」が11.8%である。



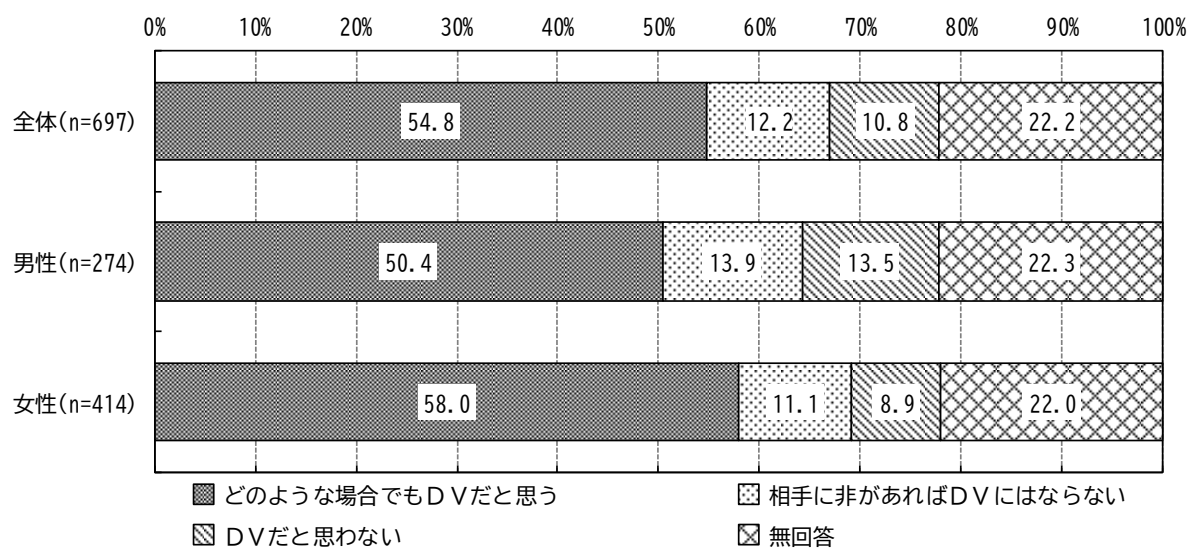
(ウ)交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する

「どのような場合でもDVだと思う」が44.5%と最も多く、次いで「相手に非があればDVにはならない」が19.7%、「DVだと思わない」が13.9%である。



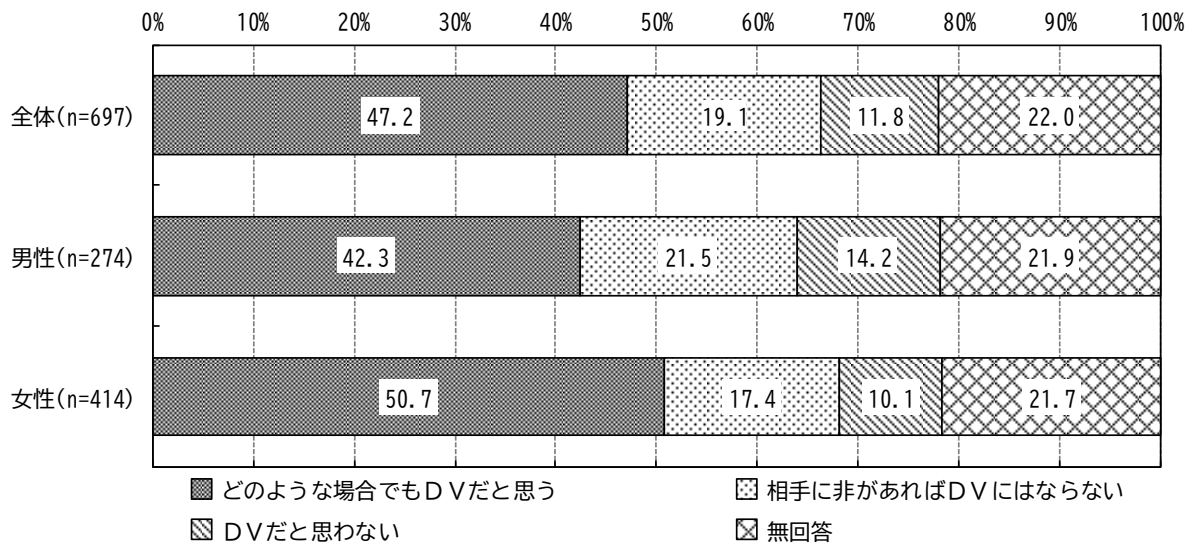
(エ)生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない

「どのような場合でもDVだと思う」が54.8%と最も多く、次いで「相手に非があればDVにはならない」が12.2%、「DVだと思わない」が10.8%である。



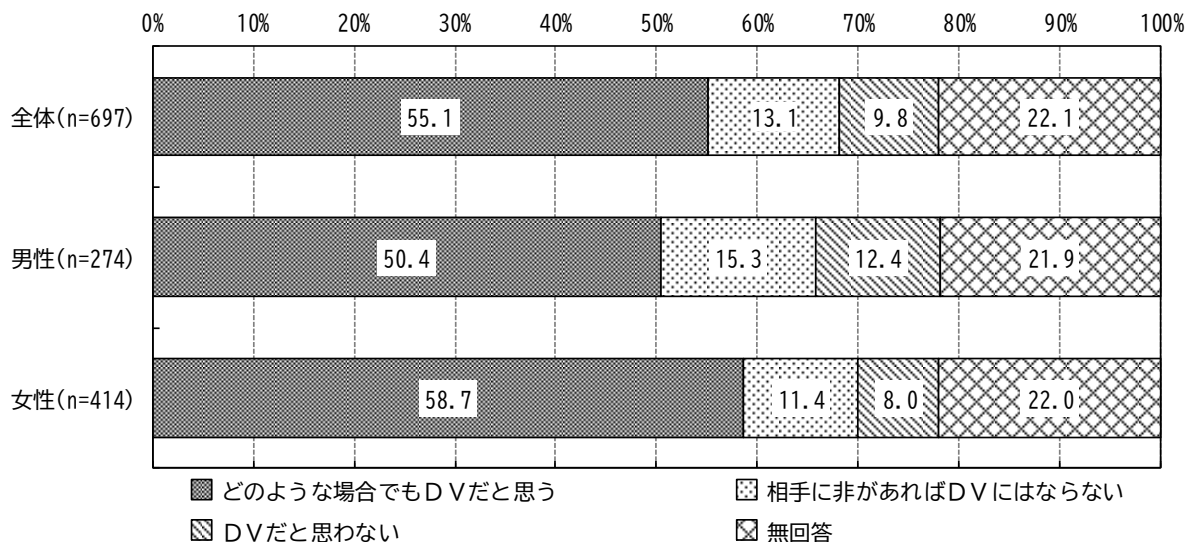
(オ)外出を制限する、どこで何をしているか行動をチェックする

「どのような場合でもDVだと思う」が47.2%と最も多く、次いで「相手に非があればDVにはならない」が19.1%、「DVだと思わない」が11.8%である。



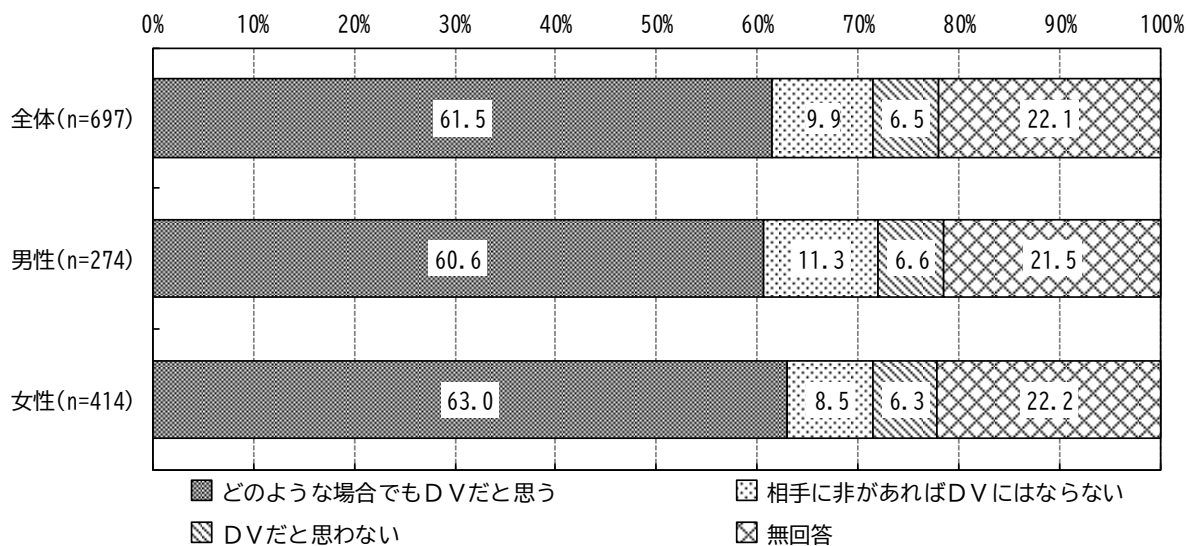
(カ)常に監視し、人間関係を制限する

「どのような場合でもDVだと思う」が55.1%と最も多く、次いで「相手に非があればDVにはならない」が13.1%、「DVだと思わない」が9.8%である。



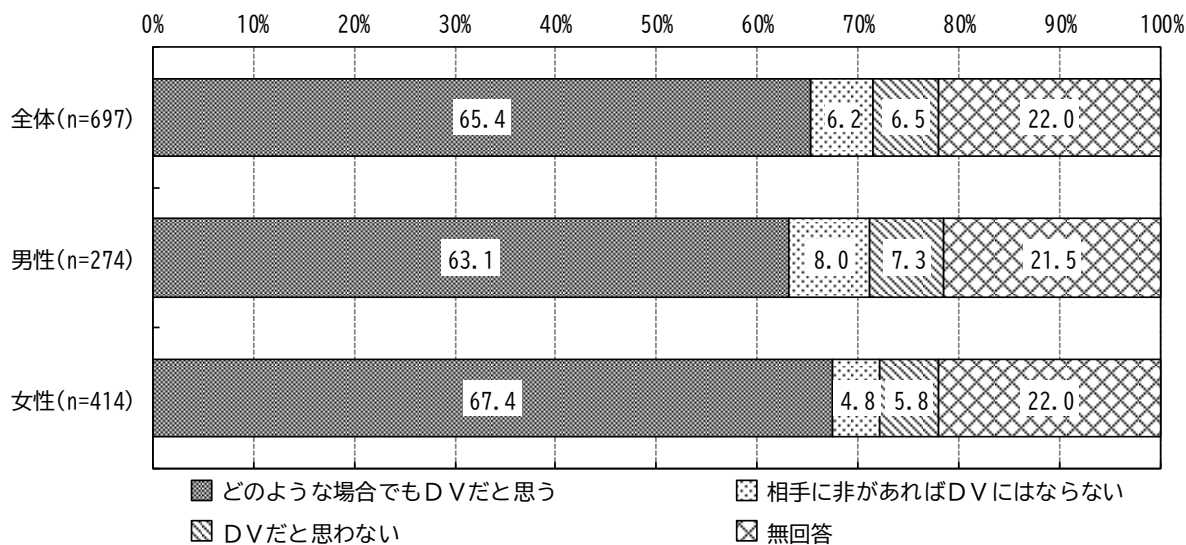
(キ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」等と侮辱的なことを言う

「どのような場合でもDVだと思う」が61.5%と最も多く、次いで「相手に非があればDVにはならない」が9.9%、「DVだと思わない」が6.5%である。



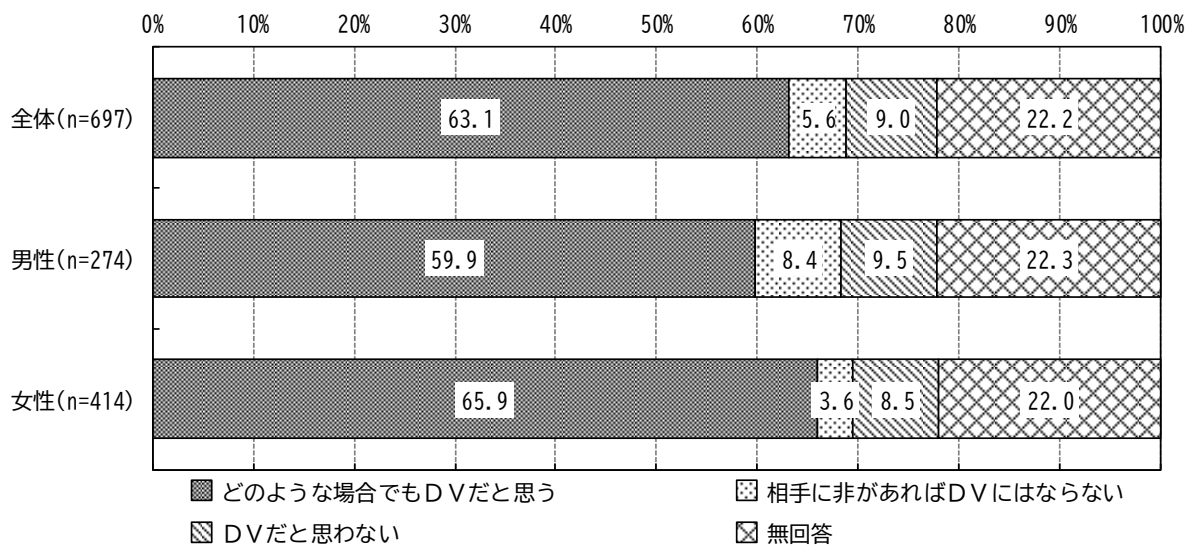
(ク)体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する

「どのような場合でもDVだと思う」が65.4%と最も多く、次いで「DVだと思わない」が6.5%、「相手に非があればDVにはならない」が6.2%である。



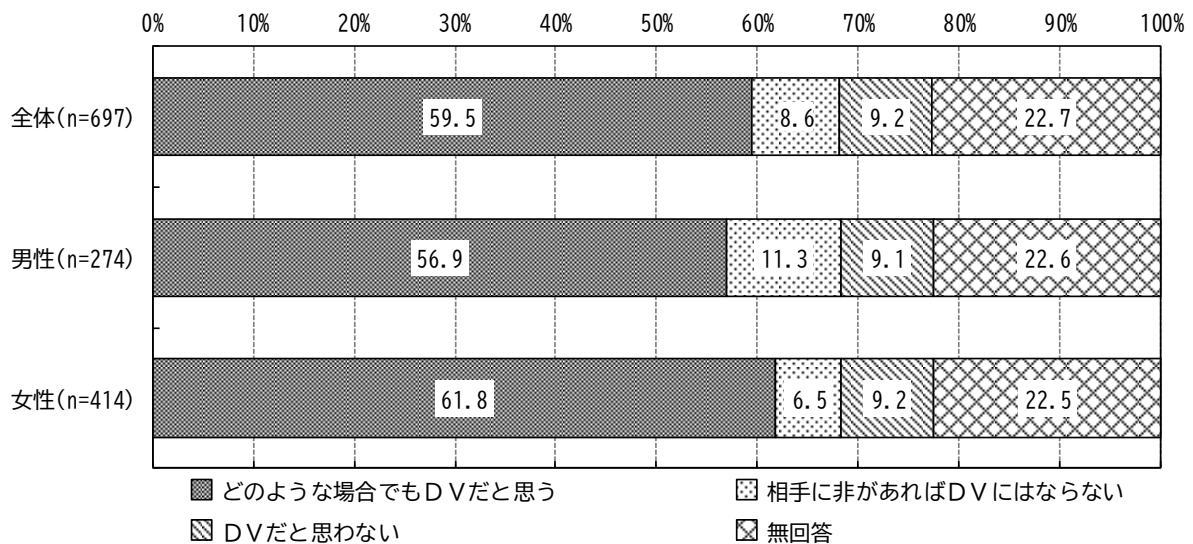
(ケ)見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

「どのような場合でもDVだと思う」が63.1%と最も多く、次いで「DVだと思わない」が9.0%、「相手に非があればDVにはならない」が5.6%である。



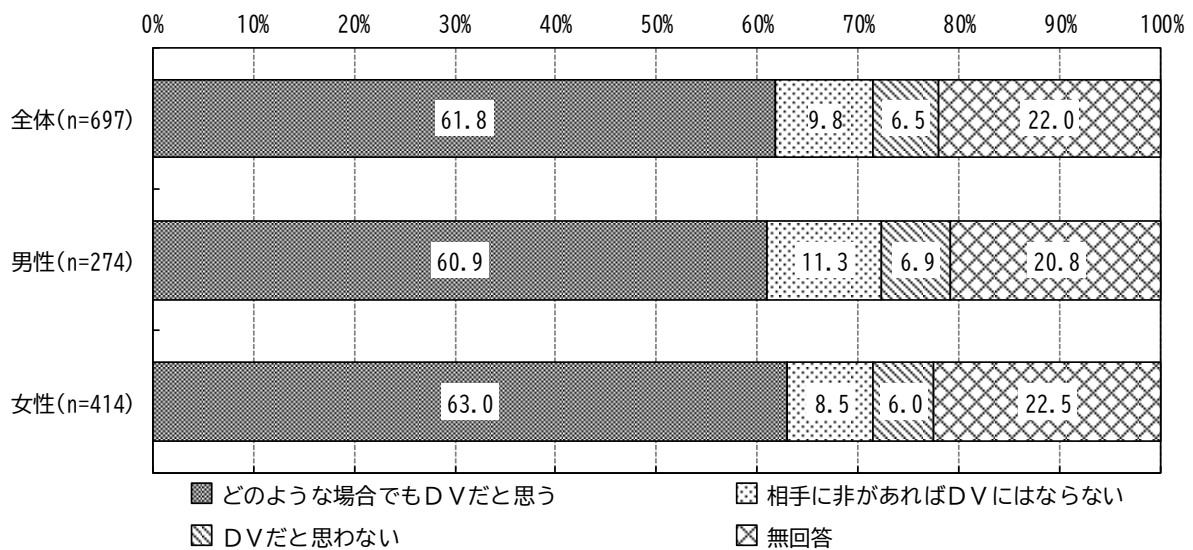
(コ)避妊に協力しない

「どのような場合でもDVだと思う」が59.5%と最も多く、次いで「DVだと思わない」が9.2%、「相手に非があればDVにはならない」が8.6%である。



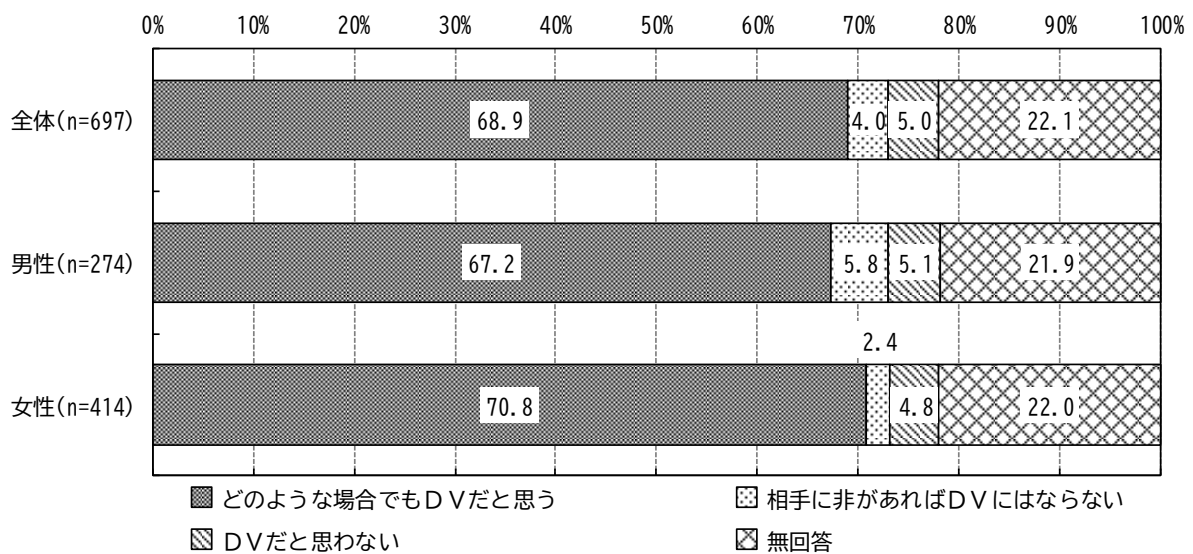
(サ)物を壊したり、大切な物を勝手に捨てる

「どのような場合でもDVだと思う」が61.8%と最も多く、次いで「相手に非があればDVにはならない」が9.8%、「DVだと思わない」が6.5%である。



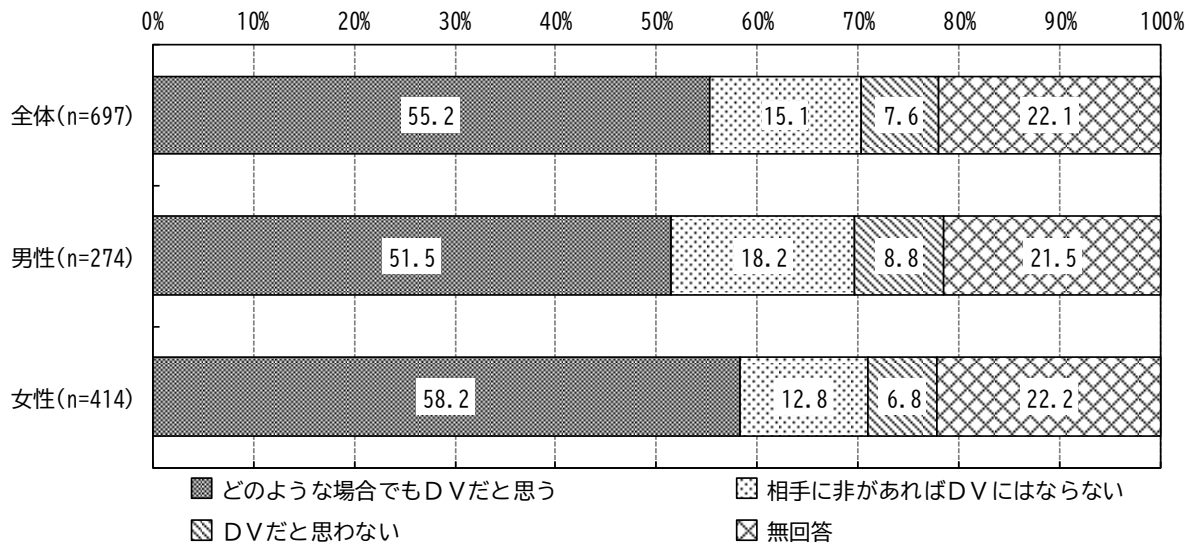
(シ)物を投げつける、髪の毛を引っ張る、殴る、蹴る等の行為

「どのような場合でもDVだと思う」が68.9%と最も多く、次いで「DVだと思わない」が5.0%、「相手に非があればDVにはならない」が4.0%である。



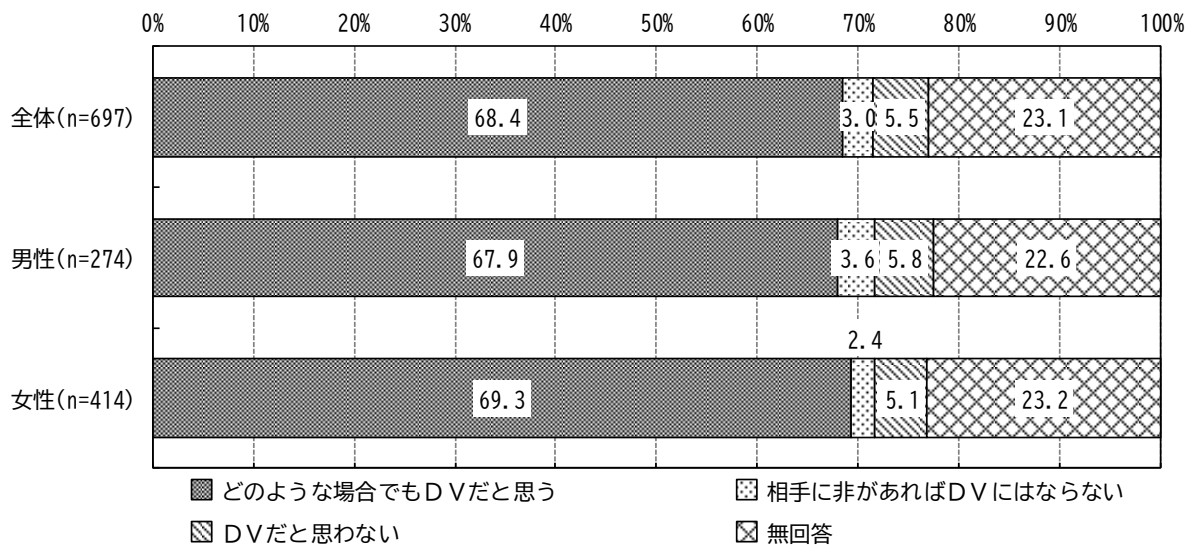
(ス)反論したり、意見を言ったりすることを許さない

「どのような場合でもDVだと思う」が55.2%と最も多く、次いで「相手に非があればDVにはならない」が15.1%、「DVだと思わない」が7.6%である。



(セ)子どもに危害を加えると脅す

「どのような場合でもDVだと思う」が68.4%と最も多く、次いで「DVだと思わない」が5.5%、「相手に非があればDVにはならない」が3.0%である。



■全体に対する分析

項目間でみると、「DVだと思わない」は、「何を言っても無視する」が19.1%で最も多く、次いで「交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する」が13.9%、「大声で怒鳴る」、「外出を制限する、どこで何をしているか行動をチェックする」が11.8%である。

「どのような場合でもDVだと思う」については、「何を言っても無視する」(25.8%)、「大声で怒鳴る」(31.3%)が他に比べて少ない。

項目	全体			男性			女性		
	どのような場合でもDVだと思う	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない	どのような場合でもDVだと思う	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない	どのような場合でもDVだと思う	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない
(ア)何を言っても無視する	25.8	34.6	19.1	25.5	33.9	19.7	26.3	35.3	18.4
(イ)大声で怒鳴る	31.3	36.9	11.8	28.1	39.4	12.4	33.8	35.3	11.1
(ウ)交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する	44.5	19.7	13.9	41.6	20.4	16.4	46.6	19.3	12.1
(エ)生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない	54.8	12.2	10.8	50.4	13.9	13.5	58.0	11.1	8.9
(オ)外出を制限する、どこで何をしているか行動をチェックする	47.2	19.1	11.8	42.3	21.5	14.2	50.7	17.4	10.1
(カ)常に監視し、人間関係を制限する	55.1	13.1	9.8	50.4	15.3	12.4	58.7	11.4	8.0
(キ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」等と侮辱的なことを言う	61.5	9.9	6.5	60.6	11.3	6.6	63.0	8.5	6.3
(ク)体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する	65.4	6.2	6.5	63.1	8.0	7.3	67.4	4.8	5.8
(ケ)見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	63.1	5.6	9.0	59.9	8.4	9.5	65.9	3.6	8.5
(コ)避妊に協力しない	59.5	8.6	9.2	56.9	11.3	9.1	61.8	6.5	9.2
(カ)物を壊したり、大切な物を勝手に捨てる	61.8	9.8	6.5	60.9	11.3	6.9	63.0	8.5	6.0
(シ)物を投げつける、髪の毛を引っ張る、殴る、蹴る等の行為	68.9	4.0	5.0	67.2	5.8	5.1	70.8	2.4	4.8
(ス)反論したり、意見を言ったりすることを許さない	55.2	15.1	7.6	51.5	18.2	8.8	58.2	12.8	6.8
(セ)子どもに危害を加えると脅す	68.4	3.0	5.5	67.9	3.6	5.8	69.3	2.4	5.1

■問 15 (イ) に対する考察

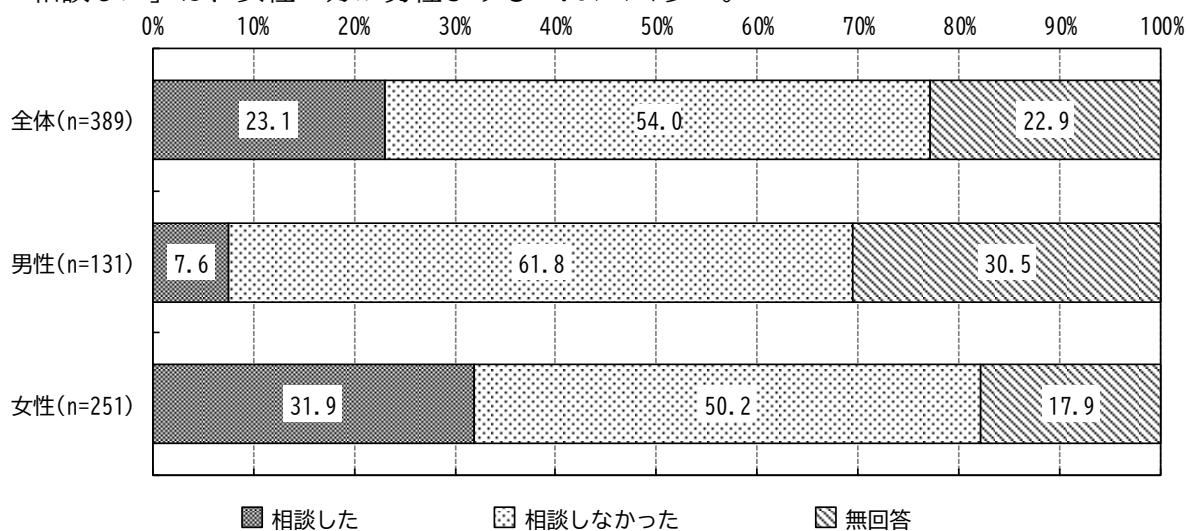
いずれの行為もDVと思わない人は一定数おり、状況によって認識を変える人も少なくない。このことから、DVの認識が十分でないことが伺える。

問16 問15 (ア) ~ (ソ) のうち1つでも「頻繁にあった」「数回あった」と回答した389人が回答。
 あなたはこれまでに、(ア) ~ (ソ) の行為を受けたことについて、だれかに打ち明けたり、相談しましたか。【〇は1つ】

「相談した」が23.1%、「相談しなかった」が54.0%である。

男性では「相談した」が7.6%、「相談しなかった」が61.8%である。女性では「相談した」が31.9%、「相談しなかった」が50.2%である。

「相談した」は、女性の方が男性よりも24.3ポイント多い。



■各項目について「頻繁にあった」と回答した人の相談状況（参考）

各項目について問15（1）にて「頻繁にあった」と回答した人の相談状況を分析したところ、「常に監視し、人間関係を制限する」、「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」等と侮辱的なことを言う」、「体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する」、「避妊に協力しない」、「子どもに危害を加えると脅す」については、「相談した」が6割を上回っている^{※7}。

項目	合計	相談した	相談しなかった	無回答
(ア)何を言っても無視する	17	23.5	70.6	5.9
(イ)大声で怒鳴る	24	45.8	50.0	4.2
(ウ)交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する	11	36.4	54.5	9.1
(エ)生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない	22	40.9	54.5	4.5
(オ)外出を制限する、どこで何をしているか行動をチェックする	11	45.5	45.5	9.1
(カ)常に監視し、人間関係を制限する	9	66.7	22.2	11.1
(キ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」等と侮辱的なことを言う	10	60.0	30.0	10.0
(ク)体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する	9	66.7	22.2	11.1
(ケ)見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	2	0.0	50.0	50.0
(コ)避妊に協力しない	8	62.5	25.0	12.5
(サ)物を壊したり、大切な物を勝手に捨てる	7	28.6	57.1	14.3
(シ)物を投げつける、髪の毛を引っ張る、殴る、蹴る等の行為	6	33.3	50.0	16.7
(ス)反論したり、意見を言ったりすることを許さない	12	41.7	50.0	8.3
(セ)子どもに危害を加えると脅す	3	66.7	0.0	33.3

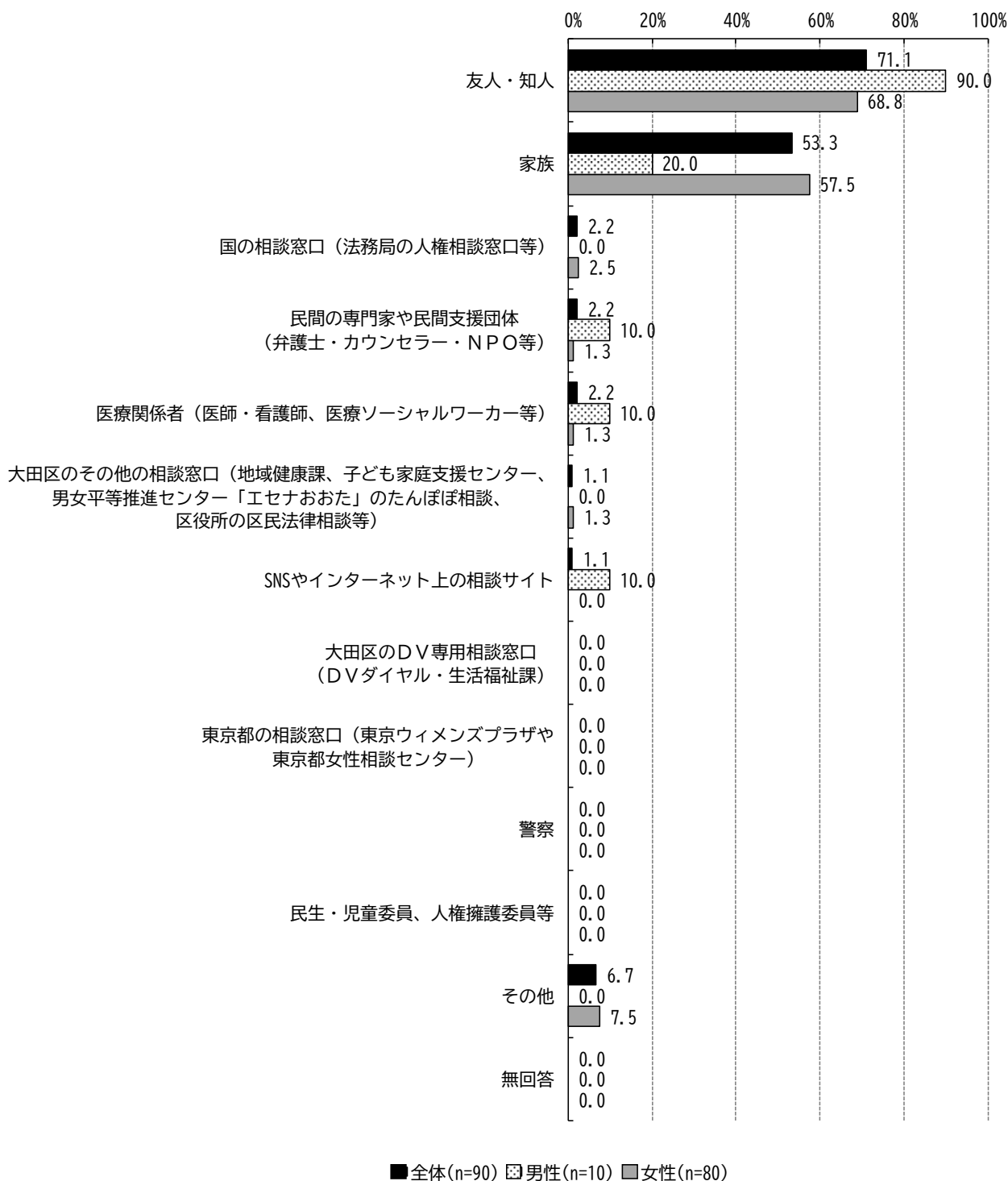
■問 16 に対する考察

DVだと認識されている傾向にある行為を受けている場合には相談する人も多いが、DVという認識も十分でない行為（無視や怒鳴ること）については相談する人も少なくなる。

^{※7} 「(イ) 大声で怒鳴る」、「(エ) 生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない」以外は、いずれも該当者が少ないため統計的に有意とは言えない。そのため参考として掲載する。

問16-2 問16で「相談した」と回答した90人が回答。
 そのとき、どこ（だれ）に相談しましたか。【〇はいくつでも】

「友人・知人」が71.1%と最も多く、次いで「家族」が53.3%、「その他」が6.7%である。
 男性・女性とも「家族」、「友人・知人」が上位2位である。



■問 16-2 に対する考察
 一番身近な家族や友人・知人に相談している様子が伺えるが、男性において家族に相談することが少ない。

問16-3 問16で「相談しなかった」と回答した210人が回答。

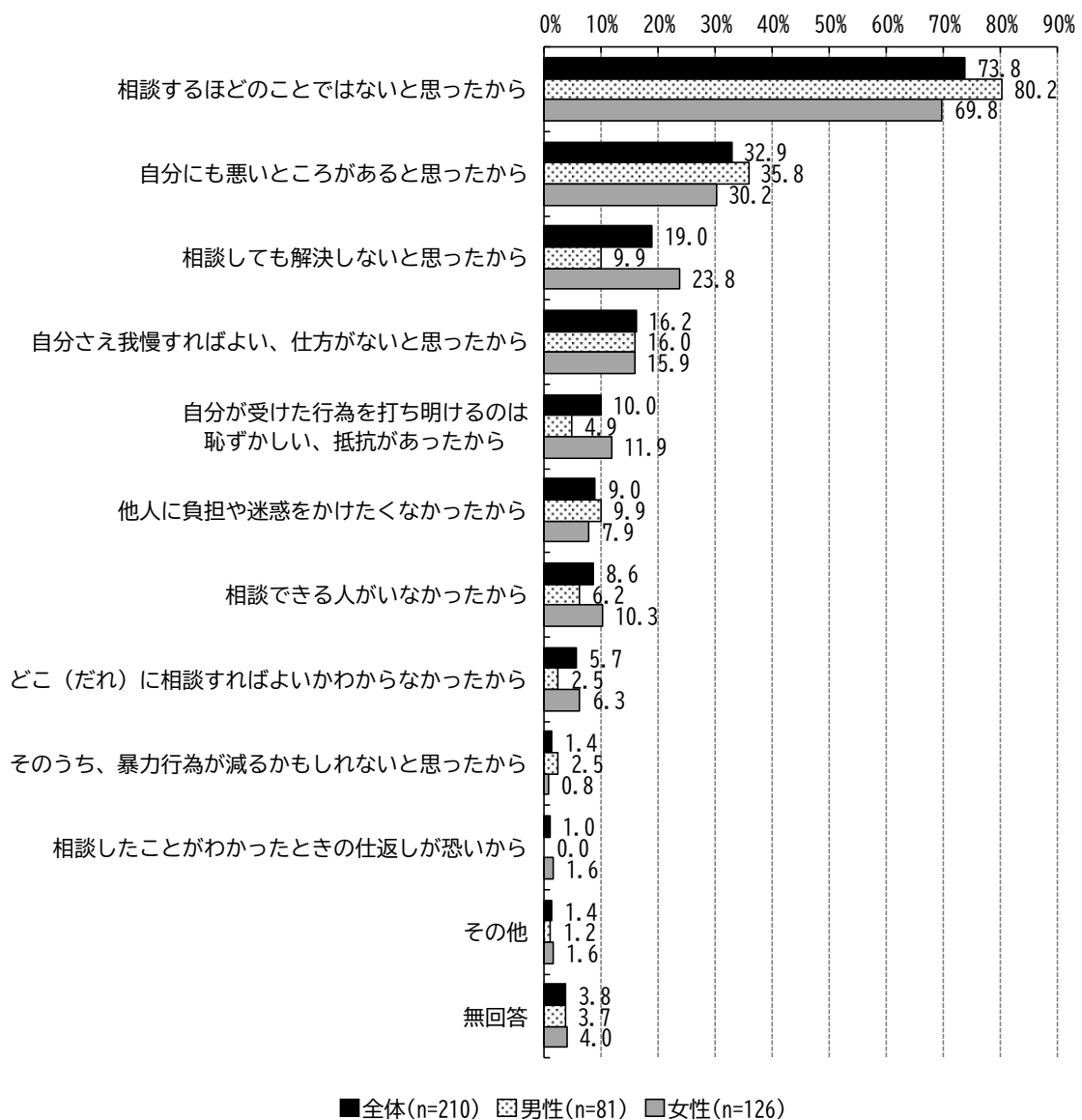
そのとき、どこ（だれ）にも相談できなかった、相談しなかったのはなぜですか。

【〇はいくつでも】

「相談するほどのことではないと思ったから」が73.8%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が32.9%、「相談しても解決しないと思ったから」が19.0%である。

上位2位は男性・女性で共通している。3位は、男性では「自分さえ我慢すればよい、仕方がないと思ったから」が16.0%、女性では「相談しても解決しないと思ったから」が23.8%である。

「相談しても解決しないと思ったから」は女性の方が男性（9.9%）よりも13.9ポイント多い。「自分が受けた行為を打ち明けるのは恥ずかしい、抵抗があったから」も女性の方が男性よりもやや多い。「相談するほどのことではないと思ったから」は男性（80.2%）の方が女性（69.8%）よりも10.4ポイント多い。



■問16-3に対する考察

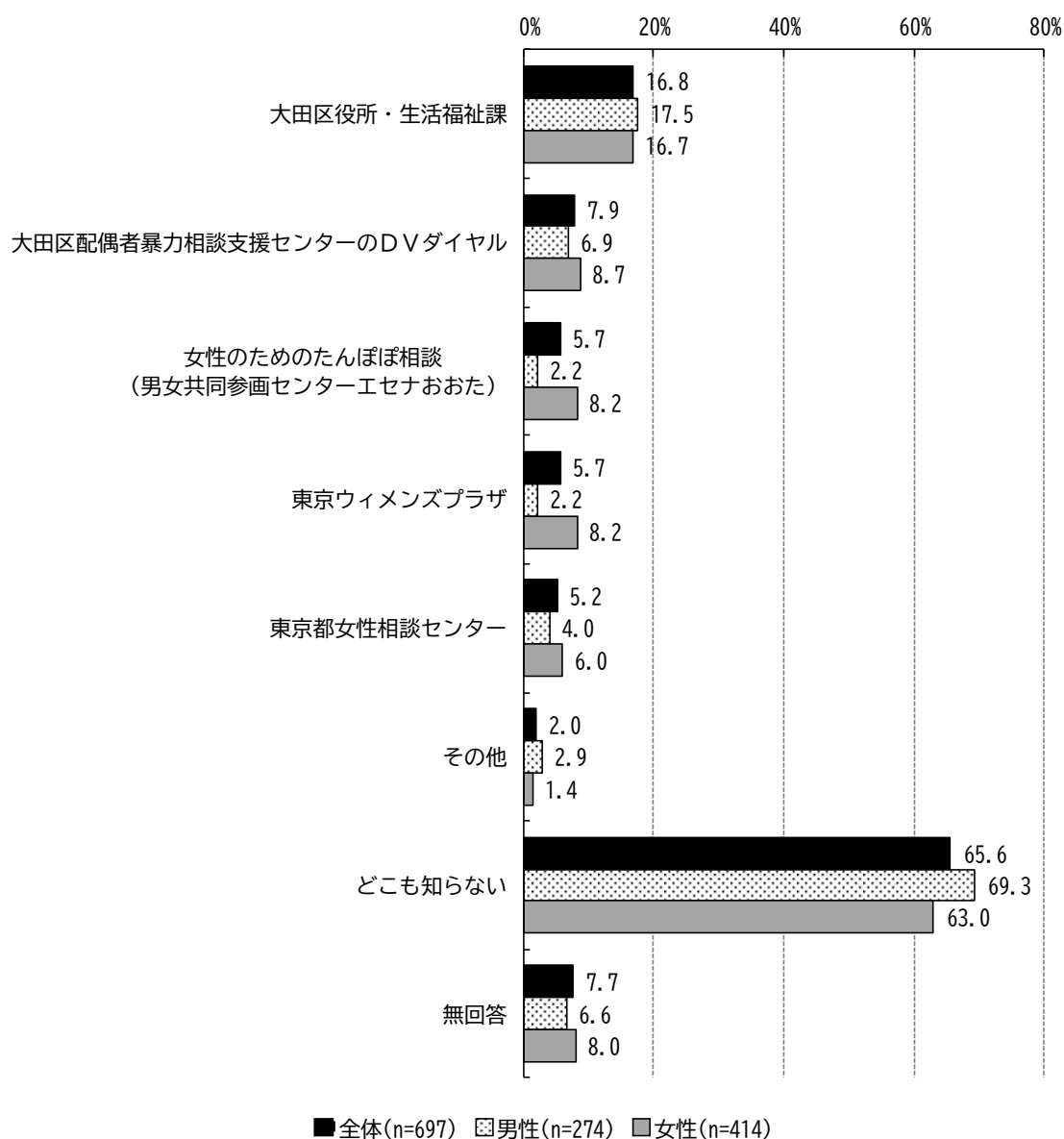
暴力の程度や頻度にかかわらず相談した方がよいという認識が普及していないと考えられる。

問17 あなたは、配偶者や恋人等のパートナーからの暴力被害の相談先は知っていますか。
【〇はいくつでも】

「どこも知らない」が65.6%と最も多く、次いで「大田区役所・生活福祉課」が16.8%、「大田区配偶者暴力相談支援センターのDVダイヤル」が7.9%である。

何らかの相談先を知っている人（100%から「どこも知らない」と「無回答」を除いて算出）は26.7%である。

上位3位は男性・女性で共通している。男性・女性ともに「どこも知らない」が最も多く、男性で69.3%、女性で63.0%である。何らかの相談先を知っている人は、男性で24.1%、女性で29.0%である。



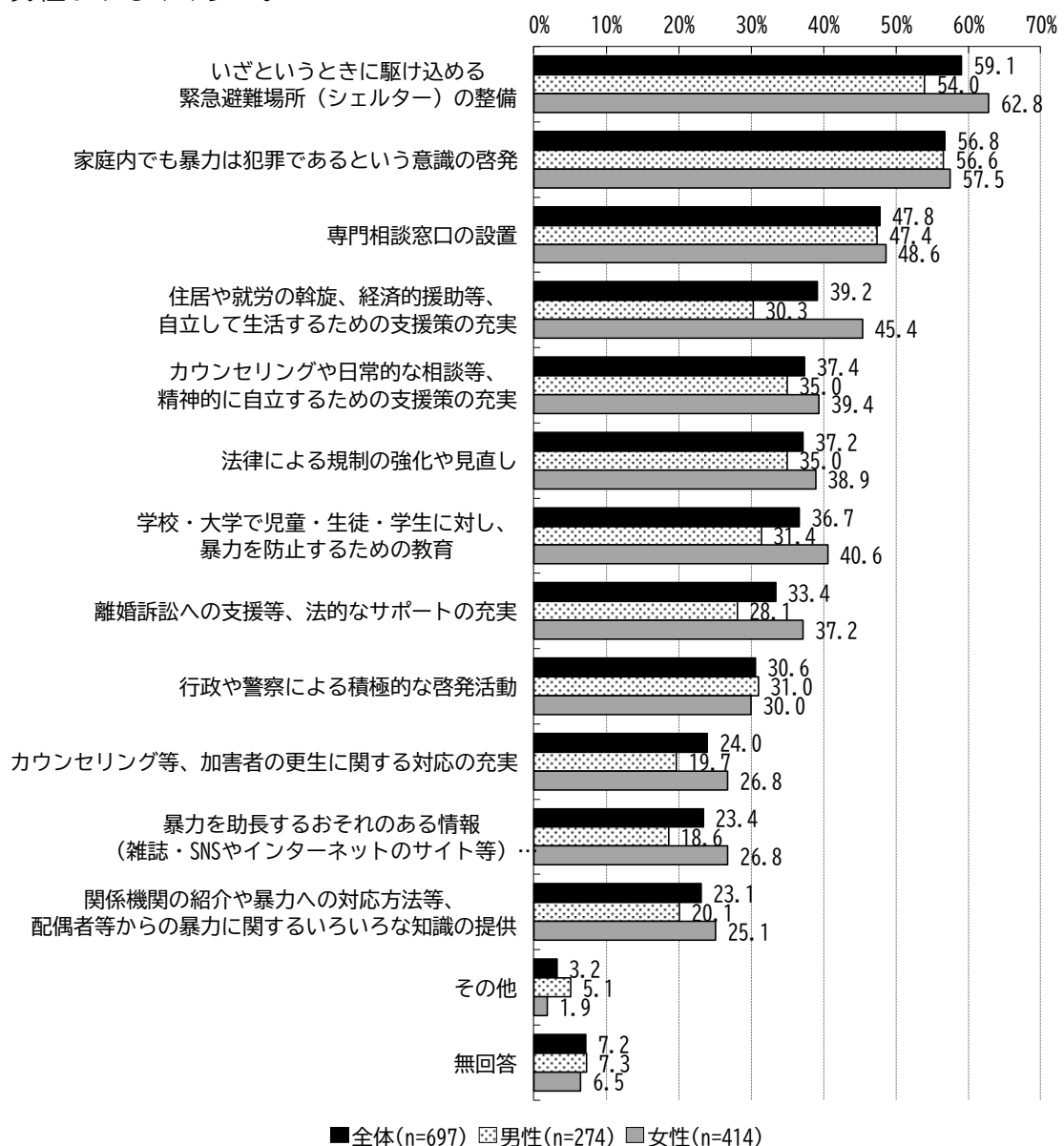
■問17に対する考察

公的な相談先を知っている人が少ない。

問18 あなたは、配偶者や恋人等のパートナーからの暴力の防止および被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」が59.1%と最も多く、次いで「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」が56.8%、「専門相談窓口の設置」が47.8%である。

上位3位は男性・女性で共通している（順位は異なる）。「住居や就労の斡旋、経済的援助等、自立して生活するための支援策の充実」は女性（45.4%）の方が男性（30.3%）よりも15.1ポイント多い。その他、「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」、「カウンセリング等、加害者の更生に関する対応の充実」、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育」、「離婚訴訟への支援等、法的なサポートの充実」は女性の方が男性よりもやや多い。



■問18に対する考察

性別による違いはみられないが、総じて女性の方が対策を必要としている。

6 地域活動等について

問19 あなたは、過去1年間で自主的に学んだことがありますか。【○はいくつでも】

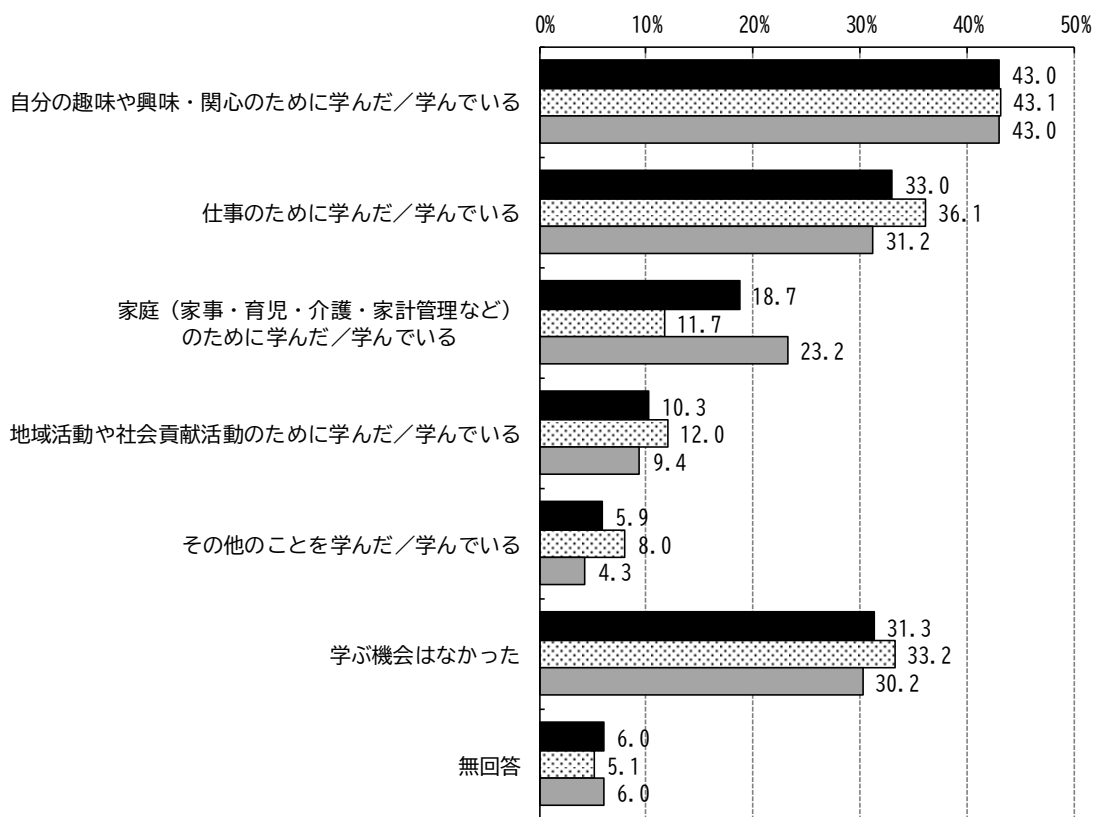
※読書やインターネットで検索して学んだ場合も含まれます。

※会社や団体などでの研修で学んだ場合は含みません。

「自分の趣味や興味・関心のために学んだ／学んでいる」が43.0%と最も多く、次いで「仕事のために学んだ／学んでいる」が33.0%、「学ぶ機会はなかった」が31.3%である。

過去1年間で何らかのことを自主的に学んだことのある人（100%から「学ぶ機会はなかった」と「無回答」を除いて算出）は62.7%である。男性で61.7%、女性で63.8%である。

上位3位は男性・女性で共通している。「家庭（家事・育児・介護・家計管理など）のために学んだ／学んでいる」は女性（23.2%）の方が男性（11.7%）よりも11.5ポイント多い。



■全体(n=697) □男性(n=274) ▨女性(n=414)

■年代による分析

男性・女性ともに、60歳代以上で「地域活動や社会貢献活動のために学んだ／学んでいる」が1割半ばとなり、全体に比べてやや多くなる。

男性では、「学ぶ機会はなかった」が20～30歳代で2割半ばであり、他の年代に比べて少ない。

	合計	自分の趣味や興味・関心のために学んだ／学んでいる	仕事のために学んだ／学んでいる	家庭（家事・育児・介護・家計管理など）のために学んだ／学んでいる	地域活動や社会貢献活動のために学んだ／学んでいる	その他のことを学んだ／学んでいる	学ぶ機会はなかった	無回答	
全体	687	42.9	33.0	18.6	10.5	5.8	31.4	5.7	
男性	20～29歳	24	58.3	45.8	12.5	8.3	12.5	25.0	4.2
	30～39歳	40	52.5	60.0	25.0	10.0	2.5	25.0	-
	40～49歳	43	44.2	39.5	16.3	9.3	4.7	39.5	-
	50～59歳	47	34.0	53.2	8.5	6.4	12.8	34.0	-
	60～69歳	51	41.2	33.3	5.9	17.6	7.8	37.3	3.9
	70歳以上	69	39.1	7.2	7.2	15.9	8.7	33.3	15.9
女性	20～29歳	40	52.5	42.5	15.0	2.5	2.5	27.5	-
	30～39歳	57	45.6	33.3	35.1	3.5	5.3	35.1	3.5
	40～49歳	90	40.0	51.1	33.3	6.7	3.3	27.8	1.1
	50～59歳	79	49.4	31.6	26.6	10.1	5.1	26.6	2.5
	60～69歳	64	35.9	18.8	15.6	15.6	4.7	37.5	3.1
	70歳以上	83	38.6	10.8	10.8	14.5	4.8	28.9	21.7

■就労状況による分析

職業に就いている場合も、「仕事のために学んだ／学んでいる」は男性・女性ともに4割程度であり、大きな違いはみられない。「家庭（家事・育児・介護・家計管理など）のために学んだ／学んでいる」は、女性の方が男性よりもやや多い。

	合計	自分の趣味や興味・関心のために学んだ／学んでいる	仕事のために学んだ／学んでいる	家庭（家事・育児・介護・家計管理など）のために学んだ／学んでいる	地域活動や社会貢献活動のために学んだ／学んでいる	その他のことを学んだ／学んでいる	学ぶ機会はなかった	無回答	
全体	671	43.4	33.7	18.6	10.6	5.8	31.1	5.1	
男性	職業に就いている	218	42.7	44.5	13.3	11.0	6.4	34.9	2.3
	職業には就いていない	49	51.0	4.1	6.1	18.4	16.3	18.4	16.3
女性	職業に就いている	291	44.3	40.2	22.7	8.6	3.1	29.2	3.1
	職業には就いていない	113	38.9	8.8	23.9	11.5	7.1	34.5	10.6

■問 19 に対する考察

学んでいる人の割合は男性・女性で大きな差はないが、学習内容をみると女性の方が家庭のために学んでいることが分かる。特に女性の30～40歳代で家庭のために学んだ人が多くなり、家事・育児を負担する上での学習行動と推察される。

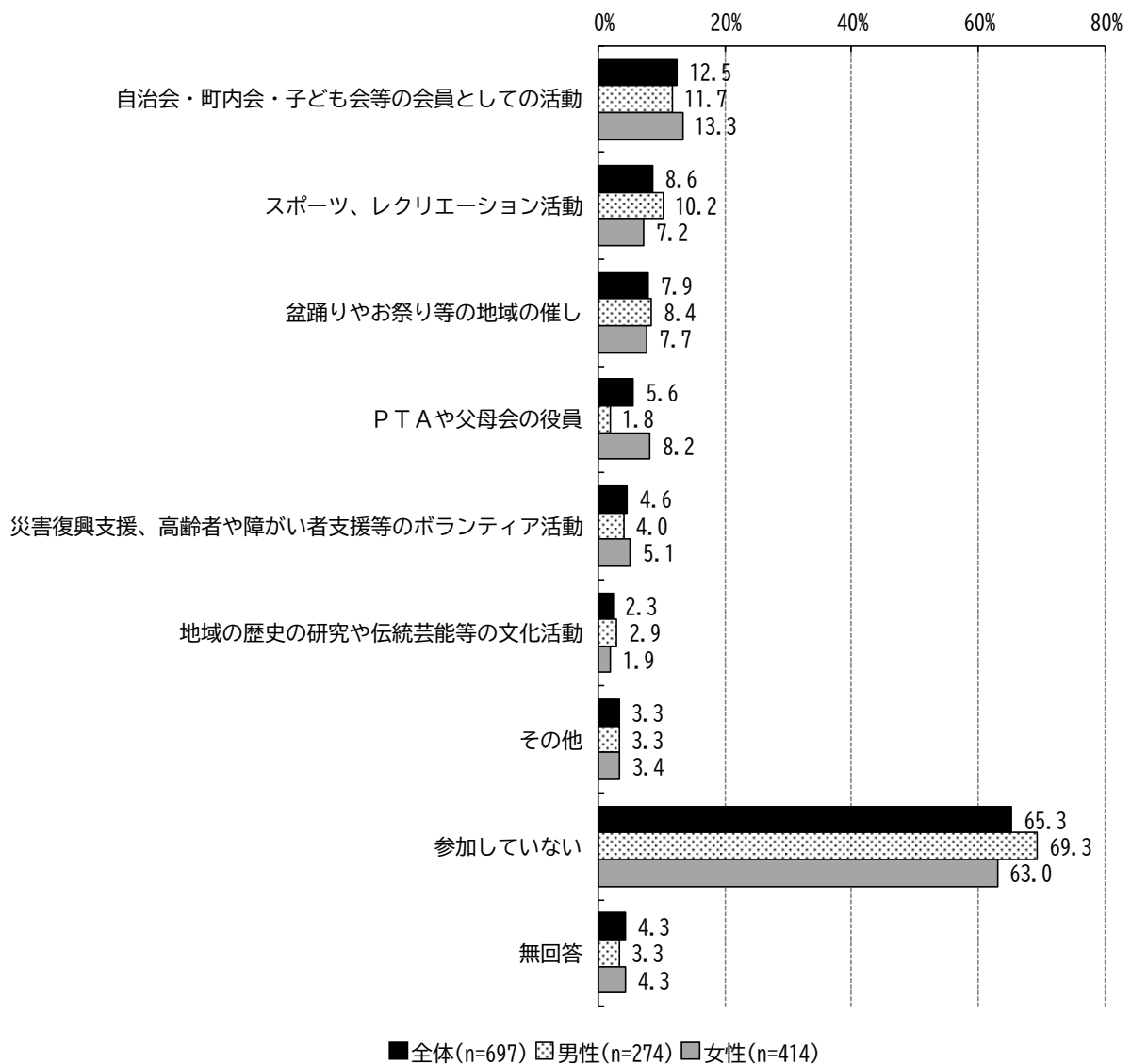
職業に就いている場合、仕事のために学ぶ機会は男性・女性に差はみられない。ただし、職業に就いている場合も女性は家庭のために学んでいることが伺える。

問20 あなたは、現在、何らかの地域活動や社会貢献活動等に参加していますか。【〇はいつでも】

「参加していない」が65.3%と最も多く、次いで「自治会・町内会・子ども会等の会員としての活動」が12.5%、「スポーツ、レクリエーション活動」が8.6%である。

何らかの地域活動や社会貢献活動等に参加している人(100%から「参加していない」と「無回答」を除いて算出)は30.4%である。男性では27.4%、女性では32.7%であり、女性の方が男性よりもやや多い。

上位2位は男性・女性で共通しているが、3位は、男性では「スポーツ、レクリエーション活動」が10.2%、女性では「PTAや父母会の役員」が8.2%である。「PTAや父母会の役員」は女性(8.2%)の方が男性(1.8%)よりもやや多い。



■年代による分析

女性では、年代が上がるにつれて「参加していない」がおおむね少なくなり、60歳代・70歳以上では5割台となる。

一方、男性では、70歳以上では「参加していない」が50.7%と他の年代に比べて少ないが、60歳代で70.6%であり、女性の同年代に比べて多い。

	合計	自治会・町内会・子ども会等の会員としての活動	スポーツ、レクリエーション活動	盆踊りやお祭り等の地域の催し	PTAや父母会の役員	災害復興支援、高齢者や障がい者支援等のボランティア活動	地域の歴史の研究や伝統芸能等の文化活動	その他	参加していない	無回答
全体	687	12.7	8.4	8.0	5.7	4.7	2.3	3.2	65.6	3.9
男性										
20～29歳	24	4.2	4.2	-	-	-	-	-	87.5	4.2
30～39歳	40	7.5	10.0	15.0	-	5.0	2.5	-	77.5	-
40～49歳	43	7.0	2.3	7.0	7.0	2.3	-	7.0	72.1	-
50～59歳	47	8.5	8.5	2.1	2.1	4.3	-	4.3	76.6	-
60～69歳	51	19.6	11.8	11.8	-	5.9	5.9	2.0	70.6	-
70歳以上	69	15.9	17.4	10.1	1.4	4.3	5.8	4.3	50.7	11.6
女性										
20～29歳	40	-	-	7.5	-	-	-	5.0	85.0	2.5
30～39歳	57	-	8.8	5.3	10.5	-	1.8	-	70.2	5.3
40～49歳	90	11.1	8.9	10.0	21.1	1.1	1.1	2.2	62.2	1.1
50～59歳	79	12.7	8.9	2.5	7.6	6.3	5.1	2.5	65.8	-
60～69歳	64	28.1	6.3	6.3	1.6	12.5	-	3.1	57.8	4.7
70歳以上	83	20.5	7.2	13.3	2.4	8.4	2.4	6.0	50.6	12.0

■就労状況による分析

男性では、職業に就いている場合の方が「参加していない」が多く、71.6%である。

	合計	自治会・町内会・子ども会等の会員としての活動	スポーツ、レクリエーション活動	盆踊りやお祭り等の地域の催し	PTAや父母会の役員	災害復興支援、高齢者や障がい者支援等のボランティア活動	地域の歴史の研究や伝統芸能等の文化活動	その他
全体	671	12.7	8.3	7.9	5.7	4.6	2.2	3.3
男性								
職業に就いている	218	12.4	8.7	9.6	2.3	4.6	2.3	2.8
職業には就いていない	49	8.2	18.4	4.1	-	2.0	6.1	4.1
女性								
職業に就いている	291	12.0	7.6	7.9	8.9	4.5	2.4	4.1
職業には就いていない	113	16.8	5.3	6.2	6.2	6.2	-	1.8

	合計	参加していない	無回答
全体	671	66.2	3.4
男性			
職業に就いている	218	71.6	1.4
職業には就いていない	49	61.2	10.2
女性			
職業に就いている	291	63.9	2.7
職業には就いていない	113	63.7	6.2

■問 20 に対する考察

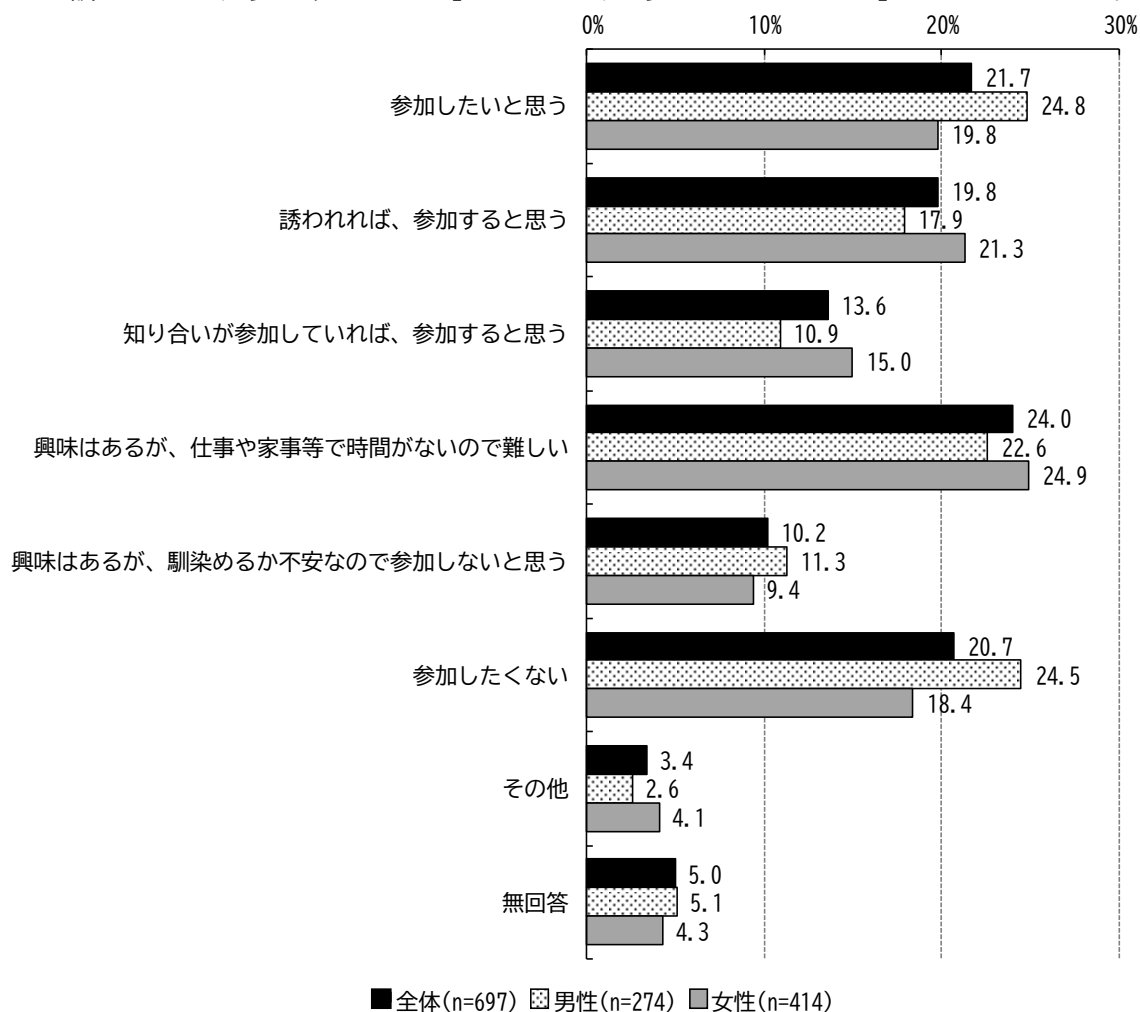
地域活動への参加はやや女性の方が多いが、いずれも3割程度である。女性は年代が上がるにつれて参加するようになるが、男性においては定年退職する年代（60歳代）であっても地域活動に参加していない人が多い。

問21 あなたは、今後、何らかの地域活動に参加したいと思いますか。【〇はいくつでも】

「興味はあるが、仕事や家事等で時間がないので難しい」が24.0%と最も多く、次いで「参加したいと思う」が21.7%、「参加したくない」が20.7%である。

男性では「参加したいと思う」が24.8%で最も多く、次いで「参加したくない」が24.5%、「興味はあるが、仕事や家事等で時間がないので難しい」が22.6%である。「参加したいと思う」は男性の方が女性（19.8%）よりもやや多い。

女性では「興味はあるが、仕事や家事等で時間がないので難しい」が24.9%で最も多く、次いで「誘われれば、参加すると思う」が21.3%、「参加したいと思う」が19.8%である。



■年代による分析

男性では、いずれの年代も「参加したい」が2～3割である。女性では20歳代で「参加したいと思う」が7.5%であり、他の年代に比べて少ない。

	合計	参加したいと思う	誘われれば、参加すると思う	知り合いが参加していれば、参加すると思う	興味はあるが、馴染めるか不安なので参加しないと思う	興味はあるが、仕事や家事等で時間がないので難しい	参加したくない	その他	無回答
全体	687	21.7	19.9	13.4	10.2	24.0	20.8	3.5	4.7
男性									
20～29歳	24	25.0	16.7	4.2	16.7	25.0	33.3	-	4.2
30～39歳	40	22.5	20.0	15.0	10.0	22.5	22.5	-	-
40～49歳	43	20.9	11.6	7.0	7.0	37.2	25.6	-	-
50～59歳	47	25.5	21.3	12.8	10.6	36.2	23.4	-	2.1
60～69歳	51	31.4	17.6	7.8	15.7	15.7	29.4	-	-
70歳以上	69	23.2	18.8	14.5	10.1	8.7	18.8	10.1	17.4
女性									
20～29歳	40	7.5	35.0	27.5	7.5	17.5	22.5	-	-
30～39歳	57	21.1	15.8	10.5	15.8	29.8	15.8	3.5	1.8
40～49歳	90	14.4	14.4	18.9	8.9	33.3	20.0	3.3	1.1
50～59歳	79	25.3	17.7	13.9	11.4	31.6	16.5	5.1	-
60～69歳	64	25.0	25.0	7.8	3.1	25.0	20.3	1.6	3.1
70歳以上	83	20.5	26.5	14.5	9.6	9.6	16.9	8.4	16.9

■就労状況による分析

職業に就いている場合、「興味はあるが、仕事や家事等で時間がないので難しい」が最も多く、男性で27.5%、女性で31.3%である。

	合計	参加したいと思う	誘われれば、参加すると思う	知り合いが参加していれば、参加すると思う	興味はあるが、馴染めるか不安なので参加しないと思う	興味はあるが、仕事や家事等で時間がないので難しい	参加したくない	その他	無回答
全体	671	21.9	20.1	13.4	10.1	24.3	21.0	3.6	3.9
男性									
職業に就いている	218	24.3	17.4	11.5	10.6	27.5	24.8	1.8	2.8
職業には就いていない	49	28.6	20.4	8.2	14.3	2.0	24.5	6.1	14.3
女性									
職業に就いている	291	19.9	19.2	15.5	8.6	31.3	17.5	2.4	2.7
職業には就いていない	113	19.5	27.4	14.2	11.5	9.7	21.2	8.8	4.4

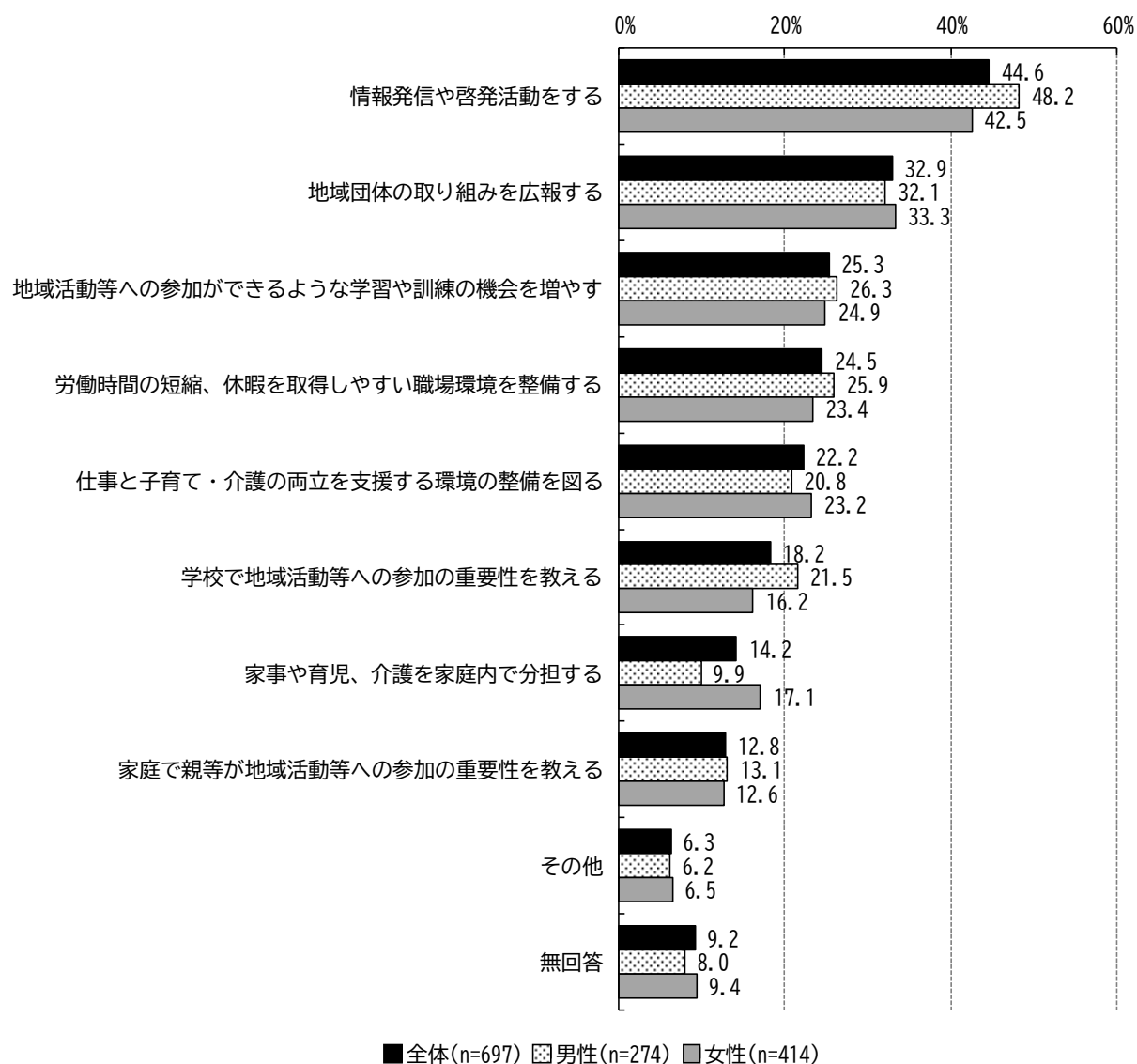
■問 21 に対する考察

男性の60歳代では、地域活動に参加していないが、参加意向を持つ人は多い。男性・女性ともに40～50歳代で仕事や家事のために地域活動への参加できないと感じている。

問22 あなたは、地域活動等の参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

「情報発信や啓発活動をする」が44.6%と最も多く、次いで「地域団体の取り組みを広報する」が32.9%、「地域活動等への参加ができるような学習や訓練の機会を増やす」が25.3%である。

上位3位は男性・女性で共通している。「家事や育児、介護を家庭内で分担する」が女性（17.1%）の方が男性（9.9%）よりもやや多い。



■年代による分析

男性では50～60歳代で「情報発信や啓発活動をする」が5割台で、他の年代に比べて多い。また、40歳代では「労働時間の短縮、休暇を取得しやすい職場環境を整備する」(46.5%)、「仕事と子育て・介護の両立を支援する環境の整備を図る」(34.9%)が多い。

女性では20～30歳代において「労働時間の短縮、休暇を取得しやすい職場環境を整備する」が4割程度であり、他の年代に比べて多い。

	合計	情報発信 や啓発活 動をする	地域団体 の取り組 みを広報 する	地域活動 等への参 加ができ るような 学習や訓 練の機会 を増やす	労働時間 の短縮、 休暇を取 得しやす い職場環 境を整備 する	仕事と子 育て・介 護の両立 を支援す る環境の 整備を図 る	学校で地 域活動等 への参加 の重要性 を教える	家事や育 児、介護 を家庭内 で分担す る
全体	687	44.7	32.9	25.3	24.3	22.1	18.3	14.1
男性								
20～29歳	24	45.8	33.3	12.5	37.5	12.5	8.3	8.3
30～39歳	40	40.0	25.0	30.0	30.0	22.5	20.0	15.0
40～49歳	43	41.9	34.9	25.6	46.5	34.9	25.6	9.3
50～59歳	47	57.4	36.2	21.3	19.1	19.1	21.3	10.6
60～69歳	51	56.9	37.3	33.3	27.5	23.5	23.5	9.8
70歳以上	69	44.9	27.5	27.5	10.1	13.0	23.2	7.2
女性								
20～29歳	40	50.0	30.0	15.0	40.0	32.5	10.0	10.0
30～39歳	57	45.6	33.3	15.8	42.1	26.3	19.3	24.6
40～49歳	90	40.0	30.0	23.3	20.0	21.1	13.3	13.3
50～59歳	79	45.6	38.0	27.8	24.1	20.3	16.5	20.3
60～69歳	64	45.3	39.1	32.8	20.3	18.8	17.2	18.8
70歳以上	83	33.7	30.1	27.7	7.2	24.1	19.3	14.5

	合計	家庭で親 等が地域 活動等へ の参加の 重要性を 教える	その他	無回答
全体	687	12.8	6.4	8.9
男性				
20～29歳	24	8.3	12.5	4.2
30～39歳	40	12.5	10.0	2.5
40～49歳	43	14.0	9.3	4.7
50～59歳	47	12.8	-	4.3
60～69歳	51	13.7	5.9	2.0
70歳以上	69	14.5	4.3	21.7
女性				
20～29歳	40	5.0	2.5	2.5
30～39歳	57	7.0	10.5	3.5
40～49歳	90	13.3	12.2	6.7
50～59歳	79	13.9	2.5	3.8
60～69歳	64	15.6	4.7	9.4
70歳以上	83	15.7	4.8	25.3

■就労状況による分析

職業に就いている場合も、男性・女性ともに、全体と上位2位は共通している。ただし、3位は男性・女性ともに「労働時間の短縮、休暇を取得しやすい職場環境を整備する」で、男性で30.3%、女性で27.5%である。

	合計	情報発信 や啓発活 動をする	地域団体 の取り組 みを広報 する	地域活動 等への参 加ができ るような 学習や訓 練の機会 を増やす	労働時間 の短縮、 休暇を取 得しやす い職場環 境を整備 する	仕事と子 育て・介 護の両立 を支援す る環境の 整備を図 る	学校で地 域活動等 への参加 の重要性 を教える	家事や育 児、介護 を家庭内 で分担す る
全体	671	45.3	33.2	25.5	25.0	22.7	18.3	14.5
男性								
職業に就いている	218	47.7	33.9	27.1	30.3	23.9	21.1	11.0
職業には就いていない	49	53.1	28.6	20.4	10.2	8.2	24.5	6.1
女性								
職業に就いている	291	45.7	33.7	22.7	27.5	22.3	14.8	16.5
職業には就いていない	113	36.3	32.7	31.9	15.0	27.4	19.5	19.5

	合計	家庭で親 等が地域 活動等へ の参加の 重要性を 教える	その他	無回答
全体	671	13.1	6.6	7.7
男性				
職業に就いている	218	14.7	5.5	5.5
職業には就いていない	49	8.2	10.2	14.3
女性				
職業に就いている	291	12.4	7.9	7.6
職業には就いていない	113	14.2	3.5	9.7

■問 22 に対する考察

男性・女性ともに、就業している場合や働き盛りの年代（30～40歳代）においては労働時間の長さが挙げられており、働き方が課題であると考えられる。

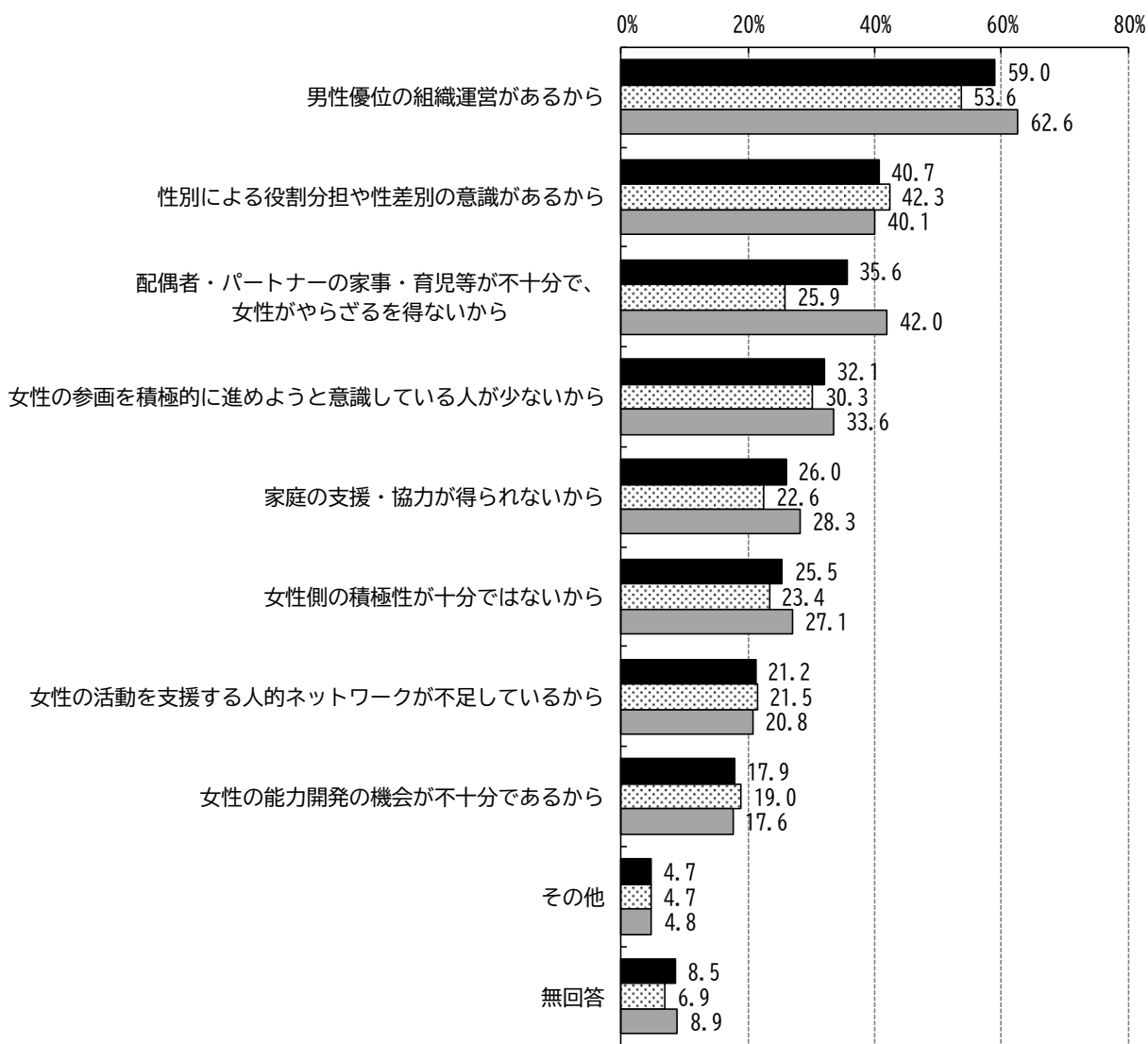
問23 あなたは、地域活動をはじめ、政治や企業活動等、あらゆる分野において、政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。【〇はいくつでも】

「男性優位の組織運営があるから」が59.0%と最も多く、次いで「性別による役割分担や性差別の意識があるから」が40.7%、「配偶者・パートナーの家事・育児等が不十分で、女性がやらざるを得ないから」が35.6%である。

男性・女性ともに「男性優位の組織運営があるから」が最も多い。男性で53.6%、女性で62.6%となっており、女性の方が9.0ポイント多い。

次いで男性では「性別による役割分担や性差別の意識があるから」が42.3%、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ないから」が30.3%である。女性では「配偶者・パートナーの家事・育児等が不十分で、女性がやらざるを得ないから」が42.0%、「性別による役割分担や性差別の意識があるから」が40.1%である。

「配偶者・パートナーの家事・育児等が不十分で、女性がやらざるを得ないから」は女性の方が男性（25.9%）よりも16.1ポイント多い。



■全体(n=697) □男性(n=274) ▨女性(n=414)

■年代による分析

「家庭の支援・協力が得られないから」についてみると、女性では、年代が上がるにつれておおむね少なくなる。

「配偶者・パートナーの家事・育児等が不十分で、女性がやらざるを得ないから」については、女性では30歳代で61.4%であり、他の年代に比べて多い。

		合計	男性優位の組織運営があるから	性別による役割分担や性差別の意識があるから	配偶者・パートナーの家事・育児等が不十分で、女性がやらざるを得ないから	女性の参画を積極的に進めようとして意識している人が少ないから	家庭の支援・協力が得られないから	女性側の積極性が十分ではないから	女性の活動を支援する人的ネットワークが不足しているから
全体		687	59.0	40.9	35.5	32.2	25.9	25.6	21.1
男性	20～29歳	24	41.7	29.2	41.7	29.2	20.8	25.0	16.7
	30～39歳	40	45.0	45.0	32.5	17.5	27.5	20.0	12.5
	40～49歳	43	55.8	44.2	34.9	25.6	30.2	23.3	20.9
	50～59歳	47	61.7	48.9	23.4	38.3	21.3	10.6	12.8
	60～69歳	51	58.8	39.2	21.6	31.4	25.5	39.2	27.5
	70歳以上	69	52.2	42.0	15.9	34.8	14.5	21.7	30.4
女性	20～29歳	40	67.5	60.0	32.5	30.0	42.5	25.0	22.5
	30～39歳	57	63.2	47.4	61.4	28.1	28.1	22.8	21.1
	40～49歳	90	63.3	46.7	41.1	30.0	30.0	24.4	20.0
	50～59歳	79	73.4	43.0	45.6	35.4	25.3	25.3	20.3
	60～69歳	64	67.2	26.6	37.5	43.8	26.6	32.8	23.4
	70歳以上	83	44.6	25.3	33.7	32.5	22.9	31.3	19.3

		合計	女性の能力開発の機会が不十分であるから	その他	無回答
全体		687	18.2	4.8	8.2
男性	20～29歳	24	25.0	8.3	4.2
	30～39歳	40	22.5	10.0	2.5
	40～49歳	43	20.9	9.3	2.3
	50～59歳	47	8.5	-	4.3
	60～69歳	51	13.7	2.0	3.9
	70歳以上	69	24.6	2.9	17.4
女性	20～29歳	40	20.0	2.5	-
	30～39歳	57	12.3	12.3	3.5
	40～49歳	90	11.1	8.9	5.6
	50～59歳	79	15.2	1.3	6.3
	60～69歳	64	29.7	1.6	7.8
	70歳以上	83	20.5	2.4	24.1

■問 23 に対する考察

女性では家事・育児等を分担することを地域参加促進に必要なこととして挙げていることから、女性の社会参画には家庭への男性の参画が求められていると考えられる。

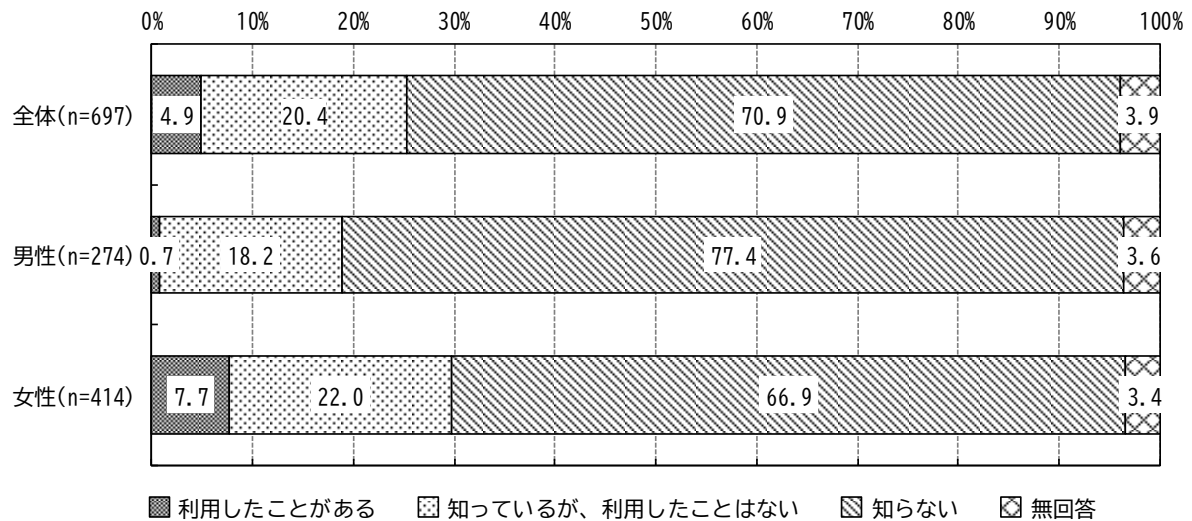
7 男女共同参画の取り組み等について

問24 あなたは、大田区の次の施設や取り組みを知っていますか。また利用したことはありますか。(1)～(3)についてそれぞれお答えください。【○はそれぞれ1つずつ】

(1)大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

「知らない」が70.9%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が20.4%、「利用したことがある」が4.9%である。

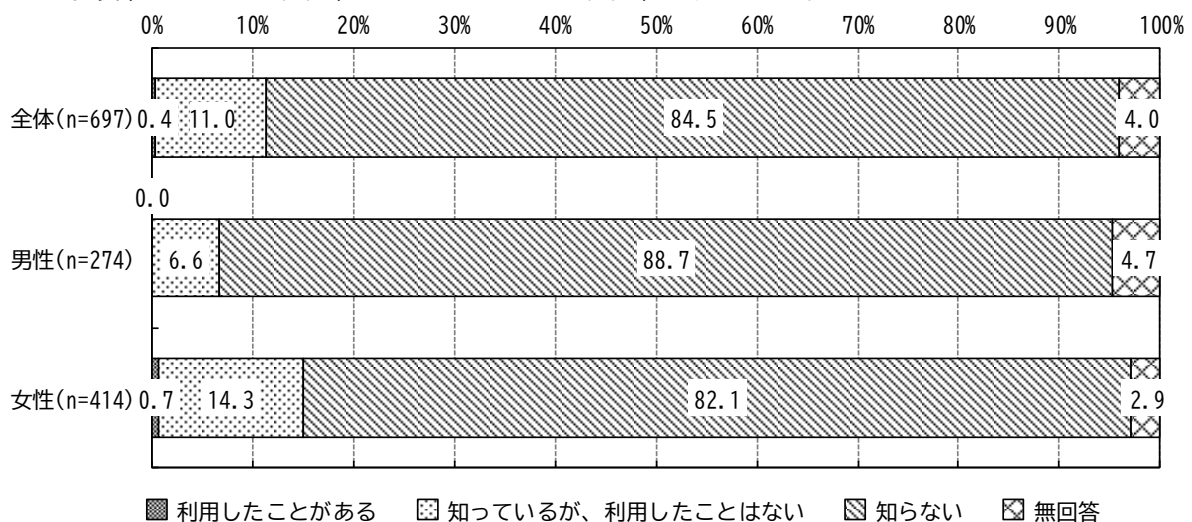
知っている人(「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計)は25.3%である。男性では18.9%、女性では29.7%であり、女性の方が10.8ポイント多い。



(2)女性のためのたんぽぽ相談

「知らない」が84.5%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が11.0%、「利用したことがある」が0.4%である。

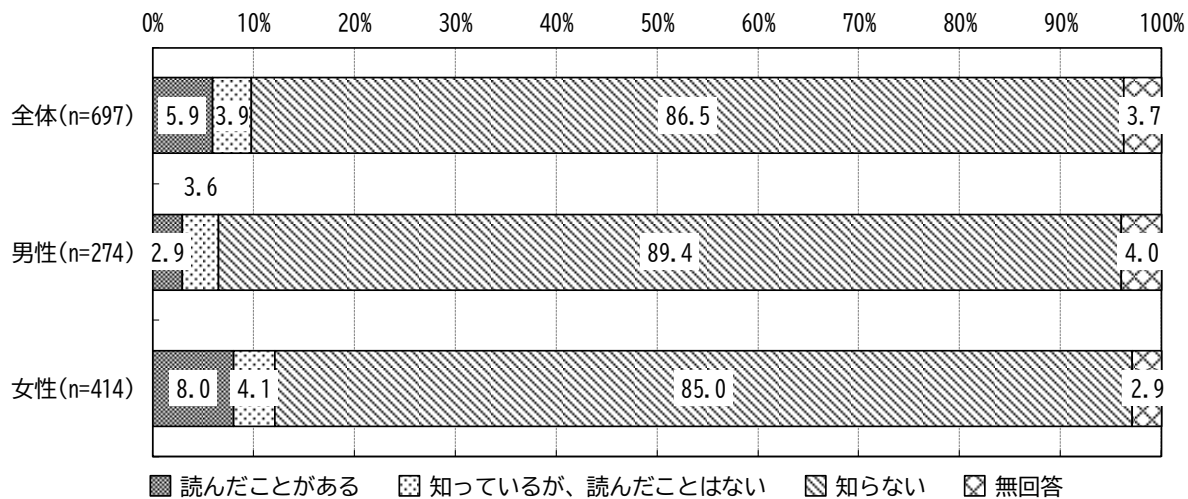
知っている人(「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計)は11.4%である。男性では6.6%、女性では15.0%であり、女性の方がやや多い



(3)大田区男女平等推進啓発情報誌「パステル」

「知らない」が86.5%と最も多く、次いで「読んだことがある」が5.9%、「知っているが、読んだことはない」が3.9%である。

知っている人（「読んだことがある」と「知っているが、読んだことはない」の合計）は9.8%である。男性では6.5%、女性では12.1%であり、女性の方がやや多い。



■問 24 に対する考察

エセナおおたは女性の3割程度が名前を知っているが、男性には女性ほど認知されていない。

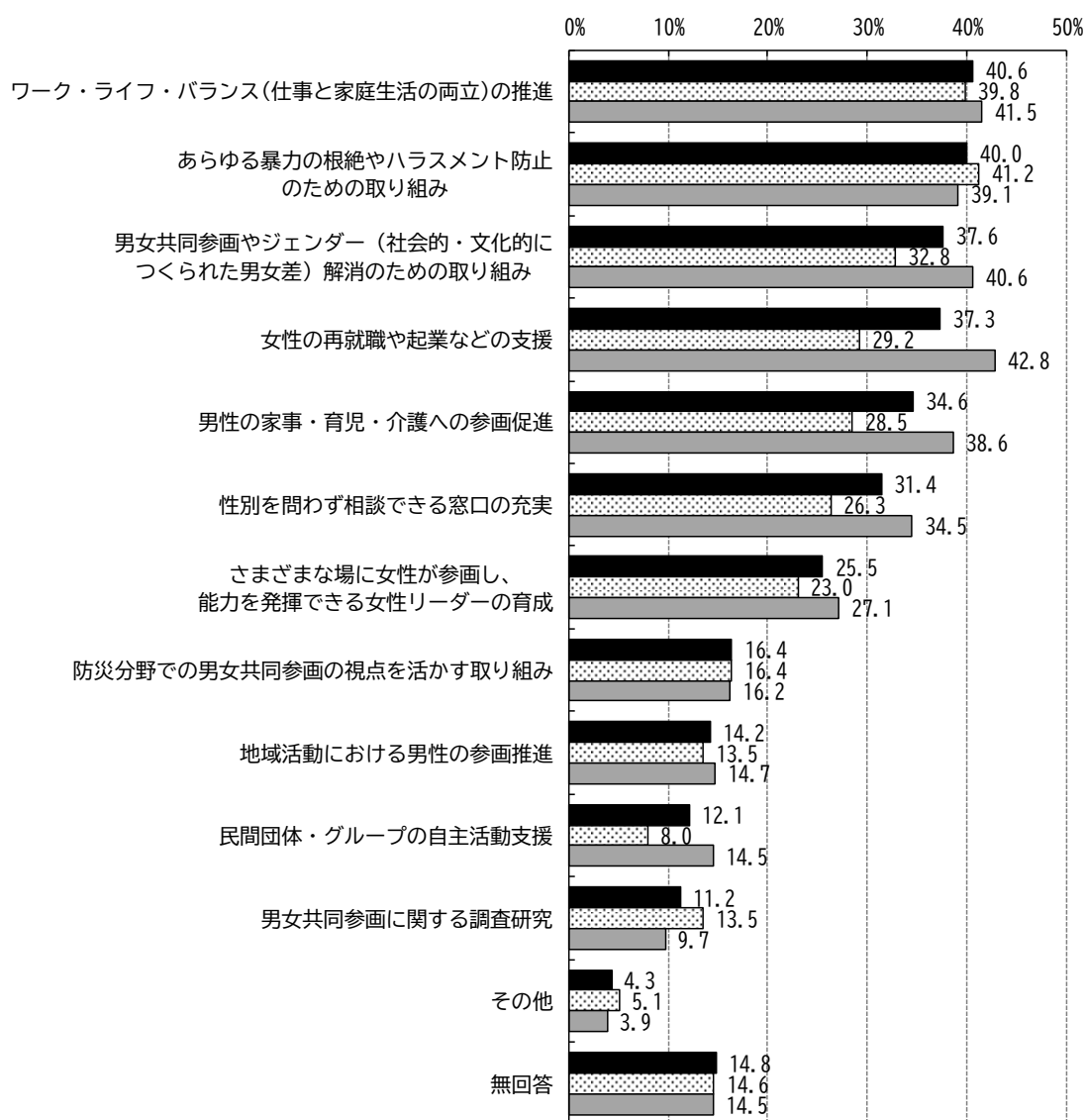
問25 「エセナおおた」で実施する男女平等・男女共同参画に関する取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

「ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進」が40.6%と最も多く、次いで「あらゆる暴力の根絶やハラスメント防止のための取り組み」が40.0%、「男女共同参画やジェンダー(社会的・文化的につくられた男女差)解消のための取り組み」が37.6%である。

男性では「あらゆる暴力の根絶やハラスメント防止のための取り組み」が41.2%で最も多く、次いで「ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進」が39.8%、「男女共同参画やジェンダー(社会的・文化的につくられた男女差)解消のための取り組み」が32.8%である。

女性では「女性の再就職や起業などの支援」が42.8%で最も多く、次いで「ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進」が41.5%、「男女共同参画やジェンダー(社会的・文化的につくられた男女差)解消のための取り組み」が40.6%である。

「女性の再就職や起業などの支援」、「男性の家事・育児・介護への参画促進」は女性の方が男性よりも10～13ポイント多い。



■全体(n=697) □男性(n=274) ▨女性(n=414)

■年代による分析

男性・女性ともに、年代が下がるにつれて「ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進」が多くなる。

女性の30歳代では、「女性の再就職や企業などの支援」が57.9%、「男性の家事・育児・介護への参画促進」が54.4%であり、他の年代や男性に比べて多い。

		合計	ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進	あらゆる暴力の根絶やハラスメント防止のための取り組み	男女共同参画やジェンダー(社会的・文化的につくられた男女差)解消のための取り組み	女性の再就職や起業などの支援	男性の家事・育児・介護への参画促進	性別を問わず相談できる窓口の充実	さまざまな場に女性が参画し、能力を発揮できる女性リーダーの育成
全体		687	40.8	40.0	37.6	37.3	34.5	31.3	25.3
男性	20～29歳	24	50.0	37.5	33.3	29.2	41.7	29.2	12.5
	30～39歳	40	50.0	37.5	35.0	32.5	35.0	25.0	30.0
	40～49歳	43	51.2	51.2	44.2	34.9	32.6	30.2	20.9
	50～59歳	47	34.0	51.1	27.7	29.8	29.8	19.1	25.5
	60～69歳	51	29.4	37.3	33.3	29.4	19.6	35.3	15.7
	70歳以上	69	34.8	34.8	27.5	23.2	23.2	21.7	27.5
女性	20～29歳	40	55.0	30.0	47.5	42.5	40.0	37.5	25.0
	30～39歳	57	57.9	43.9	40.4	57.9	54.4	28.1	28.1
	40～49歳	90	42.2	47.8	45.6	41.1	41.1	33.3	22.2
	50～59歳	79	43.0	50.6	50.6	48.1	39.2	38.0	27.8
	60～69歳	64	35.9	37.5	42.2	42.2	31.3	37.5	29.7
	70歳以上	83	25.3	21.7	21.7	28.9	28.9	33.7	28.9

		合計	防災分野での男女共同参画の視点を活かす取り組み	地域活動における男性の参画推進	民間団体・グループの自主活動支援	男女共同参画に関する調査研究	その他	無回答
全体		687	16.3	14.3	11.9	11.2	4.4	14.6
男性	20～29歳	24	16.7	16.7	8.3	12.5	4.2	12.5
	30～39歳	40	7.5	15.0	7.5	15.0	10.0	7.5
	40～49歳	43	18.6	18.6	11.6	11.6	11.6	9.3
	50～59歳	47	17.0	10.6	6.4	10.6	2.1	12.8
	60～69歳	51	19.6	15.7	5.9	9.8	2.0	11.8
	70歳以上	69	17.4	8.7	8.7	18.8	2.9	26.1
女性	20～29歳	40	10.0	12.5	12.5	10.0	5.0	10.0
	30～39歳	57	10.5	14.0	7.0	8.8	7.0	8.8
	40～49歳	90	18.9	13.3	10.0	13.3	5.6	11.1
	50～59歳	79	19.0	16.5	17.7	10.1	1.3	3.8
	60～69歳	64	20.3	14.1	20.3	6.3	4.7	14.1
	70歳以上	83	14.5	16.9	18.1	8.4	1.2	34.9

■就労状況による分析

職業に就いている場合も、男性・女性ともに全体での上位3位共通している（順位は異なる）。

女性では、職業に就いている場合の方が「ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進」が多く、45.0%である。

	合計	ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進	あらゆる暴力の根絶やハラスメント防止のための取り組み	女性の再就職や起業などの支援	男女共同参画やジェンダー(社会的・文化的につくられた男女差)解消のための取り組み	男性の家事・育児・介護への参画促進	性別を問わず相談できる窓口の充実	さまざまな場面に女性が参画し、能力を発揮できる女性リーダーの育成
全体	671	41.4	40.4	38.0	37.7	35.2	31.3	25.3
男性								
職業に就いている	218	42.7	43.1	32.1	33.9	30.7	26.6	23.9
職業には就いていない	49	30.6	36.7	20.4	26.5	20.4	24.5	20.4
女性								
職業に就いている	291	45.0	41.9	44.0	41.9	40.2	34.7	25.8
職業には就いていない	113	34.5	32.7	41.6	38.9	37.2	34.5	29.2

	合計	防災分野での男女共同参画の視点を活かす取り組み	地域活動における男性の参画推進	民間団体・グループの自主活動支援	男女共同参画に関する調査研究	その他	無回答
全体	671	16.2	14.5	11.8	11.3	4.5	13.7
男性							
職業に就いている	218	18.8	15.1	8.3	13.3	5.5	12.4
職業には就いていない	49	6.1	6.1	8.2	16.3	4.1	20.4
女性							
職業に就いている	291	16.5	15.8	14.4	11.3	4.5	11.7
職業には就いていない	113	15.0	13.3	13.3	5.3	2.7	18.6

■子育ての状況による分析

女性では、子どもの年齢が小さくなるほど「男性の家事・育児・介護への参加促進」が多く、子どもが未就学児である場合には61.0%となる。

	合計	女性の再就職や起業などの支援	ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進	あらゆる暴力の根絶やハラスメント防止のための取り組み	男性の家事・育児・介護への参画促進	男女共同参画やジェンダー(社会的・文化的につくられた男女差)解消のための取り組み	性別を問わず相談できる窓口の充実	さまざまな場に女性が参画し、能力を発揮できる女性リーダーの育成
全体	287	41.5	40.8	40.1	39.4	37.3	29.3	24.4
男性								
未就学児	26	34.6	38.5	38.5	46.2	34.6	19.2	23.1
小学生	20	35.0	45.0	55.0	35.0	35.0	35.0	30.0
中学生	11	36.4	45.5	36.4	36.4	27.3	36.4	18.2
高校生相当または、それ以上	52	26.9	34.6	38.5	21.2	23.1	17.3	21.2
女性								
未就学児	41	58.5	63.4	36.6	61.0	48.8	29.3	24.4
小学生	38	57.9	44.7	47.4	57.9	60.5	26.3	36.8
中学生	30	43.3	30.0	60.0	36.7	50.0	23.3	13.3
高校生相当または、それ以上	125	40.8	36.8	40.0	36.0	37.6	37.6	24.8

	合計	地域活動における男性の参画推進	防災分野での男女共同参画の視点を活かす取り組み	民間団体・グループの自主活動支援	男女共同参画に関する調査研究	その他	無回答
全体	287	16.7	16.0	12.9	9.8	4.2	14.3
男性							
未就学児	26	23.1	11.5	3.8	15.4	7.7	11.5
小学生	20	25.0	15.0	10.0	15.0	10.0	15.0
中学生	11	18.2	9.1	9.1	9.1	-	9.1
高校生相当または、それ以上	52	7.7	17.3	7.7	9.6	1.9	21.2
女性							
未就学児	41	24.4	19.5	14.6	17.1	9.8	9.8
小学生	38	21.1	23.7	13.2	15.8	7.9	13.2
中学生	30	10.0	10.0	10.0	6.7	-	16.7
高校生相当または、それ以上	125	15.2	16.0	17.6	6.4	1.6	15.2

■問 25 に対する考察

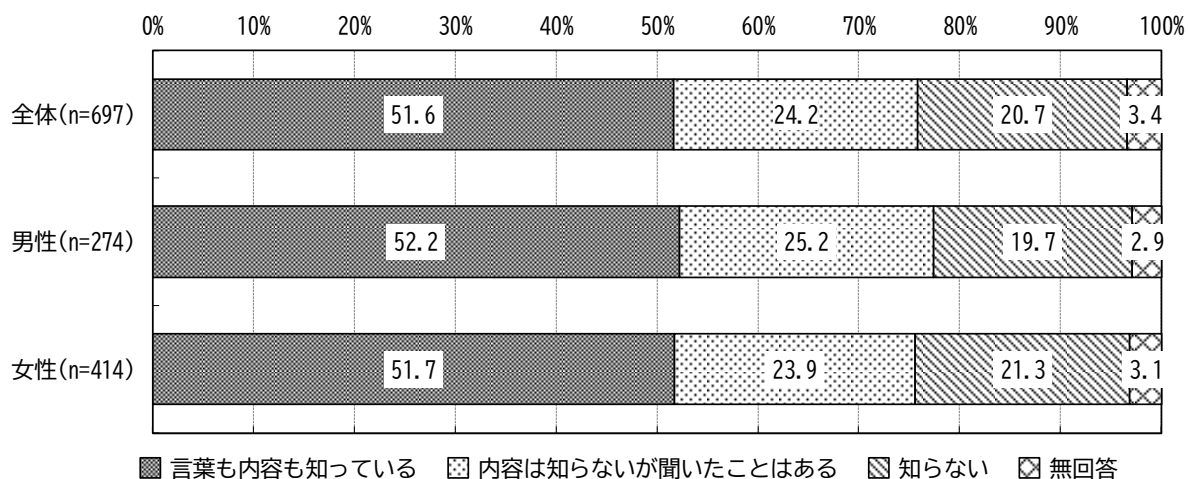
男性・女性ともにおおむね 40 歳代以下においてワーク・ライフ・バランスの実現が求められていることが見て取れる。また、女性(特に子育てをしている場合)において男性の家事・育児への参画促進が求められていることから、女性が家事・育児を負担している状況が伺える。

問26 あなたは、次の（ア）・（イ）の用語を知っていますか。【用語ごとに○は1つずつ】

（ア）ジェンダー（社会的性）

「言葉も内容も知っている」が51.6%と最も多く、次いで「内容は知らないが聞いたことはある」が24.2%、「知らない」が20.7%である。

男性・女性ともに「言葉も内容も知っている」が最も多く、男性で52.2%、女性で51.7%である。



■年代による分析

男性・女性ともに、年代が上がるにつれて「言葉も内容も知っている」がおおむね少なくなる。

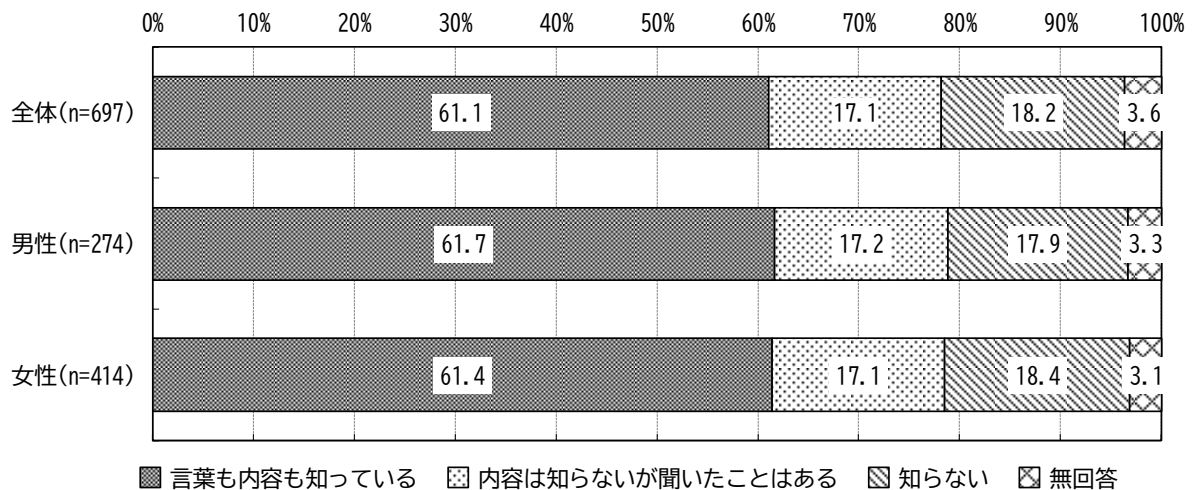
男性・女性ともに20歳代・30歳代では「言葉も内容も知っている」が7割台である。

		合計	言葉も内容も知っている	内容は知らないが聞いたことはある	知らない	無回答
全体		687	52.0	24.3	20.7	3.1
男性	20～29歳	24	75.0	12.5	8.3	4.2
	30～39歳	40	75.0	25.0	-	-
	40～49歳	43	58.1	30.2	11.6	-
	50～59歳	47	57.4	27.7	12.8	2.1
	60～69歳	51	47.1	17.6	31.4	3.9
	70歳以上	69	27.5	30.4	36.2	5.8
女性	20～29歳	40	75.0	15.0	10.0	-
	30～39歳	57	73.7	15.8	7.0	3.5
	40～49歳	90	61.1	27.8	10.0	1.1
	50～59歳	79	58.2	24.1	17.7	-
	60～69歳	64	35.9	34.4	28.1	1.6
	70歳以上	83	21.7	20.5	47.0	10.8

(イ)LGBT(性的マイノリティ)

「言葉も内容も知っている」が61.1%と最も多く、次いで「知らない」が18.2%、「内容は知らないが聞いたことはある」が17.1%である。

男性・女性ともに「言葉も内容も知っている」が最も多く、男性で61.7%、女性で61.4%である。



■年代による分析

男性・女性ともに、年代が上がるにつれて「言葉も内容も知っている」がおおむね少なくなる。

	合計	言葉も内容も知っている	内容は知らないが聞いたことはある	知らない	無回答
全体	687	61.4	17.2	18.2	3.2
男性					
20～29歳	24	83.3	8.3	4.2	4.2
30～39歳	40	80.0	17.5	2.5	-
40～49歳	43	72.1	16.3	11.6	-
50～59歳	47	72.3	12.8	10.6	4.3
60～69歳	51	58.8	13.7	23.5	3.9
70歳以上	69	31.9	26.1	36.2	5.8
女性					
20～29歳	40	77.5	17.5	5.0	-
30～39歳	57	82.5	7.0	7.0	3.5
40～49歳	90	74.4	14.4	10.0	1.1
50～59歳	79	65.8	22.8	11.4	-
60～69歳	64	51.6	21.9	25.0	1.6
70歳以上	83	27.7	18.1	43.4	10.8

■問 26 に対する考察

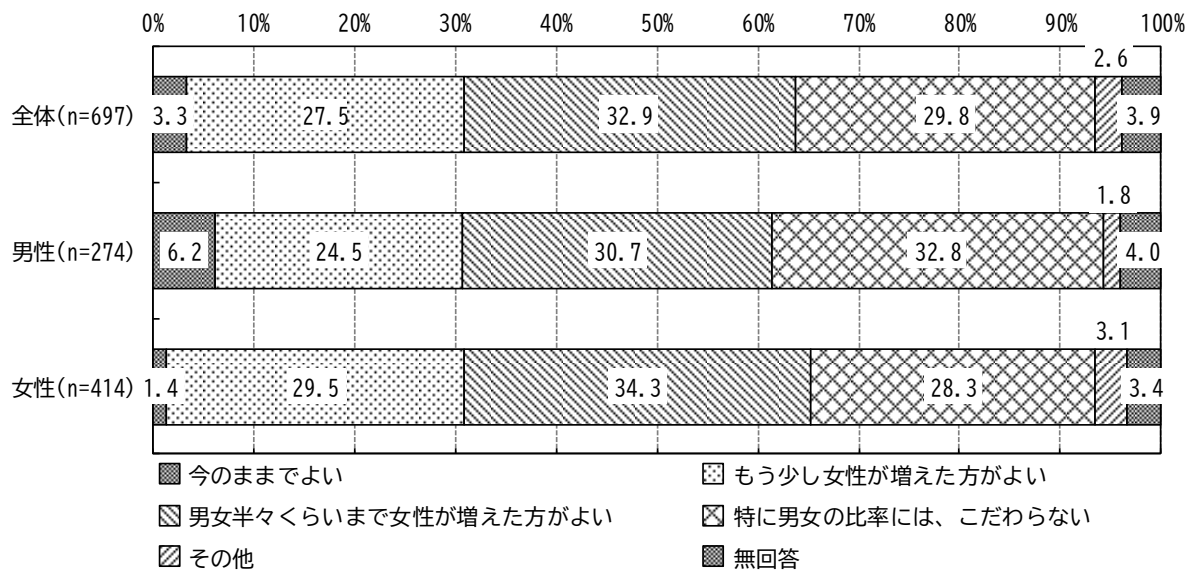
性の多様性に対する認知は社会的に浸透しているが、高齢層においては、若年層ほどには浸透していない。

問27 現在、大田区では、審議会、委員会等の委員2,389名のうち、約30.6%が女性です。これについて、あなたはどのように思いますか。【〇は1つ】

「男女半々くらいまで女性が増えた方がよい」が32.9%と最も多く、次いで「特に男女の比率には、こだわらない」が29.8%、「もう少し女性が増えた方がよい」が27.5%である。

男性では「特に男女の比率には、こだわらない」が32.8%で最も多く、次いで「男女半々くらいまで女性が増えた方がよい」が30.7%、「もう少し女性が増えた方がよい」が24.5%である。

女性では「男女半々くらいまで女性が増えた方がよい」が34.3%で最も多く、次いで「もう少し女性が増えた方がよい」が29.5%、「特に男女の比率には、こだわらない」が28.3%である。



■前回調査との比較

男性では、「もう少し女性が増えた方がよい」が7.3ポイント、「男女半々くらいまで女性が増えた方がよい」が7.2ポイント増えている。

女性では、「もう少し女性が増えた方がよい」が6.0ポイント、「男女半々くらいまで女性が増えた方がよい」が6.8ポイント減っている。女性では「特に男女の比率には、こだわらない」が6.2ポイント増えている。

■問27に対する考察

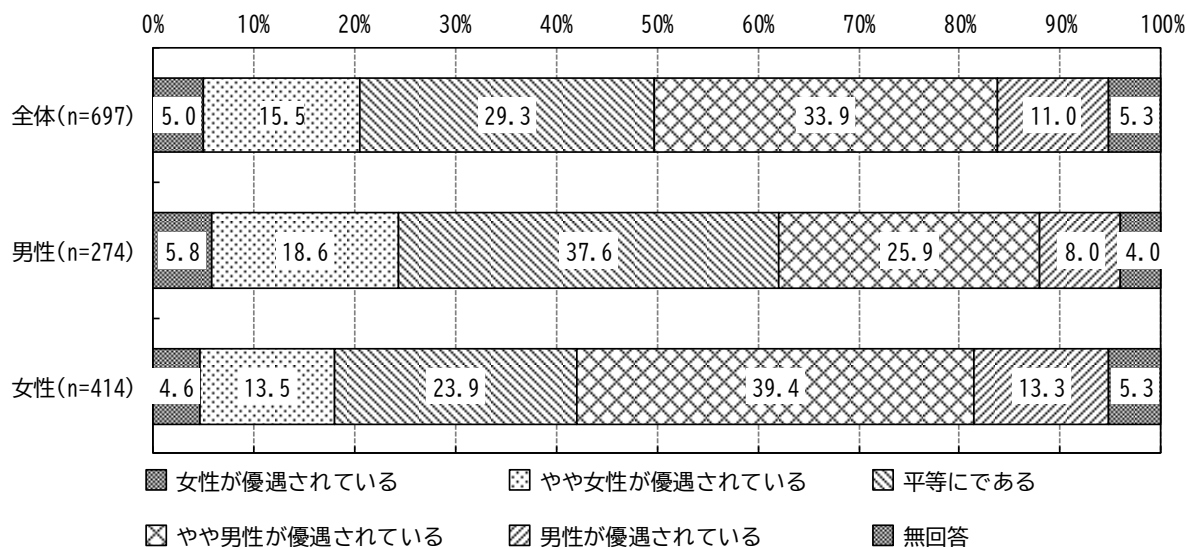
男女比にはこだわらないという考え方も含めて、男女共同参画の考え方が浸透してきていることが見て取れる。ただし、女性の参画を積極的に捉えるという点では、男性では現状維持や男女比にこだわらないという意見がやや多く、女性との認識の違いが見て取れる。

問28 あなたは、次にあげる分野において、男女の地位は平等だと思いますか。分野(ア)～(カ)のそれぞれについてお答えください。【分野ごとに○は1つずつ】

(ア)家庭生活

「やや男性が優遇されている」が33.9%と最も多く、次いで「平等である」が29.3%、「やや女性が優遇されている」が15.5%である。

「平等である」は男性で37.6%、女性で23.9%となっており、男性の方が女性よりも13.7ポイント多い。男性では「平等である」が最も多く、女性では「やや男性が優遇されている」が39.4%で最も多い。



■前回調査との比較

「平等である」に大きな変化はみられない。

■国・都の調査との比較

国の調査では「平等」という回答が45.5%、都の調査では40.4%である。区は33.9%であり、国よりも少なく、都と比べてもやや少ない。

■結婚状況による分析

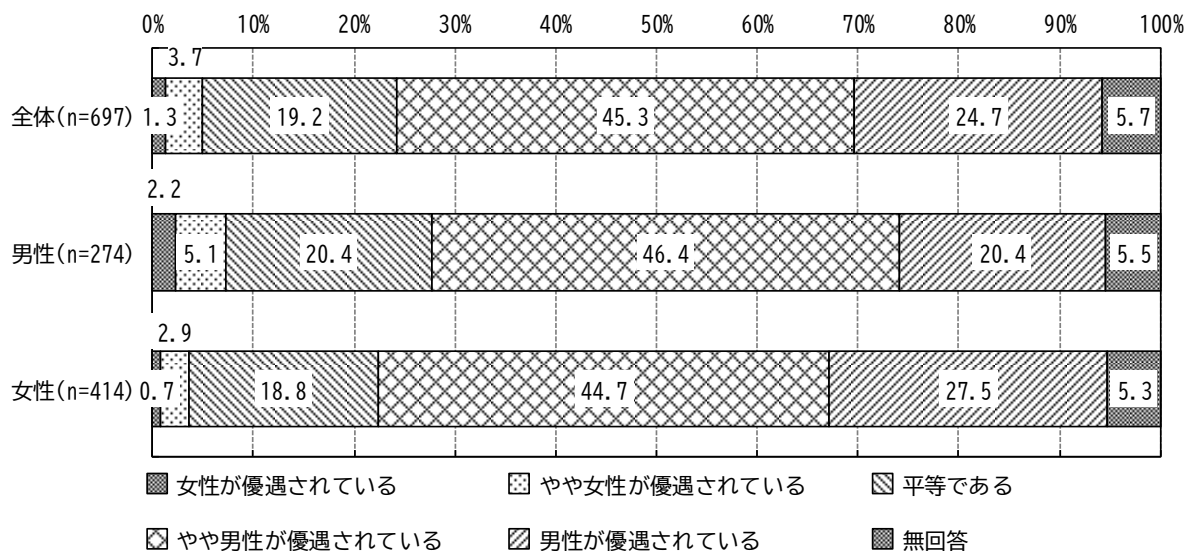
結婚している場合、男性では「平等である」が43.3%、女性では24.6%である。男性の方が女性よりも多い。

		合計	女性が優遇されている	やや女性が優遇されている	平等にである	やや男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体		687	5.1	15.6	29.4	34.1	11.1	4.8
男性	未婚	56	10.7	28.6	17.9	33.9	7.1	1.8
	既婚（事実婚を含む）	194	4.6	17.0	43.3	23.2	8.2	3.6
	離別（結婚していたが、離婚した）	13	7.7	7.7	46.2	15.4	7.7	15.4
	死別（結婚していたが、相手が亡くなった）	11	-	9.1	27.3	45.5	9.1	9.1
女性	未婚	85	3.5	16.5	25.9	38.8	10.6	4.7
	既婚（事実婚を含む）	260	5.0	13.8	24.6	39.2	13.1	4.2
	離別（結婚していたが、離婚した）	30	3.3	6.7	13.3	46.7	23.3	6.7
	死別（結婚していたが、相手が亡くなった）	38	5.3	10.5	23.7	36.8	10.5	13.2

(イ)職場

「やや男性が優遇されている」が45.3%と最も多く、次いで「男性が優遇されている」が24.7%、「平等である」が19.2%である。

「平等である」は男性で20.4%、女性で18.8%である。男性・女性ともに「やや男性が優遇されている」が最も多く、男性で46.4%、女性で44.7%である。



■前回調査との比較

「平等である」に大きな変化はみられない。

■国・都の調査との比較

国の調査では「平等」という回答が30.7%、都の調査では22.9%である。区は19.2%であり、国に比べて少ない。

■就労状況による分析

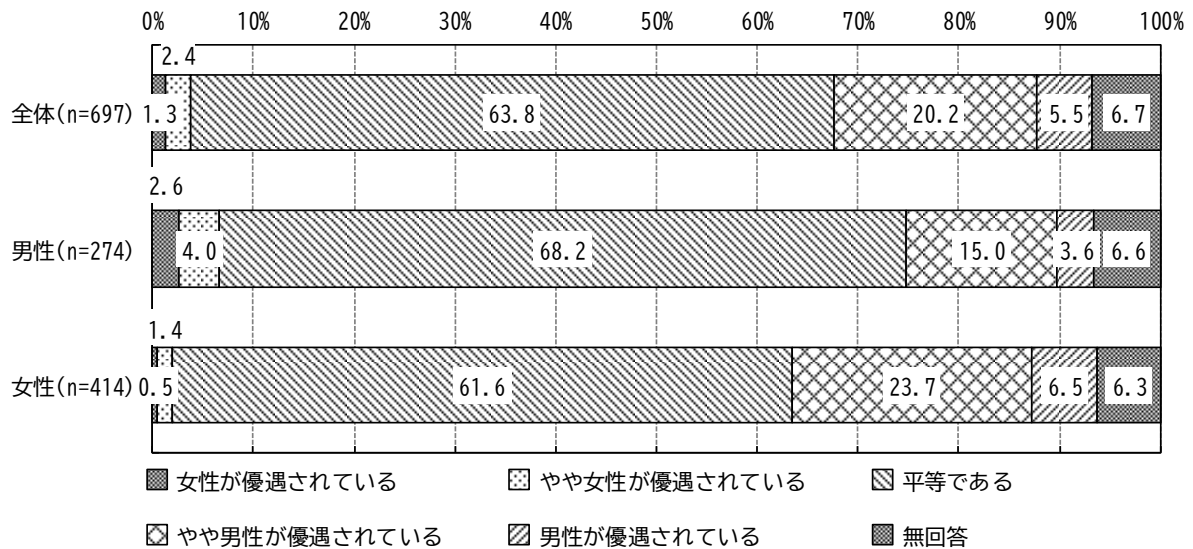
職業に就いている場合、男性では「平等である」が24.3%、女性では22.0%で同程度である。

	合計	女性が優遇されている	やや女性が優遇されている	平等である	やや男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体	671	1.3	3.7	20.0	45.6	24.7	4.6
男性							
職業に就いている	218	2.3	6.0	24.3	45.9	17.4	4.1
職業には就いていない	49	2.0	2.0	6.1	46.9	34.7	8.2
女性							
職業に就いている	291	0.7	2.7	22.0	45.0	26.1	3.4
職業には就いていない	113	0.9	2.7	12.4	46.0	31.0	7.1

(ウ)教育の場

「平等である」が63.8%と最も多く、次いで「やや男性が優遇されている」が20.2%、「男性が優遇されている」が5.5%である。

男性・女性ともに「平等である」が最も多く、男性で68.2%、女性で61.6%である。



■前回調査との比較

「平等である」に大きな変化はみられない。

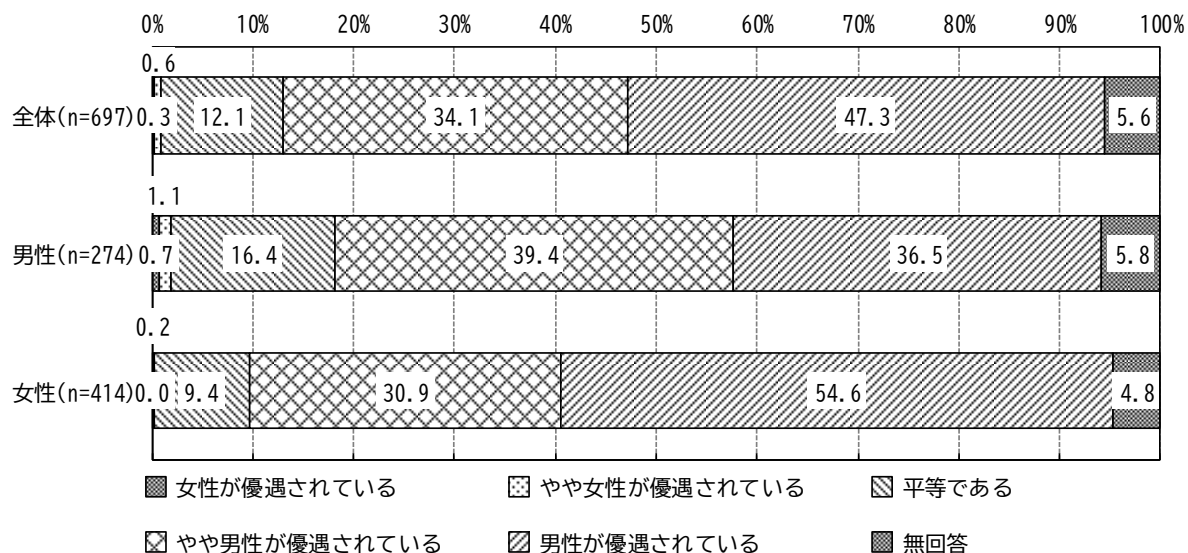
■国・都の調査との比較

国の調査では「平等」という回答が61.2%、都の調査では76.3%である。区は63.8%であり、都と比べて少ない。

(工)政治の場

「男性が優遇されている」が47.3%と最も多く、次いで「やや男性が優遇されている」が34.1%、「平等である」が12.1%である。

「平等である」は男性で16.4%、女性で9.4%となっており、男性の方が女性よりもやや多い。男性では「やや男性が優遇されている」が39.4%で最も多く、女性では「男性が優遇されている」が54.6%で最も多い。



■前回調査との比較

「平等である」に大きな変化はみられない。

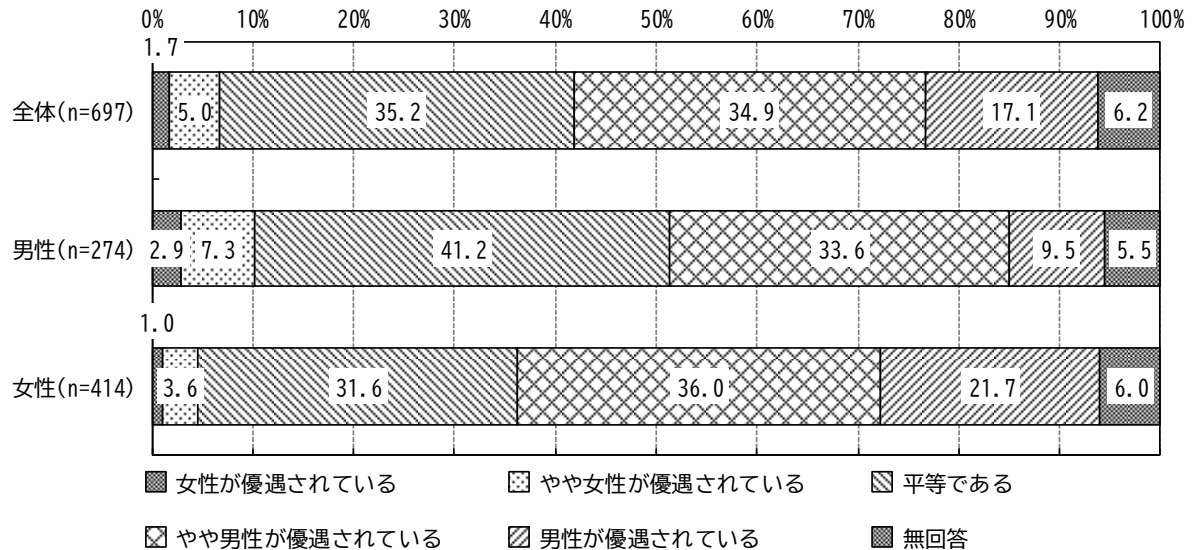
■国・都の調査との比較

国の調査では「平等」という回答が14.4%、都の調査では16.8%である。区は12.1%であり、国・都と同程度である。

(オ)法律や制度

「平等である」が35.2%と最も多く、次いで「やや男性が優遇されている」が34.9%、「男性が優遇されている」が17.1%である。

「平等である」は男性で41.2%、女性で31.6%となっており、男性の方が女性よりも9.6ポイント多い。男性では「平等である」が最も多く、女性では「やや男性が優遇されている」が36.0%で最も多い。



■前回調査との比較

「平等である」に大きな変化はみられない。

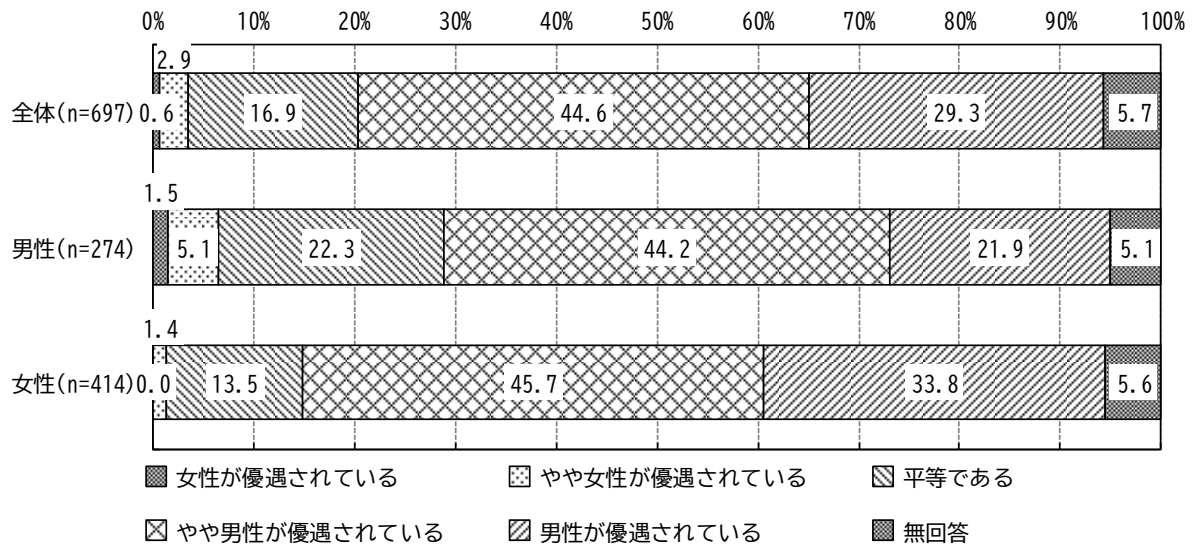
■国・都の調査との比較

国の調査では「平等」という回答が39.7%、都の調査では40.0%である。区は35.2%であり、都と比べてやや少ない。

(カ)社会通念や習慣

「やや男性が優遇されている」が44.6%と最も多く、次いで「男性が優遇されている」が29.3%、「平等である」が16.9%である。

「平等である」は男性で22.3%、女性で13.5%となっており、男性の方が女性よりもやや多い。男性・女性ともに「やや男性が優遇されている」が最も多く、男性で44.2%、女性で45.7%である。



■前回調査との比較

「平等である」に大きな変化はみられない。

■国・都の調査との比較

国の調査では「平等」という回答が22.6%、都の調査では21.0%である。区は16.9%であり、国に比べてやや少ない。

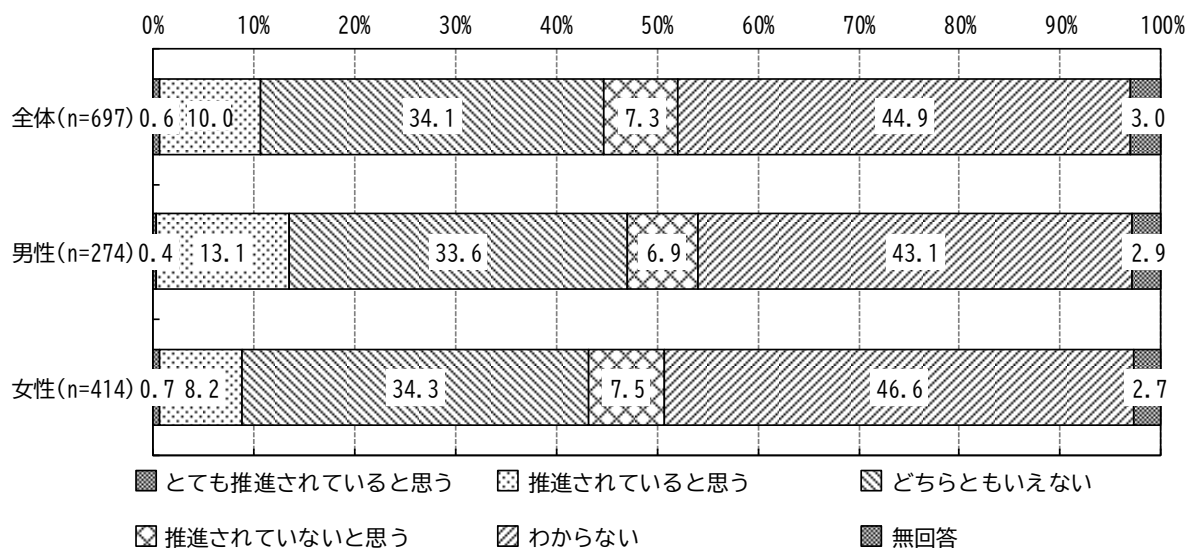
■問 28 に対する考察

教育の場においては男女平等が感じられていることが伺える。また、法律・制度においても男女平等であると感じる人が多い。このことから法制においては男女平等が推進されていることが伺えるが、家庭生活や職場、政治の場、社会通念という実態においては男女平等の実現は十分ではないと言える。

問29 あなたは、大田区では男女共同参画が推進されていると思いますか。【〇は1つ】

「わからない」が44.9%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が34.1%、「推進されていると思う」が10.0%である。

推進されていると思う人（「とても推進されていると思う」と「推進されていると思う」の合計）は10.6%である。男性で13.5%、女性で8.9%である。



■前回調査との比較

男性では「推進されていると思う」が6.8ポイント増えているが、「とても推進されていると思う」は大きな違いはみられない。女性では「とても推進されていると思う」「推進されていると思う」とともに大きな違いはみられない。

■問 29 に対する考察

男女共同参画に対する区の取り組みに対する認識が十分ではない。

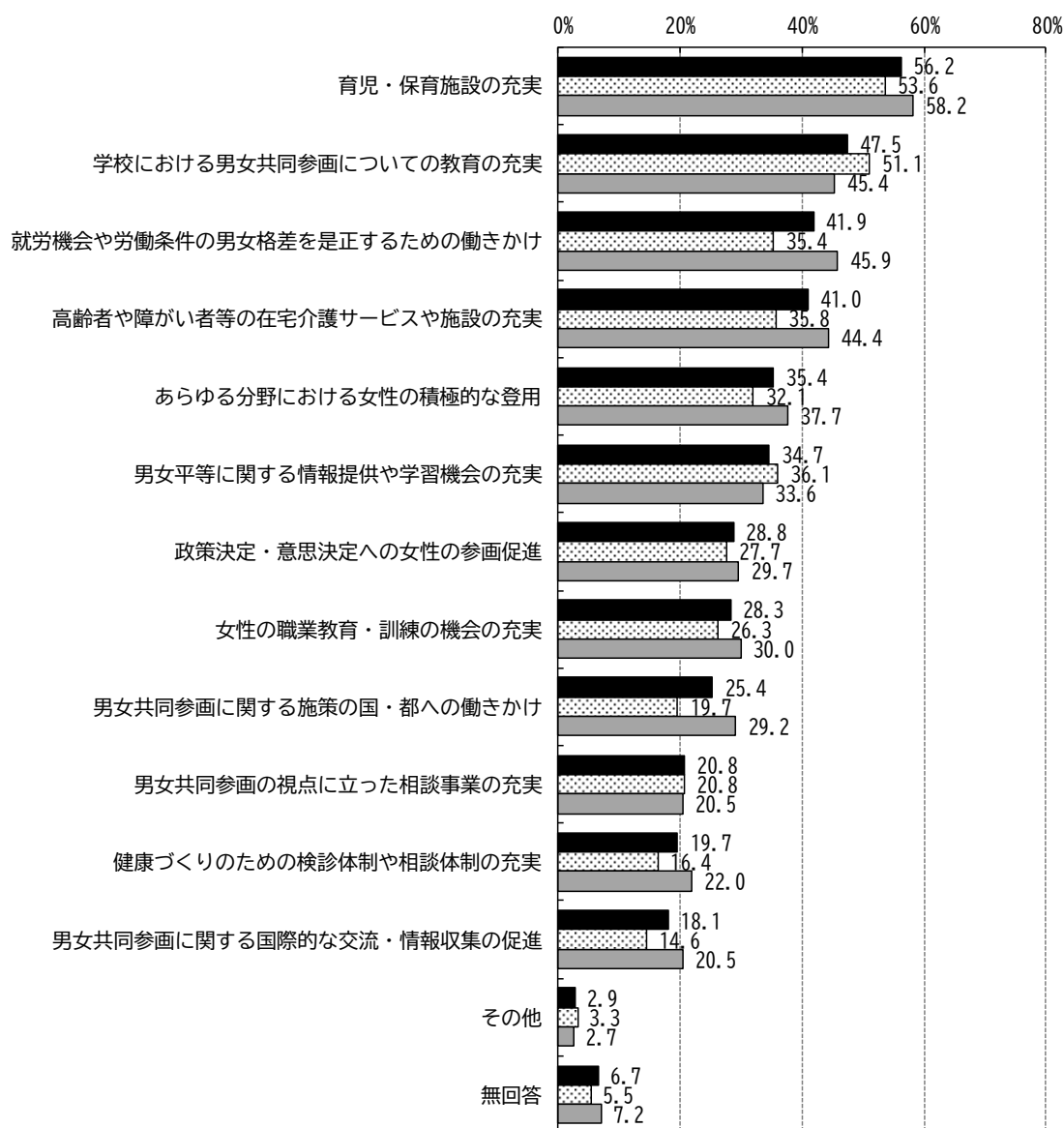
問30 あなたは、男女共同参画社会の実現を図るために、今後、区はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。【〇はいくつでも】

「育児・保育施設の充実」が56.2%と最も多く、次いで「学校における男女共同参画についての教育の充実」が47.5%、「就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」が41.9%である。

男性・女性ともに「育児・保育施設の充実」が最も多く、男性で53.6%、女性で58.2%である。

男性では次いで「学校における男女共同参画についての教育の充実」が51.1%、「男女平等に関する情報提供や学習機会の充実」が36.1%である。女性では「就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」が45.9%、「学校における男女共同参画についての教育の充実」が45.4%である。

「就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」は女性の方が男性（35.4%）よりも10.5ポイント多い。



■全体(n=697) □男性(n=274) ▨女性(n=414)

■年代による分析

「育児・保育施設の充実」が男性の40歳代で69.8%、女性の20～30歳代で7～8割であり、他の年代に比べて多い。

	合計	育児・保育施設の充実	学校における男女共同参画についての教育の充実	就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ	高齢者や障がい者等の在宅介護サービスや施設の充実	あらゆる分野における女性の積極的な登用	男女平等に関する情報提供や学習機会の充実	政策決定・意思決定への女性の参画促進
全体	687	56.3	47.7	41.8	41.0	35.5	34.6	29.0
男性								
20～29歳	24	58.3	54.2	29.2	29.2	20.8	41.7	25.0
30～39歳	40	55.0	37.5	35.0	15.0	30.0	35.0	20.0
40～49歳	43	69.8	53.5	39.5	41.9	30.2	39.5	25.6
50～59歳	47	44.7	44.7	29.8	29.8	31.9	21.3	36.2
60～69歳	51	58.8	54.9	41.2	52.9	35.3	31.4	21.6
70歳以上	69	43.5	58.0	34.8	37.7	36.2	46.4	33.3
女性								
20～29歳	40	70.0	45.0	45.0	27.5	40.0	37.5	22.5
30～39歳	57	80.7	43.9	40.4	40.4	36.8	33.3	29.8
40～49歳	90	53.3	46.7	45.6	30.0	37.8	33.3	33.3
50～59歳	79	55.7	51.9	51.9	53.2	36.7	35.4	27.8
60～69歳	64	54.7	50.0	57.8	56.3	40.6	34.4	37.5
70歳以上	83	47.0	36.1	36.1	54.2	36.1	30.1	25.3

	合計	女性の職業教育・訓練の機会の充実	男女共同参画に関する施策の国・都への働きかけ	男女共同参画の視点に立った相談事業の充実	健康づくりのための検診体制や相談体制の充実	男女共同参画に関する国際的な交流・情報収集の促進	その他	無回答
全体	687	28.5	25.5	20.7	19.8	18.2	2.9	6.6
男性								
20～29歳	24	33.3	12.5	20.8	20.8	4.2	-	4.2
30～39歳	40	35.0	17.5	15.0	17.5	20.0	5.0	5.0
40～49歳	43	23.3	20.9	16.3	20.9	20.9	9.3	-
50～59歳	47	34.0	17.0	25.5	8.5	10.6	2.1	10.6
60～69歳	51	19.6	17.6	19.6	17.6	19.6	2.0	-
70歳以上	69	20.3	26.1	24.6	15.9	10.1	1.4	10.1
女性								
20～29歳	40	37.5	25.0	22.5	25.0	22.5	7.5	-
30～39歳	57	19.3	26.3	10.5	21.1	19.3	3.5	7.0
40～49歳	90	32.2	30.0	22.2	17.8	25.6	3.3	6.7
50～59歳	79	30.4	25.3	25.3	25.3	15.2	3.8	2.5
60～69歳	64	29.7	31.3	17.2	17.2	21.9	-	4.7
70歳以上	83	31.3	34.9	22.9	26.5	19.3	-	18.1

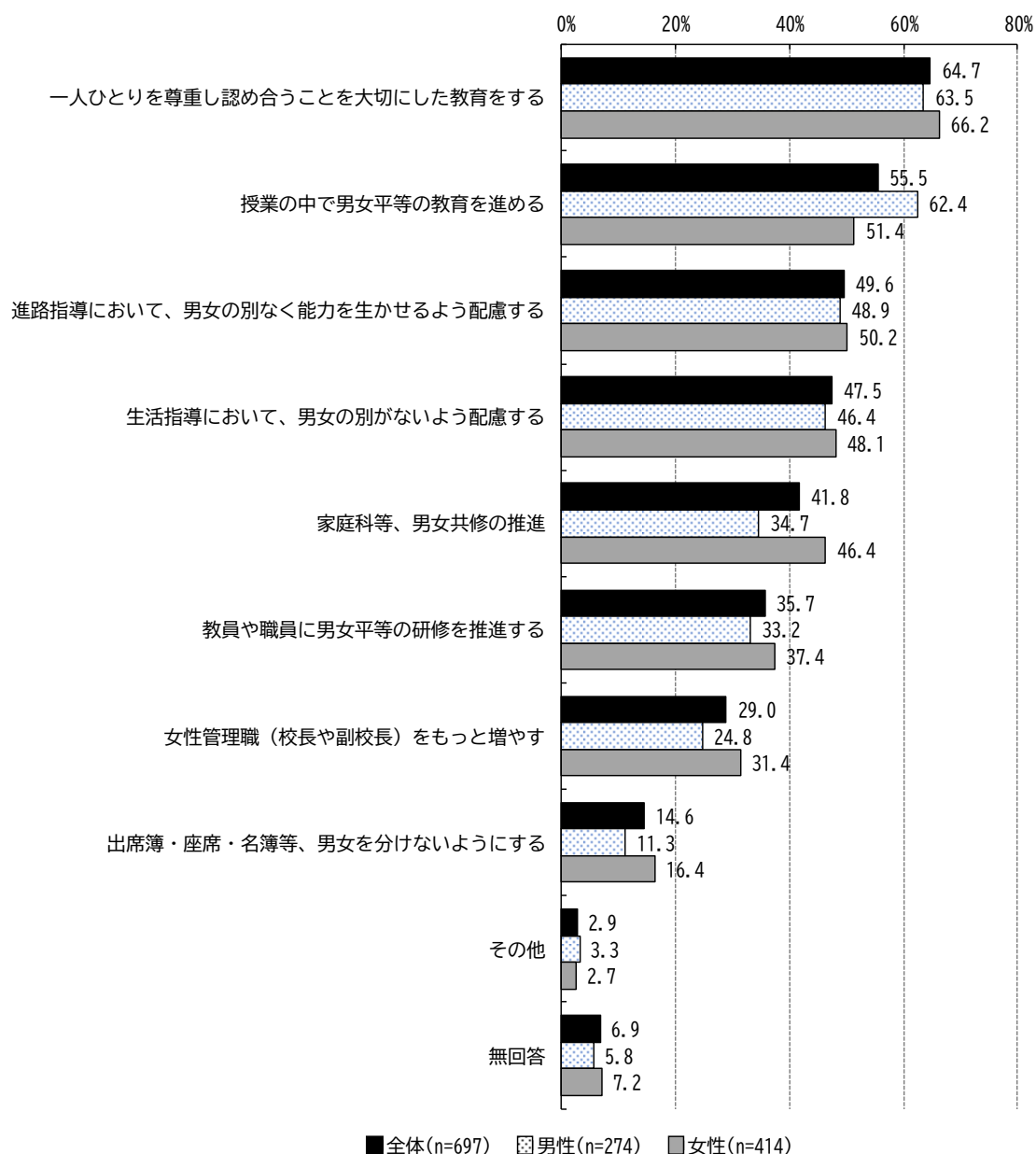
■問 30 に対する考察

男性・女性ともに育児・保育施設を家庭外に求めており、育児が女性の社会参画の課題であることが伺える。また、女性においては労働環境・労働条件の整備も求められている。

問31 あなたは、学校教育の場で、男女平等・男女共同参画を考えていく場合、どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。【〇はいくつでも】

「一人ひとりを尊重し認め合うことを大切にされた教育をする」が64.7%と最も多く、次いで「授業の中で男女平等の教育を進める」が55.5%、「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」が49.6%である。

上位3位は男性・女性で共通している。「家庭科等、男女共修の推進」は女性（46.4%）の方が男性（34.7%）よりも11.7ポイント多い。「授業の中で男女平等の教育を進める」は男性（62.4%）の方が女性（51.4%）よりも11.0ポイント多い。



■問31 に対する考察

女性において男性が家庭科を習うことを求めており、男性の家事・育児への協力を求めていることが伺える。

問32 最後に、大田区の男女平等・男女共同参画施策全般についてのご意見を自由にご記入ください。

自由意見は141件（「特にありません」等を除く）あった。

■自由回答分類

	分類	件数
1	男女平等の考え方について	34
2	情報提供について	14
3	男女平等意識の啓発・教育について	11
4	施策や行政について	12
5	家事・育児（出産）・介護等について	15
6	働き方・就労環境について	11
7	地域活動・行政等への女性の参画について	8
8	LGBT等、多様性について	3
9	エセナおおたについて	4
10	その他	29
	合計	141

■自由回答抜粋 ※原文のまま掲載。

1 男女平等の考え方について

- 必ずしも男性、女性が一律で評価される事が是とは思えない。女性は女性なりの発想や工夫等優れた点があると思うし、それは男性も同じ。適材適所ではないけれど、男だから女だからではなく、誰々さんだからという個人として評価、援助される機会が平等であればいいと思った。（男性・20歳代）
- 男女平等も勿論当たり前かと思われませんが、男女ともそれぞれの能力が妨げられることなく、個人の能力が活かされる社会になって欲しい。（男性・40歳代）
- 女性がより意見が言えるようになって欲しい。育児・介護に対する男性の理解を深めて欲しいと思う。しかし一方で、女性が平等でないから男性を卑下する行為をとったり、別の所で女性を優遇するといった風潮がある気がする。男性でも女性でも不満のない生活を送れる社会を目指していきたい。（女性・20歳代）
- 「男女平等」は結構なことだが、内容をはきちがえる人が多すぎると思う。男性の方が能力が高い分野、女性の方が能力が高い分野があるのは事実なので無理に同じ土俵に立とうとするのではなくそれぞれの長所を活かしあい、弱点を補い合える関係性の成立した環境になったら良いと思う。（女性・40歳代）

2 情報提供について

- 一人一人の国民の声によって、必ず男女平等、男女共同参画がより良い方向になるという根拠があれば、みんなで力を合わせると思います。大田区の男女平等、男女共同参画施策を知りたい。

(男性・40歳代)

- 男女共同参画取り組みについてほとんど認識がありませんでした。区民にPRする方法を検討して欲しい。(男性・50歳代)
- 大田区報に具体的な取り組みや教育内容、職場での現状などの特集があれば読んでみたい。(女性・50歳代)
- 様々な啓発活動や施策がとられているのですが、具体的に何が行われているのかわかなくて、伝わらないのが現状。若い世代(育児の当事者)の声を活かして、区民に伝わるメッセージを発信して頂きたいです。(女性・50歳代)

3 男女平等意識の啓発・教育について

- 学校教育での学びが重要だと思う(小学生、中学生)。これは家庭科だけではなく、他の教科においても実施すべきであると思う。(男性・50歳代)
- 自分が育った環境や時代は、男女均等の意識が低いと思うので、今からの改革はなかなか難しいのかなと思います。が、これから働きかけていく事に力を注ぐことで、子供達の未来は男女関係なく個人を尊重出来る世の中になるのではと思います。(女性・40歳代)
- 「区別はするけど差別をしない」という教育が必要だと思う。「男女差別」というのは女性側に目線が行きがちだが、男性目線から考えた差別も取り組んで行くべきだと思う。レディースday、男性料金、女性料金等。(女性・40歳代)
- 大人になってから考えを改めるのは限界があり、必要ではあるが効果が得られないと思う。小中学生の内からどのような家庭環境でも義務教育の期間中に性差、区別、男女平等、人種について年1回とかではなくもう少し継続性のある計画で工夫すべき。虐待や性被害等から身を守る術も民間団体がワークショップをやっていたりするので子供のうちに体験させ、そこから理解を進めてほしい。(女性・40歳代)

4 施策や行政について

- 性別の前に個人を認めるという事が大事になってくるのではないかと思います。次世代の若者の意見を取り入れたり、興味のある人を集め、古い考え方の方達と交流したり、ディスカッションする場が増えると。(女性・20歳代)
- 女性のための起業セミナー、資産運用セミナーなどをやって欲しい。単身で近くに頼れる家族がいません。将来が不安だし、女性が一人でも生きられるよう支援して欲しい。(女性・30歳代)
- ひとり暮らしの女性が気軽に相談できる、または仕事を頼める業者さんを紹介してくれる窓口があると良い。業者も女性だといいい加減な対応する場合があるので不安。(女性・60歳代)

5 家事・育児(出産)・介護等について

- 社会進出や会社企業などでの役職、管理職を増大することも重要ですが専業主婦の尊厳と他位高上を計り税制面を考慮して専業主婦45才位まで夫の主婦控除額を年間360万円位したら良いと思います。(男性・70歳以上)
- 各家庭任せにしても、意識の変化はありません。企業の研修や制度にも、もっと行政が参画し、男

女平等のためにできることを呼びかけ義務付け頂きたいです。子供を育てながら働くことは本当に大変です。実家が遠いと頼れません。夫の転勤も女性のキャリア形成に影響します。イクメンという言葉だけがひとり歩きしていると思います。少し手伝ったり子供と遊ぶことはイクメンではなく、ただの手伝いです。もっともっと女性と同じ立場で子育てに関わり、パートナーのことも尊重すべきだと思います。(女性・30歳代)

○幼稚園も学校も役員をするのは主に女性親ばかりでした。学校ボランティアも同様。女性ばかりの子の習い事を支えるのも、社会全般結局は女性です。これだけ女性が働くようになってもお、やはり女性が家事をこなします。ハードがそのままでちょこちょこソフトだけ調整したところで、なかなか変わりません。(女性・40歳代)

○労働人口が減少する中、女性が無理なく働くためには育児の保育施設や介護の為の支援という働きやすい環境づくりをする事が何よりも必要だと思います。(女性・50歳代)

6 働き方・就労環境について

○男性への育児休業等の取得の義務化を実施して欲しい。(男性・30歳代)

○管理職になりたい女性はなれる体制にするべき。但し、なりたくない女性を管理職として無理に50:50にする事はあってはならない。(男性・40歳代)

○大田区が進んで高齢女性の再就職希望者への情報提供を積極的に開示して斡旋して民間の動機付になると思う。(男性・60歳代)

○給料など男、女が同じ時間働いた場合、同じ補償を受けれる仕組みを作れると良いと思う。(その他, 40歳代)

○女性は妊娠、出産で職場を離れざるをえないので、男女の家庭内での役割をすべて平等にするのは不可能。大切なのは保育サービスの充実と子育てに負担がかからない時短、在宅の普及だと思う。男女共に。大切なのはこれから未来を担う子供達が楽しく幸せに暮らし、寂しい思いをしないこと。(女性・30歳代)

7 地域活動、行政活動等への女性の参画について

○とにかく「男女平等」というと役職、構成員について男女比を1:1にしようといった論調が見られるが、現状の候補者比が1:1ではない中でそのような登用を行うと相対的に適性の低い女性がポストに収まってしまい「やはり女性は駄目だ」といった無益なジェンダー対立を生みかねない。問27のように結果的な男女比を見るのではなく応募時の男女比にどれだけ近いかを見るのが能力開発の点でも妥当ではないか。(男性・20歳代)

○「エセナおおた」といった取り組みは全く知らないが、大田区の審議会、委員会等の男女比が思っていたより偏っていなかった。女性の比率が40%くらいが良いのではと思います。私の職場も、妻の職場も女性の比率は10%以下です。(男性・30歳代)

○まず大田区の議員の方々が男女半々位になる必要があると思います。女性の意見も多く「男女平等、男女共同参画施策全般について」複眼的に自由に発言できるようになると考えます。もっとも基本となる生活面「家庭生活」の安全や安定が大切です。なぜなら意見を自由に伝える心の余裕も考えも出ませんから。(女性・50歳代)

8 LGBT等、多様性について

- LGBTにも同様の人権を与えられていると思える社会環境を求めます。保険証など不便です。(その他、50歳代)
- 男女という事だけでなく、性別、人種、国籍を越えて一人の人間として存在が尊重され、その人らしく生きていける世の中であってほしい。大人として責任を感じています。(女性・50歳代)

9 エセナおおたについて

- 今回のアンケート調査で、「エセナおおた」、「パステル」等知りました。大田区の広報等で広くアピールして頂ければ幸いです。(男性・60歳代)
- 大田区では以前から「男女共同参画社会の実現」に取り組んでいると言っているが、それを実感したことが全くない。「エセナおおた」もサークル活動のための施設になっているとしか見えない。お題目を唱えているだけでは…。しっかりとした目標とプランを考えていただきたい。(女性・50歳代)
- 「パステル」を読んだことはありますし、「エセナおおた」の様々な取り組みも評価しています。男女平等・男女共同参画を区は、もっともっと広く区民にアピールして欲しい。(女性・70歳以上)

10 その他

- アンケートに参加したおかげでこれまで区の進めておられる男女平等、共同参画運動にほとんど無知であったことを自覚しました。今後は少しでも目を向けていこうと思います。(男性・70歳以上)
- 今回のアンケートで、男女共同参画に関する区の取り組みを知るきっかけになりました。今後区の活動に対して、都合が合えば参加してみたいと思います。(女性・50歳代)
- このような調査を依頼されると男女平等に対する意識が高くなる。(女性・60歳代)

第4章 調査票および集計表

1 調査票

大田区 男女共同参画に関する意識調査

調査ご協力をお願い

日頃より、大田区の男女共同参画施策の推進につきまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

大田区では、すべての区民が性別にかかわらず個人として尊重され、互いに支え合う、男女共同参画社会の実現に向けて「大田区男女共同参画推進プラン」を策定し、さまざまな施策に取り組んでいます。

このたび同プランを改定することとなり、その基礎資料とするため「男女共同参画に関する意識調査」を行うことになりました。大田区にお住まいの2,000人の皆さまを無作為で選ばせていただきました。無記名での回答となっております。また、お答えいただく内容はすべて統計的に処理し、目的以外に利用することはありません。

つきましては、ご多忙中誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年11月

大田区

ご記入にあたってのお願い

- 1 あて名のご本人がお答えください。
- 2 回答は、あてはまる番号を○で囲んでいただきます。○の数は【○は1つ】【○はいくつでも】等と指定していますので、その範囲内でお答えください。
- 3 問1以降の設問について、回答に「その他」を選んだ場合は、具体的な内容を（ ）にご記入ください。

ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて11月27日（水）までにご投函ください。切手を貼る必要はありません。

※調査票や返信用封筒には、お名前やご住所は記入しないよう、お願いいたします。

◎疑問、不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

大田区 総務部 人権・男女平等推進課

電話 03-5744-1610（直通）

あなたご自身のことについてお伺いします。

F1 あなたの性別についてお答えください。【〇は1つ】

※性的マイノリティを考慮した選択肢を記載しています。戸籍上の性別に関係なく、ご自身の主観でご回答ください。

- | | | |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

F2 あなたの年齢は、いくつですか。【〇は1つ】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 20~29歳 | 2 30~39歳 | 3 40~49歳 |
| 4 50~59歳 | 5 60~69歳 | 6 70歳以上 |

F3 あなたは結婚していますか（していましたか）。【〇は1つ】

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1 未婚 | 2 既婚（事実婚を含む） |
| 3 離別（結婚していたが、離婚した） | 4 死別（結婚していたが、相手が亡くなった） |

F4 F3で「2」とお答えの方におたずねします。

あなたと配偶者・パートナーは職業に就いていますか。【〇は1つ】

- | |
|-------------------------|
| 1 共に職業に就いている（内職・パートを含む） |
| 2 どちらか一方が職業に就いている |
| 3 どちらも職業に就いていない |

F5 現在、いっしょにお住まいの方はどなたですか。

続柄はあなたを中心に考えください。【〇はいくつでも】

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1 ひとり暮らし | 2 配偶者・パートナー | 3 未婚の子ども |
| 4 結婚した子ども | 5 親 | 6 その他 |

F6 F5で「3」「4」とお答えの方におたずねします。

お子さんの年齢や成長段階についてお答えください。【〇はいくつでも】

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 1歳未満 | 2 1歳以上、3歳未満 |
| 3 3歳以上、小学校入学前 | 4 小学生 |
| 5 中学生 | 6 高校生相当または、それ以上 |

職業についてお伺いします。

問1 現在、あなたの職業は次のうちどれですか。主な職業をお答えください。【〇は1つ】

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 企業経営者・役員 | 2 常勤の正規社員 |
| 3 派遣社員 | 4 契約社員・嘱託社員 |
| 5 臨時・非常勤 | 6 パートタイム・アルバイト |
| 7 自営業・家族従業員・自由業 | 8 内職・在宅勤務 |
| 9 その他（ | ） |
| 10 職業には就いていない（学生等） | |

問1-2 問1で「1」～「6」とお答えの方におたずねします。

あなたの職場では、男女差別があると思いますか。具体的な内容についてお答えください。

【〇はいくつでも】

- 1 募集や採用に差がある
- 2 賃金・昇進昇給の面で差がある
- 3 女性の仕事は補助的業務や雑務が多い
- 4 希望職種に就く機会に差がある
- 5 教育・研修を受ける機会に差がある
- 6 育児休業・介護休業を取得しにくい雰囲気がある
- 7 女性には結婚退職や出産退職等の習慣や雰囲気がある
- 8 男性には成果を求める
- 9 転勤を断れない雰囲気がある
- 10 その他（)
- 11 ないと思う

問1-3 問1で「10」とお答えの方におたずねします。

あなたが、現在職業に就いていない理由は何ですか。【〇はいくつでも】

- 1 働かなくても経済的に困らない
- 2 家事・育児に専念したい
- 3 介護・看護に専念したい
- 4 健康に自信がない
- 5 職業能力に自信がない
- 6 希望や条件に見合う仕事がない
- 7 趣味や社会活動等、他にやりたいことがある
- 8 家族の意向に沿っている
- 9 高齢だから
- 10 その他（)
- 11 求職中だが、採用されない
- 12 特に理由はない

問1-4 問1で「10」とお答えの方におたずねします。

あなたは今後、職業に就きたいと思いますか。【〇は1つ】

- 1 常勤の正規社員として働きたい
- 2 派遣社員、契約社員・嘱託社員として働きたい
- 3 臨時・非常勤、パートタイム・アルバイトで働きたい
- 4 在宅で働きたい
- 5 自分で事業を始めたい（起業）
- 6 働きたいが、現実的にはできないと思う
- 7 働きたいと思わない

問1-5 問1-4で「1」～「6」とお答えの方におたずねします。

あなたは職業に就くうえで何か不安に思うことはありますか。【〇はいくつでも】

- 1 希望する職種に就けるか
- 2 業務内容についていけるか
- 3 現在の情報環境に適應できるか
- 4 職場のサポートを得られるか
- 5 職場の人とうまくやれるか
- 6 自分が子育てや家事に時間をとれるか
- 7 介護・看護と両立できるか
- 8 家族が子育てや家事をサポートしてくれるか
- 9 その他 ()
- 10 特にない

問2 女性が職業に就くことについて、あなたはどうか考えですか。【〇は1つ】

- 1 結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい
- 2 妊娠したら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び職業に就く方がよい
- 3 妊娠までは職業に就き、出産後は家事・育児に専念した方がよい
- 4 結婚までは職業に就き、結婚後は家事に専念した方がよい
- 5 女性は職業に就かない方がよい
- 6 その他 ()

問3 あなたは、女性が就労を続けていくうえで、支障があると思いますか。【〇は1つ】

- 1 あると思う
- 2 ないと思う
- 3 どちらともいえない

問3-2 問3で「1」とお答えの方におたずねします。

女性が就労を続けていくうえでの支障は、具体的にどのようなことだと思いますか。【〇はいくつでも】

- 1 女性が長く勤めにくい職場の雰囲気（結婚・出産による退職の慣行等）
- 2 育児休業等の労働環境の不備
- 3 保育施設等の社会福祉の不備
- 4 家事・子育ての負担
- 5 配偶者やパートナー、家族の理解と協力が得られない
- 6 配偶者やパートナー等の転勤
- 7 家族の介護・看護の負担
- 8 昇進における男女の差別
- 9 賃金における男女の差別
- 10 職種等における男女の差別
- 11 職場での男性中心的な考え方
- 12 その他 ()

問4 あなたは、子育てや介護等により、いったん離職した人が再就職するためには、どのようなことが必要だと思えますか。【〇はいくつでも】

- 1 再就職に関して気軽に相談できる窓口の設置
- 2 再就職を目指す人に対する子育て支援、保育サービス等の充実
- 3 実践的能力や知識・ノウハウの習得を支援する研修・講座等の開催
- 4 再就職希望者への情報提供
- 5 近隣の勤め先に関する情報提供
- 6 在宅ワーク支援のためのセミナー開催や情報提供、相談事業等
- 7 個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務等）の導入
- 8 企業における事業所内の託児施設の整備
- 9 ホームヘルパーや介護福祉施策の充実
- 10 その他（ ）

問5 公的機関、企業、団体等において職業に就いている方におたずねします。（無職、自営を除く）
あなたは、育児休業・介護休業・介護休暇・子の看護休暇を取得したことがありますか。項目（ア）～（エ）のそれぞれについてお答えください。【項目ごとに〇は1つずつ】

項 目	取得した こと がある	取得したことがない			
		そのような 制度が なかった	取得しなくて も対応できた	周囲の事情等 により取得で きなかった	育児や 介護、看護 を行う 必要が なかった
（ア）育児休業 ※育児のために一定期間 休業できる制度	1	2	3	4	5
（イ）介護休業 ※介護のために一定期間 休業できる制度	1	2	3	4	5
（ウ）介護休暇 ※短期の介護のための年 5日程程度の休暇	1	2	3	4	5
（エ）子の看護休暇 ※病気等の子どもの看護 のための年5日程程度の 休暇	1	2	3	4	5

問6 あなたは、育児休業・介護休業を取得する際の職場における支援として、どのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 休業前の人事担当者との復帰後に関する面談 |
| 2 | 休業中における定期的な業務等の情報共有 |
| 3 | 復職前における人事担当者との復職に向けた面談 |
| 4 | 復職後のキャリアプランの作成 |
| 5 | 休業中に通信教育等を受講する支援 |
| 6 | 復職前における仕事に関する研修 |
| 7 | 復職後における仕事に関する研修 |
| 8 | その他 () |
| 9 | 持にない |

家庭生活・子育てについてお伺いします。

問7 あなたは、次の(ア)～(エ)の考え方について、どう思いますか。

【項目ごとに〇は1つずつ】

項目	同感する	どちらかというと同感する	どちらかというと同感しない	同感しない
(ア) 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
(イ) 家事は夫婦で分担するべきだ	1	2	3	4
(ウ) 育児は夫婦で分担するべきだ	1	2	3	4
(エ) 介護・看護は夫婦で分担するべきだ	1	2	3	4

問8 配偶者・パートナーがいらっしゃる方におたずねします。

あなたのご家庭では、家事、育児、介護・看護に関する配偶者・パートナーとの分担はどのようになっていますか。【項目ごとに〇は1つ】

項目	主に男性が分担	どちらかという同男性が分担	男性と女性で同程度に分担	どちらかという同女性が分担	主に女性が分担	その他
(ア) 家事	1	2	3	4	5	6
(イ) 育児	1	2	3	4	5	6
(ウ) 介護・看護	1	2	3	4	5	6

問9 育児休業や介護休業は性別にかかわらず取得することができる制度ですが、あなたは、配偶者やパートナーがそれら休暇を取得することについて、どのように思いますか。

【項目ごとに〇は1つ】

項目	取得した方がよい	取得した方がよいと思うが、現実的には休めない	取得する必要はない
(ア) 育児休業	1	2	3
(イ) 介護休業	1	2	3

問9-2 問9の項目(ア)・(イ)のどちらかで「2」を選択した方におたずねします。

具体的にどのような条件が整えば、取得できると思いますか。【〇はいくつでも】

- | |
|--|
| 1 育児休業・介護休業の制度が正確に認知・共有されること
2 上司や同僚等の理解や協力があること
3 以前に取得した人の事例があること
4 賃金や手当等の経済的な支援があること
5 昇進や昇格に影響がないこと
6 休業中の代替要員が確保されること
7 職場への復帰に際しての支援があること
8 その他() |
|--|

ワーク・ライフ・バランスについてお伺いします。

問10 生活の中での、仕事・家庭生活・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお伺いします。あなたの「現実（現状）」に最も近いもの、「希望」に最も近いものを、1つずつお答えください。【項目ごとに〇は1つずつ】

※職業に就いていない方は、家庭生活と個人の生活の関係についてお答えください。

項目	仕事優先	家庭生活優先	個人の生活優先	仕事と家庭生活優先	仕事と個人の生活優先	家庭生活と個人の生活優先	仕事・家庭生活・個人の生活を両立
(ア) 現実	1	2	3	4	5	6	7
(イ) 希望	1	2	3	4	5	6	7

問11 あなたは、仕事と生活を両立できていると思いますか。【〇は1つ】

- | |
|--|
| 1 できている
2 どちらかという、できている
3 どちらかという、できていない
4 できていない
5 働いていない |
|--|

問12 あなたは、社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）*を進めるために、どのようなことが重要だと思いますか。【〇はいくつでも】

*ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事と生活の調和」と訳され、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活等においても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる状態」をいいます。

- 1 保育・介護の施設やサービスの充実
- 2 パートタイマー、契約・派遣社員等の労働条件の向上
- 3 育児・介護のための休暇制度が取得しやすくなること
- 4 労働時間短縮・フレックスタイム等のしくみが整うこと
- 5 男女の雇用機会や昇進、待遇格差がなくなること
- 6 「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識の解消
- 7 無駄な業務・作業の減少
- 8 職場の理解、家族・地域の人の理解
- 9 その他（)

問13 あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

- 1 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
- 2 男性による家事・育児等について、職場における上司や周囲の理解を進める
- 3 男性が家事・育児等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
- 4 社会の中で、男性による家事・育児等についても、その評価を高める
- 5 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する
- 6 男性が家事・育児等に参加することに対する女性の抵抗感をなくす
- 7 労働時間短縮や休暇制度、テレワーク等のICTを利用した多様な働き方を普及する
- 8 男性が家事・育児等を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる
- 9 男性の家事・育児等についての啓発や情報提供を行う
- 10 男性の家事・育児に関する相談の受付や講座を開催する
- 11 小・中学校、高等学校における家庭科教育（男女共修）を充実させる
- 12 その他（)
- 13 特に必要なことはない

人権についてお伺いします。

問14 あなたは、職場や学校等でハラスメントを受けたことはありますか。【〇はいくつでも】

- 1 セクシュアル・ハラスメント*¹を受けたことがある
- 2 パワー・ハラスメント*²を受けたことがある
- 3 ジェンダー・ハラスメント*³を受けたことがある
- 4 マタニティ・ハラスメント*⁴を受けたことがある
- 5 その他のハラスメントを受けたことがある
- 6 受けたことはないが、見たことはある
- 7 受けたことも、見たこともない

※1 セクシュアル・ハラスメントとは、性的な発言や行動により、相手に不快感を与える行為のことをいいます。

※2 パワー・ハラスメントとは、職務上の地位や人間関係職権や等の権限や優位性を背景として精神的・身体的苦痛を与えるまたは職場環境を悪化させることをいいます。

※3 ジェンダー・ハラスメントとは、女らしさや男らしさという基準で判断して差別的な言動を浴びせたり、相手を非難したりすることをいいます。

※4 マタニティ・ハラスメントとは、妊娠や出産・育児休業等を理由に、精神的・身体的苦痛を与える言葉や行為を行うことや、職場で不当な扱いをすること等をいいます。

問15 (1)あなたは、これまでに配偶者(事実婚や別居、離別を含む)や恋人等のパートナーから、次にあげる(ア)～(ソ)のような行為を受けたことがありますか。

【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】

(2)また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(ソ)のような行為をDVだと思えますか。

【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】

	(1) されたことがあるか			(2) どう思うか		
	頻繁にあった	数回あった	まったくない	DVだと思っても どのような場合でも	DVにはならない 相手に非があれば	DVだと思わない
(ア) 何を言っても無視する	1	2	3	A	B	C
(イ) 大声で怒鳴る	1	2	3	A	B	C
(ウ) 交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する	1	2	3	A	B	C
(エ) 生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない	1	2	3	A	B	C
(オ) 外出を制限する、どこで何をしているか行動をチェックする	1	2	3	A	B	C
(カ) 常に監視し、人間関係を制限する	1	2	3	A	B	C
(キ) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」等と侮辱的なことを言う	1	2	3	A	B	C
(ク) 体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する	1	2	3	A	B	C
(ケ) 見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	A	B	C
(コ) 避妊に協力しない	1	2	3	A	B	C
(サ) 物を壊したり、大切な物を勝手に捨てる	1	2	3	A	B	C
(シ) 物を投げつける、髪の毛を引っ張る、殴る、蹴る等の行為	1	2	3	A	B	C
(ス) 反論したり、意見を言ったりすることを許さない	1	2	3	A	B	C
(ソ) 子どもに危害を加えると脅す	1	2	3	A	B	C

⇒ (ア)～(ソ)のうち1つでも「頻繁にあった」「数回あった」とお答えした方はP11の間16へ
⇒ すべて「まったくない」とお答えした方はP12の間17へ

問16 問15(ア)～(ソ)のうち1つでも「頻繁にあった」「数回あった」とお答えした方におたずねします。

あなたはこれまでに、(ア)～(ソ)の行為を受けたことについて、だれかに打ち明けたり、相談しましたか。【〇は1つ】

- 1 相談した
- 2 相談しなかった

問16-2 問16で「1」とお答えの方におたずねします。

そのとき、どこ(だれ)に相談しましたか。【〇はいくつでも】

- 1 大田区のDV専用相談窓口(DVダイヤル・生活福祉課)
- 2 大田区のその他の相談窓口(地域健康課、子ども家庭支援センター、男女平等推進センター「エセナおおた」のたんぼぼ相談、区役所の区民法律相談等)
- 3 東京都の相談窓口(東京ウィメンズプラザや東京都女性相談センター)
- 4 国の相談窓口(法務局の人権相談窓口等)
- 5 警察
- 6 民間の専門家や民間支援団体(弁護士・カウンセラー・NPO等)
- 7 医療関係者(医師・看護師、医療ソーシャルワーカー等)
- 8 民生・児童委員、人権擁護委員等
- 9 SNSやインターネット上の相談サイト
- 10 家族
- 11 友人・知人
- 12 その他()

問16-3 問16で「2」とお答えの方におたずねします。

そのとき、どこ(だれ)にも相談できなかった、相談しなかったのはなぜですか。

【〇はいくつでも】

- 1 相談するほどのことではないと思ったから
- 2 そのうち、暴力行為が減るかもしれないと思ったから
- 3 相談しても解決しないと思ったから
- 4 自分にも悪いところがあると思ったから
- 5 自分さえ我慢すればよい、仕方がないと思ったから
- 6 相談できる人がいなかったから
- 7 どこ(だれ)に相談すればよいかわからなかったから
- 8 自分が受けた行為を打ち明けるのは恥ずかしい、抵抗があったから
- 9 相談したことがわかったときの仕返しが恐いから
- 10 他人に負担や迷惑をかけたくなかったから
- 11 その他()

問17 あなたは、配偶者や恋人等のパートナーからの暴力被害の相談先は知っていますか。

【〇はいくつでも】

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1 大田区配偶者暴力相談支援センターのDVダイヤル | |
| 2 大田区役所・生活福祉課 | |
| 3 女性のためのたんぼぼ相談（男女共同参画センターエセナおおた） | |
| 4 東京都女性相談センター | |
| 5 東京ウィメンズプラザ | |
| 6 その他（ | ） |
| 7 どこも知らない | |

問18 あなたは、配偶者や恋人等のパートナーからの暴力の防止および被害者支援のために、どのような対策が必要だと思えますか。【〇はいくつでも】

- | | |
|--|---|
| 1 家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発 | |
| 2 いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備 | |
| 3 住居や就労の斡旋、経済的援助等、自立して生活するための支援策の充実 | |
| 4 カウンセリングや日常的な相談等、精神的に自立するための支援策の充実 | |
| 5 専門相談窓口の設置 | |
| 6 関係機関の紹介や暴力への対応方法等、配偶者等からの暴力に関するいろいろな知識の提供 | |
| 7 離婚訴訟への支援等、法的なサポートの充実 | |
| 8 カウンセリング等、加害者の更生に関する対応の充実 | |
| 9 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育 | |
| 10 行政や警察による積極的な啓発活動 | |
| 11 法律による規制の強化や見直し | |
| 12 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌・SNSやインターネットのサイト等）の販売・貸出の規制や閲覧制限等 | |
| 13 その他（ | ） |

地域活動等についてお伺いします。

問19 あなたは、過去1年間で自主的に学んだことがありますか。【〇はいくつでも】

※読書やインターネットで検索して学んだ場合も含まれます。

※会社や団体などでの研修で学んだ場合は含みません。

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1 仕事のために学んだ／学んでいる | |
| 2 家庭（家事・育児・介護・家計管理など）のために学んだ／学んでいる | |
| 3 地域活動や社会貢献活動のために学んだ／学んでいる | |
| 4 自分の趣味や興味・関心のために学んだ／学んでいる | |
| 5 その他のことを学んだ／学んでいる | |
| 6 学ぶ機会はなかった | |

問20 あなたは、現在、何らかの地域活動や社会貢献活動等に参加していますか。【〇はいくつでも】

- 1 P T Aや父母会の役員
- 2 自治会・町内会・子ども会等の会員としての活動
- 3 盆踊りやお祭り等の地域の催し
- 4 スポーツ、レクリエーション活動
- 5 地域の歴史の研究や伝統芸能等の文化活動
- 6 災害復興支援、高齢者や障がい者支援等のボランティア活動
- 7 その他（)
- 8 参加していない

問21 あなたは、今後、何らかの地域活動に参加したいと思いますか。【〇はいくつでも】

- 1 参加したいと思う
- 2 知り合いが参加していれば、参加すると思う
- 3 誘われれば、参加すると思う
- 4 興味はあるが、馴染めるか不安なので参加しないと思う
- 5 興味はあるが、仕事や家事等で時間がないので難しい
- 6 参加したくない
- 7 その他（)

問22 あなたは、地域活動等の参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
【〇はいくつでも】

- 1 情報発信や啓発活動をする
- 2 地域活動等への参加ができるような学習や訓練の機会を増やす
- 3 家庭で親等が地域活動等への参加の重要性を教える
- 4 学校で地域活動等への参加の重要性を教える
- 5 家事や育児、介護を家庭内で分担する
- 6 労働時間の短縮、休暇を取得しやすい職場環境を整備する
- 7 仕事と子育て・介護の両立を支援する環境の整備を図る
- 8 地域団体の取り組みを広報する
- 9 その他（)

問23 あなたは、地域活動をはじめ、政治や企業活動等、あらゆる分野において、政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。【〇はいくつでも】

- 1 性別による役割分担や性差別の意識があるから
- 2 男性優位の組織運営があるから
- 3 家庭の支援・協力が得られないから
- 4 女性の能力開発の機会が不十分であるから
- 5 女性の活動を支援する人的ネットワークが不足しているから
- 6 女性側の積極性が十分ではないから
- 7 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから
- 8 配偶者・パートナーの家事・育児等が不十分で、女性がやらざるを得ないから
- 9 その他（)

男女共同参画の取り組み等についてお伺いします。

問24 あなたは、大田区の次の施設や取り組みを知っていますか。また利用したことはありますか。

(1)～(3)についてそれぞれお答えください。【〇はそれぞれ1つずつ】

(1) 大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

- | |
|--------------------|
| 1 利用したことがある |
| 2 知っているが、利用したことはない |
| 3 知らない |

(2) エセナおおたの女性のためのたんぼぼ相談

- | |
|--------------------|
| 1 利用したことがある |
| 2 知っているが、利用したことはない |
| 3 知らない |

(3) 大田区男女平等推進啓発情報誌「パステル」

- | |
|-------------------|
| 1 読んだことがある |
| 2 知っているが、読んだことはない |
| 3 知らない |

問25 「エセナおおた」で実施する男女平等・男女共同参画に関する取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

- | |
|--|
| 1 男女共同参画やジェンダー（社会的・文化的につくられた男女差）解消のための取り組み |
| 2 あらゆる暴力の根絶やハラスメント防止のための取り組み |
| 3 さまざまな場面に女性が参画し、能力を発揮できる女性リーダーの育成 |
| 4 ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進 |
| 5 女性の再就職や起業などの支援 |
| 6 男性の家事・育児・介護への参画促進 |
| 7 地域活動における男性の参画推進 |
| 8 防災分野での男女共同参画の視点を活かす取り組み |
| 9 男女共同参画に関する調査研究 |
| 10 性別を問わず相談できる窓口の充実 |
| 11 民間団体・グループの自主活動支援 |
| 12 その他（) |

問26 あなたは、次の(ア)・(イ)の用語を知っていますか。【用語ごとに〇は1つずつ】

用語	言葉も内容も知っている	内容は知らないが聞いたことはある	知らない
(ア) ジェンダー（社会的性）	1	2	3
(イ) LGBT（性的マイノリティ）	1	2	3

問27 現在、大田区では、審議会、委員会等の委員2,389名のうち、約30.6%が女性です。これについて、あなたはどのように思いますか。【〇は1つ】

- 1 今のままでよい
- 2 もう少し女性が増えた方がよい
- 3 男女半々くらいまで女性が増えた方がよい
- 4 特に男女の比率には、こだわらない
- 5 その他 ()

問28 あなたは、次にあげる分野において、男女の地位は平等であると思いますか。分野(ア)～(カ)のそれぞれについてお答えください。【分野ごとに〇は1つずつ】

分 野	女性が 優遇され ている	やや女性 が優遇さ れている	平等に である	やや男性 が優遇さ れている	男性が 優遇され ている
(ア) 家庭生活	1	2	3	4	5
(イ) 職場	1	2	3	4	5
(ウ) 教育の場	1	2	3	4	5
(エ) 政治の場	1	2	3	4	5
(オ) 法律や制度	1	2	3	4	5
(カ) 社会通念や習慣	1	2	3	4	5

問29 あなたは、大田区では男女共同参画が推進されていると思いますか。【〇は1つ】

- 1 とても推進されていると思う
- 2 推進されていると思う
- 3 どちらともいえない
- 4 推進されていないと思う
- 5 わからない

問30 あなたは、男女共同参画社会の実現を図るために、今後、区はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。【〇はいくつでも】

- 1 学校における男女共同参画についての教育の充実
- 2 男女平等に関する情報提供や学習機会の充実
- 3 女性の職業教育・訓練の機会の充実
- 4 就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ
- 5 育児・保育施設の充実
- 6 あらゆる分野における女性の積極的な登用
- 7 政策決定・意思決定への女性の参画促進
- 8 高齢者や障がい者等の在宅介護サービスや施設の充実
- 9 健康づくりのための検診体制や相談体制の充実
- 10 男女共同参画の視点に立った相談事業の充実
- 11 男女共同参画に関する国際的な交流・情報収集の促進
- 12 男女共同参画に関する施策の国・都への働きかけ
- 13 その他（ ）

問31 あなたは、学校教育の場で、男女平等・男女共同参画を考えていく場合、どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。【〇はいくつでも】

- 1 授業の中で男女平等の教育を進める
- 2 家庭科等、男女共修の推進
- 3 生活指導において、男女の別がないよう配慮する
- 4 進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する
- 5 一人ひとりを尊重し認め合うことを大切にされた教育をする
- 6 教員や職員に男女平等の研修を推進する
- 7 女性管理職（校長や副校長）をもっと増やす
- 8 出席簿・座席・名簿等、男女を分けないようにする
- 9 その他（ ）

問32 最後に、大田区の男女平等・男女共同参画施策全般についてのご意見を自由にご記入ください。

--

ご協力ありがとうございました。

調査票は三つ折りにして、返信用封筒に入れてください。無記名のまま **11月27日(水)**までに郵便ポストにご投函ください。

2 集計表

F1 あなたの性別についてお答えください。【〇は1つ】
※性的マイノリティを考慮した選択肢を記載しています。戸籍上の性別に関係なく、ご自身の主観でご回答ください。

合計	男性	女性	その他	70歳以上	
全体	697	39.3	59.4	0.7	0.6

F2 あなたの年齢は、いくつですか。【〇は1つ】

合計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
全体	697	9.2	14.1	19.2	18.4	22.2	0.4
男性	274	8.8	14.6	15.7	17.2	25.2	-
女性	414	9.7	13.8	21.7	19.1	20.0	0.2
その他	5	-	20.0	20.0	40.0	-	20.0

F3 あなたは結婚していますか（していましたか）。【〇は1つ】

合計	未婚	既婚（事実婚を含む）	離別（結婚していたが、離婚した）	死別（結婚していたが、相手が亡くなった）	無回答	
全体	697	20.4	65.7	6.3	7.0	0.6
男性	274	20.4	70.8	4.7	4.0	-
女性	414	20.5	62.8	7.2	9.2	0.2
その他	5	20.0	60.0	20.0	-	-

F4 F3で「2」とお答えの方におたずねします。あなたと配偶者・パートナーは職業に就いていますか。【〇は1つ】

合計	共に職業に就いている（内職・パートを含む）	どちらか一方が職業に就いている	どちらも職業に就いていない	無回答	
全体	458	57.6	24.2	17.0	1.1
男性	194	54.6	21.6	22.2	1.5
女性	260	60.4	26.2	13.1	0.4
その他	3	33.3	33.3	-	33.3

F5 現在、いっしょにお住まいの方はどなたですか。続柄はあなたを中心にお考えください。
【〇はいくつでも】

	合計	ひとり暮らし	配偶者・パートナー	未婚の子ども	結婚した子ども	親	その他	無回答
全体	697	15.6	64.3	36.0	6.6	12.8	4.6	1.0
男性	274	15.0	67.9	29.9	6.9	13.1	4.4	0.4
女性	414	16.2	62.1	40.6	6.5	12.8	4.6	1.0
その他	5	20.0	60.0	20.0	-	-	20.0	-

F6 F5で「3」「4」とお答えの方におたずねします。お子さんの年齢や成長段階についてお答えください。【〇はいくつでも】

	合計	1歳未満	1歳以上、3歳未満	3歳以上、小学校入学前	小学生	中学生	高校生相当または、それ以上	無回答
全体	295	6.1	6.8	14.9	19.7	13.9	60.0	2.7
男性	101	10.9	5.0	13.9	19.8	10.9	51.5	5.9
女性	193	3.6	7.8	15.5	19.7	15.5	64.8	0.5
その他	1	-	-	-	-	-	-	100.0

問1 現在、あなたの職業は次のうちどれですか。主な職業をお答えください。【〇は1つ】

	合計	企業経営者・役員	常勤の正規社員	派遣社員	契約社員・嘱託社員	パートタイム・アルバイト	自営業・家族従業員・自由業	職業には就いていない(学生等)	無回答
全体	697	3.2	37.3	2.4	4.7	11.3	7.2	23.7	2.7
男性	274	5.8	46.0	1.5	5.1	4.4	10.9	17.9	2.6
女性	414	1.4	32.1	2.9	4.6	16.2	4.6	27.3	2.4
その他	5	-	20.0	20.0	-	-	20.0	20.0	-

問1-2 問1で「1」～「6」とお答えの方におたずねします。あなたの職場では、男女差別があると思いますか。具体的な内容についてお答えください。【〇はいくつでも】

	合計	募集や採用に差がある	賃金・昇進昇給の面で差がある	女性の仕事は補助的業務や雑務が多い	希望職種に就く機会に差がある	教育・研修を受けられる機会に差がある	育児休業・介護休業を取得しにくい雰囲気がある	女性には結婚退職や出産退職等の習慣や雰囲気がある	男性には成果を求める	転勤を断れない雰囲気がある	その他	無回答	
全体	422	12.1	20.1	16.1	5.9	2.8	11.6	3.6	9.7	7.1	4.7	51.4	3.3
男性	173	11.0	17.3	17.9	5.2	0.6	15.0	4.0	15.6	9.8	3.5	50.3	2.3
女性	247	12.1	21.9	14.6	5.7	4.5	8.9	3.2	5.3	4.9	5.7	52.6	4.0
その他	2	100.0	50.0	50.0	100.0	-	50.0	-	50.0	50.0	-	-	-

問1-3 問1で「10」とお答えの方におたずねします。あなたが、現在職業に就いていない理由は何ですか。【〇はいくつでも】														
合計	働かなくても経済的に困らない	家事・育児に専念したい	介護・看護に専念したい	健康に専念したい	職業能力に自信がない	希望や条件に見合う仕事がない	趣味や社会活動等、他にやりたいことがある	家族の意向に沿っていない	高齢だから	その他	求職中だが、採用されない	特に理由はない	無回答	
全体	165	23.6	10.9	5.5	11.5	6.1	10.9	14.5	7.9	45.5	12.7	0.6	2.4	5.5
男性	49	20.4	-	2.0	10.2	2.0	10.2	10.2	2.0	65.3	12.2	-	4.1	2.0
女性	113	25.7	15.9	7.1	11.5	7.1	11.5	16.8	10.6	37.2	12.4	0.9	1.8	6.2
その他	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-

問1-4 問1で「10」とお答えの方におたずねします。あなたは今後、職業に就きたいと思えますか。【〇はいくつ】									
合計	常勤の正規社員として働きたい	派遣社員、契約社員、嘱託社員として働きたい	臨時・非常勤、パートタイム・アルバイトで働きたい	在宅で働きたい	自分で事業を始めたい(起業)	働きたいが、現実的にはできないと思う	働きたいと思わない	無回答	
全体	165	5.5	-	21.8	1.8	-	23.0	29.7	18.2
男性	49	8.2	-	16.3	-	-	24.5	36.7	14.3
女性	113	4.4	-	23.9	2.7	-	22.1	27.4	19.5
その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-

問1-5 問1-4で「1」～「6」とお答えの方におたずねします。あなたは職業に就くうえで何が不安に思うことはありますか。【〇はいくつでも】											
合計	希望する職種に就けるか	業務内容についていけるか	現在の情報環境に適應できるか	職場のサポートをえられるか	職場の人とうまくやれるか	自分が子育てや家事に時間をとれるか	介護・看護と両立できるか	家族が子育てや家事をサポートしてくれるか	その他	特にない	無回答
全体	86	30.2	25.6	20.9	14.0	14.0	12.8	5.8	9.3	15.1	17.4
男性	24	45.8	25.0	20.8	8.3	4.2	-	-	16.7	20.8	16.7
女性	60	25.0	26.7	20.0	16.7	18.3	18.3	8.3	6.7	13.3	16.7
その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-

問2 女性が職業に就くことについて、あなたはどのようにお考えですか。【〇は1つ】								
合計	結婚・出産にかかわらず職業に就く方がよい	妊娠したら辞め、子どもがからなくなったら再び職業に就く方がよい	妊娠までは就業に就き、出産後は家事・育児に専念した方がよい	結婚までは就業に就き、結婚後は家事に専念した方がよい	女性は職業に就かない方がよい	その他	無回答	
全体	697	58.5	23.1	2.7	2.0	0.3	10.0	3.3
男性	274	61.3	21.5	1.8	1.5	0.7	10.6	2.6
女性	414	57.5	24.2	3.4	1.9	-	9.7	3.4
その他	5	40.0	20.0	-	20.0	-	20.0	-

問3 あなたは、女性が就労を続けていくうえで、支障があると思いますか。【〇は1つ】		どちらとも いえない		無回答	
合計	あると思う ないと思う				
697	68.0	10.2	19.9	1.9	
274	59.9	16.8	22.3	1.1	
414	73.9	5.6	18.6	1.9	
5	80.0	-	20.0	-	

問3-2 問3で「1」とお答えの方におたずねします。女性が就労を続けていくうえで支障は、具体的にどのようなことだと思いますか。【〇はいくつでも】													
合計	女性が長く勤めにくい職場の雰囲気(結婚・出産による退職の慣行等)	育児休業等の労働環境の不備	保育施設等の社会福祉の不備	家事・子育ての負担	配偶者やパートナー、家族の理解と協力が得られない	配偶者やパートナー等の転勤	家族の介護・看護の負担	昇進における男女の差別	賃金における男女の差別	職種等における男女の差別	職場での男性中心な考え方	その他	無回答
474	34.4	53.2	62.7	73.4	31.9	24.9	33.1	23.0	24.5	19.8	28.7	4.6	1.7
164	34.1	57.9	61.6	65.9	22.0	25.0	24.4	20.1	17.7	22.6	26.2	1.8	2.4
306	33.7	51.0	63.1	77.5	37.3	24.8	37.6	23.5	27.5	18.0	29.1	6.2	1.3
4	100.0	25.0	75.0	75.0	25.0	25.0	50.0	100.0	75.0	50.0	100.0	-	-

問4 あなたは、子育てや介護等により、いったん離職した人が再就職するためには、どのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】											
合計	再就職に関して気軽に相談できる窓口の設置	再就職を目指す子育て支援、保育サービス等の充実	実践的能力や知識・ノウハウの習得を支援する研修・講座等の開催	再就職希望者への情報提供	近隣の勤め先に関する情報提供	在宅ワーク支援のためのセミナー開催や情報提供、相談事業等	個別の状況に応じた柔軟な勤務形態(在宅勤務や短時間勤務等)の導入	企業における事業所内の託児施設の整備	ホームヘルパーや介護福祉施設の充実	その他	無回答
697	51.5	64.0	28.7	49.5	31.6	21.5	53.1	33.3	28.8	4.0	4.0
274	51.8	63.1	25.9	48.9	29.2	21.5	49.3	31.8	26.3	4.4	3.3
414	51.4	65.0	30.2	50.0	33.3	21.0	56.0	33.8	30.4	3.9	3.9
5	60.0	60.0	60.0	80.0	40.0	60.0	40.0	80.0	60.0	-	-

問5 公的機関、企業、団体等において職業に就いている方におたずねします。(無職、自営を除く) あなたは、育児休業・介護休業・介護休暇・子の看護休暇を取得したことがありますか。項目(ア)～(エ)のそれぞれについてお答えください。【項目ごとに○は1つずつ】							
	取得したことがある	取得したことがない	そのような制度がなかった	取得しなくても対応できた	周囲の事情等により取得できなかった	育児や介護、看護を行う必要がなかった	無回答
合計	422	14.9	12.6	10.2	4.0	39.3	19.0
全体	422	14.9	12.6	10.2	4.0	39.3	19.0
男性	173	4.6	14.5	19.7	5.2	42.8	13.3
女性	247	22.3	10.9	3.6	3.2	36.8	23.1
その他	2	-	50.0	-	-	50.0	-

問5 公的機関、企業、団体等において職業に就いている方におたずねします。(無職、自営を除く) あなたは、育児休業・介護休業・介護休暇・子の看護休暇を取得したことがありますか。項目(ア)～(エ)のそれぞれについてお答えください。【項目ごとに○は1つずつ】							
	取得したことがある	取得したことがない	そのような制度がなかった	取得しなくても対応できた	周囲の事情等により取得できなかった	育児や介護、看護を行う必要がなかった	無回答
合計	422	0.5	7.8	5.5	2.6	62.8	20.9
全体	422	0.5	7.8	5.5	2.6	62.8	20.9
男性	173	0.6	9.8	4.6	3.5	68.2	13.3
女性	247	0.4	6.5	6.1	2.0	58.7	26.3
その他	2	-	-	-	-	100.0	-

問5 公的機関、企業、団体等において職業に就いている方におたずねします。(無職、自営を除く) あなたは、育児休業・介護休業・介護休暇・子の看護休暇を取得したことがありますか。項目(ア)～(エ)のそれぞれについてお答えください。【項目ごとに○は1つずつ】							
	取得したことがある	取得したことがない	そのような制度がなかった	取得しなくても対応できた	周囲の事情等により取得できなかった	育児や介護、看護を行う必要がなかった	無回答
合計	422	2.1	8.3	5.2	2.4	60.7	21.3
全体	422	2.1	8.3	5.2	2.4	60.7	21.3
男性	173	2.3	9.2	5.2	2.9	66.5	13.9
女性	247	2.0	7.7	5.3	2.0	56.3	26.7
その他	2	-	-	-	-	100.0	-

問5 公的機関、企業、団体等において職業に就いている方におたずねします。(無職、自営を除く)あなたは、育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得したことがありますか。項目(ア)～(エ)のそれぞれについてお答えください。【項目ごとに○は1つずつ】(エ)子の看護休暇							
合計	取得したことがある	取得したことがない	そのような制度がなかった	取得しなくても対応できた	周囲の事情等により取得できなかった	育児や介護、看護を行う必要がなかった	無回答
全体	422	12.3	12.6	7.1	2.4	46.2	19.4
男性	173	9.8	11.0	9.2	1.7	55.5	12.7
女性	247	14.2	13.8	5.7	2.8	39.3	24.3
その他	2	-	-	-	100.0	-	-

問6 あなたは、育児休業・介護休業を取得する際の職場における支援として、どのようなことが必要だと思いますか。【○はい、△やや必要、□必要でない、×その他、○はいいくないでも】										
合計	休業前の人事担当との復職後の関係に関する面談	休業中に定期的な業務等の情報共有	復職前における人事担当者との復職に向けた面談	復職後のキャリアアップの作成	休業中に通信教育等を受講する支援	復職前における仕事に関する研修	復職後における仕事に関する研修	その他	特になし	無回答
全体	697	58.7	38.3	56.1	33.1	12.3	24.0	4.2	4.3	7.5
男性	274	58.0	36.1	50.7	37.2	9.1	21.2	4.7	5.1	6.6
女性	414	59.2	39.4	59.7	30.7	14.7	25.8	3.9	3.6	7.7
その他	5	80.0	80.0	100.0	40.0	-	40.0	-	-	-

問7 あなたは、次の(ア)～(エ)の考え方について、どう思いますか。【項目ごとに○は1つずつ】(ア)男は外で働き、女は家庭を守るべきだ						
合計	同感する	どちらかというと同感する	どちらかというと同感しない	無回答		
全体	697	4.2	21.8	26.0	43.8	4.3
男性	274	5.8	25.2	24.5	42.3	2.2
女性	414	2.9	20.0	27.3	44.9	4.8
その他	5	20.0	-	-	60.0	20.0

問7 あなたは、次の(ア)～(エ)の考え方について、どう思いますか。【項目ごとに〇は1つずつ】

(イ) 家事は夫婦で分担すべきだ

合計	同感する	どちらかというと同感する	どちらかというと同感しない	同感しない	無回答
697	55.5	33.0	6.5	1.4	3.6
274	49.6	36.5	9.5	1.8	2.6
414	59.9	31.2	4.6	1.0	3.4
5	40.0	20.0	-	20.0	20.0

問7 あなたは、次の(ア)～(エ)の考え方について、どう思いますか。【項目ごとに〇は1つずつ】

(ウ) 育児は夫婦で分担すべきだ

合計	同感する	どちらかというと同感する	どちらかというと同感しない	同感しない	無回答
697	57.1	33.9	4.6	1.1	3.3
274	48.2	42.0	5.8	1.8	2.2
414	63.5	28.7	3.9	0.7	3.1
5	40.0	40.0	-	-	20.0

問7 あなたは、次の(ア)～(エ)の考え方について、どう思いますか。【項目ごとに〇は1つずつ】

(エ) 介護・看護は夫婦で分担すべきだ

合計	同感する	どちらかというと同感する	どちらかというと同感しない	同感しない	無回答
697	61.3	31.6	2.6	1.1	3.4
274	52.2	40.1	4.0	2.2	1.5
414	67.9	26.3	1.7	0.5	3.6
5	40.0	20.0	-	-	40.0

問8 配偶者・パートナーがいっしょにやる方におたずねします。あなたのご家庭では、家事、育児、介護・看護に関する配偶者・パートナーとの分担はどのようになっていますか。【項目ごとに〇は1つ】 (ア) 家事

合計	主に男性が分担	どちらかというと同感する	男性と女性で同程度に分担	どちらかというと同感する	主に女性が分担	その他	無回答
458	1.1	2.6	19.2	26.4	48.3	0.4	2.0
194	1.5	4.6	25.8	29.4	37.6	-	1.0
260	0.8	1.2	14.6	24.2	56.5	0.8	1.9
3	-	-	-	33.3	-	-	66.7

問8 配偶者・パートナーがいらっしゃる方におたずねします。あなたのご家庭では、家事、育児、介護・看護に関する配偶者・パートナーとの分担はどのようになっていますか。【項目ごとに〇は1つ】(イ) 育児							
合計	主に男性が 分担	どちらかと いうと男性 が分担	男性と女性 で同程度に 分担	どちらかと いうと女性 が分担	主に女性が 分担	その他	無回答
全体	458	0.2	0.4	13.5	29.0	34.5	15.1
男性	194	0.5	0.5	14.4	33.5	23.7	19.6
女性	260	-	0.4	13.1	25.8	43.1	11.9
その他	3	-	-	-	33.3	-	-

問8 配偶者・パートナーがいらっしゃる方におたずねします。あなたのご家庭では、家事、育児、介護・看護に関する配偶者・パートナーとの分担はどのようになっていますか。【項目ごとに〇は1つ】(ウ) 介護・看護							
合計	主に男性が 分担	どちらかと いうと男性 が分担	男性と女性 で同程度に 分担	どちらかと いうと女性 が分担	主に女性が 分担	その他	無回答
全体	458	0.7	2.6	21.6	15.9	18.3	31.9
男性	194	1.5	3.6	24.7	12.9	10.3	38.7
女性	260	-	1.9	19.6	18.1	24.6	27.3
その他	3	-	-	-	33.3	-	-

問9 育児休業や介護休業は性別にかかわらず取得することができるとは、あなたは、配偶者やパートナーがそれら休暇を取得することについて、どのように思いますか。【項目ごとに〇は1つ】(ア) 育児休業				
合計	取得した方がよい	取得した方がよいと思 うが、現実 的には休め ない	取得する必 要はない	無回答
全体	697	54.8	36.3	2.3
男性	274	71.2	21.5	1.8
女性	414	44.7	46.1	2.7
その他	5	40.0	40.0	-

問9 育児休業や介護休業は性別にかかわらず取得することができるとは思いますが、あなたは、配偶者やパートナーがそれら休暇を取得することについて、どのように思いますか。【項目ごとに○は1つ】

(イ) 介護休業

	取得した方がよい	取得した方がよいと思わない	取得する必要はない	無回答	
全体	697	58.5	33.7	1.7	6.0
男性	274	71.5	23.0	2.2	3.3
女性	414	50.7	40.8	1.4	7.0
その他	5	40.0	40.0	-	20.0

問9-2 問9の項目(ア)・(イ)のどちらかで「2」を選択した方におたずねします。具体的にどのような条件が整えば、取得できると思いますか。【○はいくつでも】

	育児休業・介護休業の制度が正確に認知・共有されること	上司や同僚等の理解や協力があること	以前に取得した人の事例があること	賃金や手当等の経済的な支援があること	昇進や昇格に影響がないこと	休業中の代替要員が確保されること	職場への復帰に際しての支援があること	その他	無回答
全体	274	41.6	60.2	24.1	50.7	38.7	38.3	3.3	23.0
男性	68	38.2	50.0	14.7	47.1	36.8	29.4	1.5	25.0
女性	202	43.1	63.9	27.2	52.0	39.1	41.1	4.0	21.8
その他	3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	-	66.7

問10 生活の中での、仕事・家庭生活・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度についてお伺いします。あなたの「現実(現状)」に最も近いものを、「希望」に最も近いものを、1つずつお答えください。【項目ごとに○は1つずつ】※職業に就いていない方は、家庭生活と個人の生活の関係についてお答えください。(ア) 現実

	仕事優先	家庭生活優先	個人の生活優先	仕事と家庭生活優先	仕事と個人の生活優先	家庭生活と個人の生活優先	仕事・家庭生活・個人の生活を両立	無回答
全体	697	23.1	13.5	4.9	22.1	9.3	13.5	6.5
男性	274	32.5	7.3	8.4	21.2	6.9	11.3	4.0
女性	414	16.9	17.4	2.7	23.2	10.9	15.2	7.5
その他	5	20.0	40.0	-	-	20.0	20.0	-

問10 生活の中での、仕事・家庭生活・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお伺いします。あなたの「現実（現状）」に最も近いもの、「希望」に最も近いものを、1つずつお答えください。【項目ごとに〇は1つずつ】※職業に就いていない方は、家庭生活と個人の生活の関係についてお答えください。（イ）希望									
合計	仕事優先	家庭生活優先	個人の生活優先	仕事と家庭生活優先	仕事と個人の生活優先	家庭生活と個人の生活優先	仕事・家庭生活・個人の生活を両立	無回答	
全体	697	2.9	8.5	8.9	11.3	6.5	14.3	40.0	7.6
男性	274	3.3	10.2	9.1	19.0	6.6	10.2	34.7	6.9
女性	414	2.7	7.5	8.5	6.5	6.3	17.4	43.7	7.5
その他	5	-	-	40.0	-	20.0	-	40.0	-

問11 あなたは、仕事と生活を両立できていると思いますか。【〇は1つ】							
合計	どちらかというのできている	どちらかというのできていない	無回答				
全体	697	17.8	42.0	12.1	4.7	18.4	5.0
男性	274	20.8	43.8	11.3	7.7	13.1	3.3
女性	414	15.9	41.1	12.6	2.9	22.0	5.6
その他	5	20.0	40.0	20.0	-	20.0	-

問12 あなたは、社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）※を進めるために、どのようなことが重要だと思いますか。【〇はいくつでも】※ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事と生活の調和」と記され、「国民一人ひとりがやりがいがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活等においても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる状態」をいいます。											
合計	保育・介護の施設やサービスの充実	パートタイマー、契約・派遣社員等の労働条件の向上	育児・介護のための休暇制度が得しやすくなること	労働時間短縮・フレックスタイム等のしくみがか整うこと	男女の雇用機会や昇進、待遇格差がなくなること	「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識の解消	無職な業務・作業の減少	職場の理解、家族・地域の人の理解	その他	無回答	
全体	697	58.5	43.2	50.2	50.8	29.8	40.0	47.2	52.7	4.3	4.9
男性	274	56.6	41.6	46.7	46.7	31.8	35.8	49.6	49.3	5.5	3.3
女性	414	60.4	44.4	52.9	53.6	28.3	43.0	45.9	55.1	3.6	5.3
その他	5	40.0	40.0	40.0	60.0	60.0	40.0	40.0	40.0	-	20.0

問13 あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】														
全体	697	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくなる	男性による家事・育児等について、職場における上司や周囲の理解を進める	男性が家事・育児等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	社会の中で、男性による家事・育児等について、男性の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する	男性が家事・育児等に参加することに対する女性の抵抗感をなくす	労働時間短縮や休暇制度、ワークライフバランスの活用した多様な働き方を普及する	男性が家事・育児等の仲間（ネットワーク）づくりをすすめる	男性の家事・育児等についての啓蒙や情報提供を行う	男性の家事・育児に関する受付や講座を開催する	小・中学校、高等学校において家庭科教育（男女共修）を充実させる	その他	特に必要ない	無回答
男性	274	68.4	53.5	49.9	40.5	36.2	22.4	41.0	23.1	19.1	32.4	4.6	1.3	3.7
女性	414	67.9	47.8	42.0	36.1	32.8	21.9	37.6	19.7	16.8	25.2	4.0	1.5	2.6
その他	5	69.6	57.2	55.6	43.2	38.9	22.7	43.2	25.4	20.3	37.2	5.1	1.0	3.9
		40.0	80.0	60.0	60.0	20.0	20.0	60.0	40.0	40.0	60.0	-	-	20.0

問14 あなたは、職場や学校等でハラスメントを受けたことはありますか。【〇はいくつでも】								
全体	697	セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある	パワー・ハラスメントを受けたことがある	ジエン・ハラスメントを受けたことがある	マタニティ・ハラスメントを受けたことがある	その他のハラスメントを受けたことがある	受けたことも、見たこともない	無回答
男性	274	16.8	33.7	4.7	3.4	5.3	25.4	5.6
女性	414	4.0	35.0	2.9	1.1	4.0	32.5	4.0
その他	5	25.4	32.9	5.8	5.1	6.0	24.2	6.0
		20.0	60.0	20.0	-	20.0	20.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる(ア)～(ソ)のようないずれかを受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに〇は1つずつ(ア)何を言っても無視する】				
全体	697	頻繁にあつた	まったくない	無回答
男性	274	2.4	19.4	70.9
女性	414	0.4	18.6	74.1
その他	5	3.6	19.8	69.6
		20.0	40.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（イ）のような行為を受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】
（イ）大声で怒鳴る

	合計	頻繁にあつた	回数あつた	まったくない	無回答
全体	697	3.4	29.6	59.5	7.5
男性	274	1.5	23.4	67.5	7.7
女性	414	4.8	33.3	54.8	7.0
その他	5	-	40.0	40.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（イ）のような行為を受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】
（ウ）交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する

	合計	頻繁にあつた	回数あつた	まったくない	無回答
全体	697	1.6	7.9	82.8	7.7
男性	274	1.1	7.7	83.2	8.0
女性	414	1.9	8.0	83.1	7.0
その他	5	-	20.0	60.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（イ）のような行為を受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】
（エ）生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない

	合計	頻繁にあつた	回数あつた	まったくない	無回答
全体	697	3.2	4.0	84.9	7.9
男性	274	1.1	2.9	88.3	7.7
女性	414	4.6	4.8	83.1	7.5
その他	5	-	-	80.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（イ）のような行為を受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】（オ）外出を制限する、どこで何をしているか行動をチェックする

	頻繁にあつた	回数あつた	まったくない	無回答	
全体	697	1.6	9.0	81.8	7.6
男性	274	1.1	8.4	82.8	7.7
女性	414	1.9	9.7	81.4	7.0
その他	5	-	-	80.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（イ）のような行為を受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】（カ）常に監視し、人間関係を制限する

	頻繁にあつた	回数あつた	まったくない	無回答	
全体	697	1.3	3.4	87.7	7.6
男性	274	0.7	4.0	87.6	7.7
女性	414	1.7	3.1	88.2	7.0
その他	5	-	-	80.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（イ）のような行為を受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】（キ）「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」と侮蔑的なことを言う

	頻繁にあつた	回数あつた	まったくない	無回答	
全体	697	1.4	8.0	82.8	7.7
男性	274	0.4	4.4	87.6	7.7
女性	414	2.2	10.1	80.2	7.5
その他	5	-	20.0	60.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（ウ）のようないずれかを受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】（ク）体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する					
	頻繁にあつた	回数あつた	まったくない	無回答	
全体	697	1.3	7.9	82.9	7.9
男性	274	-	2.9	89.4	7.7
女性	414	2.2	11.4	79.0	7.5
その他	5	-	-	80.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（ウ）のようないずれかを受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】（ケ）見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見る					
	頻繁にあつた	回数あつた	まったくない	無回答	
全体	697	0.3	1.6	90.1	8.0
男性	274	-	0.7	91.6	7.7
女性	414	0.5	2.2	89.6	7.7
その他	5	-	-	80.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（ウ）のようないずれかを受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】（コ）避妊に協力しない					
	頻繁にあつた	回数あつた	まったくない	無回答	
全体	697	1.1	4.7	85.2	8.9
男性	274	0.4	1.5	89.8	8.4
女性	414	1.7	7.0	82.6	8.7
その他	5	-	-	80.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（ソ）のような行為を受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】					
（サ）物を壊したり、大切な物を勝手に捨てる					
合計	頻繁にあつた	数回あつた	まったくない	無回答	
全体	697	1.0	7.2	84.2	7.6
男性	274	-	6.6	85.8	7.7
女性	414	1.7	7.7	83.6	7.0
その他	5	-	-	80.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（ソ）のような行為を受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】					
（シ）物を投げつける、髪の毛を引っ張る、殴る、蹴る等の行為					
合計	頻繁にあつた	数回あつた	まったくない	無回答	
全体	697	0.9	7.2	84.1	7.9
男性	274	-	5.8	86.1	8.0
女性	414	1.4	8.2	83.1	7.2
その他	5	-	-	80.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次にあげる（ア）～（ソ）のような行為を受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】					
（ス）反論したり、意見を言ったりすることを許さない					
合計	頻繁にあつた	数回あつた	まったくない	無回答	
全体	697	1.7	10.5	79.8	8.0
男性	274	0.7	7.7	83.6	8.0
女性	414	2.4	12.3	77.8	7.5
その他	5	-	20.0	60.0	20.0

問15 (1) あなたは、これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人等のパートナーから、次における（ア）～（ソ）のような行為を受けたことがありますか。【「1」～「3」のいずれかに○は1つずつ】 （セ）子どもに危害を加えると脅す					
	頻りにあつた	回数あった	まったくない	無回答	
全体	697	0.4	1.7	88.4	9.5
男性	274	-	1.8	89.1	9.1
女性	414	0.7	1.7	88.4	9.2
その他	5	-	-	80.0	20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、（ア）～（ソ）のような行為をDVだと思いませんか。【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】 （ア）何を言っても無視する					
合計	どのような場合でもDVだと思わない	相手に非があればDV		無回答	
		DVだと思わない	DVだと思わない		
全体	697	25.8	34.6	19.1	20.5
男性	274	25.5	33.9	19.7	20.8
女性	414	26.3	35.3	18.4	20.0
その他	5	20.0	40.0	20.0	20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、（ア）～（ソ）のような行為をDVだと思いませんか。【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】 （イ）大声で怒鳴る					
合計	どのような場合でもDVだと思わない	相手に非があればDV		無回答	
		DVだと思わない	DVだと思わない		
全体	697	31.3	36.9	11.8	20.1
男性	274	28.1	39.4	12.4	20.1
女性	414	33.8	35.3	11.1	19.8
その他	5	20.0	40.0	20.0	20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(イ)のようないずれかに○は1つずつ			
(ウ) 交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視する			
	どのようないずれかに○は1つずつ	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない
合計			無回答
全体	697	44.5	19.7
男性	274	41.6	20.4
女性	414	46.6	19.3
その他	5	40.0	20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(イ)のようないずれかに○は1つずつ			
(エ) 生活費を渡さない、必要とするお金を渡さない			
	どのようないずれかに○は1つずつ	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない
合計			無回答
全体	697	54.8	12.2
男性	274	50.4	13.9
女性	414	58.0	11.1
その他	5	60.0	20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(イ)のようないずれかに○は1つずつ			
(オ) 外出を制限する、どこで何をしているか行動をチエックする			
	どのようないずれかに○は1つずつ	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない
合計			無回答
全体	697	47.2	19.1
男性	274	42.3	21.5
女性	414	50.7	17.4
その他	5	40.0	40.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(イ)のようないずれかに○は1つずつ 【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】 (カ) 常に監視し、人間関係を制限する					
	どのようないずれかに○は1つずつ 場合でもDVだと思わない	相手に非があればDV にはならない	DVだと思わない 無回答		
全体	697	55.1	13.1	9.8	22.1
男性	274	50.4	15.3	12.4	21.9
女性	414	58.7	11.4	8.0	22.0
その他	5	40.0	40.0	-	20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(イ)のようないずれかに○は1つずつ 【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】 (キ) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」等と侮蔑的なことを言う					
	どのようないずれかに○は1つずつ 場合でもDVだと思わない	相手に非があればDV にはならない	DVだと思わない 無回答		
全体	697	61.5	9.9	6.5	22.1
男性	274	60.6	11.3	6.6	21.5
女性	414	63.0	8.5	6.3	22.2
その他	5	20.0	60.0	-	20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(イ)のようないずれかに○は1つずつ 【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】 (ク) 体調や気持ちを配慮せず、性的行為を強要する					
	どのようないずれかに○は1つずつ 場合でもDVだと思わない	相手に非があればDV にはならない	DVだと思わない 無回答		
全体	697	65.4	6.2	6.5	22.0
男性	274	63.1	8.0	7.3	21.5
女性	414	67.4	4.8	5.8	22.0
その他	5	60.0	20.0	-	20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(シ)のようないずれかをDVだと思いませんか。【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】 (ケ) 見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せ			
合計	どのような場合でもDVだと思わない	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない
全体	63.1	5.6	9.0
男性	27.4	59.9	8.4
女性	41.4	65.9	3.6
その他	5	40.0	20.0
			無回答
			22.2
			22.3
			22.0
			20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(シ)のようないずれかをDVだと思いませんか。【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】 (コ) 避妊に協力しない			
合計	どのような場合でもDVだと思わない	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない
全体	69.7	59.5	8.6
男性	27.4	56.9	11.3
女性	41.4	61.8	6.5
その他	5	40.0	40.0
			-
			無回答
			22.7
			22.6
			22.5
			20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(シ)のようないずれかをDVだと思いませんか。【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】 (サ) 物を壊したり、大切な物を勝手に捨てる			
合計	どのような場合でもDVだと思わない	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない
全体	69.7	61.8	9.8
男性	27.4	60.9	11.3
女性	41.4	63.0	8.5
その他	5	40.0	40.0
			-
			無回答
			22.0
			20.8
			22.5
			20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(イ) のような行為をDVだと思いませんか。【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】 (シ) 物を投げつける、髪の毛を引っ張る、殴る、蹴る等の行為					
合計	どのような場合でもDVだと思わない	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない		
全体	697	68.9	4.0	5.0	22.1
男性	274	67.2	5.8	5.1	21.9
女性	414	70.8	2.4	4.8	22.0
その他	5	40.0	40.0	-	20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(イ) のような行為をDVだと思いませんか。【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】 (ス) 反論したり、意見を言ったりすることを許さない					
合計	どのような場合でもDVだと思わない	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない		
全体	697	55.2	15.1	7.6	22.1
男性	274	51.5	18.2	8.8	21.5
女性	414	58.2	12.8	6.8	22.2
その他	5	40.0	40.0	-	20.0

問15 (2) また、配偶者やパートナーによる身体的、精神的、経済的、性的な暴力を「DV」といいますが、(ア)～(イ) のような行為をDVだと思いませんか。【「A」～「C」のいずれかに○は1つずつ】 (セ) 子どもにも危害を加えると脅す					
合計	どのような場合でもDVだと思わない	相手に非があればDVにはならない	DVだと思わない		
全体	697	68.4	3.0	5.5	23.1
男性	274	67.9	3.6	5.8	22.6
女性	414	69.3	2.4	5.1	23.2
その他	5	60.0	20.0	-	20.0

問16 問15 (ア)～(ロ)のうち1つでも「頻繁にあった」「数回あった」とお答えした方におたずねします。あなたはこのままで、(ア)～(ロ)の行為を受けたことについて、だれかに打ち明けたり、相談しましたか。【○は1つ】			
合計	相談した	相談しなかった	無回答
全体	389	23.1	54.0
男性	131	7.6	61.8
女性	251	31.9	50.2
その他	4	-	75.0

問16-2 問16で「1」とお答えの方におたずねします。そのとき、どこ(だれ)に相談しましたか。【○はいくつでも】													
合計	大田区のDV専用相談窓口(ダイヤル・生活福祉課)	大田区のD/V専用相談窓口(ダイヤル・生活福祉課)	大田区のその他の相談窓口(地域健康課、子ども家庭支援センター、男女平等推進センター「エセナ」のおたんぼ相談、区役所の区民法律相談等)	国の相談窓口(法務局の人権相談窓口等)	警察	民間の専門家や民間支援団体(弁護士・カウンセラー・NPO等)	医療関係者(医師・看護師、ソーシャルワーカー等)	民生・児童委員、人権擁護委員等	SNSやインターネット上の相談サイト	家族	友人・知人	その他	無回答
全体	90	-	1.1	2.2	-	2.2	2.2	-	1.1	53.3	71.1	6.7	-
男性	10	-	-	-	-	10.0	10.0	-	10.0	20.0	90.0	-	-
女性	80	-	1.3	2.5	-	1.3	1.3	-	-	57.5	68.8	7.5	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問16-3 問16で「2」とお答えの方におたずねします。そのとき、どこ(だれ)にも相談できなかったのはなぜですか。【○はいくつでも】												
合計	相談するほどのことではなかったから	そのうち、暴力行為が減るかと思わないから	相談しても解決しないかと思っただけ	相談しても悪いところがあるから	自分さえ我慢すればよい、仕方がないと思っただけ	相談できる人がいなかったから	どこ(だれ)に相談すればよいか分からなかったから	自分が受けた行為を打ち明けるのは恥ずかしい、抵抗があったから	相談したとき、かかわる仕事の返しが悪いから	他人に負担や迷惑をかけたから	その他	無回答
全体	210	73.8	1.4	32.9	16.2	8.6	5.7	10.0	1.0	9.0	1.4	3.8
男性	81	80.2	2.5	35.8	16.0	6.2	2.5	4.9	-	9.9	1.2	3.7
女性	126	69.8	0.8	30.2	15.9	10.3	6.3	11.9	1.6	7.9	1.6	4.0
その他	3	66.7	-	66.7	33.3	-	66.7	66.7	-	33.3	-	-

問17 あなたは、配偶者や恋人等のパートナーからの暴力被害の相談先は知っていますか。【〇はいくつでも】

	大田区配偶者暴力相談支援センターのDVダイヤル	大田区役所・生活福祉課	女性のための相談（男女共同参画センターエセナおた）	東京都女性相談センター	東京ウィメンズプラザ	その他	どこも知らない	無回答
合計								
全体	697	16.8	5.7	5.2	5.7	2.0	65.6	7.7
男性	274	17.5	2.2	4.0	2.2	2.9	69.3	6.6
女性	414	8.7	8.2	6.0	8.2	1.4	63.0	8.0
その他	5	-	-	-	-	-	80.0	20.0

問18 あなたは、配偶者や恋人等のパートナーからの暴力の防止および被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

	家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発	いざというときに駆けつける緊急避難場所（シェルター）の整備	住居や就労の斡旋、経済的援助等、自立して生活するための支援策の充実	カウンセリングや日常的な相談等、精神的に自立するための支援策の充実	関係機関の紹介や暴力への対応方法等、配偶者等からの暴力に関するいろいろな知識の提供	離婚訴訟への支援等、法的なサポートの充実	カウンセリング等、加害者の更生に関する対応の充実	学校・大学で児童・生徒・学生に對し、暴力を防止するための教育	行政や警察による積極的な啓発活動	法律による規制の強化や見直し	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌・SNSやインターネット等）の販売・售出の規制や閲覧制限等	その他	無回答
合計													
全体	697	59.1	39.2	37.4	47.8	33.4	24.0	36.7	30.6	37.2	23.4	3.2	7.2
男性	274	54.0	30.3	35.0	47.4	28.1	19.7	31.4	31.0	35.0	18.6	5.1	7.3
女性	414	57.5	45.4	39.4	48.6	37.2	26.8	40.6	30.0	38.9	26.8	1.9	6.5
その他	5	80.0	40.0	20.0	40.0	40.0	20.0	40.0	60.0	40.0	20.0	-	20.0

問19 あなたは、過去1年間で自主的に学んだことがありますか。【〇はいくつでも】

	家庭（家事・育児・介護・家計管理など）のために学んだ／学んでいる	地域活動や社会貢献活動のために学んだ／学んでいる	自分の趣味や興味・関心のために学んだ／学んでいる	その他のことを学んだ／学んでいる	学ぶ機会がなかった	無回答	
合計							
全体	697	18.7	10.3	43.0	5.9	31.3	6.0
男性	274	11.7	12.0	43.1	8.0	33.2	5.1
女性	414	23.2	9.4	43.0	4.3	30.2	6.0
その他	5	40.0	-	60.0	20.0	20.0	20.0

問20 あなたは、現在、何らかの地域活動や社会貢献活動等に参加していますか。【〇はいくつでも】										
合計	P T A や父 母会の役員	自治会・町 内会・子ど も会等の会 員としての 活動	盆踊りやお 祭り等の地 域の催し	スポーツ、 レクリエー ション活動	地域の歴史 の研究や伝 統芸能等の 文化活動	災害復興支 援、高齢者 や障がい者 支援等のボ ランティア 活動	その他	参加してい ない	無回答	
全体	697	5.6	12.5	7.9	8.6	2.3	4.6	3.3	65.3	4.3
男性	274	1.8	11.7	8.4	10.2	2.9	4.0	3.3	69.3	3.3
女性	414	8.2	13.3	7.7	7.2	1.9	5.1	3.4	63.0	4.3
その他	5	-	-	-	40.0	-	-	-	40.0	20.0

問21 あなたは、今後、何らかの地域活動に参加したいと思いますか。【〇はいくつでも】									
合計	参加したい と思う	知り合いが 誘われれば、参加 すると思う	興味はある が、馴染め るか不安な ので参加し ないと思う と難しい	興味はある が、仕事や 家事等で時 間がないの で難しい	参加したく ない	その他	無回答		
全体	697	21.7	13.6	19.8	10.2	24.0	20.7	3.4	5.0
男性	274	24.8	10.9	17.9	11.3	22.6	24.5	2.6	5.1
女性	414	19.8	15.0	21.3	9.4	24.9	18.4	4.1	4.3
その他	5	20.0	60.0	20.0	20.0	20.0	-	-	20.0

問22 あなたは、地域活動等の参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】										
合計	情報発信や 啓発活動を する	地域活動等 への参加が できるよう な学習や訓 練の機会を 増やす	家庭で親等 が地域活動 等への参加 の重要性を 教える	学校で地域 活動等への 参加の重要 性を教える	家事や育 児、介護を 家庭内で分 担する	労働時間の 短縮、休暇 を取得しや すい職場環 境を整備す る	仕事と子育て・ 介護の両立を 支援する環 境を整備す る	地域団体の 取り組みを 広報する	その他	無回答
全体	697	44.6	25.3	12.8	18.2	14.2	24.5	22.2	32.9	9.2
男性	274	48.2	26.3	13.1	21.5	9.9	25.9	20.8	32.1	8.0
女性	414	42.5	24.9	12.6	16.2	17.1	23.4	23.2	33.3	9.4
その他	5	60.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	20.0	40.0	20.0

問23 あなたは、地域活動をはじめ、政治や企業活動等、あらゆる分野において、政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。【〇はいくつでも】											
合計	性別による役割分担や性差別の意識があるから	男性優位の組織運営があるから	家庭の支援・協力が得られないから	女性の能力開発の機会が十分にあるから	女性の活動を支援する人的ネットワークが不足しているから	女性側の積極性が十分ではないから	女性の参画を積極的に進めようとする意識が少ないから	配偶者・パートナーの家事・育児等が十分でないから	その他	無回答	
全体	697	40.7	59.0	26.0	17.9	21.2	25.5	32.1	35.6	4.7	8.5
男性	274	42.3	53.6	22.6	19.0	21.5	23.4	30.3	25.9	4.7	6.9
女性	414	40.1	62.6	28.3	17.6	20.8	27.1	33.6	42.0	4.8	8.9
その他	5	40.0	80.0	40.0	-	40.0	40.0	20.0	40.0	-	20.0

問24 あなたは、大田区の次の施設や取り組みを知っていますか。また利用したことはありますか。(1)～(3)についてそれぞれお答えください。【〇はそれぞれ1つずつ】				
(1) 大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」				
合計	利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない	
全体	697	4.9	20.4	70.9
男性	274	0.7	18.2	77.4
女性	414	7.7	22.0	66.9
その他	5	-	20.0	60.0
				3.9
				3.6
				3.4
				20.0

問24 あなたは、大田区の次の施設や取り組みを知っていますか。また利用したことはありますか。(1)～(3)についてそれぞれお答えください。【〇はそれぞれ1つずつ】				
(2) エセナおおたの女性のためのたんぼ相談				
合計	利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない	
全体	697	0.4	11.0	84.5
男性	274	-	6.6	88.7
女性	414	0.7	14.3	82.1
その他	5	-	-	80.0
				4.0
				4.7
				2.9
				20.0

問24	あなたは、大田区の次の施設や取り組みを知っていますか。また利用したことはありますか。(1)～(3)についてそれぞれお答えください。【○はそれぞれ1つずつ】	(3) 大田区男女平等推進啓発情報誌「パステル」			
合計	読んだことがある	知っているが、読んだことはない	知らない	無回答	
全体	697	5.9	3.9	86.5	3.7
男性	274	2.9	3.6	89.4	4.0
女性	414	8.0	4.1	85.0	2.9
その他	4	-	-	80.0	20.0

問25	「エセナおおた」で実施する男女平等・男女共同参画に関する取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。【○はいくつでも】												
合計	男女共同参画やジェンダー(社会的・文化的につくられた男女差)の解消のための取り組み	あらゆる暴力の根絶やハラスメント防止のための取り組み	さまざまな場面に女性が参画し、能力を發揮できる女性のリーダー育成	ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭生活の両立)の推進	女性の再就職や起業などの支援	男性の家事・育児・介護への参画促進	地域活動における男性の参画推進	防災分野での男女共同参画の視点を取り組み	男女共同参画に関する調査研究	性別を問わず相談できる窓口の実現	民間団体・グループの自主活動支援	その他	無回答
全体	697	37.6	40.0	25.5	40.6	37.3	34.6	14.2	11.2	31.4	12.1	4.3	14.8
男性	274	32.8	41.2	23.0	39.8	29.2	28.5	13.5	13.5	26.3	8.0	5.1	14.6
女性	414	40.6	39.1	27.1	41.5	42.8	38.6	14.7	9.7	34.5	14.5	3.9	14.5
その他	5	60.0	60.0	40.0	40.0	60.0	60.0	20.0	20.0	60.0	40.0	-	20.0

問26	あなたは、次の(ア)・(イ)の用語を知っていますか。【用語ごとに○は1つずつ】				
合計	(ア) ジェンダー (社会的性)	内容は知らないが聞いたことはある	知らない	無回答	
全体	697	51.6	24.2	20.7	3.4
男性	274	52.2	25.2	19.7	2.9
女性	414	51.7	23.9	21.3	3.1
その他	5	60.0	-	20.0	20.0

問26 あなたは、次の（ア）・（イ）の用語を知っていますか。【用語ごとに○は1つずつ】 （イ）LGBT（性的マイノリティ）					
合計	言葉も内容も知っていない	内容は知らないが聞いたことはある	知らない	無回答	
全体	697	61.1	17.1	18.2	3.6
男性	274	61.7	17.2	17.9	3.3
女性	414	61.4	17.1	18.4	3.1
その他	5	60.0	-	20.0	20.0

問27 現在、大田区では、審議会、委員会等の委員2,389名のうち、約30.6%が女性です。これについて、あなたはどのように思いますか。【○は1つ】							
合計	今のままでよい	もう少し女性が増えた方がよい	男女半々く特に男女の比率には、こだわらない	その他	無回答		
全体	697	3.3	27.5	32.9	29.8	2.6	3.9
男性	274	6.2	24.5	30.7	32.8	1.8	4.0
女性	414	1.4	29.5	34.3	28.3	3.1	3.4
その他	5	-	20.0	60.0	20.0	-	-

問28 あなたは、次にあげる分野において、男女の地位は平等だと思いますか。分野（ア）～（カ）のそれぞれについてお答えください。【分野ごとに○は1つずつ】（ア）家庭生活							
合計	女性が優遇されている	やや女性が優遇されている	平等である	やや男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答	
全体	697	5.0	15.5	29.3	33.9	11.0	5.3
男性	274	5.8	18.6	37.6	25.9	8.0	4.0
女性	414	4.6	13.5	23.9	39.4	13.3	5.3
その他	5	-	20.0	40.0	20.0	-	20.0

問28 あなたは、次にあげる分野において、男女の地位は平等であると思いますか。分野（ア）～（カ）のそれぞれについてお答えください。【分野ごとに〇は1つずつ】（イ）職場							
	女性が優遇されている	やや女性が優遇されている	平等である	やや男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答	
合計	697	1.3	3.7	19.2	45.3	24.7	5.7
全体	274	2.2	5.1	20.4	46.4	20.4	5.5
男性	414	0.7	2.9	18.8	44.7	27.5	5.3
その他	5	-	-	-	80.0	-	20.0

問28 あなたは、次にあげる分野において、男女の地位は平等であると思いますか。分野（ア）～（カ）のそれぞれについてお答えください。【分野ごとに〇は1つずつ】（ウ）教育の場							
	女性が優遇されている	やや女性が優遇されている	平等である	やや男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答	
合計	697	1.3	2.4	63.8	20.2	5.5	6.7
全体	274	2.6	4.0	68.2	15.0	3.6	6.6
男性	414	0.5	1.4	61.6	23.7	6.5	6.3
その他	5	-	-	40.0	20.0	20.0	20.0

問28 あなたは、次にあげる分野において、男女の地位は平等であると思いますか。分野（ア）～（カ）のそれぞれについてお答えください。【分野ごとに〇は1つずつ】（エ）政治の場							
	女性が優遇されている	やや女性が優遇されている	平等である	やや男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答	
合計	697	0.3	0.6	12.1	34.1	47.3	5.6
全体	274	0.7	1.1	16.4	39.4	36.5	5.8
男性	414	-	0.2	9.4	30.9	54.6	4.8
その他	5	-	-	-	20.0	60.0	20.0

問28 あなたは、次にあげる分野において、男女の地位は平等であると思いますか。分野（ア）～（カ）のそれぞれについてお答えください。【分野ごとに〇は1つずつ】 （オ）法律や制度						
合計	女性が優遇されている	やや女性が優遇されている	平等である	やや男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体	697	1.7	5.0	35.2	34.9	17.1
男性	274	2.9	7.3	41.2	33.6	9.5
女性	414	1.0	3.6	31.6	36.0	21.7
その他	5	-	-	-	40.0	40.0
						20.0

問28 あなたは、次にあげる分野において、男女の地位は平等であると思いますか。分野（ア）～（カ）のそれぞれについてお答えください。【分野ごとに〇は1つずつ】 （カ）社会通念や習慣						
合計	女性が優遇されている	やや女性が優遇されている	平等である	やや男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体	697	0.6	2.9	16.9	44.6	29.3
男性	274	1.5	5.1	22.3	44.2	21.9
女性	414	-	1.4	13.5	45.7	33.8
その他	5	-	-	-	-	80.0
						20.0

問29 あなたは、大田区では男女共同参画が推進されていると思いますか。【〇は1つ】						
合計	とても推進されていると思う	推進されていると思う	どちらともいえない	推進されていないと思う	わからない	無回答
全体	697	0.6	10.0	34.1	7.3	44.9
男性	274	0.4	13.1	33.6	6.9	43.1
女性	414	0.7	8.2	34.3	7.5	46.6
その他	5	-	-	60.0	20.0	20.0
						-

問30 あなたは、男女共同参画社会の実現を図るために、今後、区はどのようなことに力を入れますか。【〇はいくつでも】														
合計	学校における男女共同参画についての教育の充実	男女平等に関する情報提供や学習の機会の実現	女性の職業教育・訓練の充実	就労機会や労働条件の改善	育児・保育施設の充実	あらゆる分野における女性の積極的な登用	政策決定・意思決定への女性の参画促進	高齢者や障がい者等の在宅介護サービスや施設の充実	健康づくりのための検診体制や相談体制の充実	男女共同参画の視点に立った相談事業の充実	男女共同参画に関する国際的な交流・情報収集の促進	男女共同参画に関する面に関与する国・都への働きかけ	その他	無回答
全体	697	47.5	34.7	28.3	41.9	56.2	35.4	28.8	41.0	19.7	18.1	25.4	2.9	6.7
男性	274	51.1	36.1	26.3	35.4	53.6	32.1	27.7	35.8	16.4	14.6	19.7	3.3	5.5
女性	414	45.4	33.6	30.0	45.9	58.2	37.7	29.7	44.4	22.0	20.5	29.2	2.7	7.2
その他	5	60.0	60.0	20.0	80.0	60.0	40.0	20.0	60.0	20.0	20.0	20.0	-	-

問31 あなたは、学校教育の場で、男女平等・男女共同参画を考えていく場合、どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。【〇はいくつでも】										
合計	授業の中で男女平等の教育を進める	家庭科等、男女共修の推進	生活指導において、女性の別がなされる	生活指導において、男女の別がなく能力を伸ばせるよう配慮する	進路指導において、男子を尊重し一人ひとりを大切に合わせた教育をする	教員や職員に男女平等の研修をすすめる	女性管理職(校長や副校長)をもっと増やす	出席簿・席等、男女を分けずにする	その他	無回答
全体	697	55.5	41.8	47.5	49.6	64.7	35.7	29.0	14.6	6.9
男性	274	62.4	34.7	46.4	48.9	63.5	33.2	24.8	11.3	5.8
女性	414	51.4	46.4	48.1	50.2	66.2	37.4	31.4	16.4	7.2
その他	5	60.0	60.0	60.0	60.0	40.0	60.0	40.0	60.0	-

大田区男女共同参画に関する意識調査 報告書

令和2年3月

発行：大田区総務部人権・男女平等推進課
大田区蒲田五丁目13番14号
電話 03-5744-1610（直通）